



JUNTENDO UNIVERSITY
SHIZUOKA HOSPITAL

順天堂大学医学部附属 静岡病院 年報



2023年度版

2023 年度版静岡病院年報発刊に寄せて

順天堂大学医学部附属静岡病院院長 佐藤浩一

長期にわたり猛威を振るってきた新型コロナウイルス感染症も、2023 年 5 月 8 日、ついに季節性インフルエンザと同類の 5 類感染症の位置づけとなりました。これに伴い、最大 12 床あったコロナ確保病床も徐々に縮小し、多少の増減はあったものの、2024 年 3 月にはついにコロナ「段階 0」となり、確保病床終了となりました。当院は静岡県より静岡県ワクチン大規模接種会場に指定され、地域住民、職員、三島保健看護学部学生への新型コロナワクチン接種を施行して参りましたが、2 月末にはコロナワクチン接種終了となり、大活躍したワクチン棟も解体されました。

新棟に完成したロボット手術室で、泌尿器科、呼吸器外科、外科がロボット手術を施行していますが、使用しているロボットは本院から移譲されたダビンチ Si と旧式のものでした。5 月 13 日に上位機種であるダビンチ Xi が納入され、手術効率が向上しました。また経カテーテル弁置換術（TAVI）は大きな合併症も無く、2024 年 5 月には 135 件と順調に症例を重ねております。

当院の位置する伊豆半島には歯科口腔外科が全く所在しない状況で、当院での開設のため人材確保と施設整備を進めて参りましたが、準備が整い 2023 年 9 月 10 日より歯科口腔外科の診療を開始しました。この開設により、周術期呼吸器感染症減少による治癒率の向上、化学療法中の感染症予防、歯周病関連の全身性疾患予防、病病・病診連携の推進などの効果が期待されます。

順天堂静岡病院は地域医療連携推進法人である慈広会記念病院より 56 床の病床融通を受け、静岡県より 633 床の許可病床を頂いておりますが、2023 年度は新棟Ⅱ期棟がまだ完成していないためフル稼働が出来ない状態でした。しかしながら、3C 病棟に 21 床増床したり、5A 病棟に増床したりと工夫した結果、7 月 1 日より 630 床の稼働になっております。今後は 633 床での運用を目指して、既存棟の改修に務めていきたいと考えております。

文部科学省の「高大接続改革実行プラン」に従い、順天堂大学は高等学校と大学とが次世代を担う人材の育成に協働で取り組むことを推進しております。こうした背景の中、2023 年 8 月 4 日、静岡県立菫山高等学校と高大連携に関する協定を締結するに至りました。これにより 8 月 24 日には菫山高校生徒 30 名が順天堂静岡病院を見学、8 月 28 日には生徒 12 名が順天堂大学医学部を見学しました。創立 150 周年を迎える伝統ある菫山高等学校と相互に協力して、地域の発展に貢献できる人材を育成したいと考えております。

行事写真



能登半島地震 DMAT 出動



新入職員講習会



緩和ケア研修会



看護師特定行為研修 修了式



臨床研修医修了証書授与式



高大連携協定調印式（富士山高校）



高大連携 病院見学会（富士山高校）



東部周産期研究会

ミニレクチャー(動画 WEB 配信)

順天堂大学医学部附属静岡病院

第14回ミニレクチャー動画

WEB
配信

放射線治療のQ&A

《 配信期間 》

2023年4月1日(土) → 4月30日(日)



【講師】

がん治療センター
がん放射線療法看護認定看護師

谷口 真紀 看護師

◆約10分間のミニレクチャー動画

◆視聴無料・申込不要



左のQRコードから
動画視聴専用ページへ
移行します。

【お問い合わせ】

順天堂大学医学部附属静岡病院
地域医療連携室 電話：055-948-3111
病院HP： <https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

順天堂大学医学部附属静岡病院
第15回ミニレクチャー動画

WEB配信

大腸がん にならないために なってしまったら

-配信期間-

2023年 6/1(木) → 6/30(金)

◆視聴無料・申込不要

◆約10分間のミニレクチャー動画

【講師】

当院 外科 准教授

さくらだ むつみ

櫻田 睦



左のQRコードから
動画視聴専用ページへ移行します。

【お問合せ】

順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話：055-948-3111
病院ホームページ： <https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

順天堂大学医学部附属静岡病院

第16回ミニレクチャー動画

WEB配信

バンコマイシン 耐性腸球菌 (VRE)

って何ですか!?

日時

2023年 8/1(火) ~ 8/31(木)

講師

感染対策室
感染管理認定看護師

杉山 美和

◆視聴無料・申込不要

◆約10分間の動画配信



左のQRコードから
動画視聴専用ページへ移行します。

【お問合せ】

順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話：055-948-3111
病院ホームページ： <https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/>

市民公開講座

順天堂大学医学部附属静岡病院 第85回市民公開講座

増加する心臓弁膜症と 最新の治療

ハイブリッド形式
会場+オンライン
会場定員：80名



講師

当院 心臓血管外科

梶本 完 准教授

日時 2023年 11月1日 (水)

17時00分～18時00分 (開場：16時30分) ※参加無料

会場参加 順天堂大学医学部附属静岡病院 第1会議室

住所：〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡1129

◆会場参加は**お申込み不要**です。当日、直接会場へお越しください。

◆病院内では、マスクの着用および手指消毒にご協力をお願いいたします。

◆発熱・咳・風邪の症状がある場合は、参加をご遠慮いただいております。



オンライン参加 ZOOMより視聴可能

【専用HP】<https://www.hosp-shizuoka.juntendo.ac.jp/pr/public/>

◆オンライン参加をご希望の方は、HPより**事前申込**をお願いいたします。

◆オンライン参加申込締切：2023年10月31日 (火)



【お問合せ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話：055-948-3111

順天堂大学医学部附属静岡病院
第86回市民公開講座



2024年

2月21日 水

17時00分～18時00分
(開場：16時30分)

※参加無料・申込不要

共に命を救う： ドクターヘリと地域の連携 による救急医療最前線

会場参加

住所：〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡1129
当院 管理棟4階 第1会議室

◆事前申込は不要ですので、直接会場までお越しください。

◆病院内では、マスクの着用および手指消毒にご協力をお願いいたします。

◆発熱・咳・風邪の症状がある場合は、参加をご遠慮いただいております。

オンライン参加

◆ZOOMウェビナーにて視聴可能です。

◆事前申込は不要です。開始時刻になりましたら下記URLまたはQRコードよりご視聴ください。

ZOOMウェビナーID：946 2990 1423

<https://juntendo-ac-jp.zoom.us/j/94629901423>



【講師】

救急診療科
大森 一彦
准教授

【参加方法】

会場または
ZOOMウェビナー
会場定員：
80名



【お問合せ】順天堂大学医学部附属静岡病院 地域医療連携室 電話：055-948-3111

目次

1. 病院概要

1-1. 2. 3 基本理念・基本方針・施設概要	1
1-4 組織機構図	2
1-5 所属長一覧	3
1-6 医師名簿	4
1-7 職員数	5
1-8 各種委員会	6
1-9 (1) 活動報告	8
1-9 (2) 講演会	10
1-10 社会貢献・地域交流活動	11
1-11 指定・認定・許可事項	12

2. 診療科報告

2-1 膠原病・リウマチ内科	15
2-2 血液内科	16
2-3 消化器内科	18
2-4 呼吸器内科	21
2-5 腎臓内科	23
2-6 糖尿病・内分泌内科	25
2-7 循環器内科	28
2-8 小児科	39
2-9 小児外科	41
2-10 一般外科	45
2-11 脳神経外科	54
2-12 整形外科	59
2-13 脳神経内科	64
2-14 心臓血管外科	68
2-15 呼吸器外科	72
2-16 形成外科	74
2-17 眼科	76
2-18 耳鼻咽喉科	83
2-19 麻酔科・ペインクリニック	85
2-20 放射線科	87
2-21 メンタルクリニック	89
2-22 皮膚・アレルギー科	91
2-23 泌尿器科	94
2-24 産婦人科・総合周産期母子医療センター	98
2-25 救急診療科	102
2-26 病理診断科	109
2-27 リハビリテーション科	111
2-28 臨床検査科	113

2-29	歯科口腔外科.....	114
------	-------------	-----

3. 部門報告

3-1	薬剤科.....	115
3-2	栄養科.....	118
3-3	放射線室.....	120
3-4	検査室.....	123
3-5	手術室.....	125
3-6	血液浄化センター.....	126
3-7	臨床工学室.....	128
3-8	輸血室.....	130
3-9 (1)	看護部	132
3-9 (2)	看護総務課.....	139
3-9 (3)	看護外来業務課.....	142
3-9 (4)	看護教育課.....	144
3-10	救命救急センター.....	152
3-11	ドクターヘリ運航対策室.....	153
3-12	新生児センター.....	157
3-13	がん治療センター	158
3-14	こどものこころのケアセンター	160
3-15	予防医学センター.....	162
3-16	GCP センター	165
3-17	臨床研修センター	167
3-18	看護師特定行為研修センター	171
3-19	地域医療連携室	178
3-20	医療福祉相談室	179
3-21	入退院支援室(退院支援看護師)	180
3-22	患者・看護相談室	182
3-23	受診相談・総合案内	183
3-24	医療安全管理室	184
3-25	感染対策室.....	186
3-26	健康安全推進センター	190

4. 統計

4-1.2	病床利用率・在院日数	192
4-3	診療科別延患者数(外来)	193
4-4	診療科別延患者数(入院)	194
4-5	新患者数(外来)	195
4-6	新患者数(入院)	196
4-7	退院患者数.....	197
4-8.9	年齢別延患者数(外来・入院)	198
4-10	地区別延患者数(外来)	199
4-11	地区別延患者数(入院)	200

1. 病院概要

1-1 病院理念

1. 学是「仁」の精神で人々の生命を尊重する
2. 「不断前進」の理念で創造的な前進と改革を進める
3. 大学医学部附属病院として、診療・教育・研究の充実を図る

1-2 基本方針

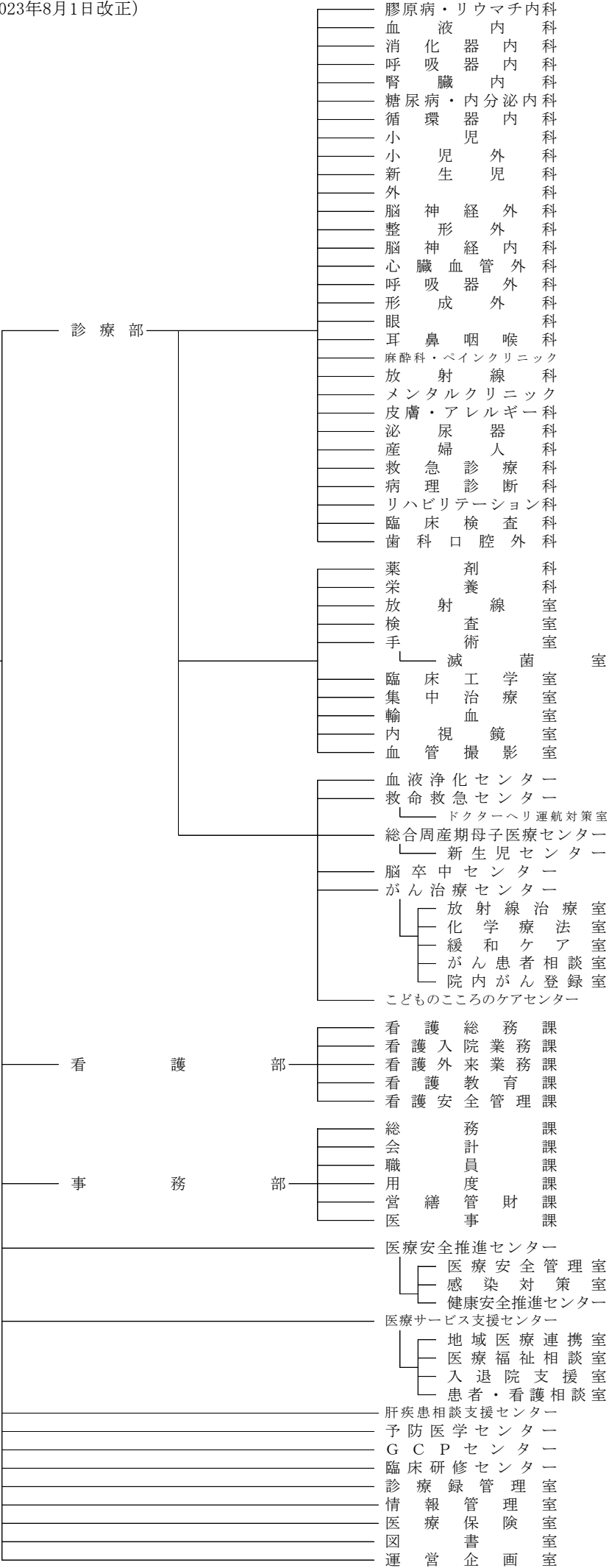
1. 患者さん一人一人に、安全で根拠に基づく高い質の医療を提供します。
2. 患者さんに満足していただける、きめ細かい手作りの看護を行います。
3. 快適な療養生活ができる環境を提供します。
4. 救命救急医療や在宅医療など地域医療や連携に寄与します。
5. 災害時の拠点病院として地域医療に貢献します。
6. 医療安全対策、病病・病診連携に取り組みます。
7. 最新の医療情報の提供に努めます。

1-3 施設概要

名称	:	順天堂大学医学部附属静岡病院
所在地	:	〒410-2295 静岡県伊豆の国市長岡 1129
電話番号	:	055-948-3111(代表)
FAX	:	055-948-5088
敷地面積	:	25,700.83 平方メートル
病床数	:	633 床(稼働病床 630 床) ※2024 年 3 月 31 日現在

順天堂大学医学部附属静岡病院組織機構図
(2023年8月1日改正)

静岡病院



1-5 所属長一覧

令和6年3月31日現在

部 署	責 任 者	部 署	責 任 者
院長	佐 藤 浩 一	看護部長	堀 込 克 代
副院長	藤 田 和 彦	看護総務課	矢 田 み どり
副院長	諏 訪 哲	看護入院業務課	野 澤 陽 子
院長補佐	岩 神 真 一 郎	看護外来業務課	濱 口 真 知 子
院長補佐	山 本 拓 史	看護教育課	宮 澤 初 美
診療部長	山 本 拓 史	看護安全管理課	荻 島 真 弓
膠原病・リウマチ内科	片 桐 彰	事務部長	小 野 隆 宏
血液内科	高 野 弥 奈	総務課	小 池 直 樹
消化器内科	玄 田 拓 哉	会計課	小 野 隆 宏
呼吸器内科	岩 神 真 一 郎	職員課	阿 部 幸 雄
腎臓内科	清 水 芳 男	用度課	尾 崎 治 之
糖尿病・内分泌内科	野 見 山 崇	営繕管財課	小 野 隆 宏
循環器内科	諏 訪 哲	医事課	荻 原 賛 泰
小児科	馬 場 洋 介	救命救急センター	柳 川 洋 一
新生児科	大 川 夏 紀	ドクターヘリ運航対策室	柳 川 洋 一
小児外科	瀬 尾 尚 吾	新生児センター	大 川 夏 紀
外科	伊 藤 智 彰	総合周産期母子医療センター	田 中 利 隆
脳神経外科	山 本 拓 史	脳卒中センター	山 本 拓 史
整形外科	大 林 治	がん治療センター	田 中 顕 一 郎
脳神経内科	野 田 和 幸	放射線治療室	大 島 理 規
心臓血管外科	梶 本 完	化学療法室	高 野 弥 奈
呼吸器外科	市 之 川 英 臣	緩和ケア室	三 澤 恭 平
形成外科	荏 部 綾 香	がん患者相談室	金 田 容 秀
眼科	太 田 俊 彦	院内がん登録室	田 中 顕 一 郎
耳鼻咽喉科	楠 威 志	こどものこころのケアセンター	桐 野 衛 二
麻酔科・ペインクリニック	尾 前 毅	肝疾患相談支援センター	玄 田 拓 哉
放射線科	入 江 隆 介	予防医学センター	清 水 芳 男
メンタルクリニック	桐 野 衛 二	GCPセンター	玄 田 拓 哉
皮膚・アレルギー科	長 谷 川 敏 男	臨床研修センター	中 尾 保 秋
泌尿器科	藤 田 和 彦	診療録管理室	大 林 治
産婦人科	田 中 利 隆	情報管理室	中 尾 保 秋
救急診療科	柳 川 洋 一	医療安全推進センター	藤 田 和 彦
歯科口腔外科	井 染 洋	医療安全管理室	藤 田 和 彦
病理診断科	和 田 了	感染対策室	岩 神 真 一 郎
臨床検査科	田 内 一 民	健康安全推進センター	桐 野 衛 二
薬剤科	玄 田 拓 哉	医療サービス支援センター	櫻 田 睦
栄養科	野 見 山 崇	地域医療連携室	櫻 田 睦
放射線室	入 江 隆 介	医療福祉相談室	櫻 田 睦
検査室	和 田 了	入退院支援室	櫻 田 睦
手術室	尾 前 毅	患者・看護相談室	櫻 田 睦
滅菌室	尾 前 毅	医療保険室	山 本 拓 史
リハビリテーション科	田 沼 明	図書室	諸 橋 達
血液浄化センター	清 水 芳 男	運営企画室	小 野 隆 宏
臨床工学室	尾 前 毅		
集中治療室	山 崎 翔		
輸血室	岩 尾 憲 明		
内視鏡室	伊 藤 智 彰		
血管撮影室	諏 訪 哲		

1-6 医師名簿

□併任 令和6年3月31日現在

膠原病・リウマチ内科	小児科	森川嵩大	放射線科	臨床研修医
片桐彰	馬場洋介	深澤大旭	入江隆介	池谷紗瑛
津島浩	宮林和紀	小野佑起	杉山宗弘	今村達哉
幸山恵理	佳羽根将之		大島理規	太田広天
加藤究	太平松直子	リハビリテーション科	桑鶴良季	小野田雄介
竹内幹	平岡由衣	田沼明	橋本怜	切明大
血液内科	高岡優里	口大林治	狩野樹生	崔美善
高野弥奈	富田紗也佳	脳神経内科	藤澤翔太	田代大地
小池道明	新生児科	野田和幸	メンタルクリニック	田中規子
岩尾憲明	大川夏紀	大熊泰之	桐野衛二	檀聡
三澤恭平	嶋泰樹	山下由莉	内田由寛	永合浩己
森洋輔	柏木項介	谷口大祐	吉成尚人	成田遼
土屋俊	谷本亮輔	井神枝里子	皮膚・アレルギー科	野田健斗
佐野友紀	木村寛太郎	加茂亮太	長谷川敏男	花川翔太
消化器内科	町元菜紗	心臓血管外科	生玉梨紗	黄奔達
玄田拓哉	橋本わかば	梶本完	加藤芙未	保高哲人
嶋田裕慈	岩原可名人	畑博明	宗田昂己	前川ちひろ
佐藤俊輔	徳島香央里	大石淳実	阿部央聖	水川颯
村田礼人	小児外科	大山徹真	遠藤翼	水川結貴
佐藤祥	瀬尾尚吾	田中利昌	北田裕樹	山口哲朗
寺井雄一朗	中島秀明	呼吸器外科	村松海人	山口征大
池田裕至	足立綾佳	市之川英臣	泌尿器科	横地郁哉
北祐次	外科	鈴木未希子	藤田和彦	吉田華
呼吸器内科	伊藤智彰	曾和嵩	中島晶子	吉松孝彦
岩神真一郎	佐藤浩一	谷口敬	長屋直哉	安齊正敏
岩神直子	櫛田知志	形成外科	林宥佑	石塚 シュースタン正也
早川乃介	田中顕一郎	菊部綾香	矢内惇郎	磯谷理乃
吉田隆司	櫻田睦久	次米一輝	森野純貴	岩田秀
早川瑛梨	上田脩平	木原昂紀	永島優生	大下将弘
中島由貴	加藤永記	眼科	三戸統	大野響
渡邊敬康	山本陸	太田俊彦	産婦人科	岡田南
腎臓内科	小泉明博	土至田宏	田中利隆	奥龍一郎
清水芳男	村井勇太	朝岡聖子	金田容秀	小野寺瑠美子
若林啓一	仁平高朔	杉田丈夫	田中里美	尾立路輝
長澤肇	秋間龍之介	平井麻紀	熊谷麻子	川端脩人
中井公美	林睦実	小森翼	矢田昌太郎	北之園怜往
武井礼	板倉萌	市川浩平	平山雄一朗	郡司隆教
田中翔大	森田三奈子	菊池遥太	武内詩織	齋藤歩貴
糖尿病・内分泌内科	脳神経外科	岩崎有真	星野将輝	佐藤俊意
野見山崇	山本拓史	笠原知人	杉村有泉	進藤樹
山崎望	中尾保秋	桐山雅通	岩井志満	田中陽
岩本達也	眞上俊亮	渡部史郎	田嶋俊彬	寺川智將
関根直樹	足立知司	耳鼻咽喉科	切替麻以子	長野晃久
伊藤葉月	黒田清隆	楠威志	救急診療科	中山誠一朗
門倉椋	藤田修英	本間博友	柳川洋一	中山知恵
小田原瑠璃	赤崎安俊	城所淑信	大森一彦	福永千紘
大谷瑠果	鬼木蘭丸	佐藤将盛	大坂裕通	松田恵理香
循環器内科	牧野健作	佐山裕斗	村松賢一	松永樹哉
諏訪哲	西岡和輝	深瀬裕之	長澤宏樹	村山倫太郎
荻田学	整形外科	麻酔科	境達郎	守田凱紀
塩澤知之	大林治	尾前毅	三浦悠介	矢田昌敬
和田英樹	最上敦彦	長谷川陽子	谷口裕亮	山口創平
谷津翔一朗	神田章男	洪景都	病理診断科	山田青瑚
設樂準	諸橋達陽	櫻庭園子	和田了	吉野亮
遠藤裕久	糸井陽	山崎翔	山下淳史	
高野信太郎	守屋秀一	太田正孝	臨床検査科	
藤田航	分島智子	須田汐織	田内一民	
阿部圭希	布谷茉莉香	山田至法	口腔外科	
小野里匠也	井上弘章	中村萌	井染洋	
大塚隆弘	古城智也	八子一		
真優 スレーシュル	藤本華奈	室谷修平		

1-7 職員数

令和6年3月31日現在

職 種	正規職員		パート		小計	派遣・委託		小計	合計
	男	女	男	女		男	女		
看護 師	124	618		7	749			0	749
助 産 師		31			31			0	31
准 看 護 師		6			6			0	6
介 護 福 祉 士	6	13		2	21			0	21
助 手	1	2		6	9		92	92	101
中 材 ・ 滅 菌					0	5	31	36	36
事 務 員		1			1		19	19	20
小 計	131	671	0	15	817	5	142	147	964
薬 剤 師	26	10		5	41			0	41
薬 剤 科 事 務 員					0		12	12	12
診 療 放 射 線 技 師	30	7	1		38			0	38
放 射 線 室 助 手					0			0	0
放 射 線 室 事 務 員					0		5	5	5
臨 床 検 査 技 師	9	19	1	5	34			0	34
検 査 室 看 護 師		3		7	10			0	10
検 査 室 事 務 員					0		13	13	13
理 学 療 法 士	19	7			26			0	26
作 業 療 法 士	3	3			6			0	6
言 語 聴 覚 士	1	3			4			0	4
リハビリテーション科事務員					0		1	1	1
管 理 栄 養 士	2	5		1	8			0	8
栄 養 士	1	1		1	3			0	3
調 理 師	12	2	1		15			0	15
栄 養 科 助 手	2	2			4	11	44	55	59
栄 養 科 事 務 員				1	1			0	1
視 能 訓 練 士	2	5			7			0	7
臨 床 工 学 技 士	11	3		1	15			0	15
臨 床 心 理 士		3			3			0	3
メンタルクリニック助手				1	1			0	1
歯 科 衛 生 士		1			1			0	1
歯 科 技 工 士	1				1			0	1
小 計	119	74	3	22	218	11	75	86	304
事 務 員	49	27		8	84	8	185	193	277
社 会 福 祉 士	4	4			8			0	8
保 育 士		6			6			0	6
技術・労務・警備・施設	3				3	71	50	121	124
助 手					0		16	16	16
医 局 秘 書				4	4			0	4
小 計	56	37	0	12	105	79	251	330	435
医 療 安 全 管 理 者		1			1			0	1
感 染 管 理 者		3			3			0	3
健康安全推進センター		1			1			0	1
患者看護相談室 看護師・准看護師		3			3			0	3
入退院支援室 看護師・准看護師		6			6			0	6
がん治療センター 看護師・准看護師		10			10			0	10
小 計	0	24	0	0	24	0	0	0	24
医 師	特 任 教 授	5			5			0	5
	教 授	17			17			0	17
	先 任 准 教 授	2			2			0	2
	先任准教授(臨床)	6	1		7			0	7
	准教授(大学院)	1			1			0	1
	准教授(講座)	4			4			0	4
	准教授(診療)	5			5			0	5
	准教授(実習)	5			5			0	5
	准教授(教育)	4	2		6			0	6
	講 師		1		1			0	1
	助 教	34	9		43			0	43
	助 手	57	19		76			0	76
	専 攻 生	10	4		14			0	14
	大 学 院 生	13	7		20			0	20
	シニアレジデント	2	2		4			0	4
	非 常 勤 助 手	1	0		1			0	1
	臨 床 研 修 医	40	13		53			0	53
小 計	206	58	0	0	264	0	0	0	264
合 計	512	864	3	49	1,428	95	468	563	1,991

1-8 各種委員会

令和5年4月1日時点

委員会名	委員長名	委員会名	委員長名
病院運営委員会	佐藤 浩一	運営協議会	佐藤 浩一
診療会議	山本 拓史	管理会議	小野 隆宏
医療安全・危機管理委員会	藤田 和彦	人権委員会	佐藤 浩一
感染対策委員会	岩神 真一郎	VRE 対策委員会	岩神 真一郎
災害対策委員会	柳川 洋一	救命救急センター運営会議	柳川 洋一
J スタット委員会	大坂 裕通	勤務環境改善委員会	山本 拓史
褥瘡対策委員会	荻部 綾香	がん治療センター運営委員会	田中 顕一郎
がん診療委員会	田中 顕一郎	看護師特定行為研修管理委員会	太田 俊彦
看護師特定行為業務管理委員会	大森 一彦	静岡病院安全衛生委員会	桐野 衛二
放射線安全委員会	大島 理規	放射線治療品質管理委員会	大島 理規
放射線被ばく安全委員会	入江 隆介	臨床倫理委員会	玄田 拓哉
倫理審査委員会	玄田 拓哉	治験審査委員会	玄田 拓哉
図書管理委員会	諸橋 達	医療保険委員会	山本 拓史
施設基準委員会	山本 拓史	薬事委員会	楠 威志
資材委員会	諏訪 哲	機種選定委員会	佐藤 浩一
内視鏡運営委員会	伊藤 智彰	輸血療法委員会	岩尾 憲明
手術室運営委員会	尾前 毅	病棟利用・外来対策委員会	山本 拓史
臨床検査適正化委員会	和田 了	予防医学センター運営委員会	清水 芳男
クリニカルパス委員会	神田 章男	DPC コーディング委員会	山本 拓史
3AICU 運営委員会	山本 拓史	地域医療支援病院運営委員会	佐藤 浩一
広報委員会	最上 敦彦	脳死・臓器移植委員会	野田 和幸
虐待対策委員会	馬場 洋介	医療機器保守委員会	諏訪 哲
廃棄物管理委員会	和田 了	医療ガス安全管理委員会	長谷川 陽子
業務委託委員会	藤田 和彦	礼儀・接遇マナー向上委員会	山本 拓史
ご来院皆様の声検討委員会	櫻田 睦	栄養管理委員会	野見山 崇

診療録管理委員会	大 林 治	透析機器安全管理委員会	清 水 芳 男
医療情報システム委員会	中 尾 保 秋	CPC・CRC・デスカンファレンス委員会	和 田 了
静岡病院専門研修医プログラム委員会	佐 藤 浩 一	静岡病院専門医・キャリア形成プログラム委員会	中 尾 保 秋
臨床研修センター会議	佐 藤 浩 一	研修管理委員会	佐 藤 浩 一

1-9(1) 活動報告

年 月 日	会 議 ・ 行 事 実 施 事 項
5. 4. 1	新入職員オリエンテーション
3	看護師特定行為研修開講式
18	医療安全研修会（DVD）（～2月29日）
6. 5	春季健康診断（～16日）
12	褥瘡対策研修会（eラーニング）（～7月31日）
23	ドクターヘリ事後検証会
9. 12	がん治療研修会（eラーニング）（～10月12日）
22	ドクターヘリ事後検証会
10. 12	災害テント展開訓練、消防訓練
31	感染対策研修会（eラーニング）（～2月29日）
11. 10	抗菌薬研修会（eラーニング）（～2月29日）
20	洪水・土砂災害避難訓練
22	東部保健所病院立入検査
12. 4	秋季健康診断（～8日）
19	静岡県東部ドクターヘリ運航調整委員会（書面開催）
26	ドクターヘリ事後検証会
6. 1. 5	賀詞交歓会
29	災害訓練
3. 19	臨床研修医修了証書授与式
25	ドクターヘリ事後検証会
29	看護師特定行為研修修了式
上記のほか毎月定例として開催される会議	
第1火曜日	薬事委員会、治験審査委員会、がん診療委員会
第1木曜日	管理会議
第2月曜日	資材委員会
第2火曜日	栄養管理委員会（奇数月及び4月）
第2水曜日	診療会議、医療情報システム委員会（奇数月）
第3月曜日	運営協議会

第 3 水曜日	クリニカルパス委員会（奇数月及び 4 月）、救命救急センター運営会議（奇数月）
第 3 金曜日	感染対策委員会、医療安全危機管理委員会
第 4 水曜日	静岡病院安全衛生委員会
第 4 木曜日	褥瘡対策委員会、がん治療センター運営委員会（奇数月）
最終水曜日	施設基準委員会、医療保険委員会
毎月 1 回	病院運営委員会
隔月 1 回	輸血療法委員会、内視鏡運営委員会、災害対策委員会
3 ヶ月に 1 回	コーディング委員会、臨床研修センター会議、診療録管理委員会、放射線安全委員会、広報委員会

1-9(2) 講演会

年 月 日	講 座 名 ・ テ ー マ
5. 4. 1	ミニレクチャー動画配信＜動画配信＞（～4月30日） 「放射線治療のQ&A」
6. 1	ミニレクチャー動画配信＜動画配信＞（～6月30日） 「大腸がんにならないために、なってしまったら」
8. 1	ミニレクチャー動画配信＜動画配信＞（～8月31日） 「バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）って何ですか!？」
9. 28	第51回東部周産期研究会 「妊娠と甲状腺疾患」「甲状腺疾患合併母体児の管理」
11. 1	第85回市民公開講座 「増加する心臓弁膜症と最新の治療」
6. 2. 21	第86回市民公開講座 「共に命を救う：ドクターヘリと地域の連携による救急医療最前線」
2. 29	第52回東部周産期研究会 「基本的な胎児心臓超音波スクリーニング検査」 「新生児室で見つける心奇形（基本的な新生児の心臓超音波検査法）」

1-10 社会貢献・地域交流活動

年 月 日	活 動 名
5. 4. 1	市民公開講座ミニレクチャー動画「放射線治療のQ & A」(Web 配信～4 月 30 日)
20	伊豆の国市役所家族支援方法検討会(講師派遣)
6. 1	市民公開講座ミニレクチャー動画「大腸がんにならないために、なってしまったら」(Web 配信～6 月 30 日)
11	社会適応訓練研修会と家族相談会(講師派遣)
8. 1	市民公開講座ミニレクチャー動画「バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) って何ですか!?!」 (Web 配信～8 月 31 日)
8.9～10	高校生 1 日ナース体験事業
17	加藤学園高等学校職業講座(講師派遣)
22	ぬくもりの里「認知症について」職員研修会(講師派遣)
9. 2	長野県看護大学「卒業生あつまれ！」(看護師派遣)
3	「沼津市総合防災訓練」(コーディネーターとして派遣)
10. 24	伊豆市健康長寿課 在宅医療ワーキング(講師派遣)
11. 1	第 85 回市民公開講座「増加する心臓弁膜症と最新の治療」
7	伊豆中央高等学校看護講座(講師派遣)
24	富士市立看護専門学校「パネルディスカッション」(講師派遣)
12. 15	まちの保健室「相談員」(看護師派遣)
16	保健看護学部公開講座「家族が病気になったら!？」(講師派遣)
19	田方農業高等学校「がん講座」(講師派遣)
2. 21	第 86 回市民公開講座「共に命を救う:ドクターヘリと地域の連携による救急医療最前線」

1-11 指定・認定・許可事項

指 定 事 項	指 定 年 月 日
救命救急センター	昭和 56 年 11 月 1 日
新生児センター	昭和 57 年 4 月 1 日
エイズ拠点病院	平成 8 年 5 月 20 日
災害拠点病院	平成 8 年 11 月 26 日
日本医療機能評価機構認定病院	平成 16 年 3 月 15 日(初回認定日)
静岡県東部ドクターヘリ基地病院	平成 16 年 3 月 17 日
臨床研修指定病院	平成 16 年 4 月 1 日
地域がん診療連携拠点病院	平成 19 年 1 月 31 日
総合周産期母子医療センター	平成 20 年 8 月 1 日
静岡県肝疾患診療連携拠点病院	平成 21 年 3 月 10 日
DPC 対象病院	平成 23 年 4 月 1 日
災害派遣医療チーム静岡 DMAT 指定病院	平成 24 年 3 月 1 日
指定小児慢性特定疾病医療機関	平成 27 年 1 月 1 日
難病法に係る難病指定医療機関	平成 27 年 1 月 1 日
静岡県アレルギー疾患医療拠点病院	平成 30 年 10 月 1 日
肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関	平成 30 年 12 月 1 日
地域医療支援病院	令和 2 年 1 月 7 日
特定行為研修指定研修機関	令和 2 年 2 月 26 日

診療科名	学会認定
呼吸器内科	日本呼吸器内視鏡学会認定施設
	日本呼吸器学会認定施設
消化器内科	日本消化器病学会認定施設
	日本肝臓学会認定施設
	日本消化管学会胃腸科指導施設
膠原病・リウマチ内科	日本リウマチ学会教育施設
血液内科	日本血液学会血液研修施設
腎臓内科	日本透析医学会教育関連施設
	日本腎臓学会研修施設
糖尿病・内分泌内科	日本糖尿病学会認定教育施設
	日本内分泌学会認定教育施設
循環器科	日本心血管インターベンション治療学会研修施設
	日本循環器学会循環器専門医研修施設
	日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設

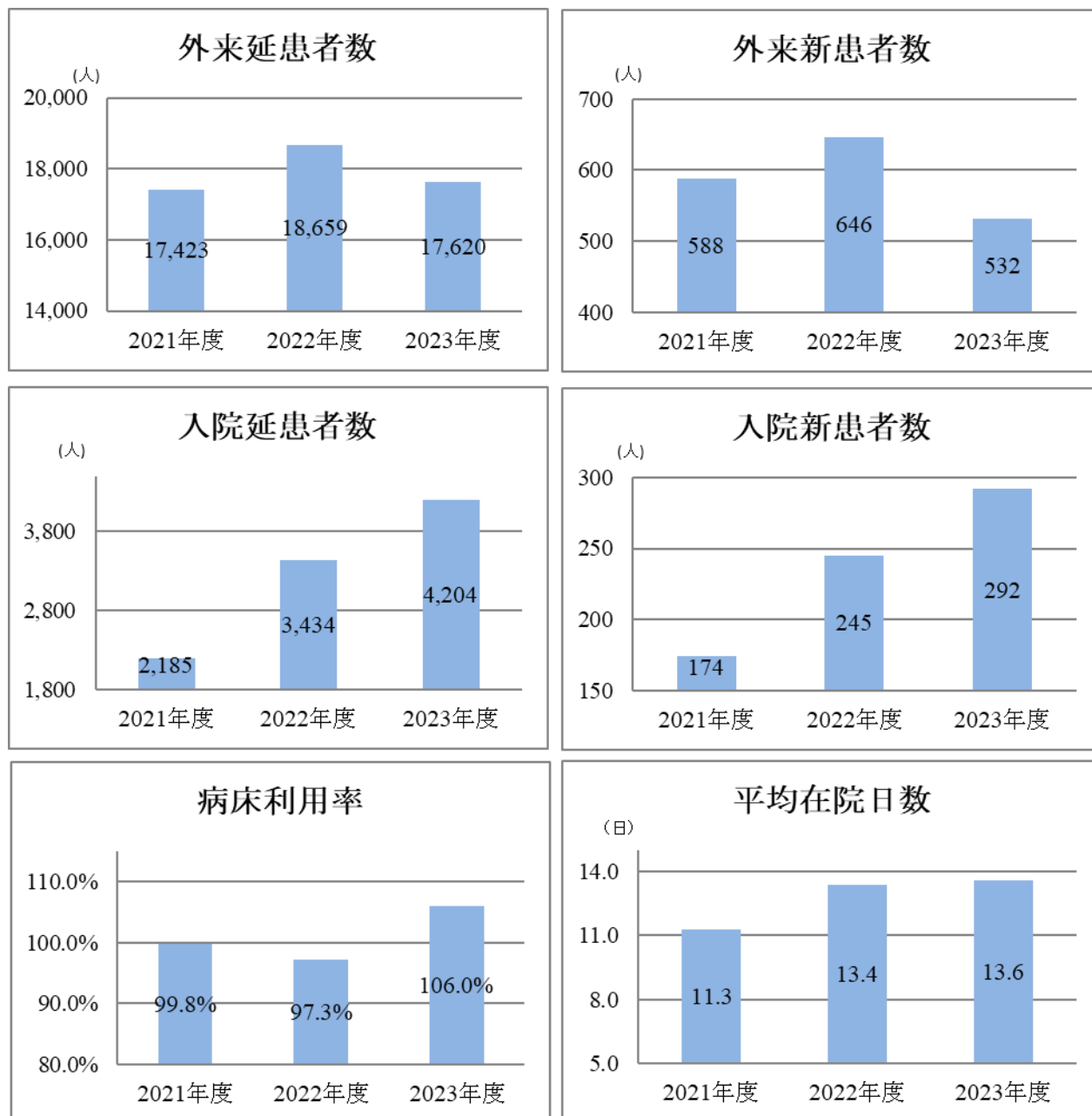
循環器科	日本循環器学会トランスサイレチン型心アミドーシスに対するビンダケル導入施設認定
外科	日本消化器内視鏡学会指導施設
	日本胃癌学会認定施設
	日本食道学会全国登録認定施設
	日本外科学会外科専門医制度修練施設
	日本消化器外科学会専門医修練施設
	日本大腸肛門病学会関連施設
	日本乳癌学会関連施設
	日本遺伝性乳癌卵巣癌総合診療協力施設
	日本腹部救急医学会腹部救急認定医・教育医制度認定施設
	日本専門医機構外科専門医研修プログラム認定
	日本膵臓学会認定指導施設
麻酔科・ペインクリニック	日本麻酔科学会麻酔科認定病院
	日本専門医機構麻酔科専門医研修プログラム認定
	日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設
	日本ペインクリニック学会指定研修施設
脳神経外科	日本脳卒中学会研修教育施設
	日本脳神経外傷学会研修施設認定
	日本専門医機構脳神経外科専門医研修プログラム認定
	一般社団法人 National Clinical Database 施設会員
	日本脳卒中学会一次脳卒中センター
整形外科	日本整形外科学会専門医研修施設
	日本手外科学会研修施設
	日本専門医機構整形外科専門医研修プログラム認定
	日本脊椎椎間板病学会椎間板酵素注入療法実施可能施設
心臓血管外科	関連 10 学会構成 スtentグラフト実施基準管理委員会 腹部stentグラフト実施施設
	関連 10 学会構成 日本stentグラフト実施基準管理委員会 胸部stentグラフト実施施設
	補助人工心臓治療関連学会協議会 IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設
	経皮的僧帽弁接合不全修復システム実施施設
	ロボット心臓手術関連学会協議会ロボット心臓手術実施施設
	下肢静脈瘤血管内焼灼術実施・管理委員会 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設
	経カテーテル的心臓弁治療関連学会協議会 経カテーテル的大動脈弁置換術実施施設
	三学会構成心臓血管外科専門医認定機構基幹施設

新生児科	日本周産期・新生児医学会周産期専門医（新生児）認定施設 （基幹施設）
小児科	日本小児科学会小児科専門医研修施設
	日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設
眼科	日本眼科学会専門医制度研修施設
	日本角膜学会羊膜移植実施施設
耳鼻咽喉科	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
脳神経内科	日本神経学会教育施設
	日本臨床神経生理学会認定施設
皮膚・アレルギー科	日本皮膚科学会認定専門医研修施設
泌尿器科	日本泌尿器科学会専門医教育施設
産婦人科	日本産科婦人科学会専門医制度専攻医指導施設
	日本周産期・新生児医学会認定施設
	静岡県医師会母体保護法指定医師研修機関
	日本産科婦人科学会専門研修連携施設
	日本超音波医学会超音波専門医制度研修施設
	日本女性医学学会専門医制度認定研修施設
	日本婦人科腫瘍学会専門医制度指定修練施設
メンタルクリニック	日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
	日本総合病院精神医学会一般病院連携精神医学専門医特定研修施設
呼吸器外科	呼吸器外科専門医合同委員会専門研修連携施設
放射線科	日本医学放射線学会専門医総合修練機関
	日本医学放射線学会画像診断管理認証施設
救急診療科	日本航空医療学会認定施設
	日本救急医学会救急科専門医指定施設
	日本外傷学会外傷専門医研修施設
病理診断科	日本病理学会研修認定施設
リハビリテーション科	日本リハビリテーション医学会研修施設
救命救急センター	日本集中治療医学会専門医研修施設
栄養科	日本病態栄養学会栄養管理・NST 実地施設
	日本静脈経腸栄養学会 NST 稼動施設
薬剤科	日本病院薬剤師会プレアボイド報告施設
	日本医療薬学会専門薬剤師研修施設
がん治療センター	日本臨床腫瘍学会認定研修施設
	日本がん治療認定医機構認定研修施設
	日本緩和医療学会認定研修施設

2. 診療科報告

2-1 膠原病内科・リウマチ科

診療実績

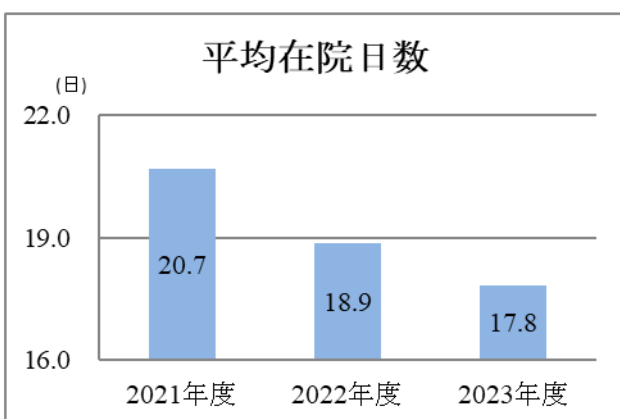
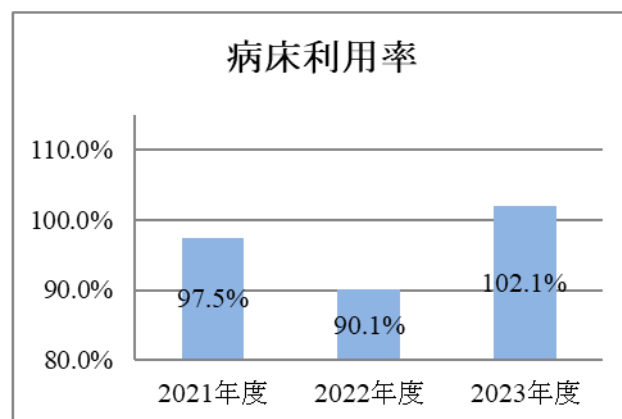
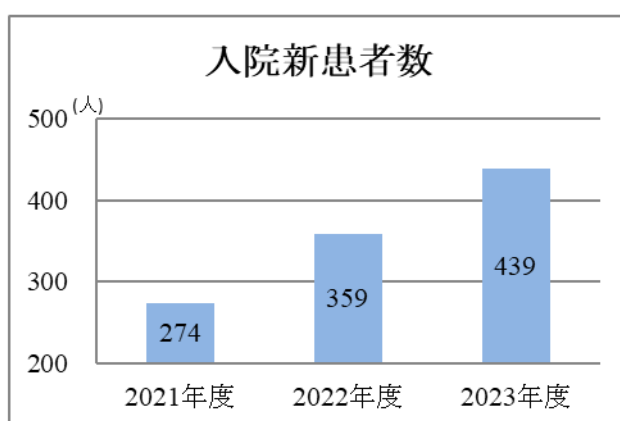
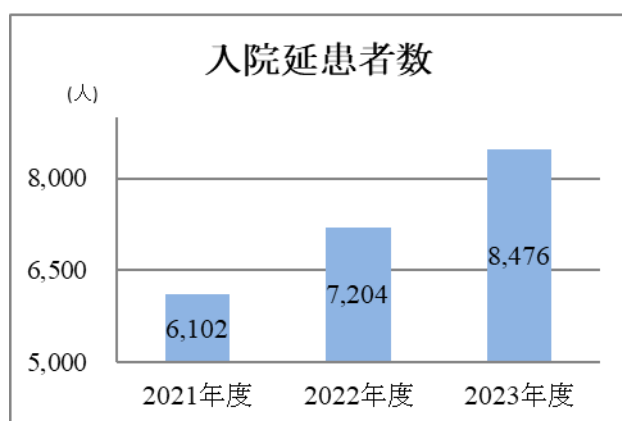
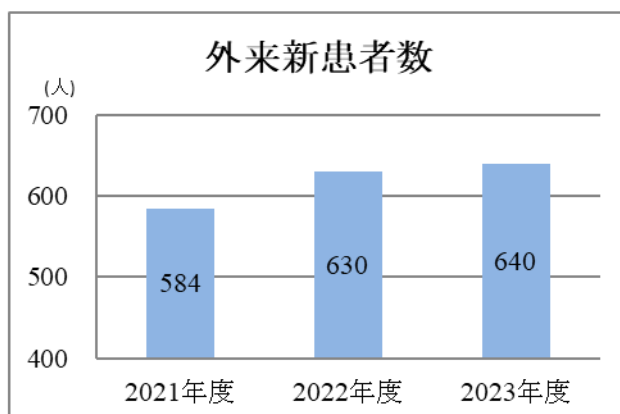
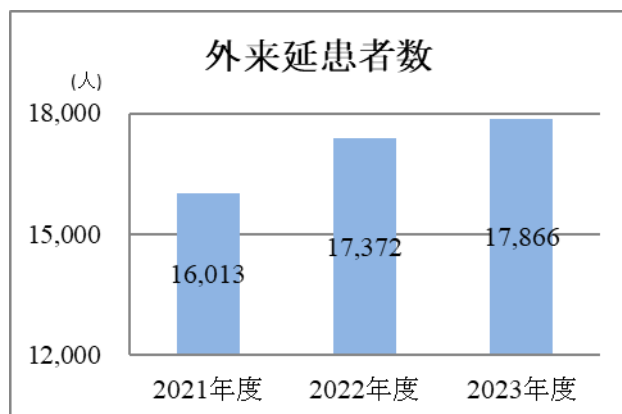


研究・教育活動

1. 長井浩二、古澤星子、東村奎、津島浩、岡田隆、片桐彰 「好酸球性肺炎と診断した後、抗 MDA-5 抗体陽性が判明した一例」 第 67 回日本リウマチ学会総会 2023 年 4 月 24 日

2-2 血液内科

診療実績



2023 年度 症例件数

	総数	初発
白血病	54	29
悪性リンパ腫	135	69
骨髄異形成症候群(抗がん剤治療)	17	8
多発性骨髄腫	87	21
アミロイドーシス	4	3
再生不良性貧血		6
ITP		22

発表

第85回日本血液学会学術集会, 2023年10月13日

順天堂大学附属静岡病院における後天性血友病患者の臨床的特徴および転帰

森洋輔、本田匡宏、三澤恭平、岩尾憲明、高野弥奈、安藤美樹、小池道明

日本血液学会第12回東海地方会,名古屋、2023年5月21日

自家末梢血幹細胞移植を行い、長期寛解を維持している副腎不全合併の副腎原発びまん性大細胞 B 細胞リンパ腫

築島健介,山名智人,森洋輔,原田早希子,本田匡宏,三澤恭平,岩尾憲明,高野弥奈,小池道明

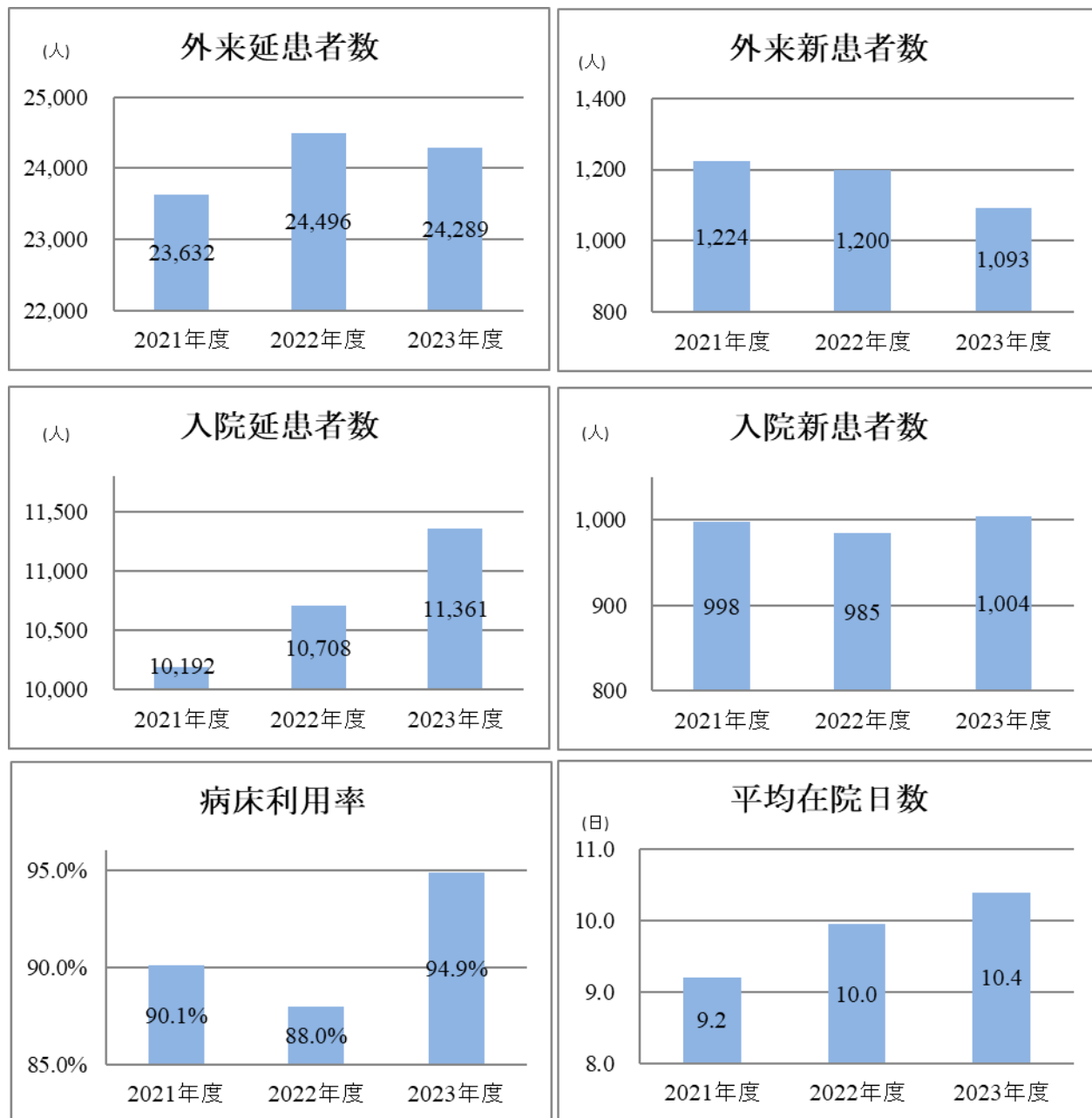
第250回内科地方会東海地方会, 2023年6月25日

古典的 Hodgkin リンパ腫の治療後に発症したびまん性大細胞 B 細胞リンパ腫

松崎 紘佑, 高野 弥奈, 三澤 恭平, 本田匡宏, 森 洋輔, 小池 道明

2-3 消化器内科

診療実績



研究・教育活動

【原著（英文）】

1. Hasegawa K, Takemura N, Yamashita T, Watadani T, Kaibori M, Kubo S, Shimada M, Nagano H, Hatano E, Aikata H, Iijima H, Ueshima K, Ohkawa K, Genda T, Tsuchiya K, Torimura T, Ikeda M, Furuse J, Akahane M, Kobayashi S, Sakurai H, Takeda A, Murakami T, Motosugi U, Matsuyama Y, Kudo M, Tateishi R; committee for Revision of the Clinical Practice Guidelines

for Hepatocellular Carcinoma, Tokyo, Japan. Clinical Practice Guidelines for Hepatocellular Carcinoma: The Japan Society of Hepatology 2021 version (5th JSH-HCC Guidelines). Hepatol Res. 2023; 53: 383-390.

- Ikeda Y, Sato S, Omu R, Nishimura A, Arii S, Uchida R, Nomura K, Sato S, Murata A, Shimada Y, Genda T. Isolated Adrenocorticotrophic Hormone Deficiency Associated with Atezolizumab and Bevacizumab Administration for Treating Hepatocellular Carcinoma: A Case Series. Intern Med. 2023; 62: 3341-3346.

【原著（和文）総説】

- 玄田拓哉. 移植適応申請に必要な内科的検査（適応基準）と禁忌事項. 内科医のための臓器移植診療ハンドブック. P132-139.
- 玄田拓哉. 脳死肝移植と臓器幹旋ルール. 血友病・HIV/ HCV 重複感染患者に対する外科診療ガイド 2024. P15-17.
- 嶋田裕慈、永原章仁. 医薬連携 薬剤師の質問に何でも答えます! *Helicobacter pylori* 感染症(第 2 回) ピロリ菌一次除菌を開始するうえで、食生活で気を付けるべきことはありますか. タバコや飲酒により、除菌率はどのくらい影響を受けますか? *Helicobacter Research* 27 巻 2 号 2023. P239-41.

【学会発表(国際)】

- Sato S, et al. Clinical features of non-obese NAFLD: Analysis of health check-up cohort. EASL congress, Vienna, Austria, 21-24, June 2023.
- Sato S, et al. Determination of the frequency of non-obese fatty liver disease and metabolic factors associated with liver steatosis and fibrosis. APASL Annual meeting, Taipei, Taiwan, 15-19, February 2023.
- Shimada Y, et al. Differences in gastric mucosal injury between patients treated with clopidogrel and prasugrel in DAPT. DDW2023, Chicago, May 7, 2023.
- Shimada Y, et al. The difference of gastric mucosal injury between clopidogrel user and prasugrel user in patient receiving Dual Anti-Platelet Therapy (DAPT). UEGW2023, Copenhagen, October 13, 2023.
- Shimada Y, et al. Relationship between *Helicobacter pylori* infection and gastric mucosal injuries in patients taking aspirin. UEGW2023, Copenhagen, October 13, 2023.

【学会発表(国内)】

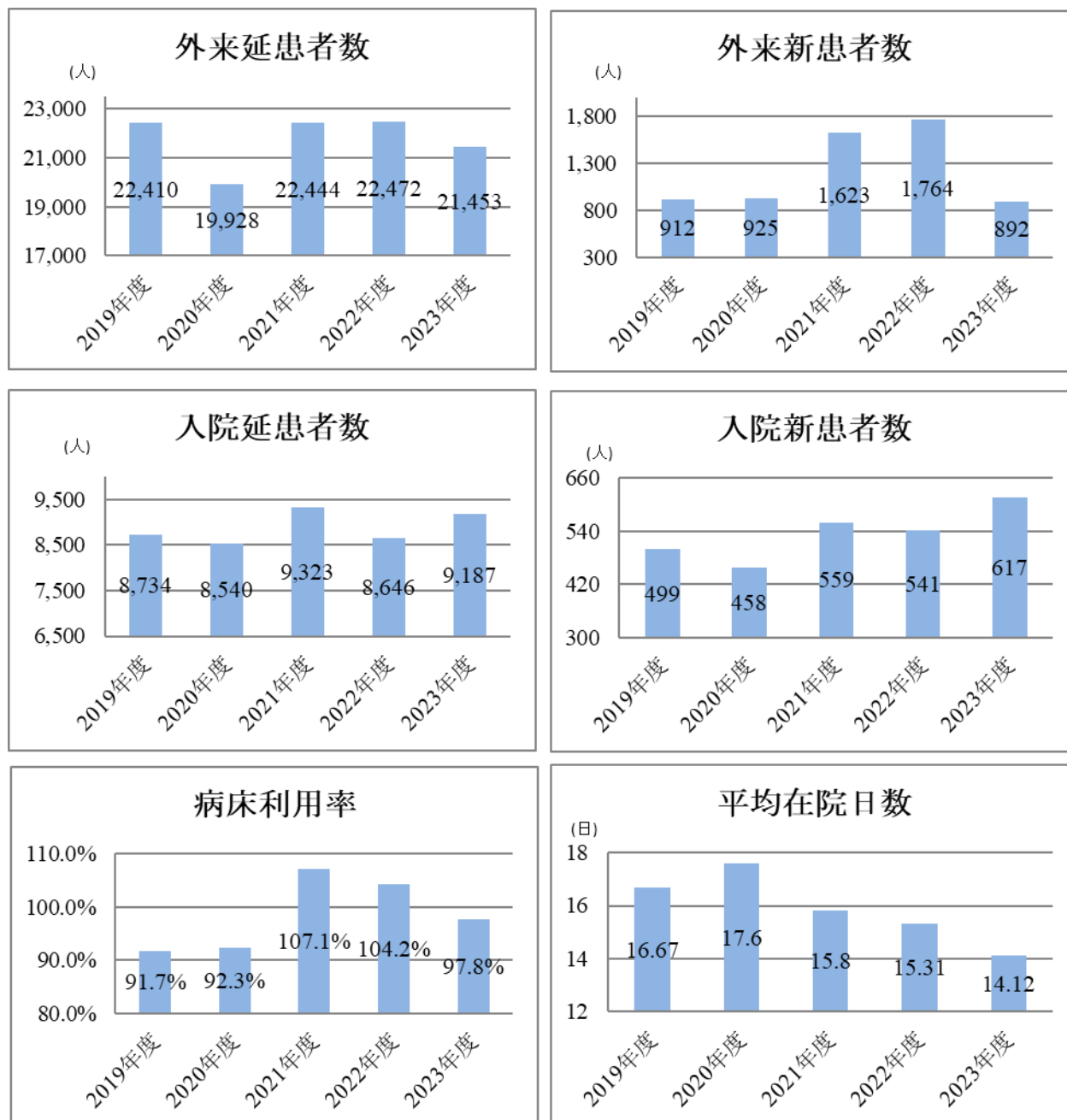
- 巖 理華、他. 核酸アナログ製剤の再活性化予防投与にもかかわらずリツキシマブ投与後早期に致死的な HBV 再活性化を来した 1 例. 第 49 回日本急性肝不全研究会、奈良、2023 年 6 月 14 日。
- 巖 理華、他. 経過中に異時性 3 重複癌が認められた C 型肝硬変の一例. 第 59 回日本肝臓学会総会、奈良、2023 年 6 月 15 日。
- 渡邊京子、川口麻紀子、大高宏文、玄田拓哉. 院内・病診連携を通じた肝炎ウイルス陽性者受診勧

奨の取組。第 59 回日本肝臓学会総会、奈良、2023 年 6 月 15 日。

4. 玄田拓哉。End-stage liver disease から見たわが国の慢性肝疾患の現状。第 59 回日本肝臓学会総会、奈良、2023 年 6 月 15 日。
5. 佐藤俊輔、他。肝硬変合併難治性腹水に対するトルバブタン投与後早期の血清 Na 値の変化と予後予測。第 45 回日本肝臓学会西部会、京都、2023 年 12 月 7 日。
6. 北 祐次、他。肝線維化進展を伴う脂肪肝の拾い上げ M2BPGi を用いた FIB-4 中リスク群の再分類。第 45 回日本肝臓学会西部会、京都、2023 年 12 月 7 日。
7. 池田裕至、他。SVR 後に門脈圧亢進症関連イベントおよび非代償化を呈した C 型代償性肝硬変の一例。第 30 回日本門脈圧亢進症学会総会、東京、2023 年 9 月 22 日。
8. 佐藤俊輔、他。地域で取り組む脂肪肝 肝線維化評価プログラム。第 59 回日本肝臓学会総会、奈良、2023 年 6 月 15 日。
9. 佐藤俊輔、他。非肥満型脂肪肝の頻度と肝脂肪化・肝線維化に関わる因子の検討。第 109 回日本消化器病学会総会、長崎、2023 年 4 月 7 日。
10. 村田礼人、他。核酸アナログ治療中の B 型慢性肝炎患者における血中 HBs 抗原糖鎖修飾異性体の測定意義。第 59 回日本肝臓学会総会、奈良、2023 年 6 月 15 日。
11. 嶋田 裕慈、他。抗血栓薬を内服する後期高齢者における胃粘膜傷害度の検討。第 109 回日本消化器病学会総会、長崎、2023 年 4 月 7 日。
12. 寺井 雄一郎、他。炎症性腸疾患としてのフォロー中に家族性地中海熱と診断できた 1 例。第 138 回日本消化器病学会東海支部例会、名古屋、2023 年 6 月 17 日。
13. 嶋田 裕慈、他。使用する制酸薬ごとにみた PPI 関連胃症の特徴。第 29 回日本ヘリコバクター学会学術集会、東京、2023 年 7 月 1 日。
14. 寺井 雄一郎、他。食道異所性胃粘膜症例における上部消化管症状の検討。第 25 回日本神経消化器病学会、東京、2023 年 9 月 28 日。
15. 嶋田 裕慈、他。当科における Warfarin 内服症例と DOAC 内服症例における胃潰瘍症例の検討。JDDW2023、神戸、2023 年 11 月 2 日。
16. 寺井 雄一郎、他。腹痛を契機に診断された腹部内臓動脈解離の一例。第 139 回日本消化器病学会東海支部例会、岐阜、2023 年 11 月 26 日。
17. 北 祐次、他。当科にて経験した蜘蛛の巣様粘液所見症例の検討。第 20 回日本消化管学会総会学術集会、沖縄、2024 年 2 月 9 日。

2-4 呼吸器内科

診療実績



研究・教育活動

英文原著

1. Matsuda H, Katayama I, Watanabe T, Komatsu A, Iwakami N, Goto Y, Suzuki M, Iwakami S, Takahashi K. *Vogesella urethralis*-induced aspiration pneumonia and bacteremia in an elderly man: a first case report. BMC Infectious Diseases (2023) 23:285

<https://doi.org/10.1186/s12879-023-08269-x>

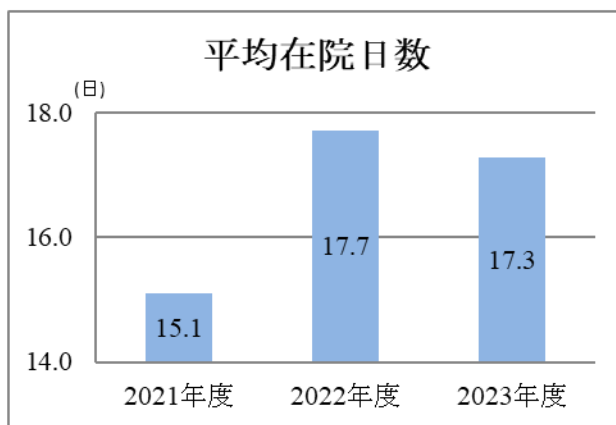
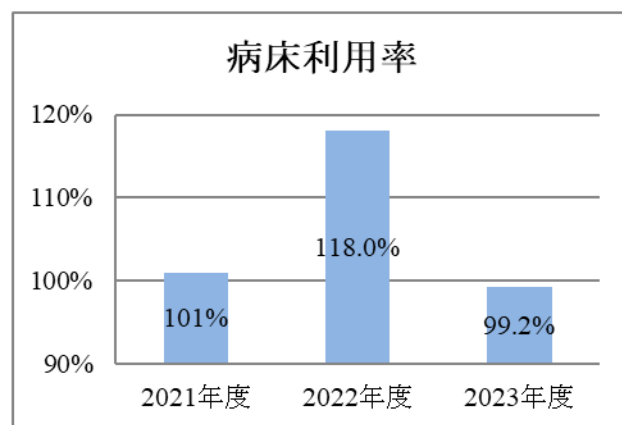
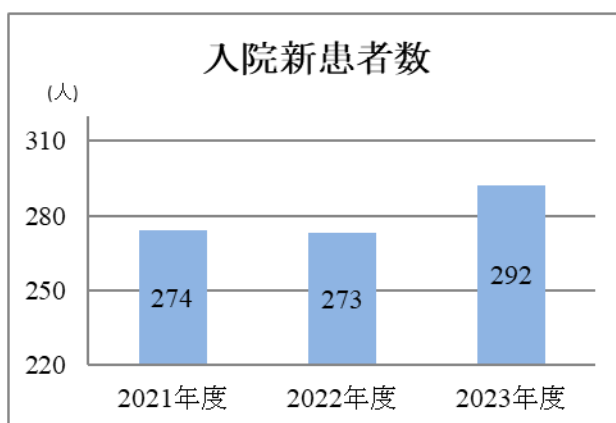
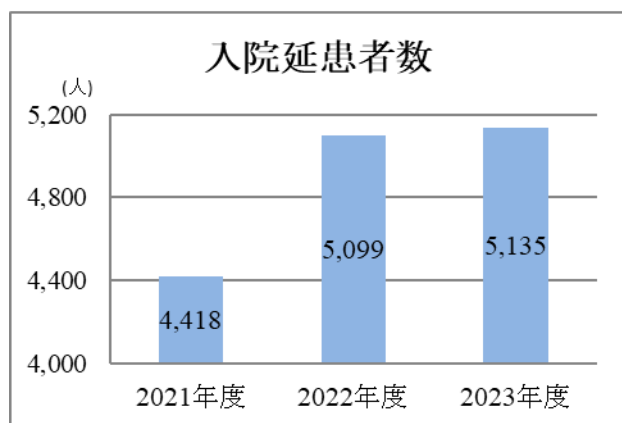
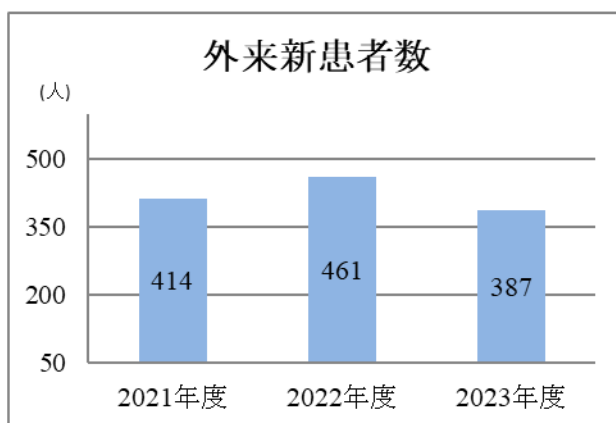
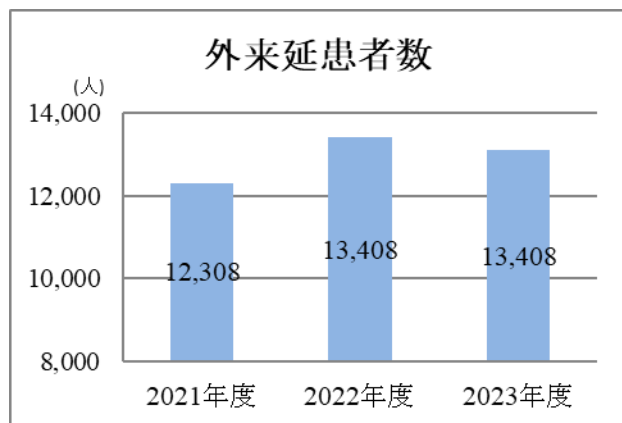
2. Katayama I, Komatsu A, Watanabe T, Hayakawa D, Iwakami N, Genda T, Iwakami S, Takahashi K. Mediastinal pancreatic pseudocyst diagnosed based on black pleural effusion. *Respirology Case Reports*, 11 (8), 2023, <http://doi.org/10.1002/rcr2.1195>

和文報告その他

1. 守田凱紀、渡邊敬康、岡島輝史、早川瑛梨、吉田隆司、早川乃介、岩神直子、岩神真一郎：良好な治療反応が得られたアミラーゼ産生肺癌と考えられた一例。 第124回日本呼吸器学会東海地方学会 2023年11月11日 浜松市浜北文化センター
2. 岡島輝史、早川瑛梨、渡邊敬康、吉田隆司、早川乃介、岩神直子、入江隆介、岩神真一郎：気管支動脈塞栓術が有効であった気管支動脈蔓状血管腫の一例。 第124回日本呼吸器学会東海地方学会 2023年11月12日 浜松市浜北文化センター

2-5 腎臓内科

診療実績



研究・教育活動

論文 英文・原著

論文 英文・総説

1. Shimizu Y, Tomino Y, Suzuki Y. IgA nephropathy-Beyond the half century. *Medicina* 2024; 60: 54.
2. Shimizu Y, Tomino Y, Suzuki Y. Therapeutic options for IgA nephropathy. *Scholarly Community Encyclopedia*. <https://encyclopedia.pub/entry/54151>

論文 和文・総説

1. 清水 芳男 慢性腎臓病について 静岡県腎不全研究会ホームページ <https://shizuoka-jinfuzen.jp/kidney>

学会発表・国内

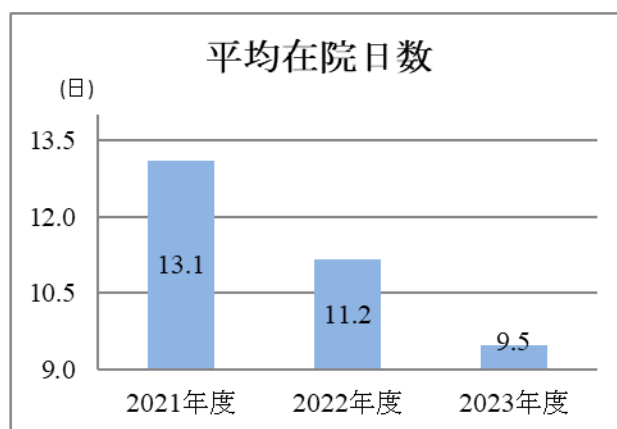
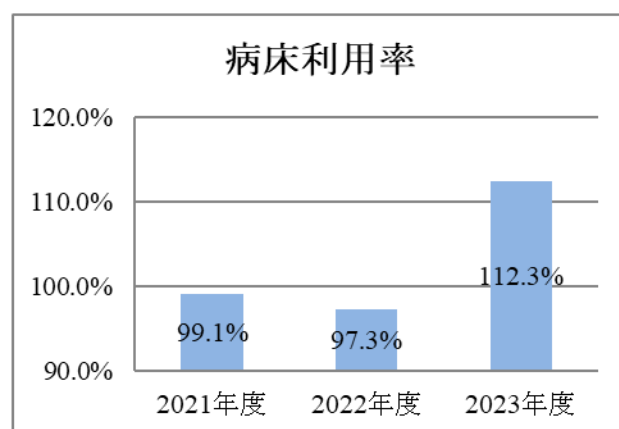
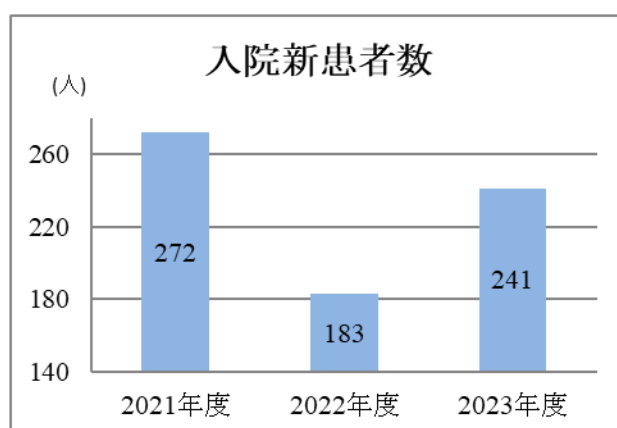
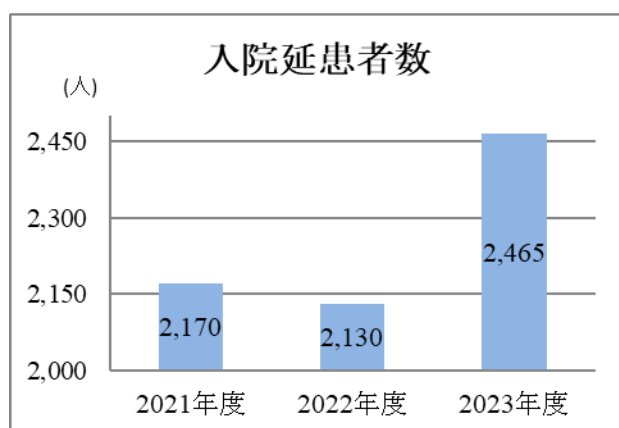
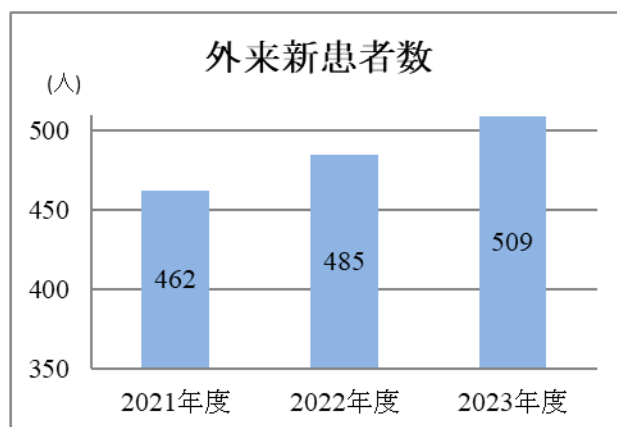
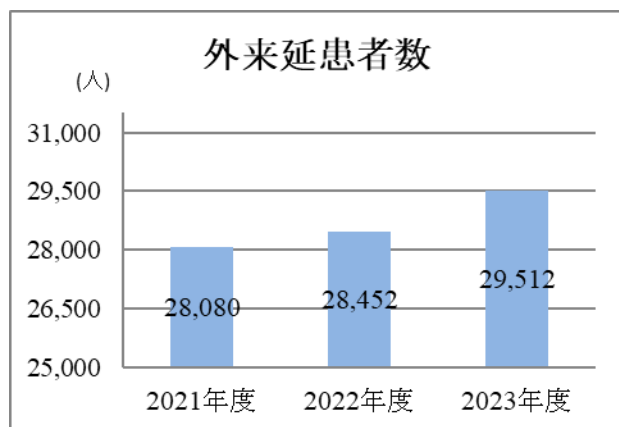
1. 若林 啓一、鈴木 魁、今泉 健太郎、清水 芳男、若林 正則 静脈皮膚瘻(veno-cutaneous fistula)のバスキュラーアクセスとしての有用性 第 19 回日本インターベンショナルネフロロジー学会学術集会 順天堂大学医学部附属練馬病院講堂 2023 年 10 月 14 日
2. 中井 公美、鈴木 魁、福原 佳奈子、長澤 肇、若林 啓一、清水 芳男 発症に職業が関連したと思われる溶血性尿毒症症候群の一例 第 53 回日本腎臓学会東部学術集会 仙台国際センター 2023 年 9 月 17 日
3. 林 陽子、若林 啓一、清水 芳男、鈴木 祐介 伊豆半島における CKD 患者の腎・生命予後に及ぼす性差 第 68 回日本透析医学会学術総会 パシフィコ横浜 2023 年 6 月 16 日
4. 長澤 肇、中井 公美、鈴木 魁、若林 啓一、清水 芳男、小林 敬、大塚 智之、大熊 輝之、植田 誠二、鈴木 祐介、松下 訓 シリアル食品(フルグラ)の生活習慣病改善効果の検証ー維持透析患者における検討(第 2 報) 第 62 回静岡腎不全研究会 グランシップ(静岡) 2023 年 10 月 29 日
5. 伊藤 葉月、武井 礼、田中 翔大、中井 公美、長澤 肇、若林 啓一、清水 芳男 発症から 12 年を経て診断された Fabry 病の一例 第 68 回静岡腎セミナー 浜松グランドホテル 2024 年 2 月 10 日
6. 武井 礼、中井 公美、田中 翔大、長澤 肇、若林 啓一、清水 芳男 クリオピリン関連周期性症候群による末期腎不全のため透析導入となった一例 第 63 回静岡腎不全研究会 グランシップ(静岡) 2024 年 3 月 3 日

講演会

1. 清水 芳男 細菌感染症と糸球体腎炎-MRSA 感染後腎炎を中心に- 第 10 回静岡東部地域腎臓研究会 WEB 2023 年 3 月 16 日

2-6 糖尿病・内分泌内科

診療実績



研究・教育活動

学会発表

1. 野見山崇: 低侵襲手術の血糖管理 インスリン VS 経口血糖降下薬. 第 68 回日本糖尿病学会年次学術集会, 鹿児島(日本), 2023/5/11, 口演
2. 岩本達也、佐藤淳子、栗田実佳、小渋真実、中島健一、山崎望、小貝俊樹、佐野里奈、池田富貴、麻生克己、綿田裕孝: 順天堂成人 1 型糖尿病コホート研究 (Jun One Study) 死亡症例の検討. 第 68 回日本糖尿病学会年次学術集会, 鹿児島(日本), 2023/5/12, 口演
3. 野見山崇: Diabetes Evolution ~Advocacy & Beyond~. 第 96 回日本内分泌学会総会, 愛知県(日本), 2023/6/1, 口演
4. 野見山崇: 糖尿病という体質と共に生きるーAdvocacy & Beyondー. 第 73 回日本体質医学会総会, 東京都 (日本), 2023/9/9, 口演
5. 野見山崇: DPP-4i は日本人に適した糖尿病治療薬. 第 97 回日本糖尿病学会中部地方会, 愛知県 (日本), 2023/9/24, 口演
6. 安田晴菜、長嶋春樹、古屋翔子、佐藤元律、荻原健、野見山崇: ソフトドリンクケトースと鑑別が困難であった急性発症 1 型糖尿病の一例. 第 97 回日本糖尿病学会中部地方会, 愛知県 (日本), 2023/9/24, 口演
7. 山崎望、麻生克己、早川美穂、古川祥子、佐藤まり重、佐藤淳子、野見山崇: 糖尿病専門クリニックにおける 5 年間で 2 型糖尿病患者の癌発症の調査. 第 97 回日本糖尿病学会中部地方会, 愛知県 (日本), 2023/9/24, 口演
8. 長嶋春樹、安田晴菜、武藤麗奈、佐藤元律、山崎望、荻原健、野見山崇: MIBG シンチグラフィ陽性でカテコラミン過剰産生を認めなかった副腎に隣接した傍神経節腫瘍の一例. 第 23 回日本内分泌学会東海支部学術集会, 愛知県 (日本), 2023/10/7, 口演
9. 根上拓也、山崎望、清水理那、門倉棕、武藤麗奈、岩本達也、山本拓史、和田了、野見山崇: 著明な ACTH 産生と副腎機能低下を来した下垂体神経内分泌腫瘍 (PitNET) の一例. 第 23 回日本内分泌学会東海支部学術集会, 愛知県 (日本), 2023/10/7, 口演
10. 武藤麗奈、清水理那、安田晴菜、門倉棕、長嶋春樹、岩本達也、佐藤元律、山崎望、野見山崇: 下垂体性副腎機能低下症の精査中に DiGeorge 症候群が診断された一例. 第 23 回日本内分泌学会東海支部学術集会, 愛知県 (日本), 2023/10/7, 口演
11. 門倉棕、岩本達也、清水理那、武藤麗奈、山崎望、野見山崇: 副甲状腺機能亢進症の治療中に低 Ca 血症を来し偽痛風を併発した一例. 第 23 回日本内分泌学会東海支部学術集会, 愛知県(日本), 2023/10/7, 口演
12. 野見山崇: ミトコンドリア・ルネサンス～血糖降下と臓器保護のデュアリズム～. 第 38 回日本糖尿病合併症学会, 岡山県 (日本), 2023/10/20, 口演
13. 山崎望、麻生克己、早川美穂、古川祥子、佐藤まり重、佐藤淳子、野見山崇: 糖尿病専門クリニックにおける 5 年間で 2 型糖尿病患者の癌発症の調査. 第 38 回日本糖尿病合併症学会, 岡山県 (日本), 2023/10/20, 口演
14. 野見山崇: 糖尿病と共に歩む未来を護るための血糖降下薬の使い方. 第 58 回糖尿病学の進歩, 京都府 (日本), 2024/02/16, 口演

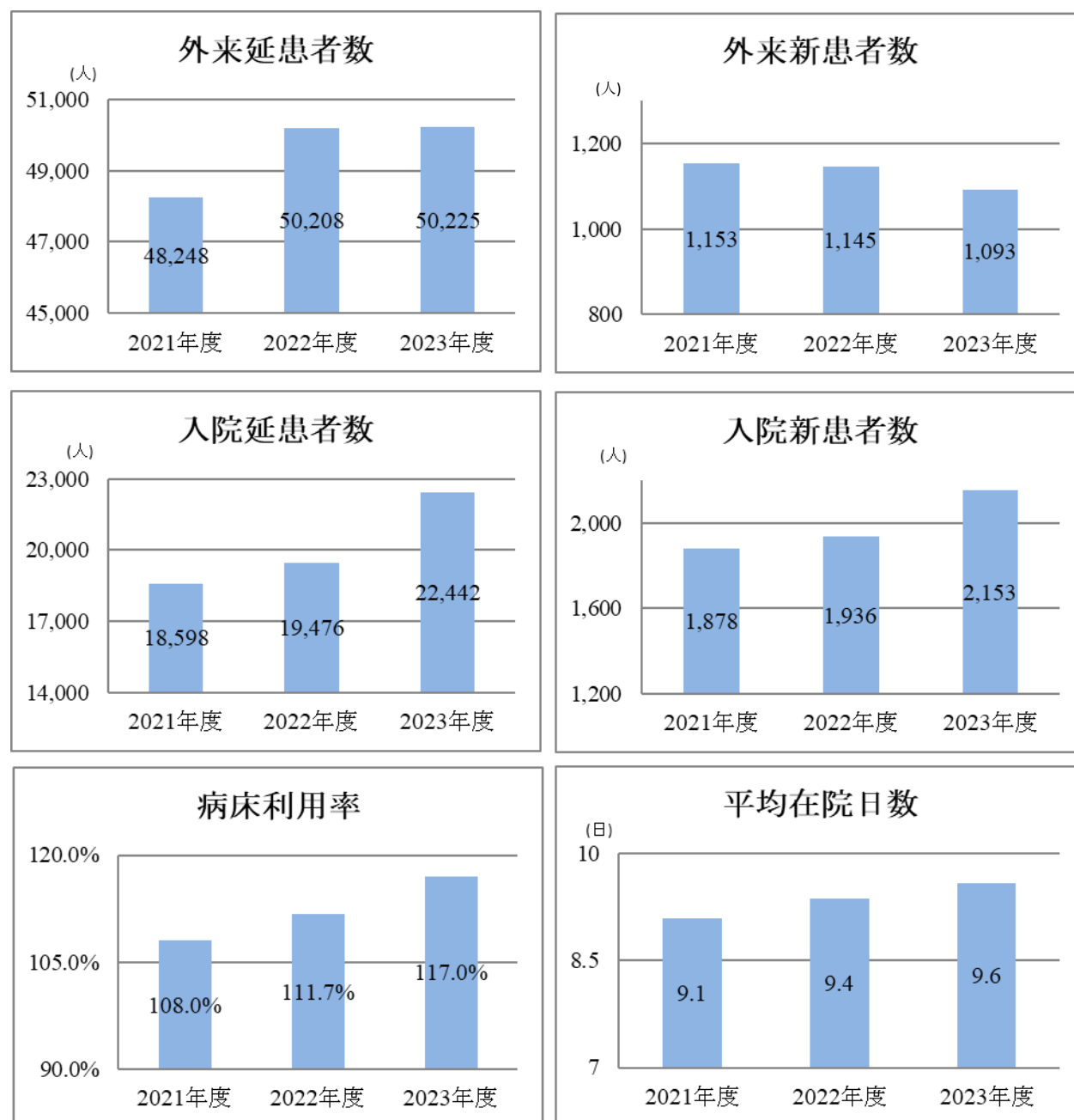
15. 高木理恵：中枢性甲状腺機能低下症と irAE による甲状腺機能低下症の鑑別に苦慮した 1 例. 第 252 回日本内科学会東海地方会, 岐阜県 (日本), 2024/2/18, 口演
16. 大塚隆弘：外用薬による高 Ca 血症で体動困難に至った 1 例. 第 252 回日本内科学会東海地方会, 岐阜県 (日本), 2024/2/18, 口演

和文著書

1. 野見山崇：代謝疾患（1）糖尿病（2）糖尿病以外の代謝疾患. Crosslink basic リハビリテーション 内科学, 角田亘・岡崎史子 編, メジカルビュー社, 2023 年 11 月 30 日 第 1 版, 360-376
2. 野見山崇：GIP/GLP-1 受容体作動薬. 血糖だけにこだわらない！糖尿病治療薬の考え方・使い方, 野見山崇 編, 日本医事新報社, 2023 年 11 月 30 日 第 1 版, 64-67
3. 野見山崇：糖尿病診療における最大の敵はがん. 胆と膵, 2023, 44 巻 5 号, 459-465
4. 野見山崇：糖尿病にまつわる薬の説, やせる注射薬があるという説. 糖尿病ケアプラス. メディカ出版, 2023、20 巻 6 号, 822-824
5. 野見山崇：糖尿病にまつわる薬の説, 血糖値が良くなる降圧薬がある説. 糖尿病ケアプラス. メディカ出版, 2023、20 巻 5 号, 718-720
6. 野見山崇：糖尿病にまつわる薬の説, SGLT2 阻害薬で腎臓が良くなる説. 糖尿病ケアプラス. メディカ出版, 2023、20 巻 4 号, 568-570
7. 野見山崇：糖尿病にまつわる薬の説, ミトコンドリア機能改善薬はミトコンドリア糖尿病の人にも効く説. 糖尿病ケアプラス. メディカ出版, 2023、20 巻 3 号, 426-428
8. 野見山崇：糖尿病の分類. Nutrition Care, 2023, 16 巻 5 号, 390-393
9. 野見山崇：糖尿病にまつわる薬の説, SGLT2 阻害薬を服用すると甘いものが欲しくなる説. 糖尿病ケアプラス. メディカ出版, 2023、20 巻 1 号, 134-136
10. 野見山崇：糖尿病にまつわる薬の説, インスリン製剤を打ち始めたらほかの糖尿病治療薬は止めたほうがよい説. 糖尿病ケアプラス. メディカ出版, 2023、20 巻 2 号, 282-284
11. 野見山崇：低血糖症. 今日の治療指針 2024. 医学書院 2024 年 1 月, 754

2-7 循環器内科

診療実績



研究・教育活動

英文論文 (原著・総説)

1. Singh YS, Wada H, Ogita M, Takamura Y, Onozato T, Fujita W, Abe K, Shitara J, Endo H, Tsuboi S, Suwa S, Miyauchi K, Minamino T.

Clinical outcomes of ST elevation myocardial infarction patients without standard modifiable risk factors.

J Cardiol. S0914-5087(23)00286-1, 2023 (Online ahead of print).

2. Shitara J, Yanagawa Y, Torizawa N, Abe K, Suwa S.
Fatal Ventricular Fibrillation Storm in a Young Patient with Marfan Syndrome.
J Emerg Trauma Shock. 16(3):140-141, 2023.
3. Yanagawa Y, Abe K, Nunotani M, Takeuchi I, Nagasawa H, Muramatsu KI, Ohsaka H, Ishikawa K, Suwa S.
Patients With Atrioventricular Block Transported by a Physician-Staffed Helicopter in Japan From 2015 to 2020.
Air Med J. 42(6):468-470, 2023.
4. Natsuaki M, Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Obayashi Y, Nishikawa R, Ando K, Domei T, Suwa S, Ogita M, Isawa T, Takenaka H, Yamamoto T, Ishikawa T, Hisauchi I, Wakabayashi K, Onishi Y, Hibi K, Kawai K, Yoshida R, Suzuki H, Nakazawa G, Kusuyama T, Morishima I, Ono K, Kimura T.
An Aspirin-Free Versus Dual Antiplatelet Strategy for Coronary Stenting: STOPDAPT-3 Randomized Trial.
Circulation. doi: 10.1161/CIRCULATIONAHA.123.066720, 2023 (Online ahead of print).
5. Watanabe H, Morimoto T, Natsuaki M, Yamamoto K, Obayashi Y, Nishikawa R, Ando K, Ono K, Kadota K, Suwa S, Morishima I, Yoshida R, Hata Y, Akao M, Yagi M, Suematsu N, Morino Y, Yokomatsu T, Takamisawa I, Noda T, Doi M, Okayama H, Nakamura Y, Hibi K, Sakamoto H, Noguchi T, Kimura T; STOPDAPT-2 investigators.
Clopidogrel versus Aspirin Monotherapy Beyond 1 Year After PCI: STOPDAPT-2 5-Year Results. *J Am Coll Cardiol.* Oct 18:S0735-1097(23)07750-1, 2023 (Online ahead of print).
6. Kondo S, Mizukami T, Kobayashi N, Wakabayashi K, Mori H, Yamamoto MH, Sambe T, Yasuhara S, Hibi K, Nanasato M, Sugiyama T, Kakuta T, Kondo T, Mitomo S, Nakamura S, Takano M, Yonetsu T, Ashikaga T, Dohi T, Yamamoto H, Kozuma K, Yamashita J, Yamaguchi J, Ohira H, Mitsumata K, Namiki A, Kimura S, Honye J, Kotoku N, Higuma T, Natsumeda M, Ikari Y, Sekimoto T, Matsumoto H, Suzuki H, Otake H, Sugizaki Y, Isomura N, Ochiai M, Suwa S, Shinke T; TACTICS investigators.
Diagnosis and Prognostic Value of the Underlying Cause of Acute Coronary Syndrome in Optical Coherence Tomography-Guided Emergency Percutaneous Coronary Intervention.
J Am Heart Assoc. 12(20):e030412, 2023.

7. Yamamoto K, Morimoto T, Natsuaki M, Shiomi H, Ozasa N, Sakamoto H, Takeji Y, Domei T, Tada T, Taniguchi R, Uegaito T, Yamada M, Takeda T, Eizawa H, Suwa S, Shirotani M, Tamura T, Inoko M, Sakai H, Ishii K, Toyofuku M, Miki S, Onodera T, Furukawa Y, Inada T, Ando K, Kadota K, Nakagawa Y, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3 Investigators.
Polypharmacy and Bleeding Outcomes After Percutaneous Coronary Intervention.
Circ J. doi: 10.1253/circj.CJ-23-0558, 2023 (Online ahead of print).

8. Gohbara M, Hibi K, Morimoto T, Kirigaya H, Yamamoto K, Ono K, Shiomi H, Ohya M, Yamaji K, Watanabe H, Amano T, Morino Y, Takagi K, Honye J, Matsuo H, Abe M, Kadota K, Ando K, Nakao K, Sonoda S, Suwa S, Kawai K, Kozuma K, Nakagawa Y, Ikari Y, Nanasato M, Hanaoka K, Tanabe K, Hata Y, Akasaka T, Kimura T; OPTIVUS-Complex PCI investigators. SYNTAX Score and 1-Year Outcomes in the OPTIVUS-Complex PCI Study Multivessel Cohort.
Am J Cardiol. 205:431-441, 2023.

9. Yamamoto K, Shiomi H, Morimoto T, Miyazawa A, Watanabe H, Nakamura S, Suwa S, Domei T, Ono K, Sakamoto H, Shigetoshi M, Taniguchi R, Okayama H, Toyota T, Yokomatsu T, Muto M, Kawaguchi R, Kishi K, Hadase M, Fujita T, Nishida Y, Nishino M, Otake H, Natsuaki M, Watanabe H, Suematsu N, Tanabe K, Abe M, Hibi K, Kadota K, Ando K, Kimura T; OPTIVUS-Complex PCI Investigators.
Single-Session Versus Staged Multivessel Optimal IVUS-Guided PCI in Patients With CCS or NSTEMI-ACS. *JACC Asia*. 13;3(4):649-661, 2023.

10. Yonetsu T, Wakabayashi K, Mizukami T, Yamamoto MH, Yasuhara S, Kondo S, Oishi Y, Okabe T, Sugiyama T, Araki M, Takano M, Kobayashi N, Kimura S, Yamakami Y, Suwa S, Nakamura S, Mitomo S, Kakuta T, Usui E, Higuma T, Ako J, Minami Y, Iwasaki M, Shite J, Kozuki A, Saito S, Shishido K, Okura H, Naruse G, Uemura S, Kume T, Nanasato M, Dohi T, Ashikaga T, Otake H, Mori H, Sekimoto T, Sugizaki Y, Shinke T; ATLAS-OCT Investigators. Optical Coherence Tomography-Guided Percutaneous Coronary Intervention for ST-Segment Elevation Myocardial Infarction: Rationale and Design of the ATLAS-OCT Study.
Am J Cardiol. 203:466-472, 2023.

11. Shiomi H, Kozuma K, Morimoto T, Kadota K, Tanabe K, Morino Y, Tamura T, Abe M, Suwa S, Ito Y, Kobayashi M, Dai K, Nakao K, Tarutani Y, Taniguchi R, Nishikawa H, Yamamoto Y, Yamasaki T, Okamura A, Nakagawa Y, Ando K, Kobayashi K, Kawai K, Hibi K, Kimura T; RESET Investigators.
Ten-year clinical outcomes from a randomized trial comparing new-generation everolimus-eluting stent versus first-generation Sirolimus-eluting stent: Results from the RESET extended study. *Catheter Cardiovasc Interv*. 102(4):594-607, 2023.

12. Tanaka A, Shibata H, Imai T, Yoshida H, Miyazono M, Takahashi N, Fukuda D, Okada Y, Teragawa H, Suwa S, Kida K, Moroi M, Taguchi I, Toyoda S, Shimabukuro M, Tanabe K, Tanaka K, Nangaku M, Node K; FIVE-STAR trial investigators.
Rationale and design of an investigator-initiated, multicenter, prospective, placebo-controlled, double-blind, randomized trial to evaluate the effects of finerenone on vascular stiffness and cardiorenal biomarkers in type 2 diabetes and chronic kidney disease (FIVE-STAR). *Cardiovasc Diabetol.* 22(1):194, 2023.
13. Sasaki S, Inoue K, Shiozaki M, Lee CC, Chiang SJ, Suwa S, Fukuda K, Hiki M, Kubota N, Tamura H, Sugita M, Sumiyoshi M, Minamino T.
One-Year Outcome of Patients with Chest Pain in the Rule-Out Group According to the 0-Hour/1-Hour Algorithm. *Int Heart J.* 64(4):590-595, 2023.
14. Obayashi Y, Shiomi H, Morimoto T, Miyake M, Inoko M, Nishikawa R, Kaneda K, Yamamoto K, Takeji Y, Tada T, Nagao K, Uegaito T, Ehara N, Sakai H, Suwa S, Tamura T, Sakamoto H, Inada T, Matsuda M, Sato Y, Furukawa Y, Ando K, Kadota K, Nakagawa Y, Kimura T; CREDO-Kyoto AMI Registry Wave-2 Investigators.
The Impact of Mitral Regurgitation on Long-Term Outcomes in Acute Myocardial Infarction Undergoing Percutaneous Coronary Intervention. *Am J Cardiol.* 203:384-393, 2023.
15. Amano M, Izumi C, Watanabe H, Ozasa N, Morimoto T, Bingyuan B, Suwa S, Miyake M, Tamura T, Nakagawa Y, Kadota K, Inuzuka Y, Minamimoto Y, Furukawa Y, Kaji S, Suzuki T, Akao M, Inada T, Kimura T; CAPITAL-RCT Investigators.
Effects of Long-Term Carvedilol Therapy in Patients With ST-Segment Elevation Myocardial Infarction and Mildly Reduced Left Ventricular Ejection Fraction. *Am J Cardiol.* 199:50-58, 2023.
16. Yamamoto K, Shiomi H, Morimoto T, Miyazawa A, Watanabe H, Nakamura S, Suwa S, Domei T, Ono K, Sakamoto H, Shigetoshi M, Taniguchi R, Okayama H, Yokomatsu T, Muto M, Kawaguchi R, Kishi K, Hadase M, Fujita T, Nishida Y, Nishino M, Otake H, Natsuaki M, Watanabe H, Suematsu N, Tanabe K, Abe M, Hibi K, Kadota K, Ando K, Kimura T; OPTIVUS-Complex PCI Investigators.
Dual Antiplatelet Therapy Duration After Multivessel Optimal Intravascular Ultrasound-Guided Percutaneous Coronary Intervention. *Circ J.* 87(11):1661-1671, 2023.
17. Yamamoto K, Shiomi H, Morimoto T, Miyazawa A, Watanabe H, Natsuaki M, Watanabe H, Yamaji K, Ohya M, Nakamura S, Mitomo S, Suwa S, Domei T, Tatsushima S, Ono K, Sakamoto H, Shimamura K, Shigetoshi M, Taniguchi R, Nishimoto Y, Okayama H, Matsuda K, Yokomatsu T, Muto M, Kawaguchi R, Kishi K, Hadase M, Fujita T, Nishida Y, Nishino M,

Otake H, Suematsu N, Ajimi T, Tanabe K, Abe M, Hibi K, Kadota K, Ando K, Kimura T; OPTIVUS-Complex PCI Investigators*.

Target Lesion Revascularization After Intravascular Ultrasound-Guided Percutaneous Coronary Intervention. *Circ Cardiovasc Interv.* 16(5):e012922, 2023.

18. Yamamoto K, Shiomi H, Morimoto T, Watanabe H, Miyazawa A, Yamaji K, Ohya M, Nakamura S, Mitomo S, Suwa S, Domei T, Tatsushima S, Ono K, Sakamoto H, Shimamura K, Shigetoshi M, Taniguchi R, Nishimoto Y, Okayama H, Matsuda K, Yokomatsu T, Muto M, Kawaguchi R, Kishi K, Hadase M, Fujita T, Nishida Y, Nishino M, Otake H, Tanabe K, Abe M, Hibi K, Kadota K, Ando K, Kimura T; OPTIVUS-Complex PCI Investigators.
Optimal Intravascular Ultrasound-Guided Percutaneous Coronary Intervention in Patients With Multivessel Disease. *JACC Asia.* 3(2):211-225, 2023.
19. Fukase T, Doi S, Dohi T, Koike T, Nishio R, Yasuda H, Takeuchi M, Takahashi N, Chikata Y, Endo H, Nishiyama H, Okai I, Iwata H, Okazaki S, Daida H, Suwa S, Minamino T, Miyauchi K. Impact of Low-Dose Prasugrel on Platelet Reactivity in Chronic Phase of Post-Percutaneous Coronary Intervention (CHAPERON): a Prospective Cohort Study.
Cardiovasc Drugs Ther. doi: 10.1007/s10557-023-07454-z, 2023 (Online ahead of print).
20. Yamamoto K, Shiomi H, Morimoto T, Watanabe H, Miyazawa A, Yamaji K, Ohya M, Nakamura S, Mitomo S, Suwa S, Domei T, Tatsushima S, Ono K, Sakamoto H, Shimamura K, Shigetoshi M, Taniguchi R, Nishimoto Y, Okayama H, Matsuda K, Nakatsuma K, Takayama Y, Kuribara J, Kirigaya H, Yoneda K, Imai Y, Kaneko U, Ueda H, Komiyama K, Okamoto N, Sasaki S, Tanabe K, Abe M, Hibi K, Kadota K, Ando K, Kimura T; OPTIVUS-Complex PCI Investigators.
Comparison of the OPTIVUS-Complex PCI Multivessel Cohort With the Historical CREDO-Kyoto Registry Cohort-3. *Circ J.* 87(11):1689-1702, 2023.
21. Yasuda K, Ogita M, Tsuboi S, Nishio R, Takeuchi M, Sonoda T, Wada H, Suwa S, Miyauchi K, Daida H, Minamino T. Impact of Multivessel Percutaneous Coronary Intervention vs. Culprit Vessel Percutaneous Coronary Intervention in Patients with Acute Coronary Syndromes and Multivessel Coronary Artery Disease.
Cardiovasc Revasc Med. 53:38-44, 2023.
22. Yamamoto K, Watanabe H, Morimoto T, Obayashi Y, Natsuaki M, Domei T, Yamaji K, Suwa S, Isawa T, Watanabe H, Yoshida R, Sakamoto H, Akao M, Hata Y, Morishima I, Tokuyama H, Yagi M, Suzuki H, Wakabayashi K, Suematsu N, Inada T, Tamura T, Okayama H, Abe M, Kawai K, Nakao K, Ando K, Tanabe K, Ikari Y, Morino Y, Kadota K, Furukawa Y, Nakagawa Y, Kimura T; STOPDAPT-2 and STOPDAPT-2 ACS Investigators.

Clopidogrel Monotherapy After 1-Month DAPT in Patients With High Bleeding Risk or Complex PCI. *JACC Asia*. 3(1):31-46, 2023.

23. Nishio R, Ogita M, Suwa S, Nakao K, Ozaki Y, Kimura K, Ako J, Noguchi T, Fujimoto K, Dai K, Morita T, Shimizu W, Saito Y, Hirohata A, Morita Y, Inoue T, Okamura A, Mano T, Wake M, Tanabe K, Shibata Y, Tsutsui H, Funayama H, Kokubu N, Kozuma K, Uemura S, Toubaru T, Saku K, Oshima S, Yoshikawa Y, Ogata S, Nishimura K, Miyamoto Y, Ishihara M; J-MINUET investigators. Shorter door-to-balloon time, better long-term clinical outcomes in ST-segment elevation myocardial infarction patients: J-MINUET substudy. *J Cardiol*. 81(6):564-570, 2023.
24. Wada H, Miyauchi K, Suwa S, Miyazaki S, Hayashi H, Yamashiro K, Tanaka R, Nishizaki Y, Nojiri S, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Urabe T, Hattori N, Minamino T, Daida H. Impact of atrial fibrillation type (paroxysmal vs. non-paroxysmal) on long-term clinical outcomes: The RAFFINE registry subanalysis. *J Cardiol*. 81(5):450-455, 2023.
25. Yamamoto K, Watanabe H, Morimoto T, Obayashi Y, Natsuaki M, Yamaji K, Domei T, Ogita M, Ohya M, Tatsushima S, Suzuki H, Tada T, Ishii M, Nikaido A, Watanabe N, Fujii S, Mori H, Nishikura T, Suematsu N, Hayashi F, Komiyama K, Shigematsu T, Isawa T, Suwa S, Ando K, Kimura T; STOPDAPT-2 and STOPDAPT-2 ACS Investigators. Clopidogrel Monotherapy After 1-Month Dual Antiplatelet Therapy in Patients With Diabetes Undergoing Percutaneous Coronary Intervention. *JACC Cardiovasc Interv*. 16(1):19-31, 2023.
26. Watanabe H, Morimoto T, Yamamoto K, Obayashi Y, Natsuaki M, Yamaji K, Ogita M, Suwa S, Isawa T, Domei T, Ando K, Tatsushima S, Watanabe H, Oya M, Kadota K, Tokuyama H, Tada T, Sakamoto H, Mori H, Suzuki H, Nishikura T, Wakabayashi K, Kimura T; Prevalence and Effects of High-Intensity Statins for Japanese Patients Presenting With Acute Coronary Syndrome - A Post Hoc Secondary Analysis of STOPDAPT-2 ACS. Investigators. *Circ J*. 87(5):657-668, 2023.
27. Itakura R, Kuramitsu S, Kikuchi J, Kawase Y, Mizukami T, Shinozaki T, Horie K, Takashima H, Terai H, Kikuta Y, Ishihara T, Saigusa T, Sakamoto T, Suematsu N, Shiono Y, Asano T, Tsujita K, Masamura K, Doijiri T, Toyota F, Ogita M, Kurita T, Matsuo A, Harada K, Yaginuma K, Sonoda S, Yokoi H, Tanaka N, Matsuo H; J - CONFIRM investigators. Prognostic Impact of Renal Function on 5-Year Outcomes After Fractional Flow Reserve-Guided Deferral of Revascularization. *J Am Heart Assoc*. 12(20):e030886, 2023.

28. Yamamoto K, Morimoto T, Natsuaki M, Shiomi H, Ogita M, Tada T, Toyota T, Nakatsuma K, Ehara N, Yamaji K, Tazaki J, Toyofuku M, Yokomatsu T, Kadota K, Ando K, Kimura T; CREDO-Kyoto PCI/CABG Registry Cohort-3 Investigators.
Am J Cardiol. 207:479-489, 2023.
Naruse Y, Sano M, Kurebayashi N, Morikawa S, Tsurumi N, Shiozawa T, Takano S, Ogano M, Kimura K, Miyajima K, Sugiura R, Henmi R, Muto M, Hosoya N, Hasebe H, Mizukami A, Iguchi K, Atsumi A, Odagiri K, Kiyama Y, Maekawa Y. Usefulness of delivery catheter on accurate right ventricular septal pacing: Mt FUJI trial.
Statin Discontinuation After Coronary Revascularization.
Europace. 25:1451–1457, 2023
29. Kadoguchi T, Shimada K, Fukui N, Tanaka N, Tsuno H, Shiozawa T, Fukao K, Nishitani-Yokoyama M, Isoda K, Matsushita S, Yokoyama N, Daida H. Accumulation of polyunsaturated fatty acid-derived metabolites in the sarcopenic muscle of aging mice. Geriatr Gerontol Int. 23: 297–303, 2023
30. Okumura Y, Nagashima K, Watanabe R, Yokoyama K, Kato T, Fukaya H, Hayashi H, Nakahara S, Shimizu W, Iwasaki YK, Fujimoto Y, Mukai Y, Ejima K, Otsuka T, Suzuki S, Murakami M, Kimura M, Harada M, Koyama J, Okamatsu H, Yamane T, Yamashita S, Tokuda M, Narui R, Takami M, Shoda M, Harada T, Nakajima I, Fujiu K, Hiroshima K, Tanimoto K, Fujino T, Nakamura K, Kumagai K, Okada A, Kobayashi H, Hayashi T, Watari Y, Hatsuno M, Tachibana E, Iso K, Sonoda K, Aizawa Y, Chikata A, Sakagami S, Inoue M, Minamiguchi H, Makino N, Satomi K, Yazaki Y, Aoyagi H, Ichikawa M, Haruta H, Hiro T, Okubo K, Arima K, Tojo T, Kihara H, Miyanaga S, Fukuda Y, Oiwa K, Fujiishi T, Akabane M, Ishikawa N, Kusano K, Miyamoto K, Tabuchi H, Shiozawa T, Miyamoto K, Mase H, Murotani K; REHEALTH AF study. Registry for Evaluating Healthy Life Expectancy and Long-Term Outcomes after Catheter Ablation of Atrial Fibrillation in the Very Elderly (REHEALTH AF) study: rationale and design of a prospective, multicentre, observational, comparative study. BMJ Open. 13(2): e068894, 2023.
31. Saito Y, Inohara T, Kohsaka S, Wada H, Takamisawa I, Yamaji K, Amano T, Kobayashi Y, Kozuma K; J-PCI Registry Investigators.
Characteristics and outcomes of patients with no standard modifiable risk factors undergoing primary revascularization for acute myocardial infarction: Insights from the nationwide Japanese percutaneous coronary intervention registry. Am Heart. 258:69-76, 2023
32. Abulimiti A, Naito R, Kasai T, Ishiwata S, Nishitani-Yokoyama M, Sato A, Suda S, Matsumoto H, Shitara J, Yatsu S, Murata A, Shimizu M, Kato T, Hiki M, Daida H, Minamino T. Prognostic Value of Cheyne-Stokes Respiration and Nutritional Status in Acute Decompensated Heart Failure. Nutrients. 2023 Feb 15;15(4):964. doi: 10.3390/nu15040964. (IF 6.706, CI 0)

33. Maeda D, Matsue Y, Dotare T, Sunayama T, Iso T, Yatsu S, Ishiwata S, Nakamura Y, Akama Y, Tsujimura Y, Suda S, Kato T, Hiki M, Kasai T, Minamino T. Clinical and prognostic implications of hyaluronic acid in hospitalized patients with heart failure. *Heart Vessels*. 2023 Apr 20. doi: 10.1007/s00380-023-02269-2.
34. Shimizu M, Kasai T, Naito R, Sato A, Ishiwata S, Yatsu S, Shitara J, Matsumoto H, Murata A, Kato T, Suda S, Hiki M, Kuwabara M, Murase T, Nakamura T, Nakamura Takashi, Daida H. Overnight changes in uric acid, xanthine oxidoreductase and oxidative stress levels and their relationships with sleep-disordered breathing in patients with coronary artery disease. *Hypertens Res*. 2023 May 31. doi: 10.1038/s41440-023-01331-w.
35. Sunayama T, Fujimoto Y, Matsue Y, Dotare T, Daichi M, Yatsu S, Ishiwata S, Nakamura Y, Akama Y, Tsujimura Y, Suda S, Kato T, Hiki M, Kasai T, Minamino T. Prognostic value of estimating appendicular muscle mass in heart failure using creatinine/cystatin C. *Nutr Metab Cardiovasc Dis*. 2023 Jun 1:S0939-4753(23)00230-2. doi:
36. Yatsu S, Kasai T, Naito R, Matsumoto H, Murata A, Shitara J, Shiroshita N, Kato M, Kawana F, Sato A, Ishiwata S, Shimizu M, Kato T, Suda S, Hiki M, Minamino T. Impact of sleep-disordered breathing on overnight changes in arterial stiffness in patients with acute heart failure. *Hypertens Res*. 2023 Oct 2. Online ahead of print.
37. Shimizu M, Naito R, Sato A, Ishiwata S, Yatsu S, Shitara J, Matsumoto H, Murata A, Kato T, Suda S, Hiki M, Kuwabara M, Murase T, Nakamura T, Kasai T. Diurnal Variations in Serum Uric Acid, Xanthine, and Xanthine Oxidoreductase Activity in Male Patients with Coronary Artery Disease *Nutrients*. 2023 Oct 23;15(20):4480.
38. Bradley TD, Logan AG, Filho GL, R. Kimoff J, Cantolla JD, Arzt M, Redolfi S, Parati G, Kasai T, Dunlap ME, Delgado D, Yatsu S, Bertolami A, Pedrosa R, Tomlinson G, Marin JM, Tantucci C, and Floras JS, for the ADVENT-HF Investigators. Randomised Trial of Adaptive Servo-ventilation for Sleep-Disordered Breathing in Heart Failure with Reduced Ejection Fraction. *Lancet Respir Med*. Accepted.

英文症例報告

1. A Case of Floating Aortic Arch Thrombosis in a Patient without Thrombophilia.
Oda R, Kajimoto K, Oishi A, Hata H, Kamikawa Y, Matsui Y, Fujita W, Nakamura Y, Singh YS, Shitara J, Takano S, Wada H, Shiozawa T, Ogita M, Wada R, Suwa S.
Ann Vasc Dis. 16(3):219-222, 2023.

国際学会（発表）

1. Abe K, Wada H, Miyauchi K, Suwa S, Miyazaki S, Hayashi H, Nishizaki Y, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Minamino T, Okumura Y, Daida H. Bleeding and cardiovascular events in patients with atrial fibrillation: Insights from the SAKURA AF registry and RAFFINE registry. European society of cardiology's Scientific session 2023, Amsterdam, 2023/08/26
2. Yatsu S, Horvath CM, Floras JS, Logan AG, Ryan CM, Bradley TD. Effect of peak airflow-triggered adaptive servo-ventilation on the sleep apnea and sleep structure in patients with heart failure. Canadian Sleep Society 2023, April 27-29, Ottawa, Canada.
3. Yatsu S, Horvath CM, Floras JS, Logan AG, Ryan CM, Bradley TD. Peak airflow-triggered adaptive servo-ventilation improves sleep structure of patients with heart failure and sleep apnea. European Respiratory Society 2023. September 9-12, Milan, Italy

国内学会（発表）

1. 塩澤知之、関田学、高野信太郎、富田紗也佳、藤田航、福永英生、諏訪哲. Case report: A 14-year-old junior high school student recovered from CPA whose Orthodromic AVRT was thought to trigger VF during running. 第 69 回日本不整脈心電学会学術大会・札幌・2023/7/7.
2. 富田紗也佳、福永英生、塩澤知之、高野信太郎、関田学、馬場洋介、清水俊明. Orthodromic AVRT が原因と考えられた心室細動による心肺停止蘇生後の WPW 症候群の小児症例. 第 59 回日本小児循環器学会総会・学術集会・横浜・2023/7/6.
3. Shiozawa T, Takano S, Sekita G, Abe K, Nakamura Y, Singh YS, Sonoda T, Shitara J, Wada H, Ogita M, Suwa S, Minamino T. Safety of Femoral Suture-mediated Closure Device “Perclose®” in Catheter Ablation with Reduction of Post-ablation Resting. 第 84 回日本循環器学会・学術集会・福岡・2023/3/12.
4. 久保田京子、塩澤知之、影山和瑚、渡邊大貴、稲葉英也、磯部裕紀、久保田真司、設楽美奈子、尾藤史康、高野信太郎、関田学、諏訪哲. スクリュー型リード固定直後の障害電流と刺激閾値の関係について障害電流の至適カットオフ値の検討. 第 15 回植込みデバイス関連冬季大会・仙台・2023/2/24.
5. 高野信太郎、塩澤知之、関田学、諏訪哲. 撓側皮静脈切開法を断念して穿刺法へ切り替えた症例の検証. 第 15 回植込みデバイス関連冬季大会・仙台・2023/2/25.
6. Wada H, Miyauchi K, Suwa S, Miyazaki S, Hayashi H, Nishizaki Y, Sumiyoshi M, Nakazato Y, Minamino T, Okumura Y, Daida H. Bleeding and cardiovascular events in patients with atrial fibrillation: Insights from the SAKURA AF registry and RAFFINE registry. (Futured

research session) 第 87 回日本循環器学会学術集会・福岡・2023/3/10

7. Onozato T, Wada H, Abe K, Nakamura Y, Singh YS, Sonoda T, Shitara J, Takano S, Shiozawa T, Ogita M, Suwa S. Successful reperfusion with excimer laser coronary angioplasty and anticoagulant therapy for acute myocardial infarction with large amount of thrombus Poster. 第 31 回日本心血管インターベンション治療学会・福岡・2023/8/5
8. 島袋あずさ、真優スレーシュワル、和田英樹、篁悠太、小野里匠也、藤田航、設楽準、遠藤裕久、荻田学、諏訪哲. 上腸間膜動脈狭窄に対する血管内治療により繰り返す虚血性腸炎が改善した 1 例. 日本内科学会第 249 回東海地方会・名古屋・2023/10/15
9. 武井礼、真優スレーシュワル、和田英樹、小野里匠也、篁悠太、阿部圭希、藤田航、谷津翔一郎、設楽準、遠藤裕久、高野信太郎、塩澤知之、荻田学、諏訪哲. 持続性心室頻拍のため入院した心不全患者に左室筋層内に巨大な石灰化病変を認めた一例. 日本循環器学会第 162 回東海・第 147 回北陸合同地方会・岐阜・2023/10/21
10. 和田英樹、小野里匠也、阿部圭希、真優スレーシュワル、設楽準、遠藤裕久、荻田学、諏訪哲. 自己拡張型ステントにより jail された左総腸骨動脈の完全閉塞病変に対してヘパリン結合ステントグラフトを用いて治療した一例. 日本心血管インターベンション治療学会第 49 回東海北陸地方会・名古屋・2023/11/10

和文総説

1. 谷津翔一郎. 心不全患者における治療ターゲットとして 睡眠時無呼吸管理は有効か. 月刊『Heart View』Vol. 27, No. 10

研究費（公的資金）

1. 和田英樹. 研究代表者. 急性心筋梗塞二次予防における遠隔医療の有用性の解明. 日本学術振興会. 若手研究. 2022 年～2024 年

研究費（治験）モニタリング・監査・審査料・手数料等・製造販売後調査を含む

1. アムジェン株式会社. レパーサ皮下注特定使用成績調査（長期使用）
2. 小野薬品工業株式会社. コララン®特定使用成績調査. [洞調律かつ投与開始時の安静時心拍数が 75 回/分以上の慢性心不全：ただし、β 遮断薬を含む慢性心不全の標準的な治療を受けている患者に限る。]
3. 第一三共株式会社. ミネブロ OD 錠 1.25 mg. 副作用詳細調査
4. CRL ベーリング株式会社. 急性冠症候群患者を対象とした CSL112 の有効性及び安全性を検討する多施設共同二重盲検無作為化プラセボ対照並行群間比較第 3 相臨床試験

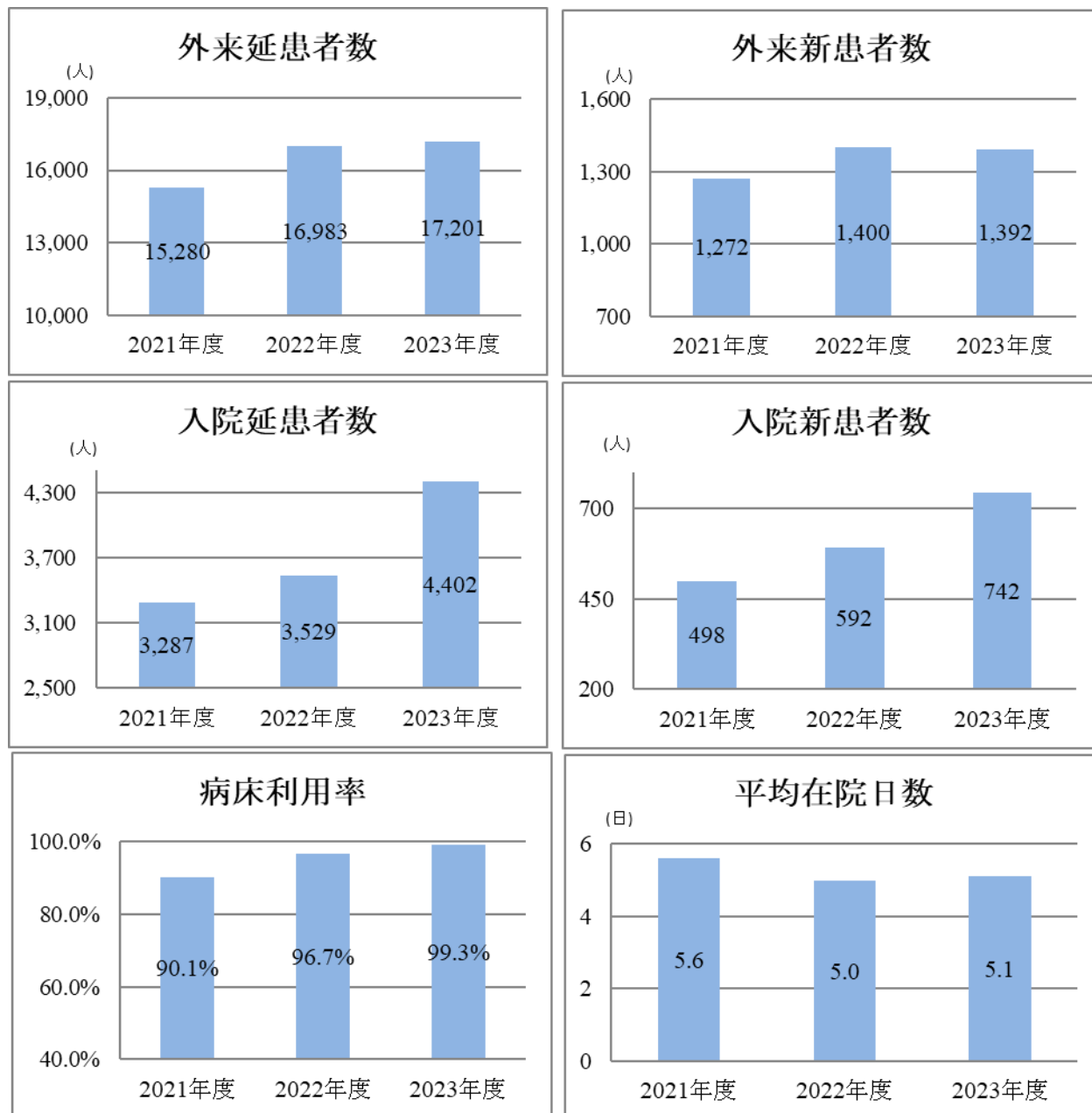
5. Fortrea Japan 株式会社 EMPACT-MI：急性心筋梗塞患者の心不全による入院及び死亡に対するエンパグリフロジンの効果を評価する効率化、多施設共同、ランダム化、並行群間、二重盲検、プラセボ対照、優越性試験

研究費（受託・共同研究）

1. 公立大学法人奈良県立医科大学 Registry of contemporary medical management of chronic heart failure with non-reduced ejection fraction in Japan 【PARACLETE study】
2. 一般財団法人生産開発科学研究所 至適な血管内超音波ガイド経皮的冠動脈インターベンションの複雑性病変における臨床経過を評価する前向き観察研究 【OPTIVUS】
3. 一般財団法人生産開発科学研究所 エベロリムス溶出性コバルトクロムステント留置後の抗血小板療法を P2Y12 阻害薬単剤とすることの安全性を評価する研究 【STOPDAPT】
4. 佐賀大学医学部附属病院 心不全増悪入院患者におけるアンジオテンシン・ネプリライシン阻害薬の研究 【PREMIER study】
5. 一般財団法人生産開発科学研究所 うっ血性心不全（心性浮腫）患者における五苓散追加投与の浮腫に対する有効性を検証する研究 【GOREISAN-HF Trial】
6. ユーネクスト株式会社 エベロリムス溶出性プラチナクロムステント留置後の抗血小板療法を P2Y12 阻害薬単剤とすることの安全性と有効性を評価する研究 【PREMIUM】

2-8 小児科

診療実績



研究・教育活動

原著

Machimoto N, Baba Y, Takaoka Y, Shoji H, Shimizu T. A Case of Omphalitis Revealing Alloimmune Neonatal Neutropenia Cureus 15: e44409 2023

学会発表

馬場洋介 食物蛋白質誘発胃腸炎の免疫学的知見 第 84 回東海小児アレルギー談話会 名古屋
2023.10.14

馬場洋介 牛乳アレルギーと小児の発達 静岡東部小児発達セミナー2023 三島 2023.7.5

馬場洋介 小児期から思春期におけるアトピー性皮膚炎治療 沼津医師会学術講演会沼津 2023.7.24

馬場洋介 順天堂大学静岡病院でのアレルギー拠点病院活動について 静岡アレルギーカンファレンス 静岡 2023.9.5

馬場洋介 当科における在宅自己注射療法と指導の変化 第 6 回 GH プリパレーション全国 web 講演会、web 2023.11.24

Baba Y, Takaoka Y, Hane M, Ishida S, Miyabayashi K, Yamada H, Yoneyama T, Yamazaki S, Inage E, Kudo T, Ohtsuka Y, Shimizu T, A retrospective study of food protein-induced enterocolitis caused by hen's egg in Japanese children European Association of Allergy & Immunology Congress 2023, Hamburg, Germany 2023.6.9

宮林和紀、島田姿野、馬場洋介、清水俊明 RUNX2 新規ミスセンス変異を認めた鎖骨頭蓋異形成症の日本人一家系 第 45 回日本小児遺伝学会学術集会 東京都 2023.1.28-1.29

宮林和紀、馬場洋介、高岡優里、羽根将之、石田翔二、稲毛英介、工藤孝広、大塚宜一、清水俊明 静岡県東部地域における小学校給食における食物アレルギー対応と総負荷量の調査 第 60 回日本小児アレルギー学会学術大会、京都 2023.11.18

羽根将之、馬場洋介、高岡優里、大石賢司、鳥海 俊、松本恵、石田翔二、宮林和紀、山田啓迪、米山俊之、山崎 晋、本庄明日香、稲毛英介、工藤孝広、大塚宜一、清水俊明 静岡県伊豆の国市の小児における気管支喘息の有病率と生活管理指導表に関する調査 第 60 回日本小児アレルギー学術集会 京都 2023.11.19

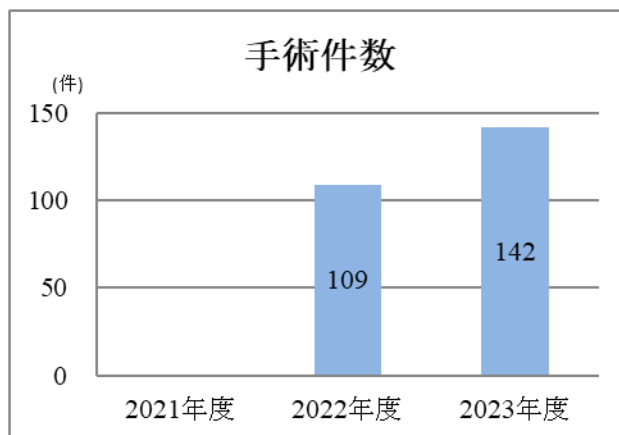
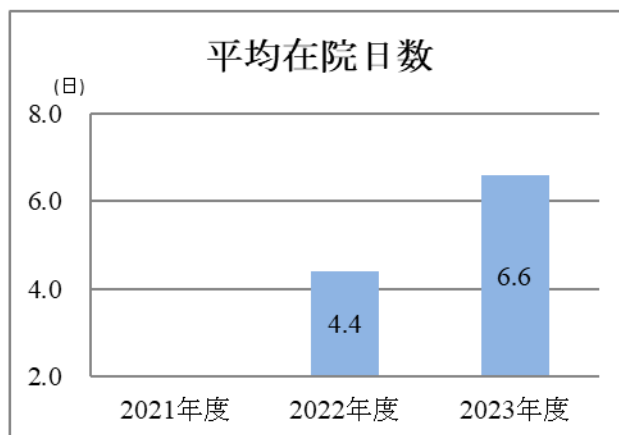
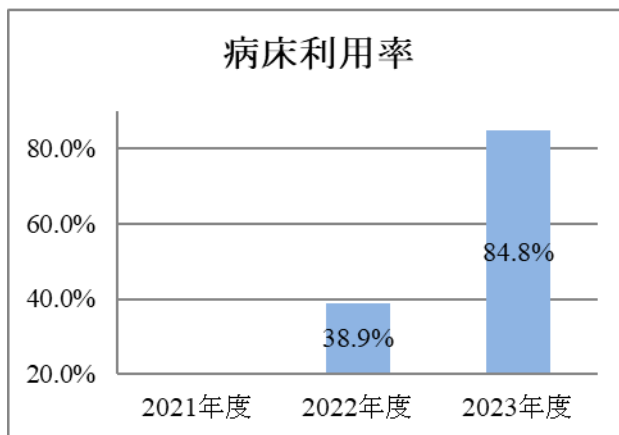
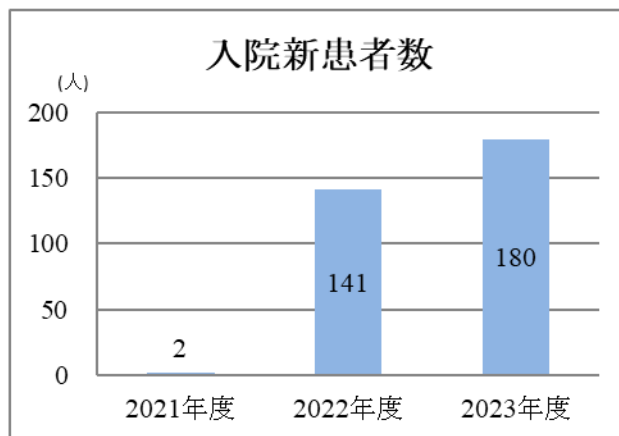
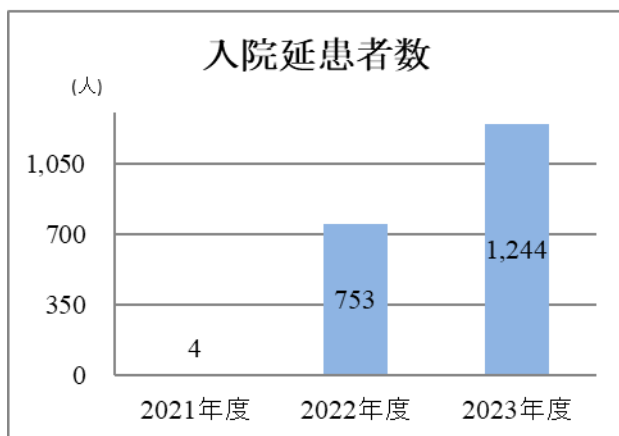
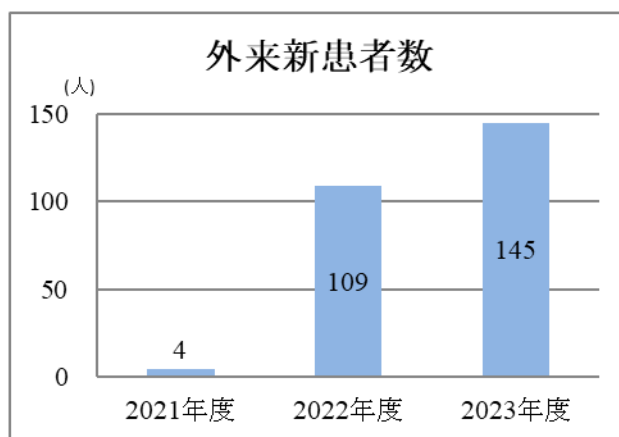
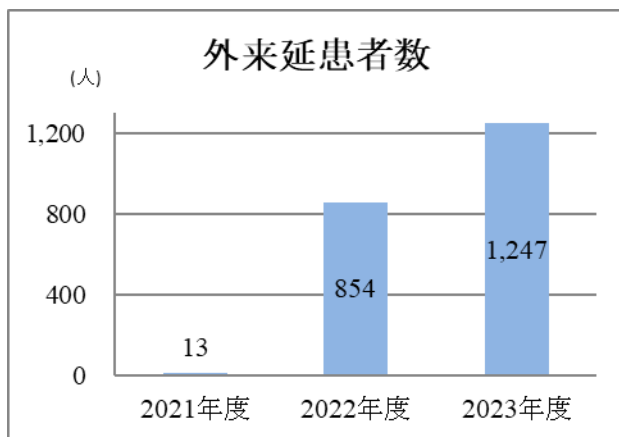
羽根将之、高岡優里、石田翔二、宮林和紀、馬場洋介 静岡県東部地域における小児気管支喘息の学校生活管理指導表の実態調査 第 84 回東海小児アレルギー懇話会 2023.10.14

高岡優里、馬場洋介、羽根将之、石田翔二、江原尚弘、宮林和紀、稲毛英介、工藤孝広、大塚宜一、清水俊明 5-11 歳の小児食物アレルギーの有病率と集団生活における対応；アンケート調査結果より 第 72 回日本アレルギー学会学術大会 東京 2023.10.22

ラジオ

馬場洋介 子どもの食物アレルギー2023 サンデークリニック SBS 静岡放送 2023.8.20

診療実績



研究・教育活動

国際学会発表

1	Ikegami M, Takahashi T, Shiojima S, Yoshizawa Y, Kimata M, Konno H, Ikari M, Taira Y	A novel surgical intervention using transvaginal endoscopic ultrasonography for the children with OHVIRA syndrome.	35th International Symposium on Pediatric Surgical Research, October. 23, 2022
2	Ikegami M, Seo S, Ochi T, Suda K, Miyake Y, Koga H, Lane GJ, Yamataka A	Selecting a urethroplasty technique based on physical features effectively reduces urethral stricture and urethrocutaneous fistula in proximal hypospadias repair patients.	35th International Symposium on Pediatric Surgical Research, October. 23, 2022
3	Nakajima H, Tsukui T, Kosaka S, Koga H, Ochi T, Seo S, Yamataka A	Hybrid robotic-retroperitoneoscopic pyeloplasty repair of failed laparoscopic pyeloplasty for ureteropelvic junction obstruction using traction-aligned suturing	International Pediatric Endosurgery Group (IPEG)'s Annual Congress for Endosurgery in Children, Miami, FL, USA, Jun. 1-3, 2022 (Live online conference)
4	Nakajima H, Ikari M, Kosaka S, Koga H, Ochi T, Seo S, Yamataka A	Ureteroplasty with tapered descending colon after two failed pyeloplasties for ureteropelvic junction stenosis	24th European Pediatric Surgeons' Association (EUPSA) Annual Congress, Tel Aviv, Israel, Jun. 29 - Jul. 2, 2022

国内学会発表

1	池上満智, 高橋俊明, 山田裕之, 山田俊介, 碓真雄, 平良ゆりな	尿管管開存と高位鎖肛を合併した臍帯ヘルニアの1例-梶川第2法による臍形成-	第8回 日本小児へそ研究会, 熊本, 2022年4月15日
2	池上満智彰, 高橋俊明, 宮木祐一郎, 浜野孝, 平良ゆりな, 中野雄介	外側内膀胱上窩ヘルニアへ迷入した誤飲磁石を腹腔鏡手術にて安全に摘出し得た一例	第20回日本ヘルニア学会学術集会, 横浜, 2022年6月4日

3	池上満智彰, 高橋俊明, 塩島聡, 芳澤社, 木全政晴, 今野寛子, 碓真雄, 平良ゆりな	OHVIRA 症候群に対し EUS とレゼクトスコープを併用する安全な経膈的内視鏡手術の経験	第 31 回 日本小児泌尿器科学会, 東京, 2022 年 7 月 22 日
4	池上満智彰, 高橋俊明, 塩島聡, 芳澤社, 木全政晴, 今野寛子, 碓真雄, 平良ゆりな	OHVIRA 症候群に対して経膈的内視鏡にて治療し得た 2 例	第 59 回 日本小児外科学会学術集会, 東京, 2022 年 5 月 19 日
5	池上満智彰, 瀬尾尚吾, 越智崇徳, 須田一人, 三宅優一郎, 古賀寛之, Geoffrey J Lane, 山高篤行	近位尿道下裂における亀頭形態に応じた尿道形成についての検討	第 59 回 日本小児外科学会学術集会, 東京, 2022 年 5 月 19 日
6	池上満智彰, 高橋俊明, 塩島聡, 芳澤社, 木全政晴, 今野寛子, 碓真雄, 平良ゆりな	EUS とレゼクトスコープを併用し安全な経膈的内視鏡手術にて治療し得た OHVIRA 症候群の 1 例	第 122 回 日本外科学会定期学術集会, 熊本, 2022 年 4 月 14 日
7	池上満智彰, 高橋俊明, 宮木祐一郎, 浜野孝, 平良ゆりな	外側内膀胱上窩ヘルニアへ迷入した誤飲磁石を腹腔鏡手術にて安全に摘出し得た一例	静岡県外科医会 第 246 回 集談会, 熱海, 2022 年 9 月 17 日
8	山高篤行, 中島秀明, 古賀寛之, 越智崇徳, 瀬尾尚吾, 宮野剛, 田中圭一朗, 岡崎任晴, 浦尾正彦	小児におけるロボット支援下腎盂形成術: 後腹膜アプローチ	第 14 回日本ロボット外科学会学術集会, Web, 2022 年 2 月 27 日
9	中島秀明, 津久井崇文, 小坂征太郎, 古賀寛之, 越智崇徳, 瀬尾尚吾, 山高篤行	腎盂尿管移行部狭窄の術後再狭窄に対する手術 5 例報告	第 59 回日本小児外科学会学術集会, 東京, 2022 年 5 月 19 日
10	中島秀明, 碓真雄, 小坂征太郎, 古賀寛之, 越智崇徳, 瀬尾尚吾, 山高篤行	腎盂尿管移行部狭窄の術後再々狭窄に対して結腸利用尿管再建を行った 1 例	第 119 回東京小児外科研究会, 東京, 2022 年 6 月 7 日

11	小坂征太郎, 中島秀明, 越智崇徳, 古賀寛之, 山高篤行	(CCIS) 胎児診断された両側高度水腎症: 最良な治療法の検討	第 31 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 東京, 2022 年 7 月 21 日
12	中島秀明, 碓真雄, 小坂征太郎, 古賀寛之, 越智崇徳, 瀬尾尚吾, 山高篤行	腎盂尿管移行部狭窄の術後再々狭窄に対して結腸利用尿管置換を行った 1 例	第 31 回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会, 東京, 2022 年 7 月 22 日
13	中島秀明, 古賀寛之, 碓真雄, 越智崇徳, 山高篤行	左腎盂尿管移行部狭窄の術後再狭窄において結腸間置による尿管再建を行った 1 例	第 38 回日本小児外科学会秋季シンポジウム, 岡山, 2022 年 10 月 29 日
14	中島秀明, 古賀寛之, 小坂征太郎, 津久井崇文, 瀬尾尚吾, 山高篤行	腎盂尿管移行部狭窄の術後再狭窄に対する後腹膜鏡下/ロボット支援後腹膜鏡下腎盂形成術: 2 例報告	第 35 回日本内視鏡外科学会総会, 名古屋, 2022 年 12 月 9 日
15	瀬尾尚吾, 越智崇徳, 須田一人, 三宅優一郎, 古賀寛之, 山高篤行	近位尿道下裂における亀頭形状に応じた尿道形成についての検討	第 59 回日本小児外科学会学術集会 2022 年 5 月 19-21 日
16	瀬尾尚吾, 越智崇徳, 須田一人, 三宅優一郎, 古賀寛之, 山高篤行	近位尿道下裂における亀頭形状に応じた尿道形成についての検討	第 31 回日本小児泌尿器科学会学術集会 2022 年 7 月 20-22 日

和文著書

1	池上満智彰, 瀬尾尚吾, 山高篤行	外性器の異常	周産期医学, 東京医学社, 52(8):1426-1430, 2022
---	-------------------	--------	-------------------------------------

2-10 外科

1. はじめに

順天堂大学医学部附属静岡病院外科
教授 伊藤智彰

令和 5 年（2023 年）の 5 月には新型コロナウイルス感染症も 5 類となり、社会全体が落ち着きを取り戻したようではありますが、未だに COVID-19、インフルエンザ発症が病棟で確認され、まだまだ油断のできない年であったと思います。

当科においては、2023 年 12 月に私が順天堂大学静岡病院 外科教授を拝命いたしました。2021 年に当科で導入したロボット支援下直腸手術も軌道に乗り、2022 年は結腸癌にも導入しました。2023 年 6 月に da Vinci Si から Xi に機種が新しくなり、ロボット手術症例数が増加傾向にあります。今後は胃癌にもロボット支援下手術の導入予定です。

乳腺領域につきましては、田中顕一郎先任准教授を中心に手術症例を伸ばしているところです。また、当院では緊急疾患も多く、若手外科医の力を必要とするなか、外科医不足が課題となっています。関連病院との連携をとりながら、当科全体で若手医師に外科の魅力を伝え、当院の静岡県東部外科専門医研修プログラムに一人でも多く入っていただき、多くの外科医を育て上げることができるように尽力していきたいと思います。本年もご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2. スタッフ一覧



伊藤智彰 教授

教授 伊藤 智彰 (順天堂大、平成 12 年卒)

特任教授 佐藤 浩一 (順天堂大、昭和 56 年卒)

先任准教授 田中 顕一郎 (東京医科歯科大、平成6年卒)

准教授 櫻田 睦 (順天堂大、平成 7 年卒)

櫛田 知志 (順天堂大、平成 7 年卒)



佐藤浩一
特任教授

助手 上田 脩平 (順天堂大、平成 25 年卒)

加藤 永記 (順天堂大、平成 26 年卒)

山本 陸 (順天堂大、平成 26 年卒)

小泉 明博 (順天堂大、平成 27 年卒)

村井 勇太 (香川大、平成 27 年卒)

仁平 高朔 (順天堂大、平成 30 年卒)

秋間 龍之介 (順天堂大、令和 2 年卒)

林 睦実 (順天堂大、令和 3 年卒)
(2024 年 1 月～2024 年 3 月)



田中顕一郎
先任准教授

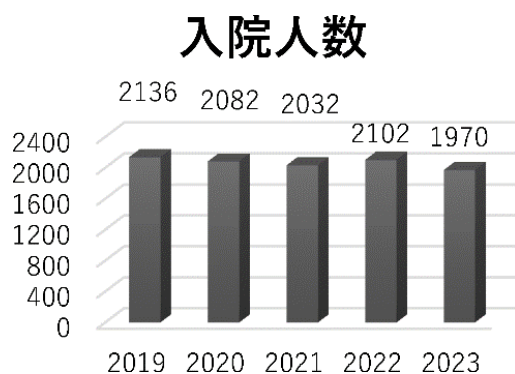
大学院生 板倉 萌 (順天堂大、平成 30 年卒)
(2023 年 4 月～2024 年 3 月)

田中 昌利 (順天堂大、令和 2 年卒)
(2023 年 4 月～2023 年 9 月)

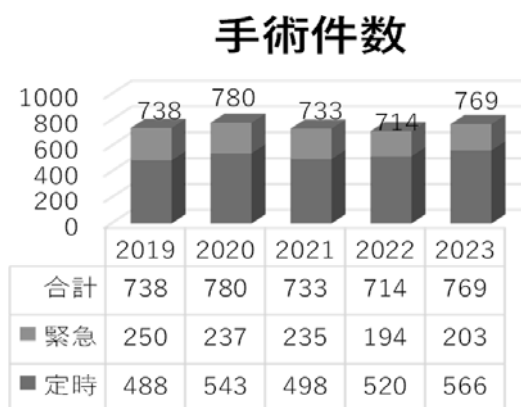
森田 三奈子 (順天堂大、令和 2 年卒)
(2023 年 9 月～2024 年 3 月)

3. 臨床成績（過去 5 年）

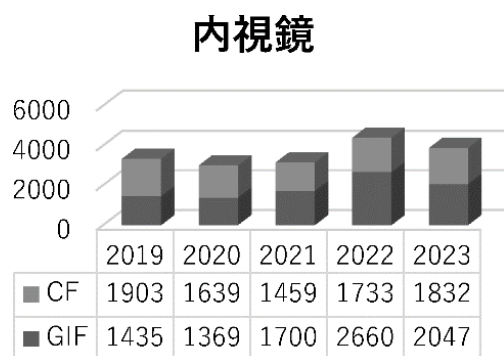
(1) 入院件数



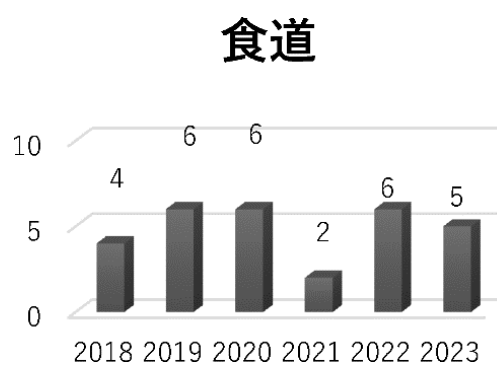
(2) 手術件数



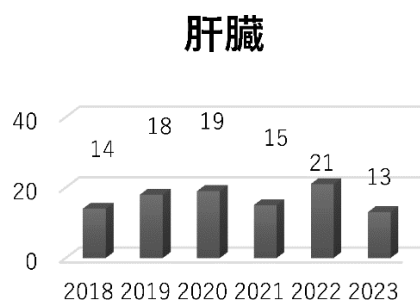
(3) 内視鏡件数



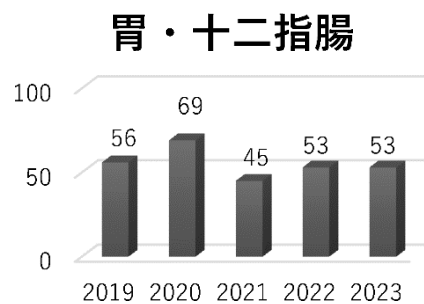
(4) 食道手術件数



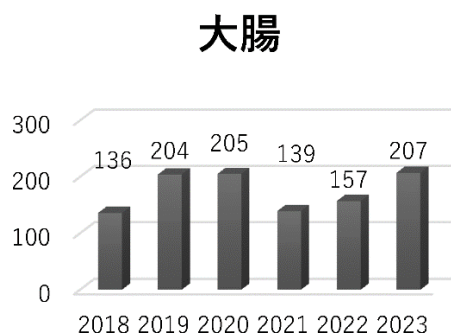
(5) 肝臓癌手術件数



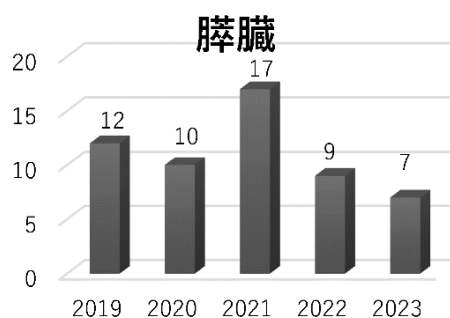
(6) 胃・十二指腸手術件数



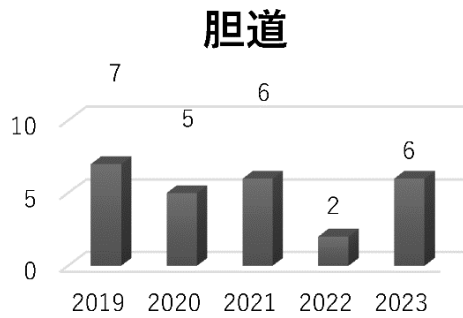
(7) 大腸癌手術件数



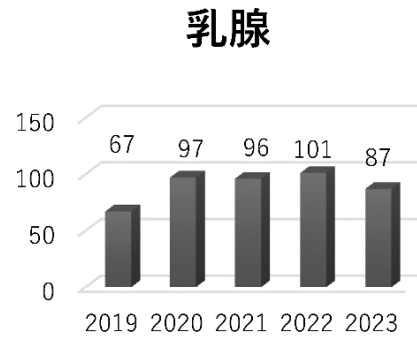
(8) 胆道癌手術件数



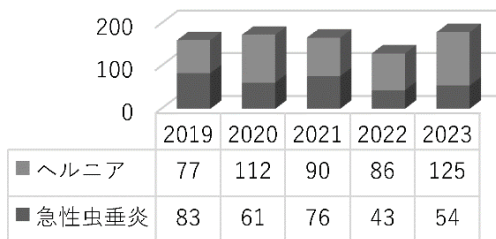
(9) 胆道癌手術件数



(10) 乳癌手術件数



(11) 急性虫垂炎・ヘルニア



症例数・手術件数（令和5年度）1月～12月

			一般手術		鏡視下手術	
食 道	腫瘍	食道破裂	根治術		腫瘍核出術	1
		裂孔ヘルニア	抜去			
		良性	その他			
		悪性	CTA3 CTA2 その他			VATS-CTA3 VATS-CTA2 4
胃	潰瘍	悪性	胃全摘		ドレナージ	
			大網充填	3	大網充填	
	広範囲胃切その他		1	局所切除	1	
	腫瘍		部分切除	2	部分切除	
			幽門側切除	3	幽門側切除	13
			噴門側切除	1	噴門側切除	2
			全摘術	3	全摘術	4
			残胃全摘	3		
			バイパス術	1	バイパス術	3
			胃瘻造設		胃瘻造設	
			試験開腹	1	試験腹腔鏡	6
			その他	1		
十二指腸			良性	胃潰瘍穿孔広範囲胃切 潰瘍穿孔大網充填 その他	1	小腸部分切除
	悪性		小腸部分切除その他	1		
	その他		カルチノイド	部分切除	LECS	

			一般手術		鏡視下手術	
小 腸	腫瘍	良性	部分切除		部分切除	
		悪性	小腸瘻造設 小腸部分切除			
	出血・穿孔		小腸部分切除 小腸瘻造設 小腸縫縮	1		
			癒着剥離 小腸部分切除	9 19	癒着剥離 小腸部分切除	2 1
	腸閉塞		小腸瘻造設 バイパス術 その他			
			試験開腹	2 1		
	SMA 血栓症 Nomi		小腸広範囲切除術 その他	3 2		
虫 垂	虫垂炎、出血		虫垂切除術 回盲部切除 盲腸切除その他	5	虫垂切除	49 1
大 腸	憩室炎		Hartman 手術 その他	1 2		1
			Hartman 手術 ドレナージ術 その他	17 3	Hartman 手術	
	穿孔		Hartman 手術 その他	1 1	Hartman 手術 その他	
			人工肛門閉鎖 人工肛門造設 その他	11 2		
	捻転	良性	回盲部切除 右結腸切除 横行結腸切除	4 10 1	結腸部分切除 回盲部切除 右結腸切除 横行結腸切除	1 9 21 6
		悪性	左結腸切除 S 状結腸切除 人工肛門関連 Hartman 手術 その他	1 1 2 8 4	左結腸切除 S 状結腸切除	4 10
	腫瘍		結腸全摘術 結腸部分切除 回盲部切除 S 状結腸切除 人工肛門造設 その他	1 2 2 11 1		
	その他		S 状結腸切除 人工肛門造設 その他	2 11 1	S 状結腸切除 盲腸切除	1 2
直 腸	直腸脱	良性	根治術	3		
		良性	結腸部分切除 その他（ポリープ） 経肛門切除 低位前方切除 骨盤内臓全摘	1 1 2 2		
		悪性	Miles 術 Hartman 手術 前方切除 その他	3 4 1 1	低位前方切除 大腸全摘 Miles 術 前方切除	12 7 29
肛 門	痔核		根治術	1		

			一般手術		鏡視下手術	
肝臓	腫瘍	肝嚢胞・膿瘍	開窓術		開窓術	1
		良性	門脈圧亢進症 Hassab 術			
		悪性	RFA		RFA	
	区域切除		2	区域切除	2	
部分切除	5		部分切除			
		葉切除	2			
		その他				
	破裂	肝縫合 その他		1		
胆嚢	胆石・胆嚢炎ポリ ーブ	良性	胆嚢摘出術	4	胆嚢摘出術	80
	腫瘍	悪性	拡大胆摘その 他	1		
胆管	結石	良性	総切ドレナージ 胆管空腸吻合	1		
	腫瘍	悪性	胆管切除術			
PD			4			
			試験開腹		バイパス	1
脾臓	腫瘍	悪性	DP	2	DP	
			PD	1		
			全摘術			
			バイパス術 その他	2 1	バイパス	1
その他	リンパ節腫大		リンパ節生検	9	リンパ節生検	2
	悪性黒色腫		ソ径リンパ節郭清			
	皮膚(下)腫瘍		腫瘍切除	1		
	皮下膿瘍		ドレナージ術	2		
	熱傷		デブリードマン+植皮			
	腹腔内出血		止血術	4		
	腹腔腫瘍		試験開腹	1		
	腹腔内膿瘍		ドレナージ術	1		
	外傷	腹部外傷	気管切開	2		
その他	2					
乳腺	腫瘍	良性	腫瘍切除	2		
			部分切除			
			葉状腫瘍			
		悪性	乳房温存	27		
			胸筋温存乳房切除	53		
			リンパ節郭清	1		
	その他	4				
ヘルニア	ソ径ヘルニア		根治術	76	TAPP	27
	閉鎖孔ヘルニア		根治術	1		
	大腿ヘルニア		根治術	5		1
	腹壁癒痕ヘルニア		根治術	4	根治術	6
	臍ヘルニア		根治術			5
末梢血管	下肢静脈瘤 その他		ストリッピング 内シャント術		IVR	
脾臓			脾臓摘出 副脾摘出	4		1

計
総 計

378

320

4. 研究業績

(1) 著書 (英文・和文)

1) 英文著書

- 1) Ito T, Sakurada M, Kushida T, Tanaka K, Sato K: Successful Systemic Steroid Administration for the Treatment of Edematous Anastomotic Stenosis After the Laparoscopic Augmented Rectangle Technique for Billroth I Reconstruction for Laparoscopic Distal Gastrectomy. Cureus.15(6), e40914, 2023
- 2) Ito T: Perspectives. A Surgeon Involved in Basic Research - on the Occasion of Studying Abroad. Juntendo Medical Journal. 69, 457-462, 2023

2) 和文著書

- 1) 草ヶ谷靖恵, 向山清美, 佐藤俊輔, 伊藤智彰: 安全带使用による ERCP 介助看護師の多重課題負担軽減効果の検証. 日本消化器内視鏡技師会会報 71, 48-51, 2023

(2) 学会発表

1) 国内発表

- 1) 伊藤智彰: ダ・ヴィンチSi を用いた盲腸癌に対するロボット支援下回盲部切除の経験. 第 15 回日本ロボット外科学会学術集会, 名古屋国際会議場, 2023.2.3
- 2) 小泉明博: 当院でConversion Surgery を施行した胃がんの 5 症例 (ポスター発表). 第 95 回日本胃癌学会総会, ロイトン札幌, 2023.2.24
- 3) 伊藤智彰: 当院での胃癌患者における術前サルコペニアの術後に与える影響 (ポスター発表). 第 95 回日本胃癌学会総会, ロイトン札幌, 2023.2.25
- 4) 渡邊ゆきの: 当院での HER2 陽性乳癌の治療戦略—トラスツズマブデルクスステカン (T-DXd) が奏功した 2 例—. Breast Cancer Web Seminar, 第一三共株式会社, 2023.3.3
- 5) 村井勇太, 伊藤智彰, 秋間龍之介, 野萩薫子, 小池周一, 渡辺ゆきの, 渡辺武大, 上川祐輝, 小泉明博, 巾匡洋, 山本陸, 加藤永記, 上田脩平, 櫛田知志, 櫻田睦, 田中颯一郎, 前川博, 佐藤浩一, 藤田和彦: 腎細胞癌術後 8 年経過した初生膀胱癌転移をきたした 1 例. 静岡県外科医会, 2023.3.4
- 6) 小泉明博: ダメージコントロール手術後に IVR を行い, 2 期的に肝右葉切除を行うことで救命し得た外傷性肝損傷の 1 例. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 沖縄コンベンションセンター, 2023.3.9
- 7) 小池周一: 経肛門イレウス管の先進部が大腸穿孔を引き起こした下行結腸癌の一例. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 沖縄コンベンションセンター, 2023.3.9
- 8) 秋間龍之介: 炎症所件を伴わず保存加療で軽快した腹腔内遊離ガスを伴う腸管気腫症の 1 例. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 沖縄コンベンションセンター, 2023.3.9
- 9) 野萩薫子: 急性上腸間膜動脈閉症に対し拡張型ステント留置を行なった一例. 第 59 回日本腹部救急医学会総会, 沖縄コンベンションセンター, 2023.3.9
- 10) 伊藤智彰: 肺腫瘍モデルマウス A/J を用いた胎児ストレスによる成人期廃腫瘍に関連した遺伝子の同定. 第 123 回日本外科学会定期学術集会, グランドプリンスホテル新高輪, 2023.4.28
- 11) 村井勇太, 武田聡, 岩澤卓弥, 伊藤智彰, 加藤永記, 山本陸, 上田脩平, 櫻田睦, 櫛田知志, 田中颯一郎, 前川博, 佐藤浩一: ラットを用いた絶食後の腸管および腸内環境に対する粉末栄養食品 GFO (グルタミン、ファイバー、オリゴ糖) の作用検討. 第 123 回日本外科学会定期学術集会, グランドプリンスホテル新高輪, 2023.4.28
- 12) 田中颯一郎, 吉田翼, 仙波遼子, 秋間龍之介, 小池周一, 松井友紀, 仁平高翔, 小泉明博, 村井勇太, 加藤永記, 山本陸, 上田脩平, 伊藤智彰, 櫛田知志, 櫻田睦, 前川博, 和田了, 佐藤浩一, 齊藤光江: 乳がん術後リハビリテーションの新たな試み. 第 123 回外科学術集会, グランドプリンスホテル新高輪, 2023.4.29
- 13) 草ヶ谷靖恵, 伊藤智彰: 安全带使用による ERCP 介助看護師の多重課題負担軽減効果の検証. 第 90 回日

本内視鏡技師学会，渋谷，2023.5.27

- 14) 山本陸：当科での下部消化管ステントの現状．第 45 回日本癌局所治療法研究会，シェーンバッハ・サボー3F 東京，2023.6.2
- 15) 仁平高朔：直腸癌術後腹膜播種再発に対して蛍光尿管ステント留置が術中有効であった一例．第 48 回日本外科系連合学会，パシフィコ横浜，2023.6.8
- 16) 田中颯一郎：乳がんを合併した von Recklinghausen 病の 1 例．第 29 回日本遺伝性腫瘍学会，高知市文化プラザかるぽーと，2023.6.17
- 17) 田中颯一郎：乳がん術後の在宅リハビリテーション、医工連携による新たな試み．第 8 回日本がんサポーターティブケア学会，奈良県コンベンションセンター，2023.6.22
- 18) 板倉萌：再発トリプルネガティブ乳がんの治療反応性・予後規定因子の探索．第 31 回日本乳癌学会，パシフィコ横浜ノース，2023.6.29
- 19) 渡邊ゆきの：トラスツズマブ ディルクステカン (T-DXd) が奏効した HER2 陽性乳癌の 2 例．第 31 回日本乳癌学会，パシフィコ横浜ノース，2023.6.30
- 20) 仁平高朔：Glomus 脳腫に対して腹腔鏡内視鏡合同局所切除術を施行した 1 例．第 24 回静岡内視鏡外科研究会，レイアップみゆき町ビル，2023.7.1
- 21) 田中颯一郎：ホスネツピタント（アロカリス）を使用し良好な結果が得られた 2 例．第 31 回日本乳癌学会，パシフィコ横浜ノース，2023.7.1
- 22) 伊藤智彰：術前 Body mass index が胃癌根治切除に与える影響．第 78 日本消化器外科学会，函館市民会館，2023.7.13
- 23) 上田修平：助手の立場から見たロボット支援下直腸手術導入の問題点と改善点の探究．第 78 回日本消化器外科学会，函館市民会館，2023.7.12
- 24) 山本陸：減圧後に原発巣切除を行った左側閉塞性大腸癌の治療成績．第 78 回日本消化器外科学会，函館市民会館，2023.7.14
- 25) 山本陸：大腸癌に対する術前化学療法の経験．第 81 回静岡県癌治療研究会，レイアップ御幸町ビル 6F，2023.9.30
- 26) 村井勇太：食道癌と大腸癌の同時重複癌に対して一期的切除した経験．第 81 回静岡県癌治療研究会，レイアップ御幸町ビル 6F，2023.9.30
- 27) 山本陸：大腸癌卵巣転移の検討．第 78 回大腸肛門病学会，熊本城ホール，2023.11.10
- 28) 田中颯一郎：乳がん術後の在宅リハビリテーション、新規デバイスを用いた試み．第 85 回日本臨床外科学会，岡山コンベンションセンター，2023.11.17
- 29) 花川翔太：研修医発表「重複胆嚢に対し腹腔鏡下で安全に胆嚢摘出術を施行し得た 1 例」．第 85 回日本臨床外科学会，岡山，2023.11.17
- 30) 保高哲人：研修医発表「重複胆嚢に対し腹腔鏡下で安全に胆嚢摘出術を施行し得た 1 例」．第 85 回日本臨床外科学会，岡山，2023.11.18
- 31) 仁平高朔：胃粘膜下腫瘍に対して腹腔鏡内視鏡合同胃局所切除術を施行し、術後診断が胃 glomus tumor であった 1 例．第 36 回日本内視鏡外科学会，パシフィコ横浜，2023.12.9

(3) その他

1) 座長・講演等

- 1) 伊藤智彰：講演 「当院の胃癌手術症例における術前栄養状態が術後に与える影響」 「栄養代謝研究会 In Ochanomizu & Kanazawa」株式会社大塚製薬工場，2023.1.20
- 2) 佐藤浩一：座長 「胃がん治療トータルケア Web セミナー」第一三共株式会社 2023.1.25
- 3) 村井勇太：講演 第 2 回順天堂 Video Clinic Seminar, ETHICON, 2023.1.31
- 4) 前川博：座長「第 59 回日本腹部救急医学会総会」沖縄コンベンションセンター，2023.3.10
- 5) 田中 颯一郎：座長「Breast Cancer Web Seminar」第一三共株式会社，2023.3.3
- 6) 伊藤智彰：座長「静岡県外科医会第 247 回集談会」クラシックス静岡，2023.3.4

- 7) 伊藤智彰：講演 外部講師勉強会 科研製菓，長岡総合会館アクシスかつらぎ，2023.3.22
- 8) 田中颯一郎：講師「HER2 陽性、TNBC に関する治療戦略について」．中外製薬，三島オフィス，2023.4.3
- 9) 田中颯一郎：講師「HBOC 診療の均てん化を考える会」三島プラザホテル，2023.4.7
- 10) 伊藤智彰：座長「Lilly GC Interactive Web Conference in Shizuoka」三島商工会議所 4 階，2023.4.12
- 11) 上田修平：講演「ガイドラインに基づいた慢性便秘症の診断と治療」ホテルサンバレー富士見 第 3 ホール，2023.4.17
- 12) 佐藤浩一：座長「医学研究の up-to-date」同窓会学術奨励賞 受賞記念講演，第 359 回順天堂医学会学術集会，2023.5.20
- 13) 伊藤智彰：発表「外科医が基礎研究に携わって～留学を機に～」同窓会学術奨励賞 受賞記念講演，第 359 回順天堂医学会学術集会，2023.5.20
- 14) 秋間龍之介：講師「当院での胃 GIST 診療」消化器研究会，田方医師会 2 F，2023.5.11
- 15) 山本陸：講師「社内研修会」大鵬薬品工業株式会社，東海支店沼津出張所，2023.5.24
- 16) 伊藤智彰：パネリスト「TEAM2023 コラボレーションセミナー」ブリストル・マイアーズ スクイブ株式会社，ホテルサンバレー富士見，2023.5.31
- 17) 伊藤智彰：座長「Gastric Cancer Surgery Web Seminar」小野薬品・ブリストルマイアーズ・スクイブ株式会社，沼津リバーサイドホテル朝霧，2023.6.14
- 18) 小泉明博：講演「Gastric Cancer Surgery Web Seminar」小野薬品・ブリストルマイアーズ・スクイブ株式会社，沼津リバーサイドホテル朝霧，2023.6.14
- 19) 伊藤智彰：座長「Esophageal Cancer Hybrid Web Live Seminar」小野薬品・ブリストルマイアーズ・スクイブ株式会社，沼津リバーサイドホテル朝霧，2023.6.22
- 20) 櫛田知志：座長 第 11 回御茶ノ水消化器外科フォーラム，御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター，2023.6.24
- 21) 田中颯一郎：評議委員 第 31 回日本乳癌学会，パシフィコ横浜ノース，2023.6.28
- 22) 櫻田睦：講師「大腸がんにならないために なってしまったら」web レクチャー，順天堂大学静岡病院，2023.6.1～30
- 23) 櫛田知志：開会の辞 第 81 回静岡県癌治療研究会，2023.9.30
- 24) 田中颯一郎：座長 静岡県東部エリア乳癌診療交流サロン，プラザヴィルデ沼津，2023.10.6
- 25) 伊藤智彰：世話人 第 7 回静岡県胃癌手術研究会，プラザヴェルデ，2023.10.28
- 26) 伊藤智彰：座長 第 85 回日本臨床外科学会総会，岡山シティミュージアム，2023.11.17
- 27) 伊藤智彰：座長 食道がんオペチャーボWEB Collabo ライブセミナーin Shizuoka，2023.12.5

5. 人事異動

異動

渡邊 武大 順天堂大学医学部附属順天堂病院（2023 年 4 月～）

小池 周一 静岡県立総合病院 消化器外科（2023 年 4 月～）

退職

前川 博

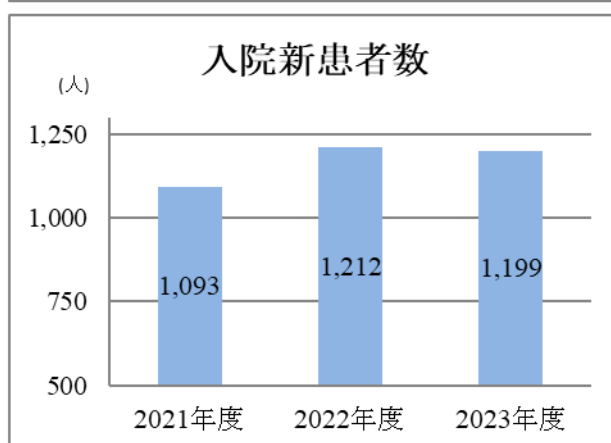
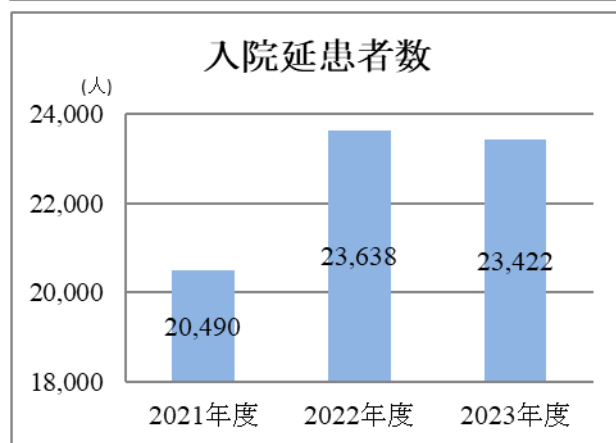
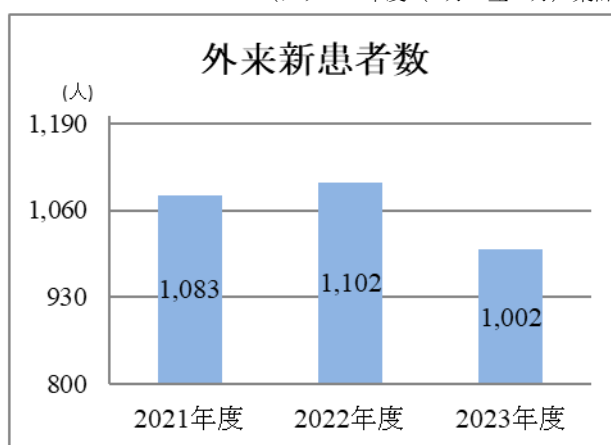
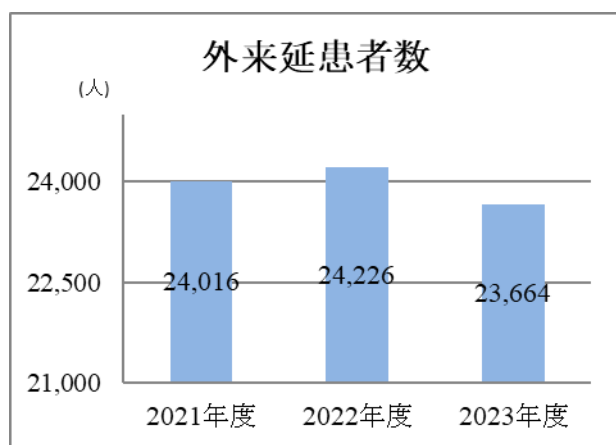
野萩 薫子

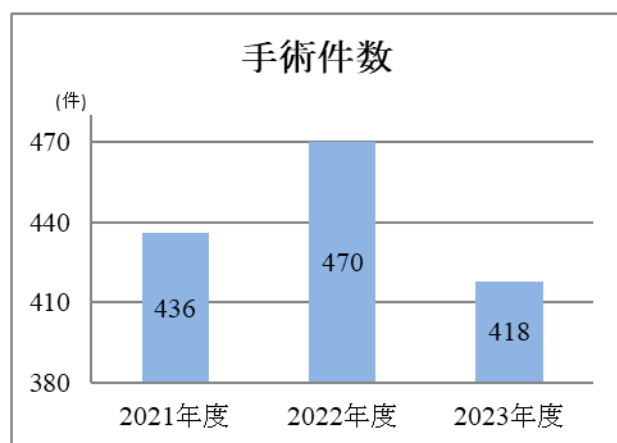
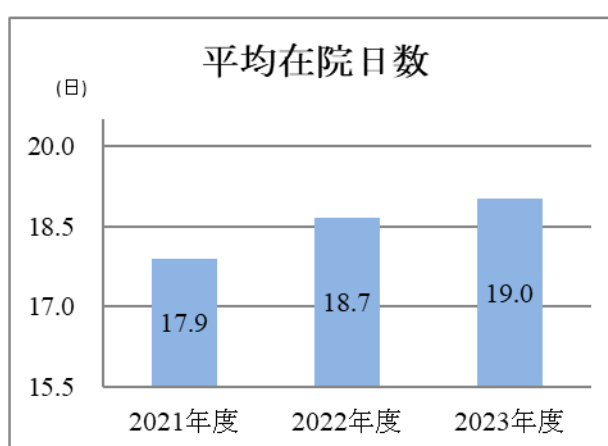
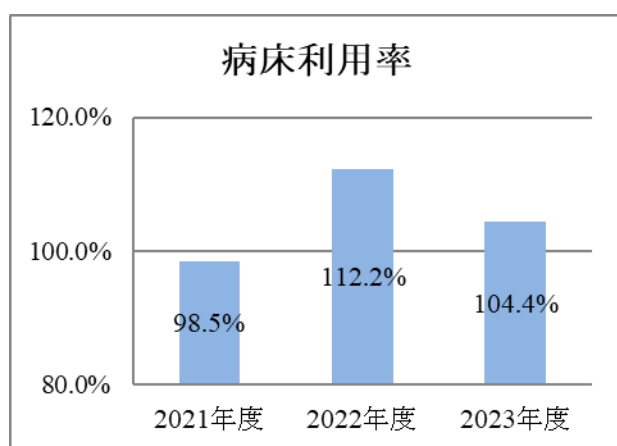
2-11 脳神経外科

診療実績

病床数	62 床
外来新患者数	1,039 人
年間入院数	1,180 人
手術総数	581 件
腫瘍（脳、脊髄、眼窩）	56
動脈瘤（開頭術/血管内治療）	63
AVM	3
血行再建術（CEA/CAS/バイパス術）	37
外傷	135
感染症	6
脊髄・脊椎疾患	8
機能外科	9
血栓溶解/血栓回収術	40
緊急手術数	333（57.3%）
集光照射	27

（グラフ：年度（4月～翌3月）集計）





研究実績

英文原著

1. Adachi S, Ueno H, Magami S, Fujita N, Nakajima S, Ikemura R, Ueki Y, Takaki Y, Murofushi K, Nakao Y, Yamamoto T : Cerebrospinal fluid rhinorrhea with meningoencephalocele related to Sternberg's canal:a report of two cases. Surgical Neurology International, 14 : 228-232, 30 Jun. 2023
2. Nakajima S, Murofushi K, Matsuda S, Shimada S, Shimoji K, Nakao Y, Yamamoto T : A case report of hydrocephalus due to diffuse villous hyperplasia of the choroid plexus:surgical treatment by combination a flexible videoscope with a rigid endoscope. Child's nervous system, 39(8) : 2045-2051, 1 Jul. 2023
3. Yamamoto T, Watabe T, Yamashiro S, Tokushige K, Nakajima N, Arakawa Y, Mine Y, RICH-Trend Investigators : Safety of Endoscopic Surgery for Spontaneous Intracerebral Hemorrhage in the Registry of Intracerebral Hemorrhage Treated by Endoscopic Hematoma Evacuation in Japan. WORLD NEUROSURGERY, E1-E9, Jun. 2024

症例報告

1. Akasaki Y, Tsutsumi S, Hashizume A, Yoshida K, Sugiyama N, Ueno H, Ishii H : Possible association between minor head injury and intratumoral hemorrhage: A metastatic brain tumor from thyroid carcinoma. *RADIOLOGY Case Reports*, 18 : 1397-1402, 7 Jan. 2023
2. 山高元暉、牧野健作、西岡和輝、眞上俊亮、中尾保秋、山本拓史 : MRI 拡散協調画像で診断し得た pure hand knob infarction の 1 例. *脳卒中* 46 : 258-262, 2024

学会発表

1. 山本拓史 : CLANIAL PSI 新複合素材によるカスタムメイド人工骨をもちいた頭蓋形成術～手術手技の実際と長期成績～. *CNTT2023 ランチョンセミナー*, 富山, Apr. 22, 2023
2. 山本拓史 : くも膜下出血急性期における AMPA 受容体阻害薬への期待. 第 43 回日本脳神経外科コンgres総会 ランチョンセミナー, 大阪, May. 21, 2023
3. 西岡和輝 : Eloquent area の皮質形成異常に伴う薬剤抵抗性てんかんに対する治療成績—小児例での検討—. 第 65 回日本小児神経学会学術集会, 岡山, May. 25-27, 2023
4. 藤田修英、山本拓史、足立知司、中尾保秋 : Cavernous sinus hemangioma に対する手術. 第 28 回静岡脳神経外科ビデオシンポジウム, 静岡, Jun. 24, 2023
5. 赤崎安俊、山高元暉、牧野健作、西岡和輝、藤田修英、眞上俊亮、中尾保秋、山本拓史 : 経頭蓋アプローチによる摘出にて急速視力改善を得た眼窩筋円錐内神経鞘の一例. 第 104 回日本脳神経外科学会中部支部学術集会, 静岡, Sep. 16, 2023
6. 西岡和輝 : 新皮質てんかんにおける発作時 Modulation index 解析によるてんかん焦点の推定. 第 56 回日本てんかん学会学術集会, 東京, Oct. 19-21, 2023
7. 足立知司 : てんかん発症グリオーマ患者におけるペランパネル単剤投与例. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会, 神奈川, Oct. 25-27, 2023
8. 藤田修英 : 海綿静脈洞部海綿状血管腫の 2 例. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会, 神奈川, Oct. 25-27, 2023
9. 西岡和輝 : Eloquent area の皮質形成異常に伴う薬剤抵抗性てんかんに対する治療成績—小児例での検討—. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会, 神奈川, Oct. 25-27, 2023
10. 赤崎安俊 : 頭部外傷を契機に増大した転移性甲状腺癌の一例. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会, 神奈川, Oct. 25-27, 2023
11. 鬼木蘭丸 : 抗凝固療法中の頭部外傷にて発症した両側性後頭蓋窩硬膜下血腫. 一般社団法人日本脳神経外科学会第 82 回学術総会, 神奈川, Oct. 25-27, 2023
12. 山本拓史 : 脳卒中の栄養療法～早期栄養開始に大切なこと～. 第 34 回三重 NST 研究会学術集会, 三重, Nov. 11, 2023
13. 山本拓史、牧野健作、西岡和輝、藤田修英、眞上俊亮、足立知司、中尾保秋 : 脳室内血種に対する内視鏡下血種除去術のベーシックとアドバンス, 愛知, Nov. 16, 2023
14. 眞上俊亮 : トルソー症状群に対する血栓回収療法. 第 39 回日本脳神経血管内治療学会学術集会, 京都, Nov. 23-25, 2023
15. 西岡和輝 : 新皮質てんかんにおける発作時 Modulation index 解析によるてんかん焦点の推定. 第 53 回日本臨床神経生理学会学術大会, 福岡, Nov. 30 - Dec. 2, 2023

16. 西岡和輝：結節性硬化症に対するてんかん手術成績. 第 1 回結節性硬化症学会地方会関東ブロック, 東京, Dec. 27, 2023
17. 西岡和輝：新皮質てんかんにおける発作時 Modulation index 解析によるてんかん焦点の推定. 第 47 回日本てんかん外科学会, 北海道, Feb. 1, 2024
18. 山本拓史：エビデンスからみた脳神経外科救急領域の栄養療法. 第 29 回日本脳神経外科救急学会, 東京, Feb. 3, 2024
19. 黒田清隆：抗凝固療法中の頭蓋内出血に対してアンデキサネットアルファを使用した 7 症例の検討. 第 29 回日本脳神経外科救急学会, 東京, Feb. 2, 2024
20. 鬼木蘭丸：抗凝固療法中の頭部外傷にて発症した両側性後頭蓋窩硬膜下血腫. 第 47 回日本脳神経外傷学会, 東京, Mar. 2, 2024
21. 山本拓史：内視鏡下血腫除去術の課題と可能性について. STROKE2024, 神奈川, Mar. 7-9, 2024
22. 山本拓史：Current Status Of Endoscopic Hematoma Evacuation For Spontaneous Intracerebral Hemorrhage In Japan. NESICON 2024, India, Mar. 29, 2024

講演会

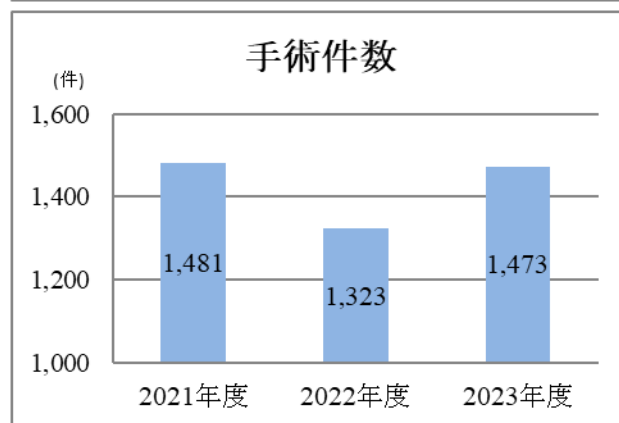
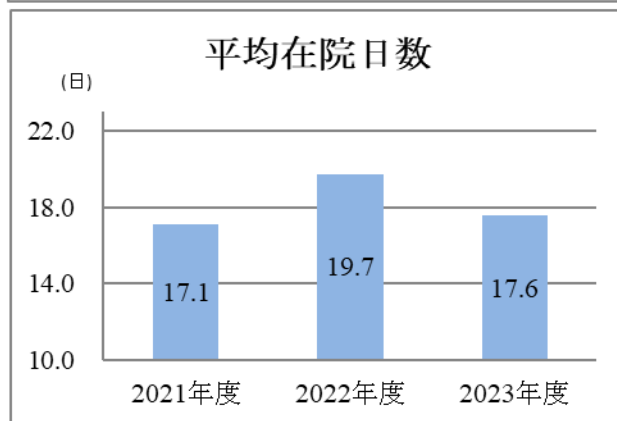
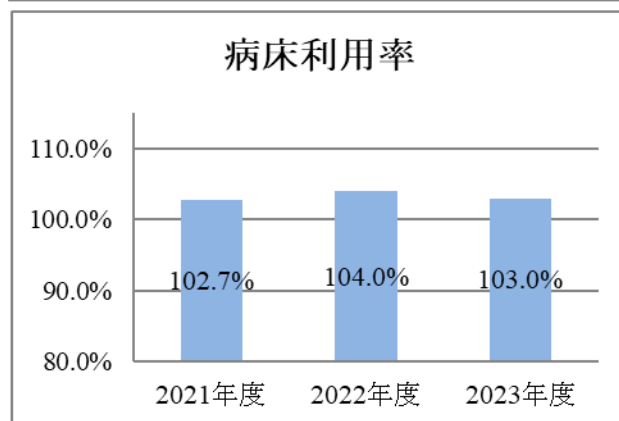
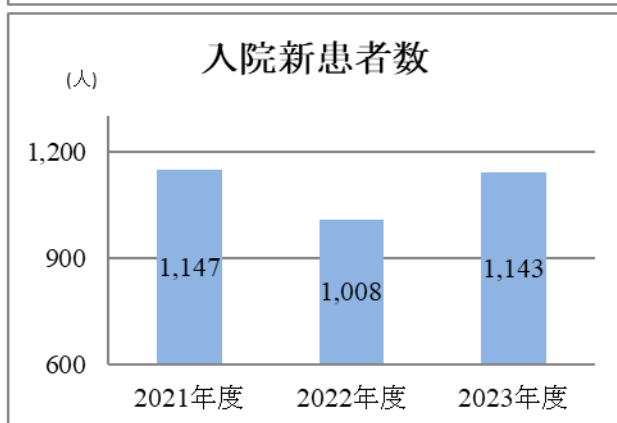
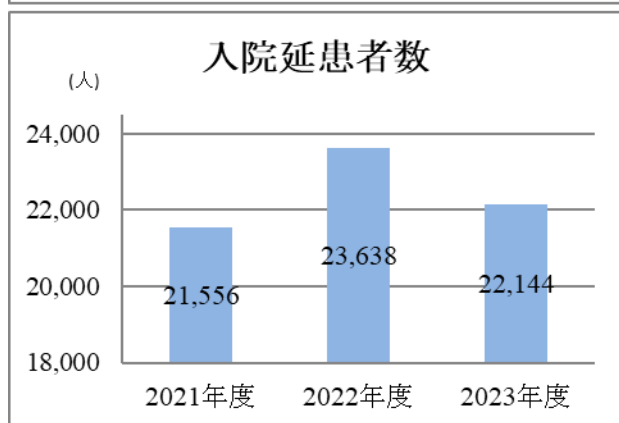
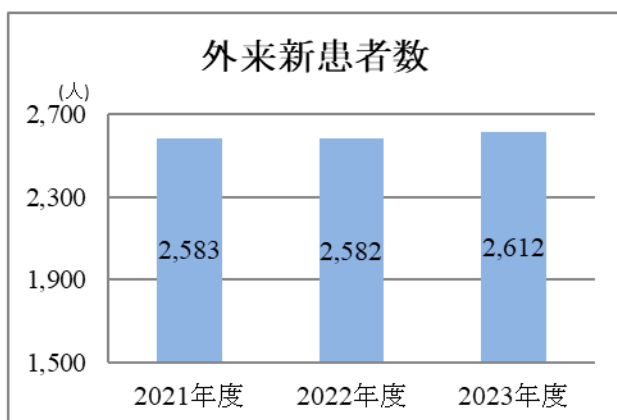
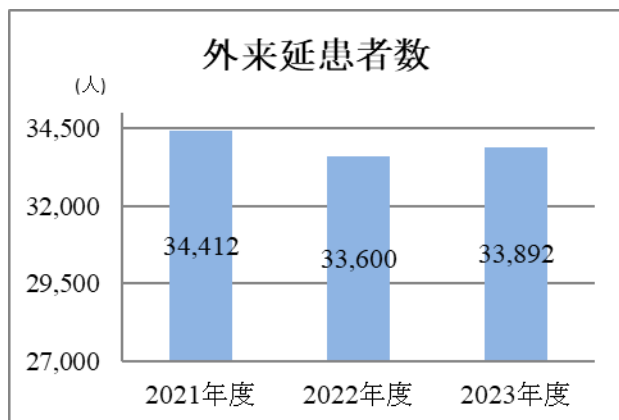
1. 山本拓史：脳卒中の外科治療. 中部地区 脳卒中の外科治療講演会, 静岡, Apr. 13, 2023
2. 中尾保秋：抗血栓療法と頭蓋内出血. 脳卒中連携 WEB セミナー, Jun. 20, 2023
3. 山本拓史：脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. 脳卒中後てんかん診療 WEB セミナー, Jul. 18, 2023
4. 山本拓史：脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. 脳卒中手術手技と脳卒中後てんかんを考える, Jul. 25, 2023
5. 山本拓史：脳卒中急性期における Seizure マネージメントと脳卒中後てんかんの特徴. 高齢者トータルケア WEB セミナー, 静岡, Jul. 28, 2023
6. 山本拓史：脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. 東濃 周術期てんかんセミナー, Aug. 2, 2023
7. 山本拓史：脳卒中による栄養障害を回避するための栄養療法. Poststroke Management Seminar, Aug. 4, 2023
8. 中尾保秋：SPECT での脳血流測定—てんかん発作時の血流測定にはどのトレーサーを使いますか—. 第 332 回東部 NS 会, Sep. 13, 2023
9. 牧野健作：Cerebellar glioma の 1 例. 第 332 回東部 NS 会, Sep. 13, 2023
10. 山本拓史：脳卒中における Seizure マネージメントと脳卒中後てんかんの特徴. 第 500 回御殿場市医師会学術講演会, Sep. 20, 2023
11. 眞上俊亮：当院におけるクラゾセンタンの使用経験. SAH Network Seminar in Shizuoka East, Oct. 18, 2023
12. 山本拓史：脳卒中診療における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. 西区・早良区・糸島市の脳卒中診療を考える会, Oct. 31, 2023
13. 山本拓史：脳卒中急性期における Seizure マネージメントと脳卒中後てんかんの特徴. 高齢者トータルケア WEB セミナー, 静岡, Nov. 11, 2023
14. 山本拓史：脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. 脳卒中後て

んかん診療 WEB 講演会, Dec. 8, 2023

15. 西岡和輝：当院の抗てんかん薬の使用状況, NS 会, 静岡, Dec. 13, 2023
16. 山本拓史：いまさらきけない？脳卒中の栄養療法. Abbott 講演会, Dec. 20, 2023
17. 山本拓史：脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. てんかん診療を考える会 in 静岡, Jan. 25, 2024
18. 山本拓史：脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. Jikei Neuro Forum, Feb. 21, 2024
19. 山本拓史：脳卒中における Seizure マネージメント～AMPA 受容体阻害薬の可能性～. てんかん診療 WEB セミナー in 三河, Mar. 18, 2024
20. 山本拓史:直接作用型第Xa因子阻害薬中和剤 アンデキサネットアルファの臨床的意義. Experience Sharing Symposium in Shizuoka, Mar. 19, 2024

2-12 整形外科

診療実績



研究・教育活動

英文原著

Youichi Yanagawa, Hiroki Nagasawa, Kouhei Ishikawa, Shunki Hirayama, Akira Itoi, Atsuhiko Mogami.
"Penetrating aortic injury due to broken ribs and preventive measures." *AORTA* 10.05 (2022): 249-252.
Akira Itoi, Hidetoshi Nojiri, Takahisa Ogawa, Osamu Obayashi. "Posterior Insertion of a Lateral Lumbar Interbody Fusion Cage for the Treatment of Osteoporotic Vertebral Fracture with Kyphotic Deformity: A Case Report." *Journal of Orthopaedic Case Reports* 12.4 (2022): 75.

和文原著

1. 相庭 温臣, 門田 領, 望月 真人, 糸井 陽. 頸椎変性疾患に対する前方除圧術後に生じる嚥下障害のリスク因子 (原著論文) *Journal of Spine Research* (1884-7137) 13 巻 2 号 Page102-109(2022.02)
2. 波多江文俊、神田章男、諸橋達、最上敦彦. 同側大腿骨骨幹部骨折に合併した大腿骨頸部骨折に対するショートシステム optimys の有用性. *Hip Joint* 48 巻 Page589-593(2022.08)

国内学会発表

1. 神田章男
重力加速度計を用いた簡易ポ・ダブルナビゲーション(HipAlign)と手術中透視画像による設置角精度誤差の検討
Monoblock press-fit cup(RM cup vitamys)の初期固定力
第 52 回日本人工関節学会 京都 2022 年 2 月 25 日・26 日
2. 諸橋達
第 52 回日本人工関節学会 京都 2022 年 2 月 25 日・26 日
3. 最上敦彦
四肢再建に必要な骨接合の知識〜プレート固定と髄内釘の基本〜髄内釘編 第 35 回日本四肢再建・創外固定
学術集会 奈良 2022 年 3 月 11 日・12 日
4. 田代憲 神田章男 諸橋達 最上敦彦 大林治
副甲状腺腺腫による大腿骨骨幹部 Brown 腫瘍と大腿骨頸部脆弱性骨折を合併した 1 例
第 197 回静岡県整形外科医会集談会 2022 年 3 月 12 日 静岡
5. 最上敦彦
上肢骨折の髄内釘治療-Smart naililing-
第 95 回日本整形外科学会学術総会 2022 年 5 月 19 日・22 日 兵庫
6. 諸橋達
DFOO, LTO への髄内釘による固定
第 95 回日本整形外科学会学術総会 2022 年 5 月 19 日・22 日 兵庫
7. 神田章男
重力加速度計を用いた簡易ポ・ダブルナビゲーションの設置角度精度と測定誤差を生じる原因
第 95 回日本整形外科学会学術総会 2022 年 5 月 19 日・22 日 兵庫
8. 最上敦彦
守・破・離 上腕骨近位端骨折治療の極意
第 48 回日本骨折治療学会 2022 年 6 月 23 日・25 日 神奈川

9. 分島智子
寛骨臼後壁骨折は上手に整復してもやはり予後不良なのか
第48回日本骨折治療学会 2022年6月23日・25日 神奈川
10. 守屋秀一 最上敦彦
Snowmansuture法を用いた鎖骨骨折に対する前方プレート固定法
第48回日本骨折治療学会 2022年6月23日・25日 神奈川
11. 波多江文俊
高齢者の大腿骨近位部骨折後の同側大腿骨骨折に対する治療の工夫
第48回日本骨折治療学会 2022年6月23日・25日 神奈川
12. 久木原由華
ビスホスホネート製剤内服中に生じた両側非定型尺骨骨幹部骨折の症例
第48回日本骨折治療学会 2022年6月23日・25日 神奈川
13. 田代憲
異所性副甲状腺腫による大腿骨頸部脆弱性骨折と大腿骨骨幹部Brown腫瘍を合併した一例
第48回日本骨折治療学会 2022年6月23日・25日 神奈川
14. 古城智也 諸橋達 神田章男 最上敦彦 大林治
当院におけるSPO(寛骨臼移動術)の短期成績
第198回静岡県整形外科医会集談会 2022年7月9日 静岡
15. 東浩輔 分島智子 守屋秀一 神田章男 諸橋達 最上敦彦 大林治
肩関節におけるpseudodislocationの1例
第198回静岡県整形外科医会集談会 2022年7月9日 静岡
16. 高岡宏行
骨軟部に発生した高尿酸性間葉系腫瘍による腫瘍性骨軟化症の2例
第55回日本整形外科学会骨・軟部腫瘍学術集会 2022年7月14日・15日 東京
17. 糸井陽
経皮的椎弓根スクリューのロッドメントを容易にする簡素なポッドシステム 開発初期の臨床経験
第29回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会 2022年9月2日・3日 大分
18. 塩原崇生
TemporaryFixationとして腸骨内側からDualiliacScrewを挿入したTrance Lliac Rod FixationとSpino pelvic fixationを併用SPF・TIRF法の1例
第29回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会学術集会 2022年9月2日・3日 大分
19. 最上敦彦
整形外科医を志す君へ
第8回日本重度四肢外傷シンポジウム 2022年9月30日・10月1日 北海道
20. 守屋秀一 最上敦彦 大林治 石島旨章
高齢者上腕骨近位端3/4part骨折に対する治療戦略
第49回日本肩関節学会学術集会 2022年10月7日・8日 神奈川
21. 波多江文俊 守屋秀一 最上敦彦 大林治 石島旨章
Scorpion NEOを用いた鎖骨遠位端骨折術後の肩鎖関節脱臼のついて
第49回日本肩関節学会学術集会 2022年10月7日・8日 神奈川
22. 最上敦彦
骨折/寛骨臼骨折治療の最前線
第49回日本股関節学会学術集会 2022年10月28日・29日 山形

23. 諸橋達

変形性股関節症に対する Spherical Periacetabular Osteotomy の短期成績

第 49 回日本股関節学会学術集会 2022 年 10 月 28 日・29 日 山形

24. 神田章男

ペルス様扁平骨頭に対する大腿骨外反・伸展・減捻骨切り術

併用偏心性寛骨臼回転骨切り術(ERAO)の短期成績

第 49 回日本股関節学会学術集会 2022 年 10 月 28 日・29 日 山形

25. 諸橋達

趾節間外反母趾の評価-立位正面像と 3D-CT の関係-

第 47 回日本足の外科学会学術集会 2022 年 11 月 3 日・4 日 愛媛

26. 糸井陽

「頸椎頸髄損傷のエビデンスへのアンチセ」 1 骨折型からの治療戦略 2 牽引性脊髄損傷-受傷動画から-

第 57 回日本脊髄障害医学会 2022 年 11 月 17 日・18 日 神奈川

27. 山本悠矢 分島智子 守屋秀一 神田章男 糸井陽 諸橋達 最上敦彦 大林治

腫瘍嵌頓による関節伸展制限で発症した膝関節内限局型腱滑膜巨細胞腫の 1 例

第 199 回静岡県整形外科医会集談会 2022 年 11 月 19 日 静岡

28. 松原颯 分島智子 守屋秀一 糸井陽 神田章男 諸橋達 最上敦彦 大林治

鎖骨近位端骨折に対して骨縫合を行った 1 例

第 199 回静岡県整形外科医会集談会 2022 年 11 月 19 日 静岡

29. 中井一輝

治療に難渋した腰仙移行部化膿性脊椎炎に対してパッド・シモン下に側方進入前方自家腓骨移植を行った脊椎固定の 1 例

第 31 回日本脊椎インスルメンテーション学会 2022 年 11 月 25 日・26 日 大阪

特別講演・招待講演

1. 大林治

高齢者の非上皮悪性腫瘍について

第 43 回静岡骨軟部腫瘍研究会 2022 年 3 月 26 日 静岡

2. 大林治

膝で寝たきりにならないために

SBS ラジオサンデークリニック 2022 年 6 月 19 日 静岡

3. 大林治

新しい膝 OA の保存療法の限界について

令和 4 年度静岡県臨床整形外科医会「夏の研修会」 2022 年 7 月 2 日 静岡

4. 大林治

整形外科医でも出来てしまう最新の骨粗鬆症治療

富士整形外科医師会学術講演会 2022 年 10 月 21 日 静岡

5. 最上敦彦

髄内釘を極める～至適選択と知的戦略～

第 9 回黒潮整形外科外傷カンファレンス 2022 年 3 月 26 日 高知

6. 最上敦彦

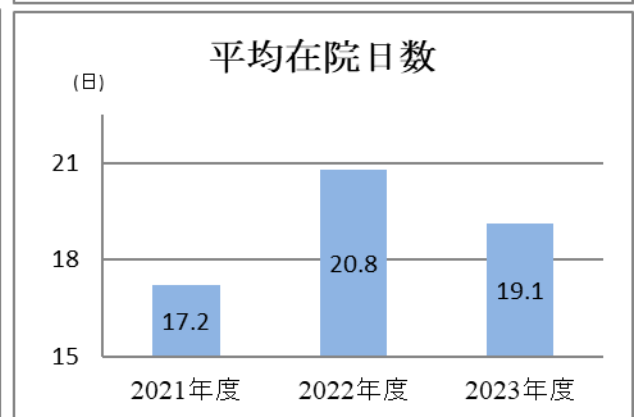
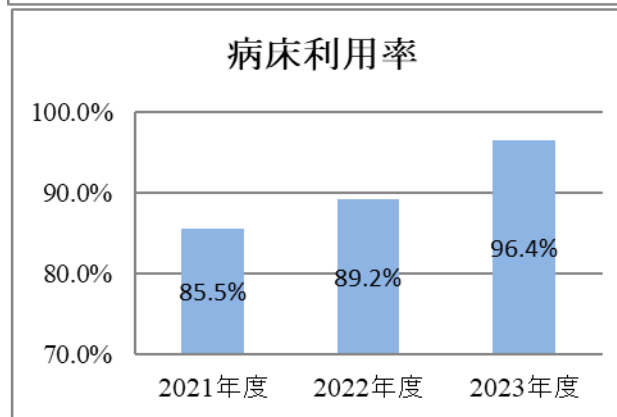
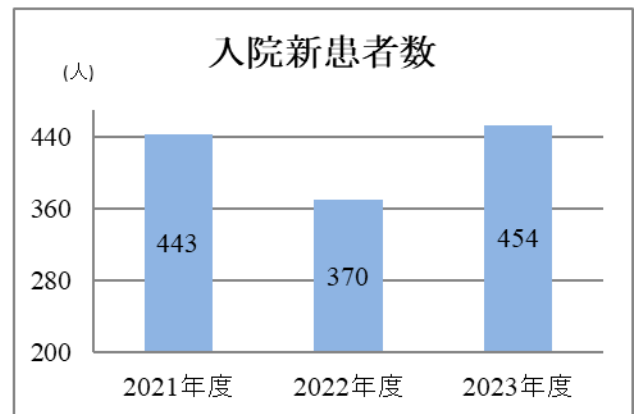
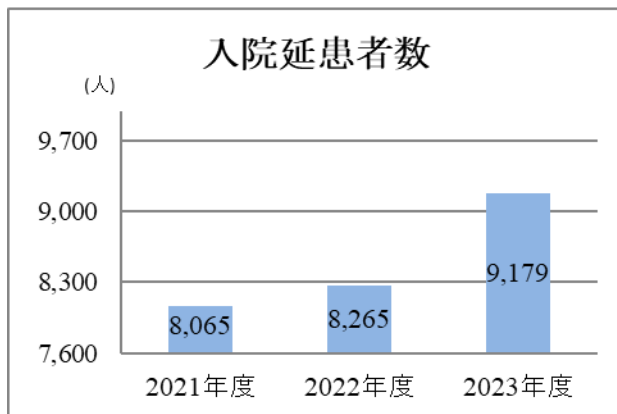
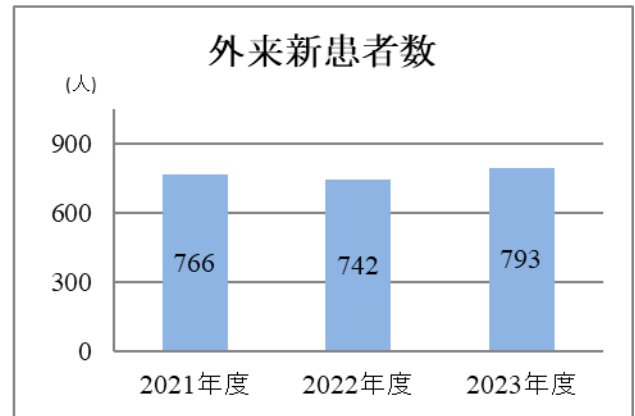
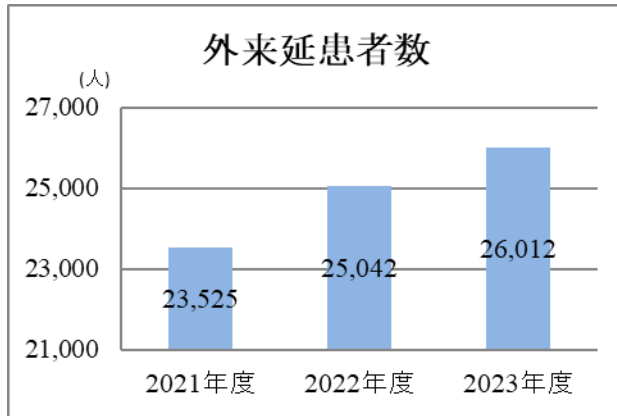
四肢骨折治療における髄内釘を極める～至適選択と知的戦略～

第 34 回兵庫県骨折治療研究会

7. 最上敦彦
The 3rd Fragility Fracture Symposium 2022年5月28日 ハイブリット形式
8. 分島智子
順天堂大学静岡病院における骨粗鬆症治療
旭化成ファーマ社内教育講演会 2022年6月1日 静岡
9. 最上敦彦
Critical Thinking 骨折治療～髄内釘を駆使した骨接合術～
第38回奈良骨研究会
10. 神田章男
血友病性関節症について学ぶ
中外製薬株式会社 社内研修会 2022年7月6日 静岡
11. 最上敦彦
ARISUTOのポイント
MDM社内講演会 2022年9月1日
12. 最上敦彦
骨折治療 UpToDate ～適切な労災加療の道標～
静岡労災指定医協会 医学講習会 2022年9月17日 静岡
13. 分島智子
重度四肢外傷てらこや
第8回日本重度四肢外傷シンポジウム 2022年9月30日-10月1日 北海道
14. 最上敦彦
上腕骨近位部骨折-各種治療法の選択基準について-
上腕骨近位部骨折RSAセミナー IN KUMAMOTO-関節外科医と外傷整形外科医の立場から-
2022年10月15日 熊本
15. 神田章男
股関節骨切り患者の術式
第18回JAリハビリテーション中伊豆温泉病院理学療法科研修会 2022年11月9日 静岡
16. 神田章男
血友病患者における関節診療の現状と課題
静岡中部血友病『関節診療』連携カンファレンス.2022年11月18日 静岡
17. 神田章男
血友病患者における関節診療の現状と課題.医学教育会
医学教育会(血友病性関節症) 2022年11月30日 静岡

2-13 脳神経内科

診療実績



【はじめに】

順天堂大学医学部附属静岡病院
野田 和幸

2023年度の静岡病院脳神経内科では、医局員の先生方共々、忙しい日々を送ってまいりましたが、大きな問題もなく順調な運営に協力して頂き感謝申し上げます。

当科は引き続き、静岡県東部地区の数少ない神経内科専門の診療科の使命を全うすべく、以下の点に注意し診療活動を行っております。外来診療では、初診や紹介患者は来院してから待ち時間を最小限にするよう、可及的速やかな初期対応を継続しております。外来患者数も徐々に増加傾向であります。入院患者の診療でも医師同士の連携を密に行い、私も1日1回は必ず病棟を自分で回診するなどのサポートを継続し、医療安全の面でも最善を尽くして参ります。

研究面では、恵まれた環境を生かして約18年の間1度も欠かさず地方会発表を継続し、発表例を含め、臨床上意義のある症例は論文として発表して参りました。少しずつ論文文化を継続しております。

初期研修医の教育も重要です。静岡病院は1ヶ月ずつのローテーションなので、まず神経学のエッセンスを吸収していただければと思います。1年目に脳内をローテーションして興味を持ち、2年目にも選択してくれる研修医も出てきて、大変ありがたいことであると感じます。2020年は、静岡病院への学生さん(M4からM5)のローテーションがなく、残念でしたが、来年度以降のラウンドでは、教育をしっかりと行い、静岡病院の初期研修医を増やし、さらには神経学教室への入局者増加に貢献したいと考えております。

当科の人事ですが、藤巻基紀と石黒雄太医師らが中核として、診療及び教育にリーダーシップを発揮してくれています。藤巻医師は、留学の経験を活かし後進の指導及び静岡病院の各科と緊密に連携しリーダーシップを発揮しております。石黒医師は、医局の中心として診療のみならずローテーションの医師、研修医の指導を熱心に行っております。これまでの歴代教授・医局長・教室の諸先生のご理解に感謝するとともに、今後とも一層のご指導・ご支援を賜ればありがたく存じます。

【スタッフ (R6年3月現在)】

野田和幸(科長・教授)、大熊泰之(特任教授)、椎名健太(医局長・助教)、上野真一(病棟医長・助教)、2名の助手はローテーションで、卒後3-5年目の各先生が3ヶ月ごとに1-2名ずつ勤務し、病棟・救急外来等で活躍してくれました。

【診療データ】

当科はパーキンソン病を含め、すべての神経疾患に対して診療を行っており、適切な診断と治療を常に心がけております。例年通り沼津、三島、伊豆半島全域をはじめ、熱海、湯河原、御殿場、裾野、富士、富士宮などから通院しておられます。静岡市、東京都、山梨県からもパーキンソン病や運動障害の患者さんが通院されました。富士市の池辺クリニック、静岡市の城西クリニック、富士宮市の東静岡脳神経センター、三島市の森本神経内科クリニックといった、当科出身の諸先生方からも随時ご紹介頂き、大変光栄に思います。今後ともご指導のほどよろしくお願い申し上げます。

【週間外来表 (R6 年 3 月現在)】

	曜日	月	火	水	木	金	土
午前	1 診	椎名	野田	上野	野田	椎名	交代制
	2 診		上野		大熊	大熊	第 4 遠隔診療 (野田)
午後	1 診	椎名		上野	野田	椎名	
		ボトックス			椎名 (筋電図)		

病棟は 4 B 病棟で眼科と脳神経内科の 2 科体制であります。看護師さんらスタッフも眼科は動ける患者さんが多いものの入退院が激しく、脳神経内科は介護度が高く大変だと思いますが、慣れてきたようです。入院患者の総数は 500 人（兼科含む）で昨年と横ばいでした。パーキンソン病の入院患者が最も多く、次いで脳梗塞の患者でした。その次が ALS、痙攣などの運となっております。その他、ほぼ神経学のすべての領域の症例を診療しております。平均在院日数は、ほぼ年間を通じて 20 日以内達成を継続できており、MSW や退院支援ナーズの働きには常に感謝しています。

病病連携、病診連携の重要性も常に認識しています。また長岡リハビリテーション病院、松崎研一郎院長はじめスタッフの皆様には、患者さんだけでなく教室員が毎度お世話になっております。さらに日頃からお世話になっている病院・医院の先生方や施設の方々にも心から御礼申し上げます。

【研究】

(1) パーキンソン病等 Movement disorders の病態および治療に関する研究：

大熊は関東パーキンソン病勉強会の主要メンバーとして、数々の共同研究に参加してきました。パーキンソン病の姿勢異常の研究では自治医大ステーションクリニック藤本先生が論文投稿目前まで来ています。また新しい共同研究として、東京女子医大飯嶋先生を中心に嗅覚障害とレム睡眠行動異常(RBD)を中心に調べており、登録が終了し、解析中です。

重度嗅覚障害をとまなうパーキンソン病患者において、ドネペジルが認知症発症を予防できるかどうかを前向きに調べる DASH-PD 試験も無事終了しました（厚生労働科学研究費補助金[現 AMED 臨床研究・治験推進研究事業]；平成 24 年～28 年度[分担研究者]）。イベント発生率が少ない関係で 1 年間延長になりましたが、当院では全国で 4 番目に多い 12 例をエントリーしてフォローしています（大熊、野田）。さらにドネペジルの歩行に対する効果を客観的にみるために、患者さんの携帯歩行計記録を行っています（大熊）。

大熊はオランダの Prof. Bas Bloem と共同で、日内変動とすくみ足を有するパーキンソン病における転倒の前方視的調査を行いました。また携帯歩行計を用いてパーキンソン病や関連疾患の歩行解析を行っています。パーキンソン病患者さんの家庭での転倒とすくみ足を客観的に評価する試みを継続しています。

野田は不随意運動を呈する例をこれまでに多数英文で症例報告しました。今後も診療と並行して、症例報告を継続しようと考えております。

さらに、徳島大学主導での高用量 E0302 の筋萎縮性側索硬化症に対する第Ⅲ相試験-医師主導治験-に参加し、症例を登録いたしました。引き続き、アンケート調査への協力も参加する予定です。先行研究は JAMANEurology 2022 に掲載されました。本年度より静岡東部地域での遠隔診療を開始しております。

(2) 脳血管障害に関する研究：

本年度より、順天堂浦安病院 脳神経内科、当院脳神経外科と共同で、急性期脳梗塞に対する認知機能評価とその機能的予後につき、検討を開始しました。

(3) 神経免疫学的研究：

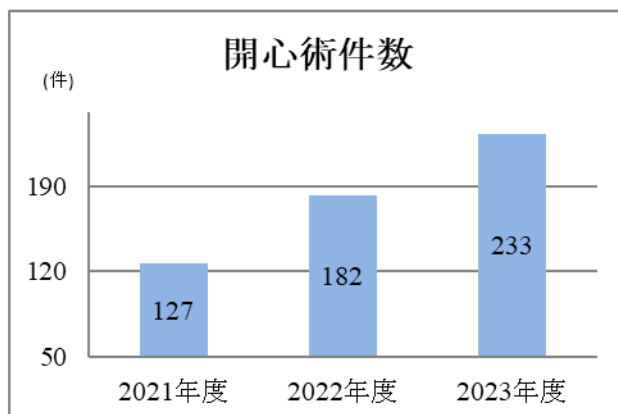
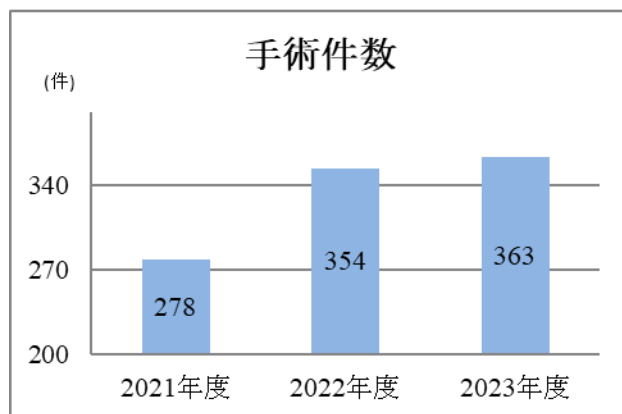
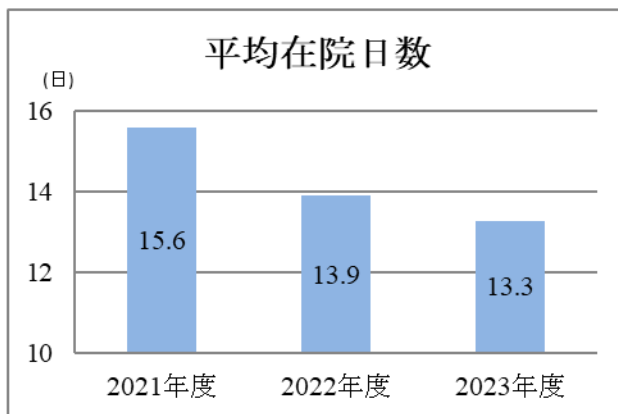
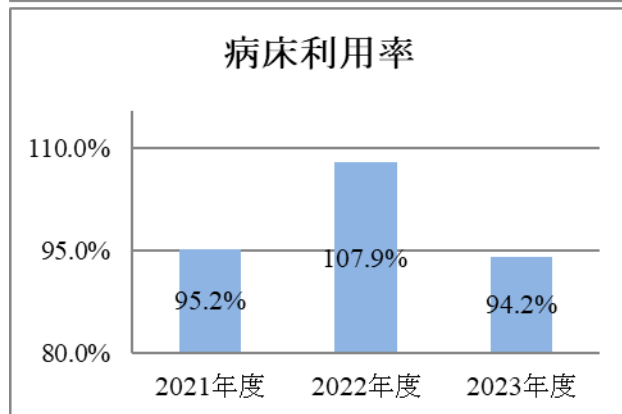
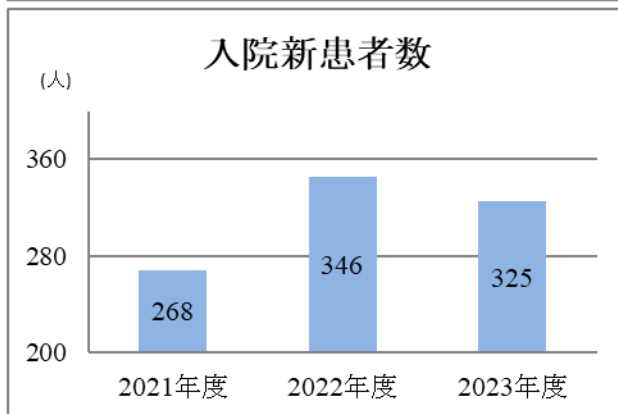
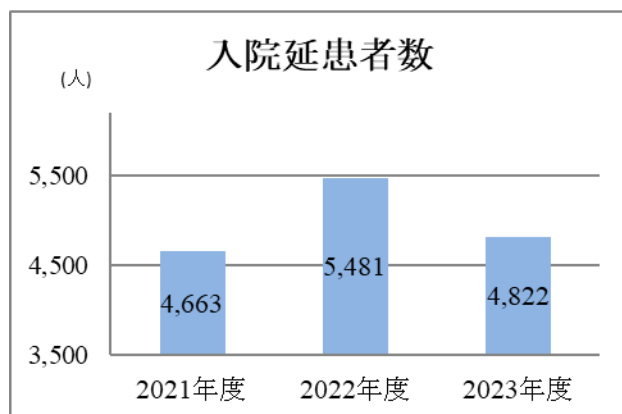
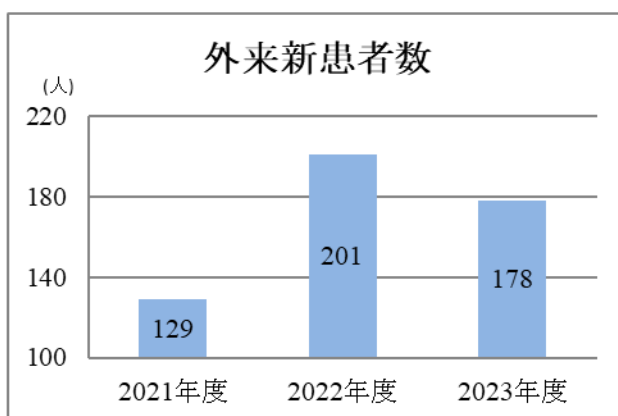
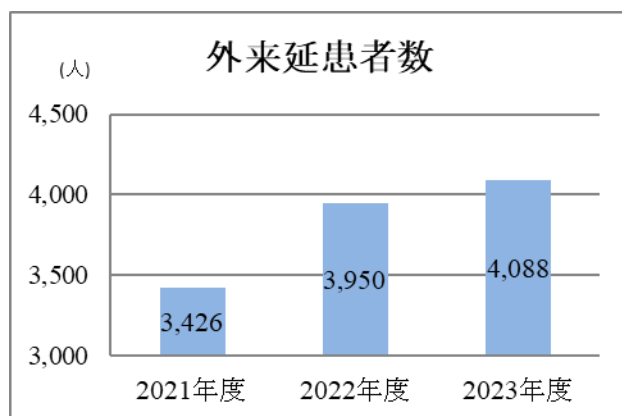
多発性硬化症に対して使用できるようになった種々の Disease modifying therapy(DMT)を試みて症例を蓄積しています。

【研究業績，活動等】

日本神経学会関東地方会への年 4 回の報告は継続しております。

2-14 心臓血管外科

診療実績



診療活動

順天堂大学医学部附属静岡病院心臓血管外科は現在 5 人のスタッフで診療を行っております。診療圏は伊豆半島を含む静岡県東部地域であります。心臓血管外科診療を行う施設は多くありません。一方で地域の高齢化は進んでおり、循環器治療が必要な患者様が多くいらっしゃいます。さらに首都圏と比較しても高齢者、全身疾患や併存症を有する患者様の割合が多いことも特徴です。このようなリスクの高い患者様に対しても大学附属病院の利点である他診療科および多職種との強力な連携のもとで診療を行っております。循環器内科との合同カンファレンス、麻酔科・手術室・集中治療室・臨床工学室との多職種カンファレンスを毎週開催しております。

2023 年度の 1 年間で心臓胸部大血管手術 233 例（TAVI; Transcatheter Aortic Valve Implantation を含む）、腹部大動脈瘤やその他の手術を含めて計 390 例の手術を実施しました。

診療成績については、手術症例数は飛躍的に増加している一方で、平均在院日数は以前と比較して短縮しており、先進的医療の成果と同時に診療成績の向上を示しております。

次年度目標

高齢化に伴い著しく増加している心臓大血管疾患に対する低侵襲治療に力を入れております。

重症大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁植え込み術（TAVI; Transcatheter Aortic Valve Implantation）が 2022 年より循環器内科とともにハートチームとして開始いたしました。ハートチームとしては現在 2 名の TAVI 指導医、2 名の TAVI 実施医がおり従来の外科的大動脈弁置換術が困難である高齢者や frail 症例に対して、質の高い治療を行っております。

僧帽弁疾患や大動脈弁疾患に対しては小切開や内視鏡で行う低侵襲心臓手術（MICS ; Minimally Invasive Cardiac Surgery）を積極的に行っております。この手術は 3-6cm の小さな皮膚切開から行う弁膜症手術であり順天堂グループの優れた成績を維持しながら低侵襲化に取り組むことに特に力を入れております。さらに 2024 年にはロボット支援下心臓手術を開始いたしました。

低侵襲治療分野においては大動脈瘤に対する開胸手術のみならず血管内治療も症例数が増加しその治療成績も向上しております。大動脈瘤に対するステントグラフトは耐術能に悖る患者様や frail 症例に対して行われる血管内治療ではありますが、従来の開胸手術とともにその成績は良好です。

近年、冠動脈インターベンションの適応拡大に伴い減少している冠動脈バイパス術（CABG）ではありますが、当科の心拍動下に血行再建を行うオフポンプ治療と長期予後を見据えたグラフト選択による CABG は術後の回復も早く、患者様やご紹介いただいた先生方に高い評価を頂いております。そのために遠方からの患者様も多くお越しになり、症例数は増加しております。

その他、地域の特性から大動脈解離、大動脈瘤などの急性大動脈症候群に対する緊急手術も数多く手掛けておりその成績も良好です。大動脈疾患に対しては、従来の開胸手術、ステントグラフト治療あるいは両方の治療を組み合わせることで、救命率の向上だけでなく遠隔期予後の改善も目標として治療を行っており、我々の取組みとその成果を学会に報告しております。

2024 年度も引き続き、臨床面では手術成績の向上により重点を置くこと、TAVI やロボット心臓手術などの先進的な医療を提供できる県東部地域の基幹病院としての地位を確固たるものとする 것을目標といたします。また学術活動もさらに活性化し、静岡病院から世界に向けた研究成果を発信できるよう尽力して参ります。

診療・研究・教育の3分野で、三学会構成心臓血管外科専門医認定機構における基幹施設にふさわしい活動を年間通じて継続してまいりますので、みなさま方からのご指導・ご鞭撻を今後ともよろしくお願い申し上げます。

研究・教育活動

① 原著（英文）

1. Lee J, Kajimoto K, Yamamoto T, Amano A, Tabata M. Concomitant mitral valve surgery versus no intervention in patients with moderate ischemic mitral regurgitation undergoing coronary artery bypass grafting: a propensity score analysis. Juntendo Medical Journal 2023 69(1)2-41. <https://doi.org/10.14789/jmj.JMJ22-0021-OA>

② 症例報告（英文）

1. Oda R, Oishi A, Kamikawa Y, Hata H, Kajimoto K. Totally endoscopic trans-mitral removal of a left ventricular apical thrombus through right thoracotomy in a patient with subacute anterior myocardial infarction: a case report. Gen Thorac Cardiovasc Surg Cases. 2023. 2:42
2. Oda R, Kajimoto K, Oishi A, Hata H, Kamikawa Y, Matsui Y, Fujita W, Nakamura Y, Singh YS, Shitara J, Takano S, Wada H, Shiozawa T, Ogita M, Wada R, Suwa S. A Case of Floating Aortic Arch Thrombosis in a Patient without Thrombophilia. Ann Vasc Dis. 2023;16:219-222.

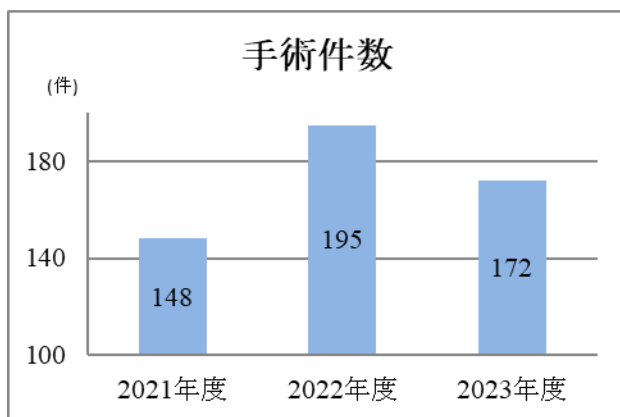
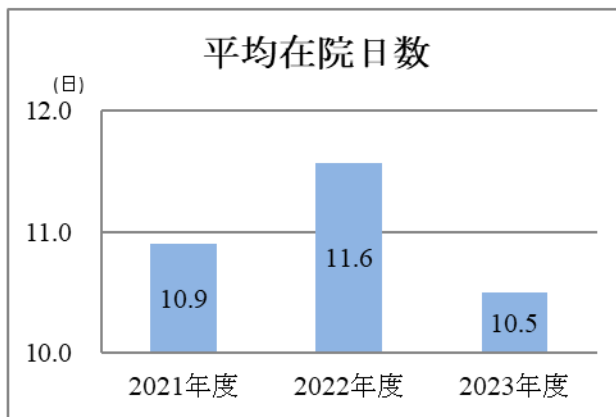
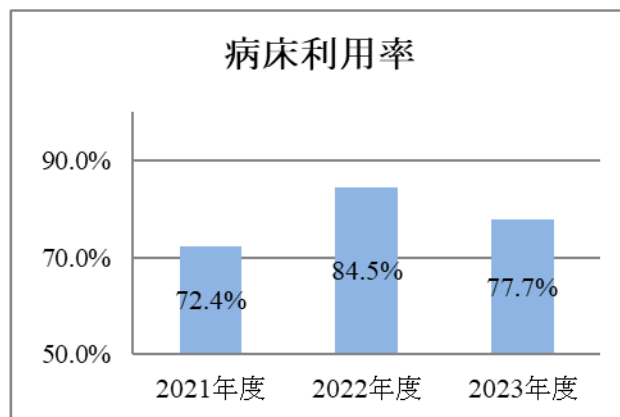
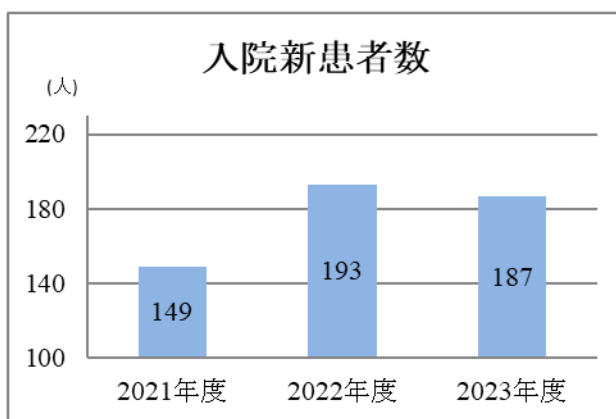
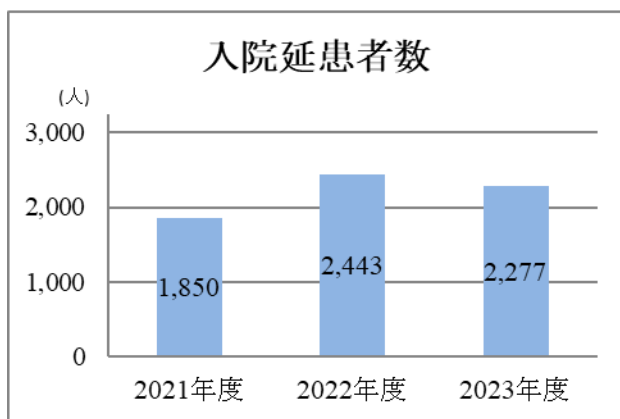
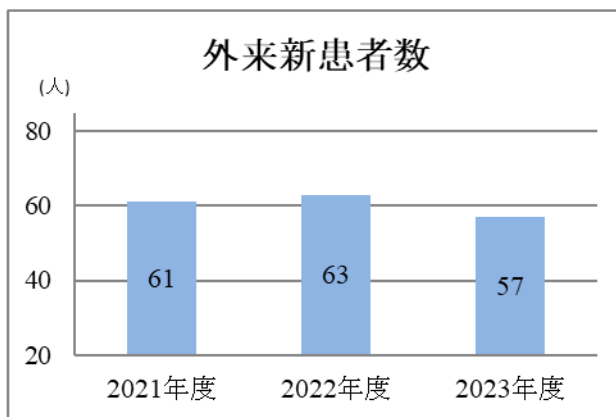
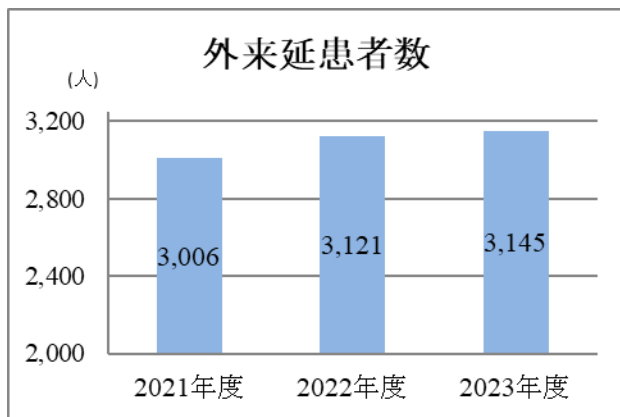
③ 学会発表および講演（国内）

1. 大石淳実：AFX 当院での使用経験. AFX Brushup Seminar in SHIZUOKA. 2023 年 1 月 27 日
2. 梶本 完：弁膜症に対する最新の外科治療と術後の日常診療：脂質管理を含めた optimal medical treatment のエヴィデンス. 伊東市医師会学術講演会. 2023 年 2 月 8 日
3. 森田美奈子：FLNA 遺伝子異常による胸部大動脈瘤・大動脈弁閉鎖不全症に対して Bentall+全弓部大動脈置換術を施行した一例. 日本胸部外科学会 関東甲信越地方会. 2023 年 2 月 25 日
4. 梶本 完：当院における TAVI の実際と重症 AS に対する治療戦略の現状. 第 15 回 静岡県東部心臓外科・循環器科連携の会. 2023 年 2 月 10 日
5. 梶本 完：弁膜症に対する最新の外科治療と術後の日常診療：脂質管理を含めた optimal medical treatment のエヴィデンス. 沼津市内科医会講演会. 2023 年 2 月 17 日
6. 梶本 完：胸腺腫に対する拡大胸腺全摘術と僧帽弁形成術を併施した 1 例:Barlow 病に対する bending plasty. 第 48 回静岡県心臓血管外科手術手技ビデオカンファレンス. 2023 年 4 月 22 日
7. 梶本 完：Perfect CABG のための基本手技. 日本冠動脈外科学会学術集会ランチョンセミナー. 2023 年 7 月 14 日
8. 大石淳実：心臓・大血管疾患に対する最新カテーテル治療. 環器疾患×ファブリー病コラボ WEB セミナー. 2023 年 7 月 21 日
9. 梶本 完：弁膜症概論と最新の外科治療：診断から退院後の診療まで, 循環器疾患最新 WEB セミナー. 2023 年 9 月 4 日

10. 梶本 完：進化する心臓病の外科治療：心不全パンデミックに備える地域医療連携．第1回 東部循環器診療連携の会．2023年10月10日
11. 梶本 完：増加する弁膜症と最新の治療．順天堂静岡病院市民公開講座．2023年11月6日
12. 森田美奈子：TAVI後感染性心内膜炎に対するTAVI弁摘出とステント付き生体弁での二弁置換での経験．静岡県心臓血管外科医会 第67回例会．2023年11月18日
13. 大石淳実：FROZENIX 当院での使用方法．プロフェッショナル FROZENIX の流儀．2023年11月28日

2-15 呼吸器外科

診療実績



研究・教育活動

1) 英文原著

1. Hideomi Ichinokawa, Kazuya Takamochi, Takuo Hayashi, Mariko Fukui, Aritoshi Hattori, Takeshi Matsunaga, Kenji Suzuki. Problems and countermeasures for surgical resection of primary pulmonary artery intimal sarcoma. Transl Cancer Res. 2023; 12: 359-366.

2) 英文症例報告

1. Hideomi Ichinokawa, Takashi Sowa, Mikiko Suzuki and Kenji Suzuki. Life-saving emergency surgery due to delayed massive hemothorax 7 days after fall injury: a case report. General Thoracic and Cardiovascular Surgery Cases. 2023; 2: 50.

3) 学会発表

国内発表

1. 気管支鏡下生検を契機に肺膿瘍を併発し右上中葉切除を施行した一例 曾和嵩、鈴木未希子、市之川英臣 令和4年度冬季例会、静岡、2023年2月25日
2. 転落受傷から7日後遅発性血胸のため緊急手術を行い救命した一例 市之川 英臣、曾和 嵩、鈴木 未希子、鈴木 健司 第40回日本呼吸器外科学会学術集会、新潟、2023年7月13日
3. 食道癌術後の胸腔間交通による両側緊張性気胸の1例 谷口敬、杉村裕志 第40回日本呼吸器外科学会学術集会、新潟、2023年7月13日
4. 縦隔発生の巨大脂肪肉腫に対し手術を施行した一例 曾和嵩、谷口敬、鈴木未希子、市之川英臣 令和5年度夏季例会、静岡 2023年7月29日
5. 経気管支鏡生検を契機に肺膿瘍を併発し手術を施行した肺癌症例の検討 市之川英臣、曾和嵩、谷口敬、鈴木未希子、鈴木健司 第64回日本肺癌学会総会、千葉、2023年11月2日

4) 賞

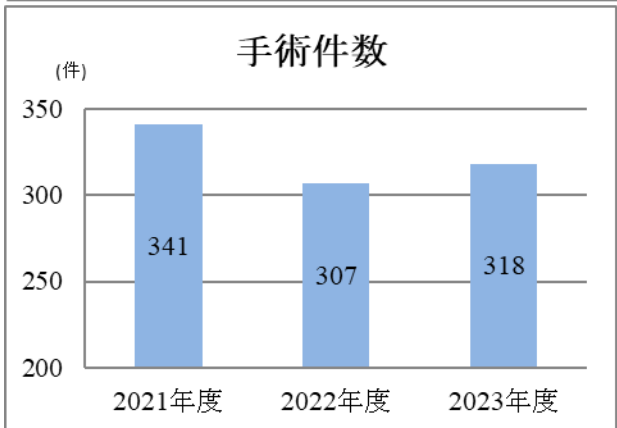
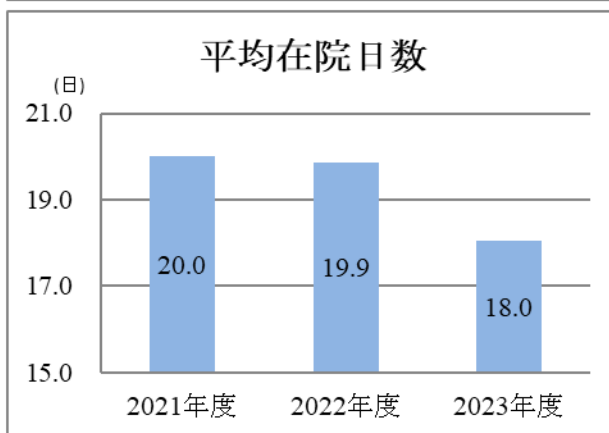
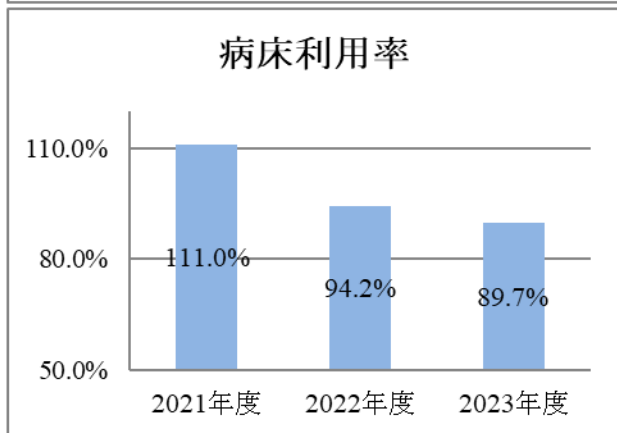
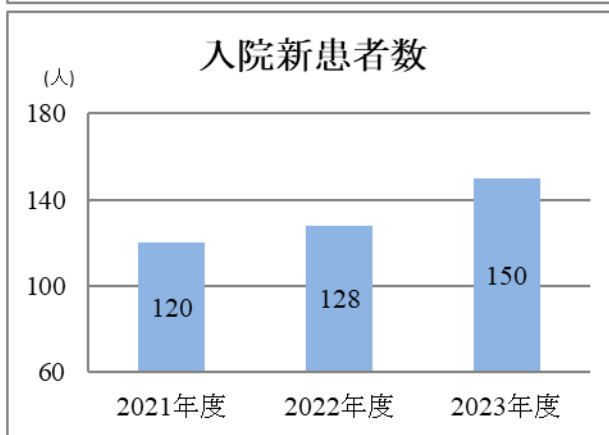
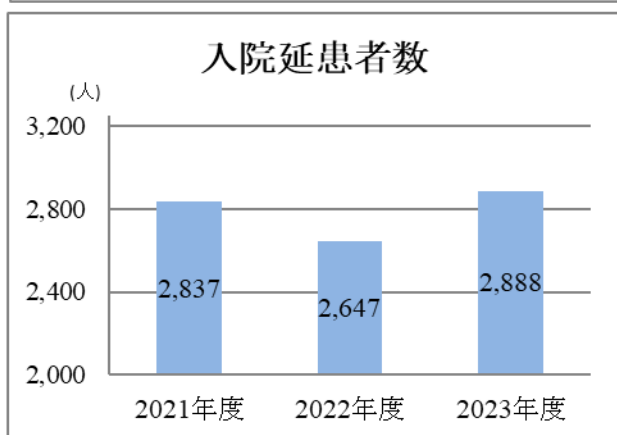
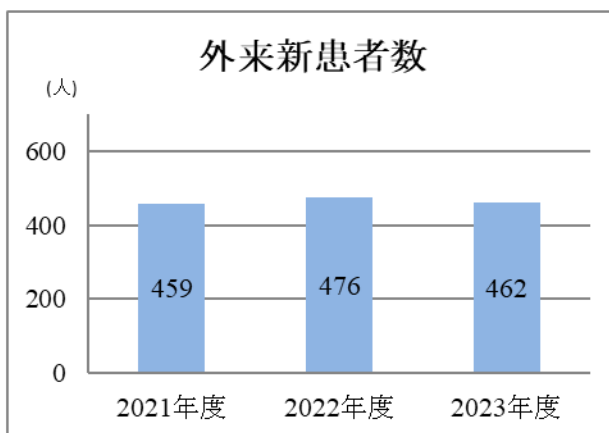
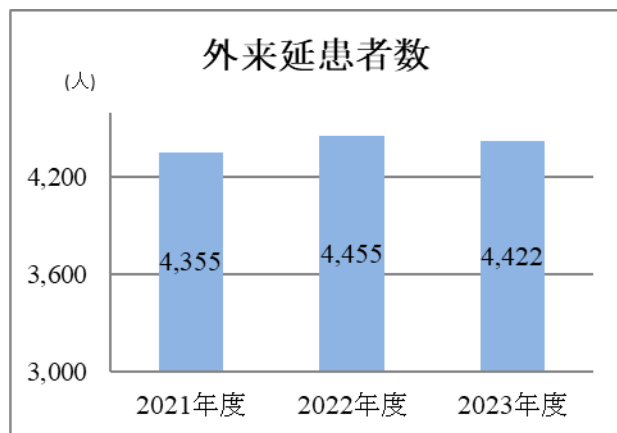
市之川英臣 2023年 General Thoracic and Cardiovascular Surgery 優秀論文賞受賞(2023.10.20) Can acute exacerbations occurring late after surgery with interstitial lung diseases be predicted?

5) 人事異動

谷口 敬 6月から亀田総合病院呼吸器外科から順天堂静岡病院呼吸器外科に赴任

2-16 形成外科

診療実績



研究・教育活動

学会発表（国内）

・シンポジウム

シンポジウム「足病必携マニュアル-形成外科医はこうやって傷を治す-」

荏部綾香、木原昂紀、田村崇行、久次米一輝、藤井美樹

形成外科医が考えるこだわりの外科的治療-術前計画と血流の温存、術後管理-

第4回 日本フットケア・足病医学会年次学術集会（2023年沖縄）

・一般発表

荏部綾香

難治性皮膚潰瘍に対する OASIS 細胞外マトリックスを使用した外来での治療経験

第4回 日本フットケア・足病医学会年次学術集会（2023年沖縄）

木原昂紀、千田大貴、藤井美樹、水野博司

保存的加療のみで良好な創治癒を得た小児術後創離開の2例

第66回日本形成外科学会総会・学術集会（2023年長崎）

木原昂紀、清水梓、佐野和史、水野博司

指切断に至らなかった塗料による母指高圧注入損傷の1例

第305回関東形成外科学会東京地方会（2023年東京）

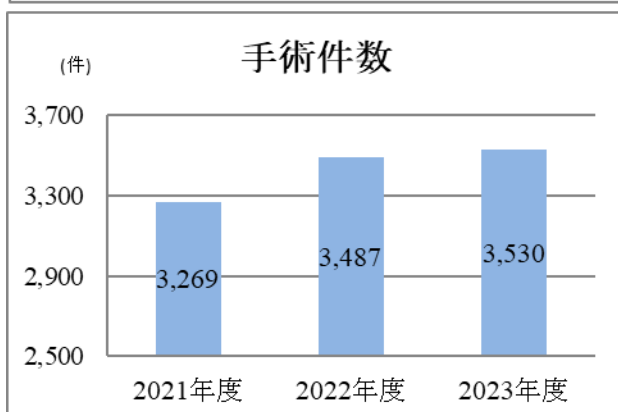
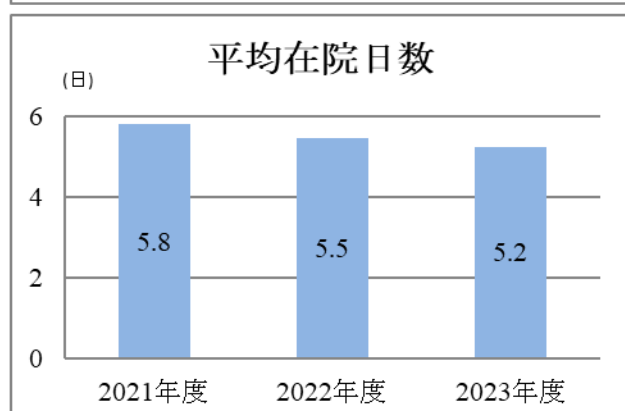
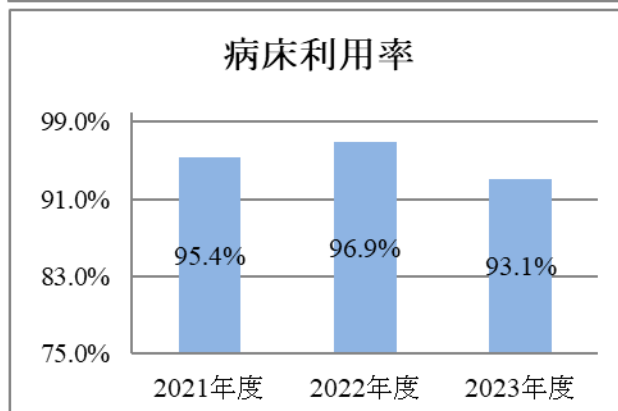
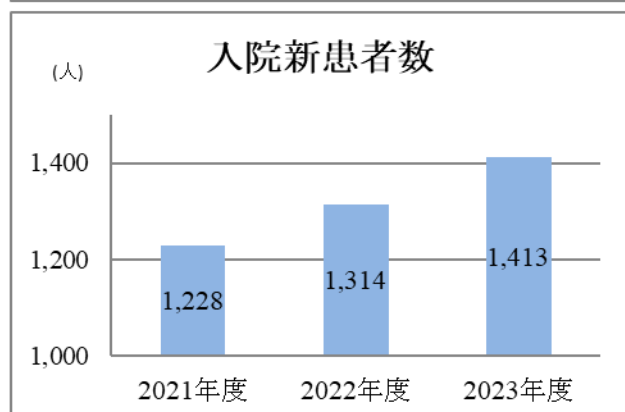
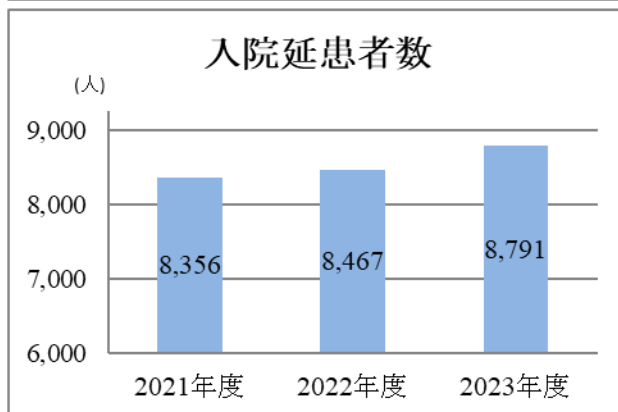
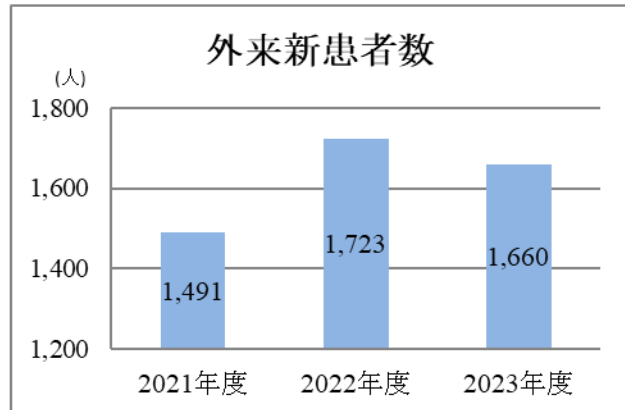
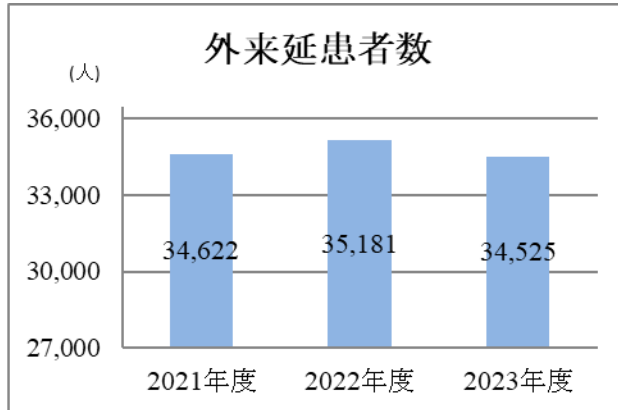
木原昂紀、清水梓、佐野和史、水野博司

患指を温存し得た塗料による母指高圧注入損傷の1例

第53回日本創傷治癒学会（2023年長野）

2-17 眼科

診療実績



研究・教育活動

原著（和文）

1. 土至田 宏, 小野 純治(小野眼科クリニック): フマル酸ケトチフェンと同薬剤含有コンタクトレンズの pH に関する検討(原著論文), 眼薬理, 37 (1), 29-33, 2023.08

原著（英文）

1. Toshida H, Kasahara T, Kiriya M, Iwasaki Y, Sugita J, Ichikawa K, Ohta T, Miyahara K. Early Clinical Outcomes of the First Commercialized Human Autologous Ex Vivo Cultivated Oral Mucosal Epithelial Cell Transplantation for Limbal Stem Cell Deficiency: Two Case Reports and Literature Review. Int J Mol Sci. 2023 May 18;24(10):8926.
2. Toshida H, Hayashi Y, Ichikawa K. Treatment for Intracorneal Hematoma by Anterior Chamber Gas Tamponade Combined with Keratocentesis. Eye Contact Lens. 2023 Jan 1;49(1):42-44.
3. Kuroda K, Toshida H, Sorita Y, Ichikawa K, Matsuzaki Y, Ohta T. Surgical punctal occlusion with combined lacrimal canaliculi cauterization and punctal suturing for severe dry eye. Journal of Ophthalmic and Vision Research. J Ophthalmic Vis Res. 2023 Apr 19;18(2):143-149.
4. Sakakura S, Inagaki E, Ochiai Y, Yamamoto M, Takai N, Nagata T, Higa K, Sato Y, Toshida H, Murat, Hirayama M, Ogawa Y, Negishi K, Shimmura S. A Comprehensive Assessment of Tear-Film-Oriented Diagnosis (TFOD) in a Dacryoadenectomy Dry Eye Model. Int J Mol Sci. 2023 Nov 20;24(22):16510.

【総説】

1. 土至田 宏: CL ケア教室(第 81 回) HCL ケアの歴史(解説), 日本コンタクトレンズ学会誌, 65(1), 37-4, 2023.03
2. 市川 浩平: 【今こそ学びたい!眼科手術手技の ABC】 白内障手術 IOL 二次挿入術・27G 鑷子を用いた眼内レンズ強膜内固定術(解説), OCULISTA, 120 号, 93-101, 2023.03
3. 坂根 由梨, 土至田 宏: コンタクトレンズ用語集(第 42 回) 非球面レンズ. 日本コンタクトレンズ学会誌, 65(2), 92, 2023.06
4. 太田俊彦: Marfan 症候群小児の脱臼水晶体切除の適応, 術式ならびに術後屈折矯正の選択は?, 眼科手術 36(4), 585-590, 2023. 10
5. 土至田 宏: 【今さら聞けないことをあえてベテランに聞く 外来処置・小手術で求められる手技のコツとこだわり】(第 3 章)角膜 ソフトコンタクトレンズ装用 成人(角膜保護用)(解説), 眼科グラフィック, 2023 増刊, 186-190, 2023.10
6. 太田 俊彦: 近代の眼内レンズ強膜内固定術, IOL & RS 37(4):575-582, 2023,12

【報告】

1. 朝岡 聖子, 小森 翼, 太田 俊彦, 林 雄介, 浅田 洋輔, 春日 俊光, 松田 彰: マイクロフック線維柱帯切開術眼内法における追加手術施行群と追加手術非施行群の比較, 80 回 静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2023. 1.21
2. 小野 純治, 土至田 宏, 太田 俊彦: レンティスコンフォート®とテクニスアイハンス®の臨床成績比較, 80 回 静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2023. 1.21
3. 桐山 雅道, 土至田 宏, 小森 翼, 大谷 洋揮, 朝岡 聖子, 市川 浩平, 杉田 丈夫, 太田 俊彦: 凍結

保存強膜片を施行した 5 例. 第 80 回 静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2023. 1.21

4. 土至田 宏. 口腔粘膜由来上皮細胞シート移植後角膜上皮の特性. 第 6 回東海角膜クラブ, 静岡市, 2023.7.15
5. 桐山 雅通, 土至田 宏, 岩崎 有真, 菊池 遙太, 笠原 知人, 小森 翼, 大谷 洋揮, 朝岡 聖子, 市川 浩平, 杉田 丈夫, 平井 麻紀, 太田 俊彦: 失明眼から僚眼へ自己角膜移植を行った 1 例. 第 81 回 静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2023. 8.19
6. 朝岡 聖子: アーメド緑内障バルブのチューブ結紮例に関する検討, JON の会, 東京, 2023.7.29
7. 平井 麻紀, 太田 俊彦: 家族性滲出性硝子体網膜症の線維性血管膜による黄斑形態変化, 令和 5 年度静岡県東部眼科医会放談会, 沼津市, 2023.9.14
8. 菊池 遙太, 太田 俊彦: 網膜分層円孔の病型別述語成績に関する検討(第 2 報), 令和 5 年度静岡県東部眼科医会放談会, 沼津市, 2023.9.14
9. 朝岡 聖子: バックル眼に対する緑内障手術, 第 2 回静岡緑内障フォーラム, 静岡市, 2023.10.26

【症例報告】 全著者名：論文名、掲載誌名、掲載年；巻（号）：頁～頁

1. 太田 俊彦: 医師の働き方改革 2024 年の施行に向けて 地域に密着した病院の現状と問題点, 日本眼科学会雑誌, 127 巻臨増, 77, 2023.03"
2. 小野 純治(小野眼科クリニック), 土至田 宏, 太田 俊彦: CNIS Synergy と PanOptix の臨床成績比較, 眼科臨床紀要, 16(3), 228, 2023.03
3. 朝岡 聖子, 石川 千尋, 市川 浩平, 平井 麻紀, 土至田 宏, 太田 俊彦: 両眼に高血圧性脈絡膜症による網膜剥離をきたした 1 例, 眼科臨床紀要, 16(3), 228-229, 2023.03
4. 朝岡 聖子, 小森 翼, 林 雄介, 浅田 洋輔, 春日 俊光, 松田 彰, 太田 俊彦: マイクロフック線維柱帯切開術眼内法における追加手術施行群と追加手術非施行群の比較, 日本眼科学会雑誌, 127 巻臨増, 297, 2023.03"
5. 菊池 遙太, 小森 翼, 大谷 洋揮, 朝岡 聖子, 市川 浩平, 杉田 丈夫, 平井 麻紀, 土至田 宏, 太田 俊彦: 合併症フリーを目指した 27G 鑷子併用フランジ固定変法の術後成績, 眼科臨床紀要, 16(3), 228, 2023.03"
6. 朝岡 聖子, 小森 翼, 太田 俊彦, 林 雄介, 浅田 洋輔, 春日 俊光, 松田 彰: マイクロフック線維柱帯切開術眼内法における追加手術施行群と追加手術非施行群の比較, 眼科臨床紀要, 16(8), 609, 2023.08
7. 小野 純治(小野眼科クリニック), 土至田 宏, 太田 俊彦: レンティスコンフォートとテクニスアイハンスの臨床成績比較, 眼科臨床紀要, 16(8), 609, 2023.08
8. 桐山 雅通, 土至田 宏, 小森 翼, 大谷 洋揮, 朝岡 聖子, 市川 浩平, 杉田 丈夫, 太田 俊彦: 凍結保存強膜片を用いて強膜移植術を施行した 5 例, 眼科臨床紀要, 16 (8), 607-608, 2023.08
9. 市川 浩平, 菊池 遙太, 小森 翼, 大谷 洋揮, 朝岡 聖子, 杉田 丈夫, 平井 麻紀, 土至田 宏, 太田 俊彦: 合併症フリーを目指した 27G 鑷子併用フランジ固定変法の術後成績, 眼科臨床紀要, 16(10), 728, 2023.10"

【著書】

1. 土至田宏: 細隙灯顕微鏡の徹底活用 キミはどこまで見えているか. 眼科プラクティス 2, 108-112, 文光堂、2022.
2. 土至田宏: 第 6 章 角膜疾患. 今日の眼疾患治療指針 第 4 版、454-455, 医学書院、2022.

3. 土至田宏：眼薬理総論—点眼剤を通じて考える身近な眼薬理学—. Monthly Book OCULISTA 107, 1-10, 2022.
4. 土至田宏：コンタクトレンズ処方の基本. 年代別・目的別 眼鏡・コンタクトレンズ処方—私はこうしている—. Monthly Book OCULISTA 112, 10-18, 2022.
5. 太田俊彦：IOL 強膜内固定術 advanced T-fixation technique の手術手技. 『白内障手術パーフェクトマスター 改訂増補版』, 中山書店, 125-129, 2022
6. 太田俊彦：L-ポケット切開. 『白内障手術パーフェクトマスター 改訂増補版』, 中山書店, 328-331, 2022
7. 市川浩平：白内障手術—IOL 二次挿入術・27G 鑷子を用いた眼内レンズ強膜内固定術. 今こそ学びたい！眼科手術手技の ABC. 眼科オクリスタ 120：93-102, 2023
8. 太田俊彦：Advanced T-fixation technique—27G 鑷子を用いた IOL 強膜内固定術. 白内障手術パーフェクトマスター 谷口重雄 編、中山書店：12-129, 2023

【特別講演・招待講演】

1. 太田 俊彦：強膜内固定, 第 46 回日本眼科手術学会総会, 東京都, 2023.1.27～29.
2. 土至田 宏：角膜・結膜・強膜「角膜・結膜・強膜」. 第 46 回日本眼科手術学会総会, 東京, 2023.1.27～30
3. 土至田 宏：HCL のレンズケアの歴史. 第 1 回コンタクトレンズエビデンスクラブ, 名古屋, 2023.3.11-12 (招待講演)
4. 土至田 宏：LSCD 治療の現場に踏み込む. Nidek・J-TEK Web セミナー. 2023.3.16 (招待講演)
5. 太田 俊彦：Secondary IOL Fixation、International Symposium, 第 127 回日本眼科学会総会, 東京, 2023.4.6～9 (座長)
6. 太田 俊彦：地域に密着した病院の現状と問題点, 第 127 回日本眼科学会総会, 東京, 2023.4.6～9 (シンポジウム)
7. 土至田 宏：+α のコンタクトレンズによる屈折矯正, 第 127 回日本眼科学会総会, 東京, 2023.4.6～9 (教育セミナー)
8. 土至田 宏：原理と角膜への影響, 第 127 回日本眼科学会総会, 東京, 2023.4.6～9 (オルソケラトロジー講習会)
9. Toshihiko Ohta：P-fixation Technique Aiming for a Complication-Free Intrasceral IOL, Secondary IOL Fixation, 米国白内障・屈折矯正手術学会 (2023 ASCRS Annual Meeting), サンディエゴ(アメリカ), 2023.5.5～8 (Instruction Course)
10. 土至田 宏：基礎から学ぶ神経とドライアイ. 第 16 回箱根ドライアイクラブ, 愛知, 2023.5.27～28 (招待講演)
11. 太田 俊彦：眼内レンズ二次挿入術の基本手技と合併症「鑷子を用いた強膜内固定術の基本手技と合併症」. 第 38 回 JSCRS 学術総会, 札幌市, 2023.6.22～24 (教育セミナー、座長・演者)
12. 太田 俊彦：白内障手術とテクノロジー ～ローテク、ハイテクからニューテクノロジーまで～「眼内レンズ強膜内固定術の新しい試み」, 第 38 回 JSCRS 学術総会, 札幌市, 2023.6.22～24 (シンポジウム)
13. 太田 俊彦：合併症・難症例, 第 38 回 JSCRS 学術総会, 札幌市, 2023.6.22～24 (座長)
14. 土至田 宏：原理と角膜への影響, 第 65 回コンタクトレンズ学会総会(フォーサム), 大阪, 2023.7.7～9 (オルソケラトロジー講習会)
15. 土至田 宏：ユーザー調査, 他, 第 65 回コンタクトレンズ学会総会(フォーサム), 大阪, 2023.7.7～10 (座長)
16. 太田 俊彦：白内障手術のトラブルシューティング, 中央区眼科集談会, 聖路加国際病院, 東京, 2023.7.14 (特別講演)

17. 土至田宏：アレルギー性結膜炎を有するコンタクトレンズ装用者への新たな選択肢アレルケア®の位置づけと適応. 新潟市眼科医会セミナー2023, 新潟市, 2023.9.25 (特別講演)
18. 太田 俊彦：眼内レンズ強膜内固定術（鑷子法）の基本手技と合併症, これから始める強膜内固定術 A to Z, 第 77 回日本臨床眼科学会, 東京, 2023.10.6～9 (インストラクションコース、座長・演者)
19. 太田 俊彦：毛様体扁平部からのアプローチ, 前眼部術者のための破囊合併症処理, 第 77 回日本臨床眼科学会, 東京, 2023.10.6～9 (インストラクションコース)
20. 土至田 宏：原理と角膜への影響, 第 77 回日本臨床眼科学会総会, 東京, 2023.10.6～9 (オルソケラトロジー講習会)
21. 土至田 宏：知っておきたいコンタクトレンズの役に立つお話し その 2. 第 77 回日本臨床眼科学会, 東京, 2023.10.6～9 (インストラクションコース)
22. 太田 俊彦：労働災害と眼科関連疾患, 三島労災指定医協会主催「労働医学講習会」, 三島市, 2023.10.19 (特別講演)
23. 太田 俊彦：強膜内固定術の最近の話題, 興和社内研修会, 三島市, 2023.11.9 (招待講演)

【学会発表】

1. 朝岡 聖子, 小森 翼, 太田 俊彦, 林 雄介, 浅田 洋輔, 春日 俊光, 松田 彰：マイクロフック線維柱帯切開術眼内法における追加手術施行群と追加手術非施行群の比較, 80 回 静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2023. 1.21
2. 小野 純治 (小野眼科クリニック), 土至田 宏, 太田 俊彦： レンティスコンフォート®とテクニスアイハンス®の臨床成績比較, 80 回 静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2023. 1.21
3. 桐山 雅道, 土至田 宏, 小森 翼, 大谷 洋揮, 朝岡 聖子, 市川 浩平, 杉田 丈夫, 太田 俊彦：凍結保存強膜片を施行した 5 例. 第 80 回 静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2023. 1.21
4. 菊池 遥太, 小森 翼, 大谷 洋揮, 市川 浩平, 杉田 丈夫, 平井 麻紀, 土至田 宏, 太田 俊彦：27G 鑷子併用フランジ固定法における IOL 比較. 第 46 回日本眼科学術学会学術総会, 東京, 2023.01.27～29 (一般講演)
5. 土至田 宏, 笠原 知人, 杉田 丈夫, 市川 浩平, 太田 俊彦：オキュラルの短期成績, 角膜カンファレンス 2023, 第 47 回日本角膜学会総会, 横浜市, 2023.2.9～11 (一般講演)
6. 土至田 宏, 笠原 知人, 杉田 丈夫, 市川 浩平, 太田 俊彦：with コロナ時代における自己口腔粘膜由来上皮細胞シート作成のための口腔粘膜組織採取法の工夫, 第 22 回日本再生医療学会, 京都, 2023.3.23～25 (一般講演)
7. 平井 麻紀：13 歳の両眼黄斑円孔手術症例, ルスツ・硝子体手術フォーラム 2023, 北海道, 2023.2.3～4 (一般講演)
8. 土至田 宏：オキュラルの短期成績, 角膜カンファレンス 2023, 横浜市, 2023.2.9～11 (一般講演)
9. 朝岡 聖子, 小森 翼, 林 雄介, 浅田 洋輔, 春日 俊光, 松田 彰, 太田 俊彦：マイクロフック線維柱帯切開術眼内法における追加手術施行群と追加手術非施行群の比較, 第 127 回日本眼科学会総会, 東京, 2023.4.6～9 (学術展示)
10. Toshihiko Ohta, Kohei Ichikawa, Hiroshi Toshida, Shintaro Nakao, Athiya Agarwal, Amar Agarwal, George H.H. Beiko : P-fixation Technique Aiming for a Complication-Free Intrasceral IOL Fixation, 米国白内障・屈折矯正手術学会 (2023 ASCRS Annual Meeting), サンディエゴ(アメリカ), 2023.5.5～8. (Film Festival)
11. Jobu Sugita, Toshihiko Ohta, Kohei Ichikawa, Hiroshi Toshida, Shintaro Nakao, Athiya Agarwal,

- Amar Agarwal, George H.H. Beiko : Postoperative Results of P-Fixation Technique Aiming for Complication-Free Intraclear IOL Fixation 米国白内障・屈折矯正手術学会 (2023ASCRS Film Festival, ASCRS Annual Meeting), San Diego USA, 2023.5.5～8. (一般講演)"
12. Toshihiko Ohta, Yota Kikuchi, Kohei Ichikawa, Hiroshi Toshida, Amar agarwal, Athiya agarwal,
George Beiko: P-fixation technique aiming for a complication-free intraclear IOL fixation, 第 35 回 アジア太平洋白内障屈折矯正手術学会(APACRS), Web 参加, 2023.6.8～10 (ビデオ)
 13. 小森 翼, 土至田 宏, 太田 俊彦, 小野 純治 (小野眼科クリニック): レンティスコンフォート®とテクニスイハンス®の臨床成績比較, 第 38 回 JSCRS 学術総会, 札幌市, 2023.6.22～24 (一般講演)
 14. 岩崎 有真, 市川 浩平, 土至田 宏, 太田 俊彦: 同一症例で縫着術と強膜内固定術が施行された 1 例, 第 38 回 JSCRS 学術総会, 札幌市, 2023.6.22～24 (一般講演)
 15. 土至田 宏. 口腔粘膜由来上皮細胞シート移植後角膜上皮の特性. 第 6 回東海角膜クラブ, 静岡市, 2023.7.15 (一般講演)
 16. 桐山 雅通, 土至田 宏, 岩崎 有真, 菊池 遥太, 笠原 知人, 小森 翼, 大谷 洋揮, 朝岡 聖子, 市川 浩平, 杉田 丈夫, 平井 麻紀, 太田 俊彦: 失明眼から僚眼へ自己角膜移植を行った 1 例. 第 81 回 静岡県眼科医会集談会, 静岡市, 2023. 8.19
 17. 朝岡 聖子: アーメド緑内障バルブのチューブ結紮例に関する検討, JON の会, 東京, 2023.7.29
 18. 平井 麻紀, 太田 俊彦: 家族性滲出性硝子体網膜症の線維性血管膜による黄斑形態変化, 令和 5 年度静岡県東部眼科医会放談会, 沼津市, 2023.9.14
 19. 菊池 遥太, 太田 俊彦: 網膜分層円孔の病型別述語成績に関する検討(第 2 報), 令和 5 年度静岡県東部眼科医会放談会, 沼津市, 2023.9.14
 20. 土至田 宏, 笠原 知人, 桐山 雅通, 岩崎 有真, 市川 浩平, 杉田 丈夫, 太田 俊彦, 中尾 新太郎: ヒト自己口腔粘膜由来上皮細胞シート移植後の角膜上皮欠損発症リスクに関する検討, 第 77 回日本臨床眼科学会, 東京, 2023.10.6～9 (一般講演)
 21. 朝岡 聖子, 小森 翼, 林 雄介, 浅田 洋輔, 土至田 宏, 松田 彰, 太田 俊彦, 中尾 新太郎: アーメド緑内障バルブのチューブ結紮例に関する検討, 第 77 回日本臨床眼科学会, 東京, 2023.10.6～9 (学術展示)
 22. 小森 翼, 土至田 宏, 桐山 雅通, 太田 俊彦, 中尾 新太郎: ネコ咬傷による角膜裂傷の 1 例, 第 77 回日本臨床眼科学会, 東京, 2023.10.6～9 (学術展示)
 23. 桐山 雅通, 土至田 宏, 小森 翼, 大谷 洋揮, 朝岡 聖子, 市川 浩平, 杉田 丈夫, 太田 俊彦, 中尾 新太郎: 難治性角膜潰瘍による角膜穿孔防止に強膜移植術が有効であった 1 例, 第 77 回日本臨床眼科学会, 東京, 2023.10.6～9 (学術展示)
 24. 朝岡 聖子: バックル眼に対する緑内障手術, 第 2 回静岡緑内障フォーラム, 静岡市, 2023.10.26
 25. Yota Kikuchi, Kohei Ichikawa, Toshihiko Ohta, Takenori Inomata, Shintaro Nakao, Athiya Agarwal,
Amar Agarwal, George H.H. Beiko : Postoperative Results of P-Fixation Technique Aiming for Complication-Free Intraclear IOL Fixation, 米国眼科学会議 (American Academy of Ophthalmology : AAO), サンフランシスコ(アメリカ), 2023.11.3～6. (Poster Discussion) (Selected as Best Poster)
 26. 平井 麻紀, 小森 翼, 朝岡 聖子, 市川 浩平, 杉田 丈夫, 土至田 宏, 太田 俊彦, 中尾 新太郎: 家族性滲出性硝子体網膜症の線維血管膜による黄斑形態変化, 第 62 回日本網膜硝子体学会総会, 横浜市, 2023.11.24～26 (学術展示)
 27. 市川 浩平, 菊池 遥太, 杉田 丈夫, 土至田 宏, 太田 俊彦, 中尾 新太郎: 分層黄斑円孔の病別術後成績に関する検討, 第 62 回日本網膜硝子体学会総会, 横浜市, 2023.11.24～26

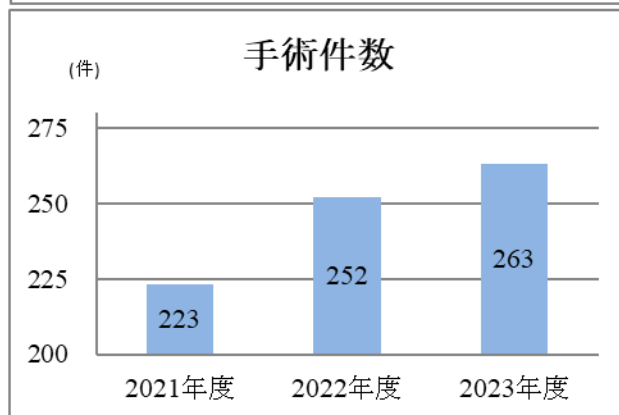
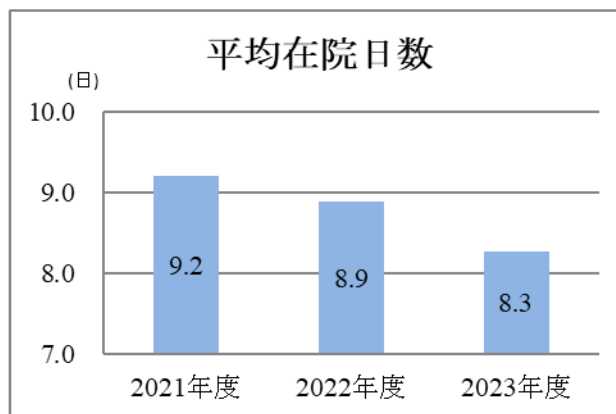
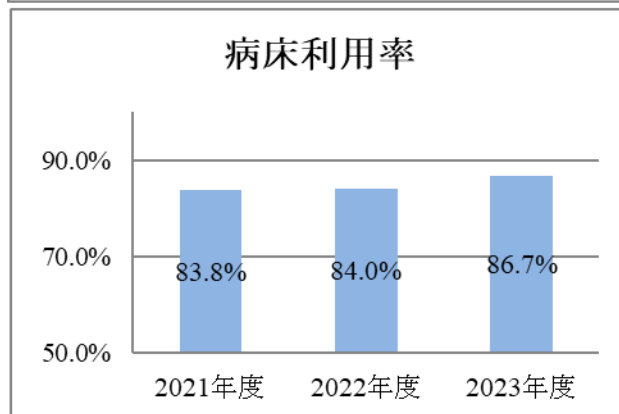
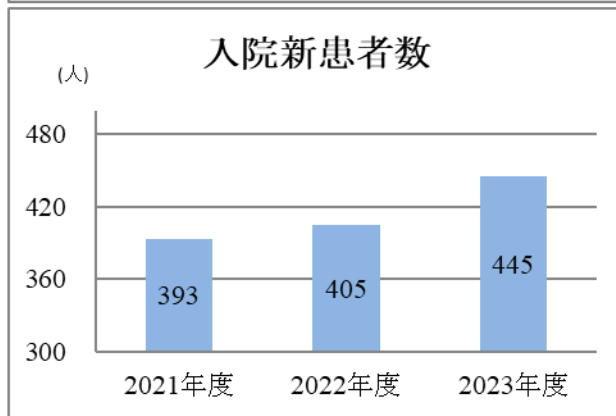
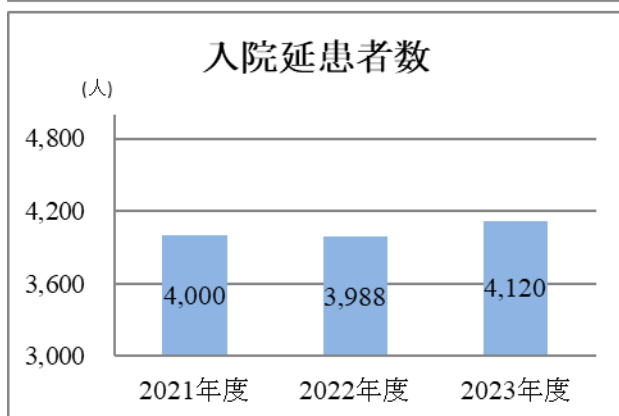
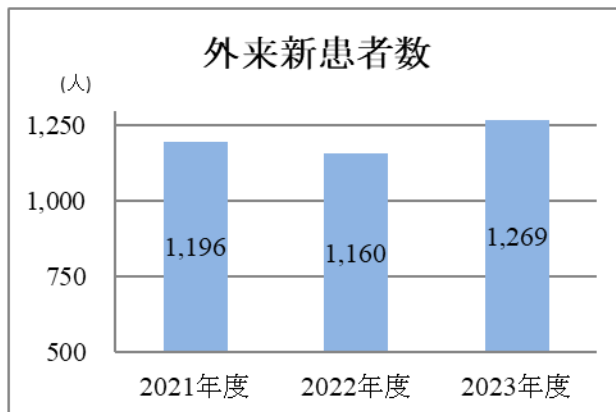
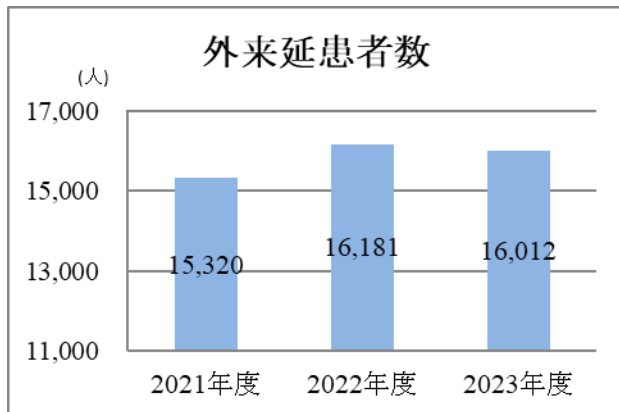
(一般講演)

【その他（広報活動含む）】

1. 太田 俊彦：私の駆け出し時代， 銀海 No.263， 千寿製菓， 16， 2023

2-18 耳鼻咽喉科

診療実績



研究・教育活動

英文

Kusunoki T, Wada R. Emergency surgery for a giant laryngeal granuloma that caused dyspnea
BMJ Case Rep 2024;17:e258227.doi:10.1136/bcr-2023・258227

Kusunoki T, Wada R. Case with translating to multiple myeloma at 8 years after radiation therapy
for extramedullary plasmacytoma of the larynx BMJ Case Rep 2024;
17:e256747.doi:10.1136/bcr-2023-256747

Kidokoro Y, Kusuoki T, Matsumoto T; Wada R, Matsumoto F. A case report of superficial solitary
fibrous tumor in the right parotideomasseteric region Ear, Nose & Throat Journal 2024
DOI:10.1177/01455613241237771

Hara S, Kusunoki T, Nakagawa H, Kamiya K, Toyoda Y, Takata Y, Anzai T, Furukawa M, Okada
H, Nakayama T, Ikeda K, Matsumoto F. Impact of Reduced Acidic Earwax pH and
Earwax-Determinant Genotypes in Acquired Middle Ear Cholesteatoma. Otolaryngol Head Neck
Surg 2024, Vol 00(00)1-7

和文

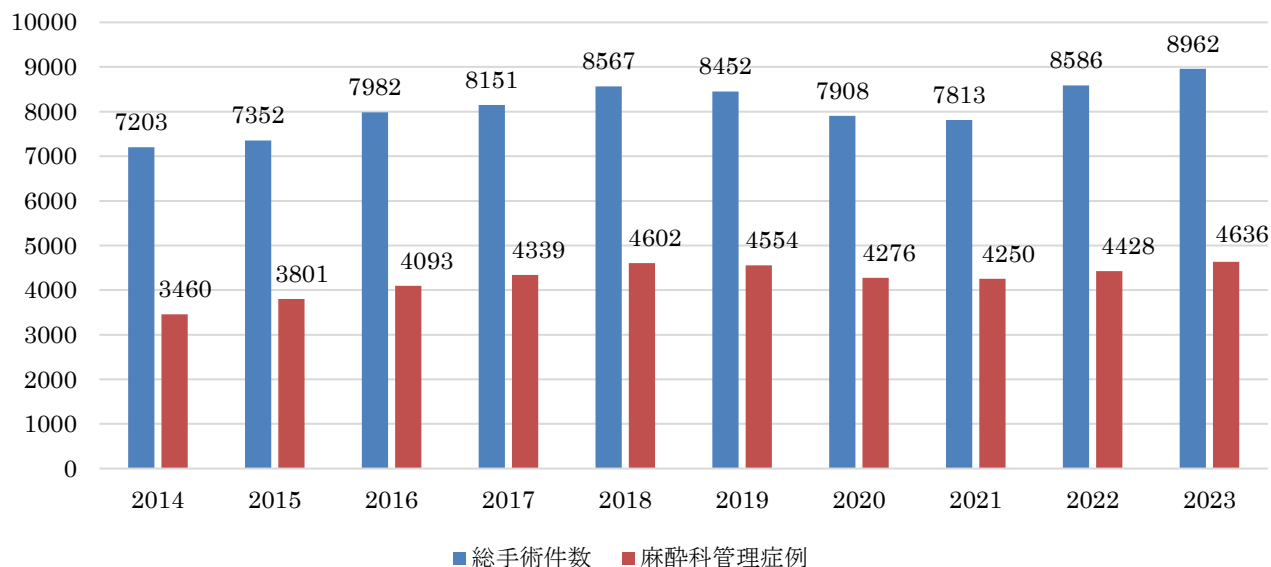
楠 威志：災害時医療機関機能停止時における、気道系疾患に対する「自宅でできる腹式呼吸を重点に
置いた音声訓練法」の有用性. 令和4年度静岡災害医学研究センター紀要 24－25；2023

科研費

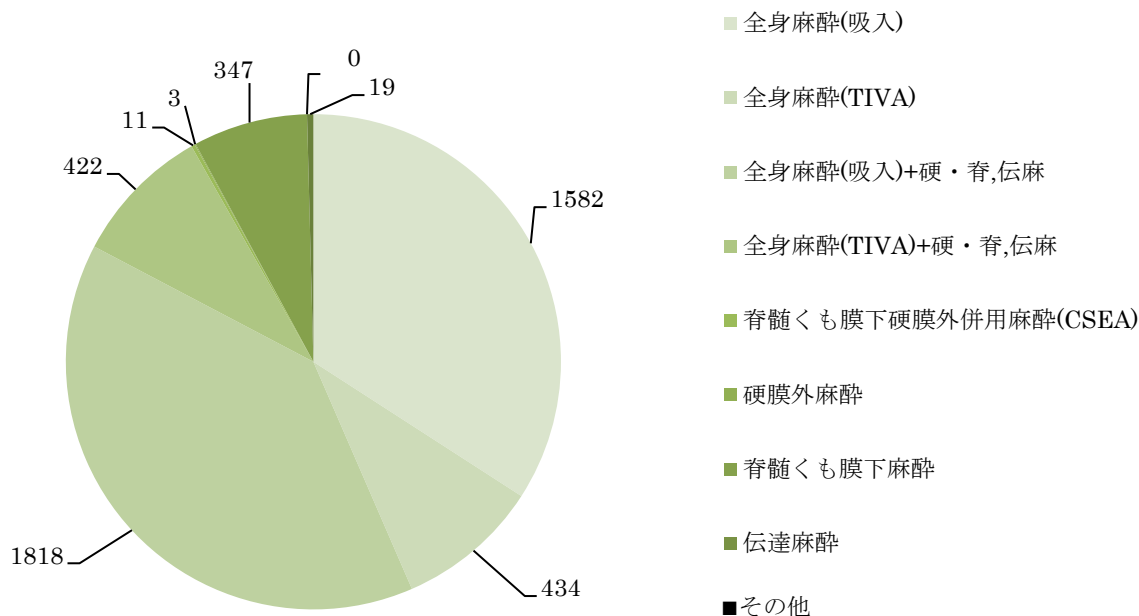
楠 威志	2024 年度科学研究費補助金	基盤研究 C	新規（研究代表者）
楠 威志	2021 年度科学研究費補助金	基盤研究 C	継続（研究代表者）
楠 威志	2018 年度科学研究費補助金	基盤研究 C	継続（研究代表者）
本間博友	2019年度科学研究費補助金	基盤研究C	継続（研究代表者）
城所淑信	2023年度科学研究費補助金	基盤研究C	継続（研究代表者）

診療実績

総手術件数と麻酔科管理症例の推移



2023年麻酔法別手術件数(麻酔科管理症例)



教育研究活動

1.原著 (英文)

- ・ Sonoko Sakuraba, Takeshi Omae, Shuko Nojiri, Keito Kho, Sho Yamazaki, Masateru Kumemura, Lateral Femoral Cutaneous Nerve Block for Postoperative Pain Control After Total Hip Arthroplasty Using the Direct Anterior Approach : A Single-blinded Randomized Control Trial. Juntendo Medical Journal 2023.69(2),116-123 (学位論文)

- ・ Keito Kho, Onishi Tatsuki, Sonoko Sakuraba, Sho Yamazaki, Hajime Yako, Takeshi Omae, Neuropathies Following an Ultrasound-Guided Axillary Brachial Plexus Block. Local and Regional Anesthesia 2023;16 123-132

2.総説

- ・ 尾前毅 周術期心房細動 臨床麻酔 Vol.47 No.5 682-690 (株シービーアール 2023年6月)

3.症例報告

- ・ 岩佐美, 久米村正輝, 櫻庭園子, 洪景都, 尾前毅 特発性血小板減少症患者の術後鎮痛に持続 TAPAB が有効であった 1 症例 麻酔 Vol.72 No2 129-133 克誠堂出版(株) 2023年2月

4.学会発表(国内)

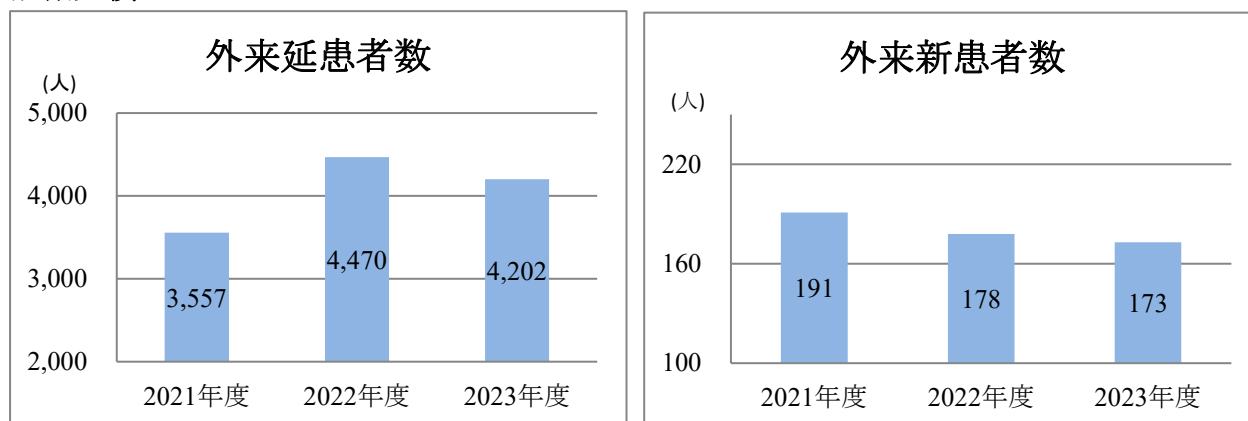
- ・ 八子一, 久米村正輝, 山崎翔, 中村萌, 櫻庭園子, 洪景都 帝王切開術後鎮痛における多孔式カテーテルによる創部への局所麻酔薬投与の実施経験 日本区域麻酔科学会 第10回学術集会 大阪府 2023.4.14
- ・ 尾前毅 ポスターディスカッション: 循環(臨床) コメンテータ 日本麻酔科学会第70回学術集会 神戸市 2023.6.2
- ・ 前原知典, 櫻庭園子, 久米村正輝, 尾前毅, 太田正孝, 山崎翔 脊椎手術におけるレミマゾラムとプロポフォルの麻酔導入時の血圧に与える影響についての後ろ向き検討 日本麻酔科学会第70回学術集会 神戸市 2023.6.2
- ・ 吉河惇, 洪景都, 中村萌 特発性三叉神経痛と診断された下顎抜歯後の下歯槽神経腫の1症例 日本ペインクリニック学会第57回学術集会 佐賀市 2023.7.14
- ・ 片山彩夏, 八子一, 岩佐美, 山崎翔, 尾前毅 周術期の厳密な体温管理により安全に管理できた寒冷凝集素症患者の全身麻酔の一例 日本麻酔科学会 東海・北陸支部第21回学術集会 浜松市 2023.9.2
- ・ 片山彩夏, 山崎翔, 八子一, 尾前毅 周術期に発生した難治性の上室性不整脈が、気腹中のみ洞調律に復帰した一例 日本心臓血管麻酔学会第28回学術大会 奈良県 2023.9.17
- ・ 洪景都, 片山彩夏, 山崎翔, 櫻庭園子, 八子一, 尾前毅 鎮静下経カテーテル大動脈弁置換術(TAVI)中にアナフィラキシーショックを発症した1例 日本臨床麻酔学会第43回大会 宮崎市 2023.12.7

広報活動(講師等)

- ・ 八子一, 山崎翔, 櫻庭園子, 久米村正輝 超音波ガイド神経ブロックハンズオンセミナー実技実習 第1回静岡県東部地区 神経ブロックハンズオンセミナー 伊豆の国市 2023.3.4
- ・ 八子一 講義①上肢ベーシック 第1回静岡県東部地区 神経ブロックハンズオンセミナー 伊豆の国市 2023.3.4
- ・ 櫻庭園子 講義②下肢ベーシック 第1回静岡県東部地区 神経ブロックハンズオンセミナー 伊豆の国市 2023.3.4 日本区域麻酔学会 第10回学術集会 大阪府 2023.4.14
- ・ 久米村正輝 TAPAブロックの現状と今後の展望 ランチョンセミナー6(共催セミナー) 日本区域麻酔学会 第10回学術集会 大阪府 2023.4.15
- ・ 八子一 第1回鹿児島区域麻酔サマーセミナー インストラクター 鹿児島県 2023.7.8

2-20 放射線科

診療実績



研究活動

【臨床研究課題】

- 順天堂大学における Real World Data 活用促進を目的とした、Feasibility 検証用の集計データ供覧の枠組み構築と基盤となるデータウェアハウス整備：後ろ向き非介入研究（研究課題番号：E21-0182、研究実施期間 2021 年 11 月 26 日～2025 年 10 月 31 日、順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会）

【論文発表】

- Irie R, Amemiya S, Ueyama T, Suzuki Y, Takao H, Abe O: Rapid MR Angiography Using 3D Gradient-echo Imaging and the Two-point Dixon Method to Evaluate Carotid Plaque. Magn Reson Med Sci 22: 373-378, 2023
- Oshima M, Shikama N, Usui K, Nojiri S, Isobe A, Muramoto Y, et al. Development of a deep-inspiration breath-hold system that monitors the position of the chest wall using infrared rangefinder. J Radiat Res. 64(1):171-9, 2023.
- Kawamoto, T., Karino, T., Muramoto, Y., Oshima, M., Kosugi, Y., & Shikama, N. Palliative Radiotherapy Induced Severe Tumor Lysis Syndrome in a Patient With Multiple Myeloma With Skin Involvement: A Case Report and Review of Literature. Cancer diagnosis & prognosis, 3(2), 257–263, 2023. <https://doi.org/10.21873/cdp.10210>
- Muramoto, Y., Murakami, N., Karino, T., Sugimoto, S., Takatsu, J., Oshima, M., Kosugi, Y., Kawamoto, T., Hirayama, T., Fujino, K., Terao, Y., & Shikama, N. MucoUp® as a spacer in brachytherapy for uterine cervical cancer: A first-in-human experience. Clinical and translational radiation oncology, 42, 100659, 2023. <https://doi.org/10.1016/j.ctro.2023.100659>
- Takatsu, J., Murakami, N., Muramoto, Y., Karino, T., Oshima, M., Kosugi, Y., Kawamoto,

T., Terao, Y., & Shikama, N. Safe dose escalation and reduction of the fraction number of uterine cervical brachytherapy using a gel spacer in the rectovaginal and vesicouterine septum: A planning study. Brachytherapy, 23(2), 115–122, 2024. <https://doi.org/10.1016/j.brachy.2023.10.003>

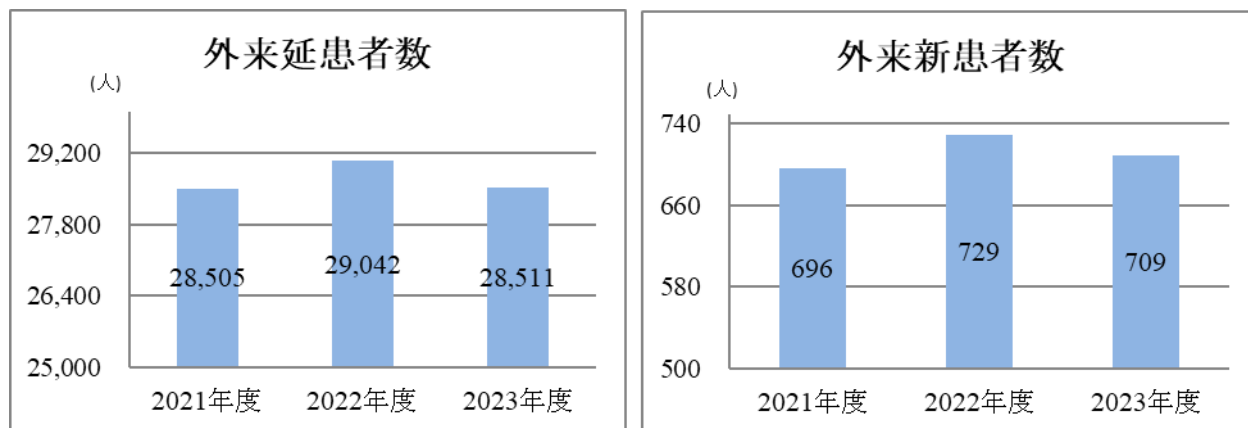
- Fujimoto, D., Takatsu, J., Hara, N., Oshima, M., Tomihara, J., Segawa, E., Inoue, T., & Shikama, N. Dosimetric comparison of four-dimensional computed tomography based internal target volume against variations in respiratory motion during treatment between volumetric modulated arc therapy and three-dimensional conformal radiotherapy in lung stereotactic body radiotherapy. Radiological physics and technology, 17(1), 143–152, 2024. <https://doi.org/10.1007/s12194-023-00757-8>

【講演・学会発表】

- 高橋正洋, 杉山宗弘, 安原清光: shuttle scan CT で検出しえた大動脈解離 TEVER 加療後 TypeIII エンドリークの一例. 第 97 回日本心臓血管放射線研究会. 2023 年 7 月 1 日 大阪
- 新井雅史, 藤榮博史, 大図ひろみ, 宇田川剛史, 岡田慎悟, 杉山宗弘, 桑鶴良平: 難治性消化管 GVHD により繰り返す消化管出血に対し 4 回の TAE を行った一例. 第 34 回関東 IVR 研究会. 2023 年 7 月 8 日 東京
- 浅利雄介, 入江隆介, 村田礼人, 玄田拓哉: 縦隔および右胸腔に穿破した脾嚢胞性病変の 1 例. 第 59 回日本医学放射線学会秋季臨床大会. 2023 年 9 月 15 日～17 日 徳島
- 小橋昌司, 杉山宗弘, 鶴飼和歳, ラシェドーラ・ラーマン, 八木直美, 林 圭吾, 圓尾 明宏, 村津 裕嗣: 人工知能を用いた CT 画像からの骨盤骨折および大腿骨近位部骨折の自動検出. 第 33 回日本救急放射線研究会 (第 59 回日本医学放射線学会秋季臨床大会併催). 2023 年 9 月 16 日 徳島
- 高橋正洋, 杉山宗弘, 清水祐太郎, 山中崇弘, 鈴木秀樹, 富澤直樹: 腹部救急疾患に対しハイブリッド手術室での IVR 併用開腹加療が有用であった 2 症例. 第 33 回日本救急放射線研究会 (第 59 回日本医学放射線学会秋季臨床大会併催). 2023 年 9 月 16 日 徳島
- 杉山宗弘: 医療機器の保険収載に必要な薬事承認と市販後安全対策 (教育講演). J-CIRCLE Webinar 2023 November, IVR の診療報酬と保険収載を学ぼう! 2023 年 11 月 24 日 Web 開催
- 大島理規: 3D プリンタを使用した経直腸エコー下組織内針刺入トレーニングファントムの作成. 日本放射線腫瘍学会第 36 回学術集会(ポスター発表 P28-5) 2023 年 11 月 30 日 横浜
- 杉山宗弘: 静岡県東部地域における救急 IVR 診療体制の構築を目指して (特別講演、日本専門医認定機構領域講習). 静岡県総合画像診断研究会総会 2024 年 1 月 27 日 富士

2-21 メンタルクリニック

診療実績



診療活動

患者数は県内トップクラスの外来患者数を維持しています。新患者数でも県内1を維持しています。病棟からのコンサルテーション数も多く、せん妄や抑うつなどを身体科と連携して治療しています。自殺企図患者などを救急科による身体的治療と並行して、必要に応じて地域の精神科病院に転院させるネットワークも構築されています。他院で受け入れ困難な精神疾患患者の身体疾患も、各科と連携して受け入れています。

児童思春期の患者も引き続き多数来院しており、2022年4月より「こどものこころのケアセンター」を開設し、従来行っていた遊戯療法・ペアレントトレーニング・学習障害支援プログラムなどの治療プログラムに加えて、デイケア・ソーシャルスキルトレーニング・ストレスマネジメント・親のための心理教室などのプログラムを開設し、利用者が増えています。ホームページやパンフレットなどの広報活動により、教育・行政機関からの問い合わせが連日あります。児童に限らず、近年は非薬物療法のニーズが高いことに応え、臨床心理士と連携してペアレントトレーニング・ソーシャルスキルトレーニング・認知行動療法・遊戯療法などの非薬物療法を充実させてきました。成人の発達障害患者も増加傾向にあり、成人のソーシャルスキルトレーニングはメンバーも増えています。

研究では、桐野は functional MRI と脳波の同時測定による functional connectivity の研究を継続しています。児童思春期のメンタルヘルスなどのテーマで講演依頼も多く、地域医療に貢献しています。

研究活動

英文原著

1. Nagai Y, **Kirino E (corresponding author)**, Tanaka S, Usui C, Inami R, Inoue R, Hattori A, Uchida W, Kamagata K, Aoki S. Functional connectivity in autism spectrum disorder evaluated using rs-fMRI and DKI. Cereb Cortex. 2023 Nov 27:bhad451. doi: 10.1093/cercor/bhad451<順天堂大学医学部精神医学講座 永井康仁 学位指導論文>
2. Oka S, Ogawa A, Osada T, Tanaka M, Nakajima K, Kamagata K, Aoki S, Oshima Y, Tanaka S, **Kirino E**, Nakamura TJ, Konishi S. Diurnal Variation of Brain Activity in the Human

Suprachiasmatic Nucleus. J Neurosci. 2024 Feb 21;44(8):e1730232024. doi: 10.1523/JNEUROSCI.1730-23.2024. PMID: 38238074; PMCID: PMC10883613.

3. Yaguchi T, Ichinokawa H, Kirino E, Suzuki M, Komori K, Matsunaga T, Takamochi K, Suzuki K. Predictive factors for postoperative delirium in thoracic surgery. Gen Thorac Cardiovasc Surg. 2024 Mar 21. doi: 10.1007/s11748-024-02014-0. Epub ahead of print. PMID: 38512455.

和文総説

1. 桐野衛二 : COVID-19 後の適応障害. (特集 COVID-19 後の診療の工夫と心のケア). JOHNS 40 (8) 885-886

和文報告その他

1. 須藤路子, 東根明人, 伊藤憲治, 桐野衛二 : 幼児の言語能力と社会認知能力の発達に運動が与える効果. 日本音響学会講演論文集: 1013-1016. 2023

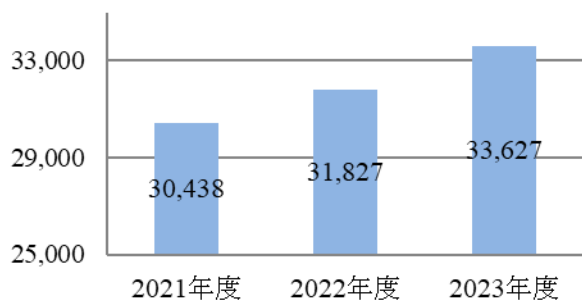
主な競争的資金の獲得状況

1. 令和6-令和10年度 基盤研究(C) (研究代表者 桐野衛二) 課題番号 fMRI fMRI 脳波 拡散 MRI 同時計測による自閉症スペクトラム障害の年齢継時的検討 Simultaneous fMRI-EEG-DTI Longitudinal Recording of Functional Connectivity in Patients with Autism Spectrum Disorder. ¥3,500,000
2. 令和3年度-令和8年度 基盤研究(C) (研究代表者 臼井千恵_分担研究者 桐野衛二 他) 携帯アプリを用いた慢性疼痛増悪因子の解明及び予防的デジタルメディスン開発の研究

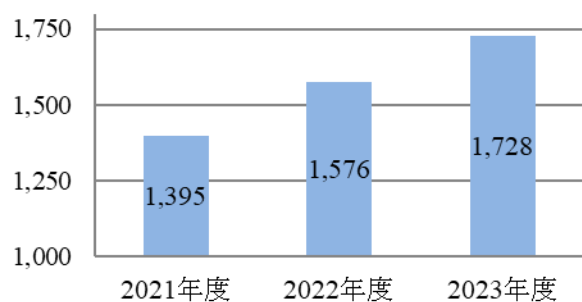
2-22 皮膚・アレルギー科

診療実績

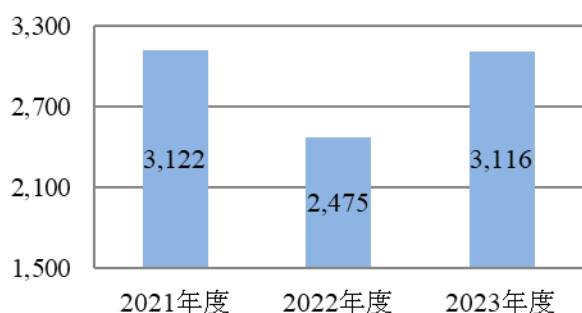
外来延患者数



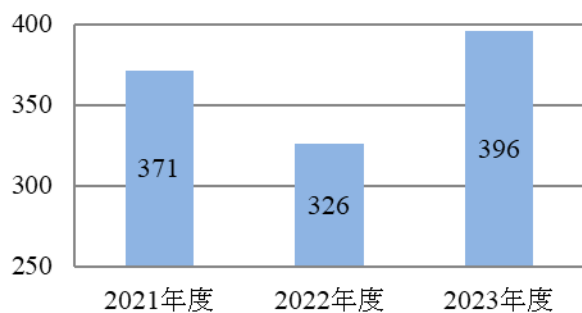
外来新患者数



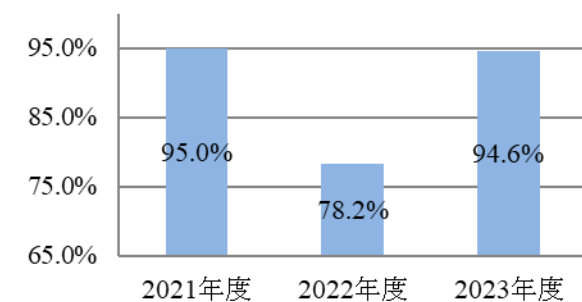
入院延患者数



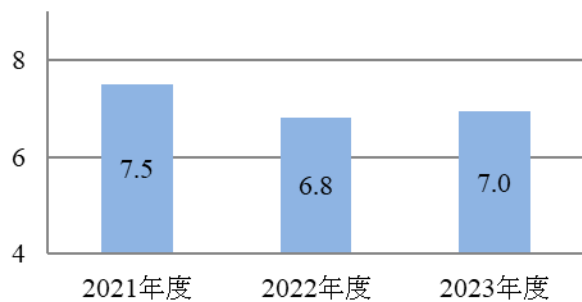
入院新患者数



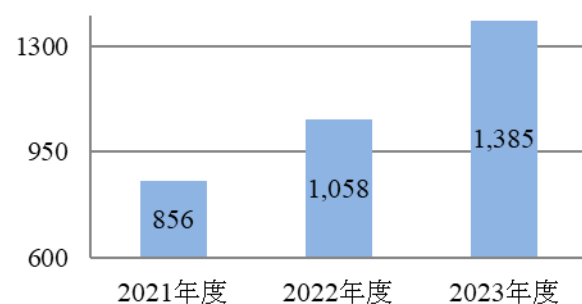
病床利用率



平均在院日数



手術件数



研究・教育活動

原著 (英文)

1. Kim J, Hasegawa T, Tada K, Uehara Y, Fukui Y, Nakamura A, Takei S, Ikeda S. A SLE patient with cutaneous Mycobacterium haemophilum infection under belimumab treatment: A case report. *Ann Dermatol* 35:S63-66,2023
2. Iseki M, Yamamoto T, Ogawa Y, Majima Y, Abe Y, Watanabe D, Amaya F, Hasegawa T, Inafuku K, Kosugi T, Nomura Y, Deguchi T, Hamada T, Kume K, Shimuzu K, Arai S, Takahashi M, Hamada I, Ishikawa Y, Kawashima M. Efficacy and safety of intravenous fosphenytoin for patients with acute herpes zoster-associated pain: A placebo-controlled randomized trial. *J Dermatol* 51:234-242,2024
3. Ikutama R, Ogawa T, Takeno K, Ikeda S. A case of eosinophilic annular erythema (EAE) concomitant with autoimmune hypothyroidism. *Indian Dermatol Online J* 14:882-883,2023
4. Ikutama R, Ogawa Y, Ogawa T, Kano R, Hiruma M, Ikeda S. A case of Kerion Celsi due to *Trichophyton tonsurans*. *Med Mycol J* 64:73-77,2023
5. Ikutama R, Peng G, Tsukamoto S, Umehara Y, Trujillo-Paez JV, Yue H, Nguyen HLT, Takahashi M, Kageyama S, Komatsu M, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S, Niyonsaba F. Cathelicidin LL-37 activates human keratinocyte autophagy through the P2X7, mechanistic target of Rapamycin, and MAPK pathways. *J Invest Dermatol* 143:751-761,2023
6. Nguyen HLT, Peng G, Trujillo-Paez JV, Yue H, Ikutama R, Takahashi M, Umehara Y, Okumura K, Ogawa H, Ikeda S, Niyonsaba F. The antimicrobial peptide AMP-IBP5 suppresses dermatitis-like lesions in a mouse model of atopic dermatitis through the low-density lipoprotein receptor-related protein-1 receptor. *Int J Mol Sci* 24:5200,2023

原著 (和文)

1. 生玉梨紗, 土橋人土, 長谷川敏男, 池田志孝. ステロイド治療に抵抗性を示し外用 PUVA 療法が有効であったサルコイドーシス皮膚病変の 2 例. *臨床皮膚科* 77:991-997, 2023
2. 大浦紀彦, 木村中, 安藤弘, 杠 俊介, 古川雅英, 東田龍治, 綾部忍, 辻依子, 藤井美樹, 寺部雄太, 匂坂正信, 岩科裕己, 中西新, 佐々木茂, 長谷川敏男, 河内司, 久道勝也. 糖尿病性足潰瘍に対する PRP ゲルの有効性-多施設臨床研究より-. *PAPERS* 204:1-12,2023
3. 生玉梨紗, 込山悦子, 池田志孝. 経過が遷延した妊娠性疱疹の 1 例. *皮膚科の臨床* 65:1539-1543,2023

著書 (和文)

1. 長谷川敏男. 疥癬, ケジラミ症. 今日の治療指針 2023 年版-私はこう治療している 福井次矢, 高木誠, 小室一成編, 医学書院, 東京, 1280-1281 項
2. 長谷川敏男. Gibert ばら色秕糠疹. 皮膚疾患最新の治療 2023-2024 高橋健造, 佐伯秀久編, 南江堂, 東京, 165, 2023

学会発表（国内）

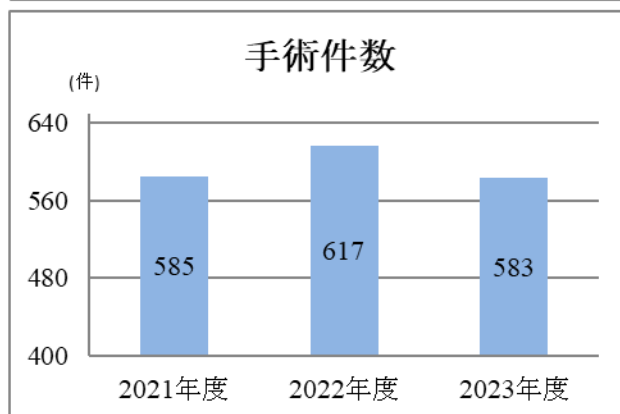
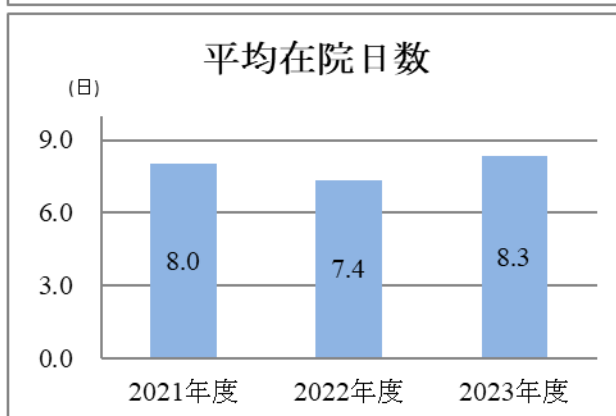
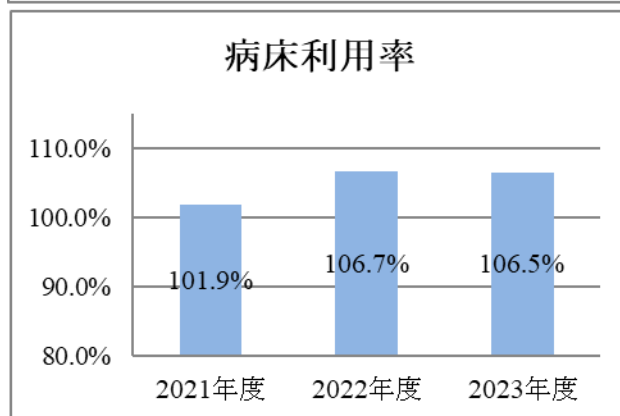
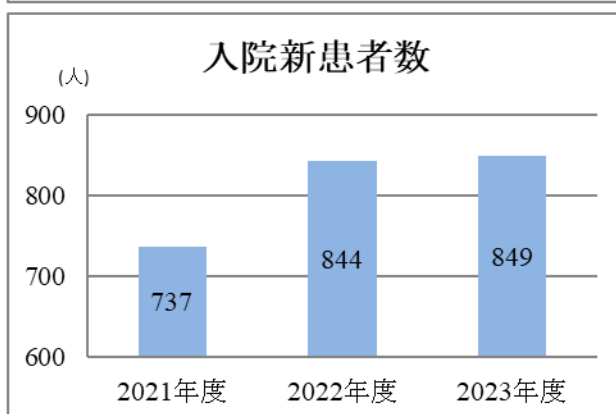
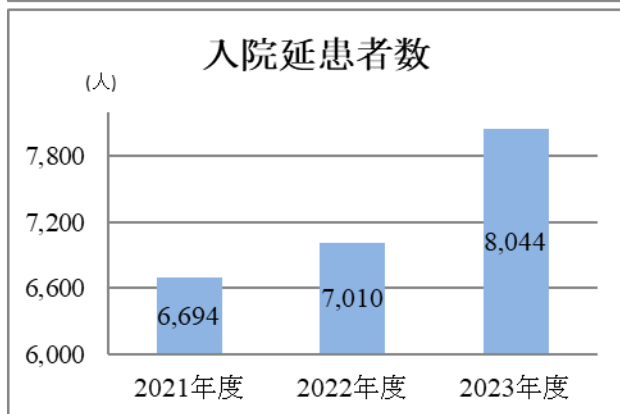
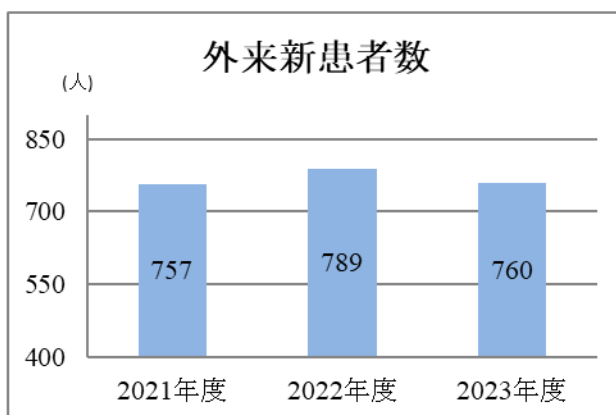
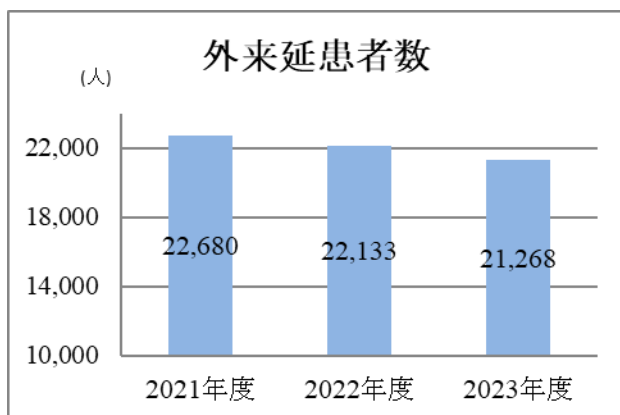
1. 石原俊太郎, 生玉梨紗, 大川夏紀, 長谷川敏男. Schimmelpenning 症候群の 1 例. 第 122 回日本皮膚科学会総会, 2023.6.1, 横浜
2. 村松海人, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 左上腕リュープロレリン酢酸塩皮下注射部位の異物肉芽腫に陰嚢内硬化性脂肪肉芽腫を併発した 1 例. 第 122 回日本皮膚科学会総会, 2023.6.1, 横浜
3. 宗田昂己, 生玉梨紗, 長谷川敏男. ヒト精漿アレルギーの 1 例. 第 122 回日本皮膚科学会総会, 2023.6.1, 横浜
4. 長谷川敏男. 難治性創傷と多血小板血漿療法について. 第 15 回日本創傷外科学会総会・学術大会, 2023.7.14, 東京
5. 村松海人, 長谷川敏男, 生玉梨紗. デュピルマブ投与中に発症したセザリー症候群の 1 例. 第 75 回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 2023.9.17, 沖縄
6. 遠藤翼, 村松海人, 生玉梨紗, 長谷川敏男. ミント摂取後の口唇浮腫から診断に至ったアスピリン蕁麻疹の 1 例. 第 137 回日本皮膚科学会静岡地方会, 2023.10.14, Web
7. 村松海人, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 毛細血管拡張より診断に至った限局皮膚硬化型全身性強皮症の 1 例. 第 137 回日本皮膚科学会静岡地方会, 2023.10.14, Web
8. 阿部央聖, 生玉梨紗, 長谷川敏男. アデノウイルスによるジアノッティ・クロスティ症候群の 1 例. 第 137 回日本皮膚科学会静岡地方会, 2023.10.14, Web
9. 北田裕樹, 宗田昂己, 長谷川敏男. 乾燥組み換え帯状疱疹ワクチン接種後に生じた帯状疱疹の 1 例. 第 137 回日本皮膚科学会静岡地方会, 2023.10.14, Web
10. 加藤芙未, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 片側複発性帯状疱疹の 1 例. 第 137 回日本皮膚科学会静岡地方会, 2023.10.14, Web
11. 野々垣香織, 長谷川敏男, 藤澤麻衣, 池田志孝. 円形脱毛症に局所免疫療法を施行した 540 例の解析. 単施設後方視的研究. 第 87 回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 2023.11.18, 東京
12. 北田裕樹, 村松海人, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 皮下腫瘍と鑑別を要した上腕二頭筋腱断裂の 1 例. 第 138 回日本皮膚科学会静岡地方会, 2024.3.2, Web
13. 宗田昂己, 生玉梨紗, 長谷川敏男. IKBKG 遺伝子体細胞モザイクによる女兒色素失調症の 1 例. 第 138 回日本皮膚科学会静岡地方会, 2024.3.2, Web
14. 加藤芙未, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 成人発症の線状苔癬の 1 例. 第 138 回日本皮膚科学会静岡地方会, 2024.3.2, Web
15. 遠藤翼, 生玉梨紗, 長谷川敏男. イキセキズマブ投与後に異汗性湿疹を発症した 1 例. 第 138 回日本皮膚科学会静岡地方会, 2024.3.2, Web
16. 村松海人, 生玉梨紗, 長谷川敏男. 皮内テストにより診断に至った自己免疫性プロゲステロン皮膚炎の 1 例. 第 138 回日本皮膚科学会静岡地方会, 2024.3.2, Web
17. 阿部央聖, 生玉梨紗, 長谷川敏男. Vogt-小柳-原田病の 1 例. 第 138 回日本皮膚科学会静岡地方会, 2024.3.2, Web

その他

1. 長谷川敏男：皮膚外科の実際. 2024.3.1 Dermatology conference in 金沢, 金沢

2-23 泌尿器科

診療実績



診療活動

入院患者数が大幅に増加した。また緊急処置を要する症例が多く他病院から紹介されてきた。膿腎症に対する、ステント留置は、国内でも極めて多い施設である。

前立腺全摘にロボット手術を導入し 5 年が経過した。160 例以上の症例を経験した。膀胱頸部温存および膀胱—尿道吻合での連続吻合がより確実になった。術後の排尿状態も良好で、入院期間も短縮した。

ロボット支援下の膀胱全摘を 16 例行った。術後の合併症が少なく、早期に退院できた。

3D の新しい腹腔鏡装置に更新して 2 年がたった。腹腔鏡下に副腎腫瘍、腎癌および腎盂尿管癌の手術を行っている。腹腔鏡下腎摘出は後腹膜アプローチが多かった。3D の腹腔鏡は視野が良好であり、合併症が少なかった。現在、3 人の腹腔鏡技術認定医のもとで手術を行なっている。

大きな腎癌に対して開腹で根治的腎摘除術を行っている。4 センチ以下の小径腎癌ではロボット補助下の腎部分切除を積極的に行い 12 例行った。

転移性腎癌、尿路上皮癌に対する分子標的薬や免疫チェックポイント阻害剤を多く行っている。

前立腺肥大症の手術は HoLEP、PVP を行なっているが、新しくレジウム手術を導入した。

経尿道的尿管結石破碎術においては、細径の尿管鏡によるホルミウムヤグレーザーを用いて破碎している。硬性鏡だけでなく軟性尿管鏡も用いて腎結石の治療を行っている。手術時間の短縮および破碎率が向上した。破碎した結石も、器具で体外に取り出すようにしている。

診療実績

(1) 腹腔鏡下手術

腹腔鏡下副腎摘除術 14 例

腹腔鏡下腎摘除術 12 例

腹腔鏡下腎尿管全摘除術 4 例

ロボット補助下膀胱全摘除術 7 例

ロボット補助下腹腔鏡下前立腺全摘除 37 例

(2) 開腹手術

根治的腎摘除術 8 例

腎部分切除術 5 例

腎尿管全摘除術 5 例

膀胱全摘除術 0 例

前立腺全摘除術 1 例

高位精巣摘除 3 例

陰嚢水腫根治術 5 例

精液瘤根治術 1 例

(3) 内視鏡手術

TUR-Bt 141 例

TUR-P 1 例

HoLEP 16 例

ESWL 11 例

TUL 67 例

PNL 2 例

尿管ステント留置 108 例

次年度目標

前立腺全摘、膀胱全摘、腎部分切除のロボット手術の件数を増加させる。

尿管結石のレーザー手術を増加させる。PNL 手術を増加させる。

腹腔鏡手術およびロボット手術の若手術者を指導する。

研究・教育活動

医学部 M4 授業

藤田和彦 尿路感染症、泌尿器救急、外傷

保健看護学部 授業

中島晶子 泌尿器総論

中島晶子 泌尿器非腫瘍性疾患

中島晶子 泌尿器腫瘍性疾患

2023 年 業績

総説

頻尿

藤田和彦

専門医のための腎臓病学（第3版） p80-84

医学書院、東京 2023

原著

Naoya Nagaya, Kevin J. Chua, Joshua Sterling, Shigeo Horie, Isaac Y. Kim., Extended versus standard pelvic lymph node dissection yields no difference in 3-year biochemical recurrence rates, Prostate Int. 2023 Jun;11(2):107-112

学会発表

1. Naoya Nagaya, Prognosis of metastatic castration resistant prostate cancer in response to chemotherapy and PSMA expression in circulating tumor cells, The ESMO Asia 2023, Singapore, DECEMBER 1-3
2. 長屋直哉、転移性去勢抵抗性前立腺癌の化学療法に対する予後と血中循環腫瘍細胞における PSMA 発現、日本泌尿器腫瘍学会、タカシマヤローズホール、2022 年 10 月 21 日・22 日
3. 長屋直哉、転移性去勢抵抗性前立腺癌における化学療法に対する有効性と血中循環腫瘍細胞における PSMA の発現、第 24 回ホルモンと癌研究会、順天堂大学、2023 年 6 月 16 日～17 日
4. 長屋直哉、前立腺癌リンパ節転移における CXC ケモカイン/受容体発現、第 26 回日本がん分子標的治療学会学術集会、佐賀市文化会館、2023 年 6 月 21 日～23 日

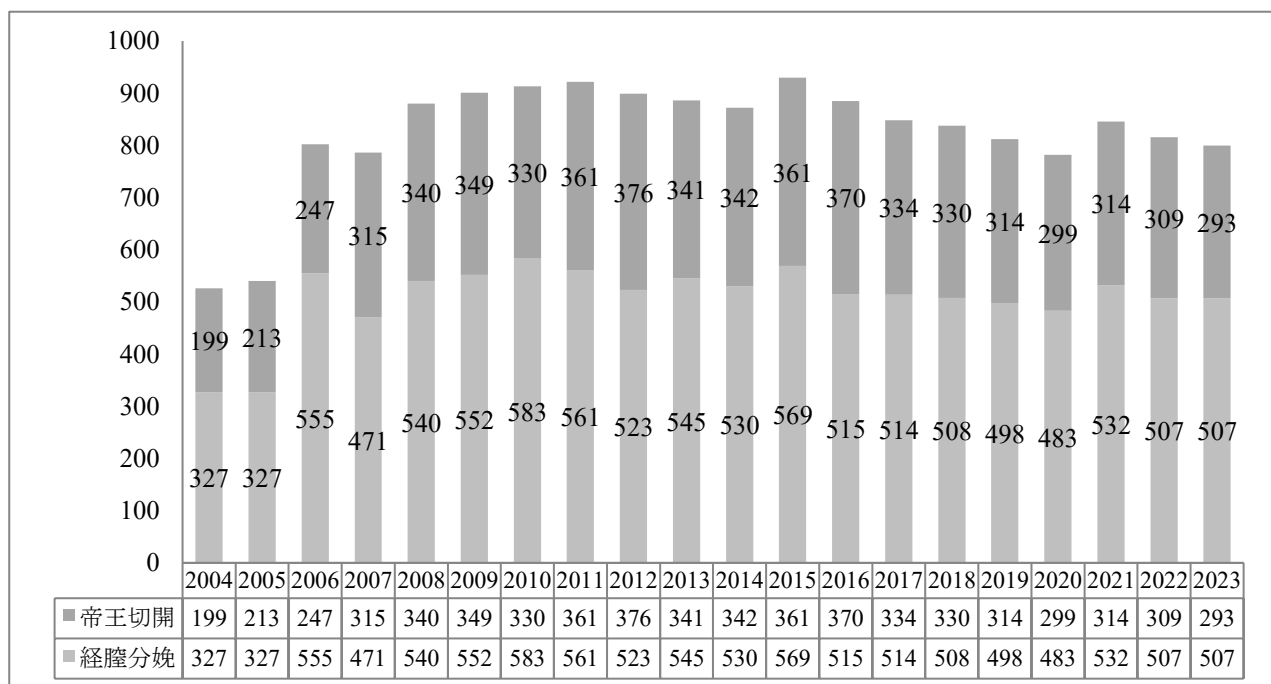
2-24 産婦人科・総合周産期母子医療センター

診療実績

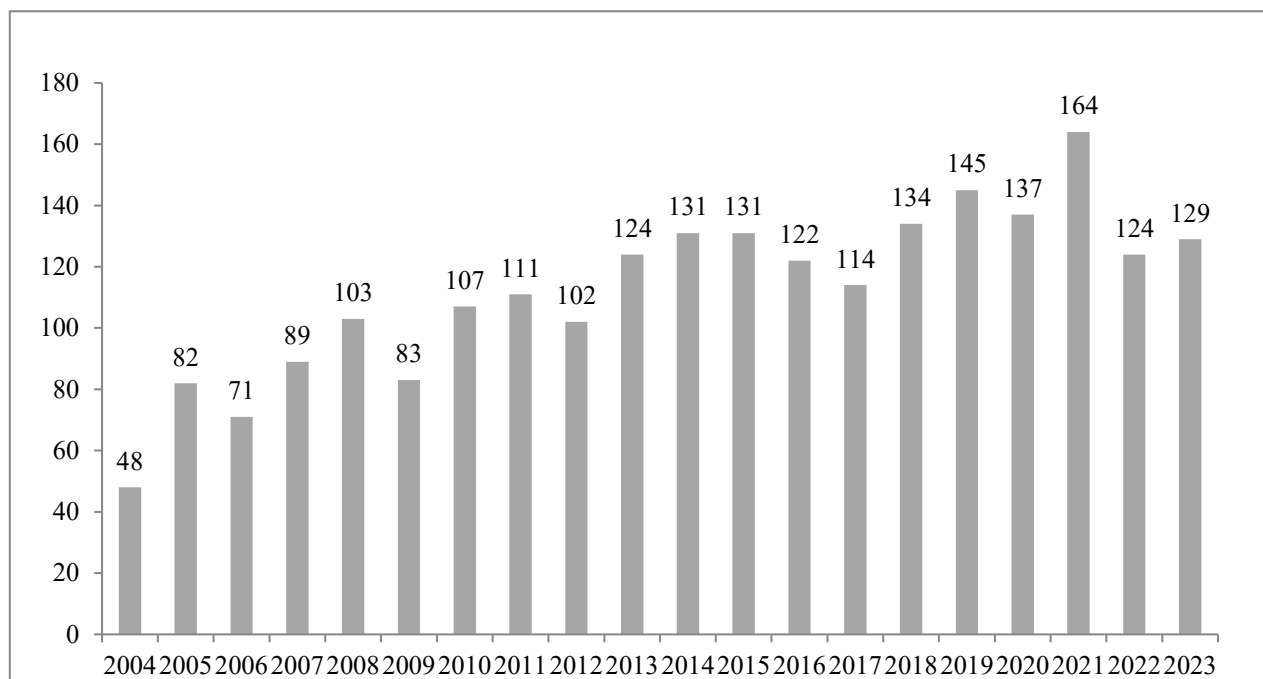
【手術件数】

		2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
腹腔鏡	卵巣	59	65	83	79	80	90	100	79	96
	子宮	1	0	1	1	0	0	0	0	9
	異所性妊娠	12	21	15	26	11	16	16	24	20
	その他	1	0	0	0	2	3	0	0	1
開腹手術	帝王切開術	361	370	334	330	314	299	314	309	293
	良性	199	309	341	265	229	172	141	198	177
	悪性	88	78	72	70	68	72	73	63	62
悪性手術内訳	子宮頸癌	20	15	5	12	6	7	11	18	10
	子宮体癌	39	36	39	32	29	26	27	19	27
	卵巣癌	20	25	23	25	28	37	29	23	17
	その他	9	2	5	1	5	2	6	3	8
腔式手術	円錐切除	16	36	34	30	30	24	41	37	31
	頸管縫縮術	13	14	16	21	8	3	14	13	14
	子宮脱根治術	5	13	9	9	6	7	9	13	12
	膣閉鎖術	14	24	10	9	4	1	5	3	6
	その他	9	8	13	8	9	13	20	9	9
合計		859	937	928	848	753	695	733	748	730

【分娩件数推移】



【母体搬送数推移】



研究活動

原著（英文）

1. Placental height, together with the distance from the short side of the placental edge to the internal cervical os, provides an accurate assessment of bleeding risk for placenta previa.
Department of Obstetrics and Gynecology, Juntendo University Shizuoka Hospital
Masaya Kato, Satomi Tanaka, Masafumi Segawa, Ayumi Yasuda, Saki Ito, Yuri Ishida, Shotaro Yata, Naotake Yanagisawa, Hiroshi Kaneda¹, Toshitaka Tanaka.
Hypertension Research in Pregnancy 2023; 11: 1-6

原著（和文）

1. 菅原 茉佑, 村瀬 佳子, 城戸 優花, 笠原 太郎, 秋葉 純也, 保田 歩, 田中 里美, 矢田 昌太郎, 金田 容秀, 田中 利隆. 当院における NIPT (non-invasive prenatal genetic testing) の導入が羊水検査に与えた影響. 関東連合産科婦人科学会誌 2024 61: 28-33

総説（和文）

1. RPOC の画像診断と治療
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
田中利隆
臨床婦人科産科, 2023;77 : 514-523

著書（和文）

1. 産婦人科 画像診断アトラス
分娩後異常出血

田中利隆

医学書院, 東京, 143-149, 2023

学会発表 (国内)

1. レンバチニブメシル酸塩の減量によりペムブロリズマブとの併用療法を継続し、治療効果が得られた進行子宮体癌の一例
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
保田歩, 金田容秀, 田嶋俊彬, 伊地知航司, 平井みつ子, 笠原太郎, 九鬼紗葵, 精きぐな, 矢田昌太郎, 田中里美, 田中利隆
第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会, 東京, 2023.5.12~5.14
2. 流産後の子宮動静脈奇形に対して動脈塞栓術が有効であった 2 例
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
伊地知航司, 田中利隆, 田嶋俊彬, 平井みつ子, 笠原太郎, 九鬼紗葵, 保田歩, 田中里美, 矢田昌太郎, 精きぐな, 金田容秀
第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会, 東京, 2023.5.12~5.14
3. 流産後の子宮動静脈奇形に対して動脈塞栓術を行い、その後正期産児を得られた 2 例
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
伊地知航司, 大島直紀, 平山雄一朗, 岩垣杏奈, 星野将輝, 九鬼紗葵, 瀬山 理恵, 熊谷麻子, 矢田昌太郎, 田中里美, 金田容秀, 田中利隆
令和 5 年度静岡産婦人科学会春季学術集会, 静岡, 2022.5.28
4. 後期分娩後異常出血に対する超音波診断とその管理
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
田中利隆, 田中里美, 矢田昌太郎
日本超音波医学会第 96 回学術集会 シンポジウム, 大宮, 2023.5.27
5. 腹腔鏡手術で診断し治療しえた大網妊娠の一例
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
金田容秀, 岩垣杏奈, 伊地知航司, 平井みつ子, 九鬼紗葵, 笠原太郎, 瀬山理恵, 保田歩, 矢田昌太郎, 田中里美, 上山佐智子, 田中利隆
第 48 回日本外科系連合学術集会, 横浜, 2023.6.7~6.9
6. 当院で入院管理を行った COVID-19 陽性妊婦の検討
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
九鬼紗葵, 田中利隆, 岩垣杏奈, 伊地知航司, 平井みつ子, 笠原太郎, 保田歩, 瀬山理恵, 田中里美, 矢田昌太郎, 金田容秀
第 145 回関東連合産科婦人科学会 学術集会, 東京, 2023.6.17~6.18
7. 腹腔内病変破裂を伴った胎児多発性リンパ管腫の一例
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科, 聖隷浜松病院 産婦人科
精きぐな, 田中里美, 九鬼紗葵, 平井みつ子, 保田歩, 田中利隆
第 59 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 名古屋, 2023.7.9~11
8. 当院における子宮頸部円錐切除術後の周産期予後.
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科
田中里美, 岩垣杏奈, 伊地知航司, 平井みつ子, 笠原太郎, 九鬼紗葵, 瀬山理恵, 保田歩,

矢田昌太郎, 金田容秀, 田中利隆

第 59 回日本周産期・新生児医学会学術集会, 名古屋, 2023.7.9~11

9. 甲状腺疾患合併妊娠の母体・新生児管理

「妊娠と甲状腺疾患」

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

熊谷麻子

第 51 回東部周産期研究会, 静岡, 2023.9.28

10. 開腹骨盤リンパ節郭清

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

金田容秀

第 20 回静岡婦人科腫瘍合同勉強会, 三島, 2023.10.14

11. 重症妊娠悪阻を契機に発症したリフィーディング症候群の 1 例

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

大島直紀, 矢田昌太郎, 平山雄一朗, 岩垣杏奈, 星野将輝, 伊地知航司, 九鬼紗葵, 瀬山理恵

熊谷麻子, 田中里美, 金田容秀, 田中利隆

第 146 回関東連合産科婦人科学会 学術集会, 浜松, 2023.11.26

12. 子宮頸部腺癌 4B 期に対して Paclitaxel/Cisplatin+Bevacizumab+Pembrolizumab が著効した一例

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

平山雄一朗, 金田容秀, 大島直紀, 星野将輝, 岩垣杏奈, 伊地知航司, 九鬼紗葵, 瀬山理恵,

熊谷麻子, 矢田昌太郎, 田中里美, 田中利隆

第 146 回関東連合産科婦人科学会 学術集会, 浜松, 2023.11.26

13. 胎児・新生児の超音波検査（基本編）

「基本的な胎児心臓超音波スクリーニング検査」

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

熊谷麻子

第 52 回東部周産期研究会, 静岡, 2024.2.29

【講演】

1. 予防できる婦人科がん 子宮頸がん と HPV ワクチン

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

金田容秀

静岡県東部 HPV ワクチンセミナー, 沼津, 2023.4.17

2. 妊娠と糖尿病

順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

田中利隆

令和 5 年度静岡県助産師交流会, 静岡, 2023.7.15

3. 婦人科腫瘍におけるパネル検査の適切な対象とは

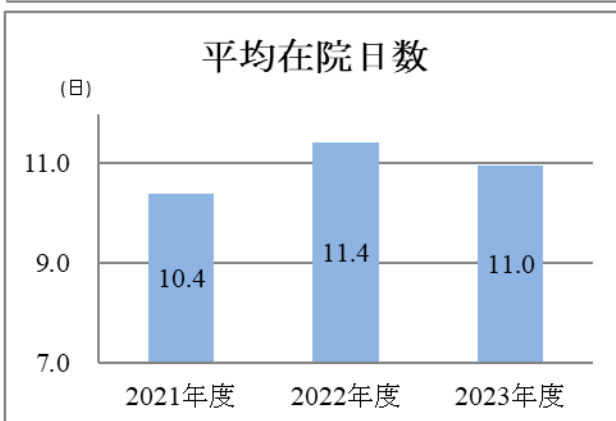
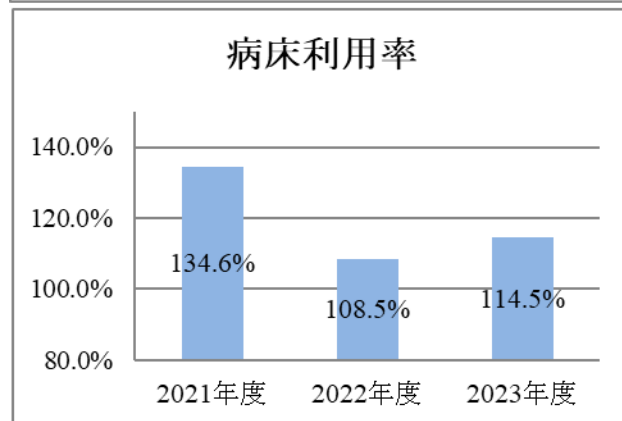
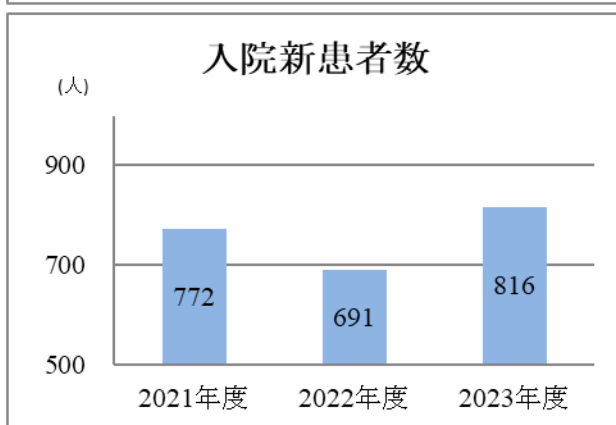
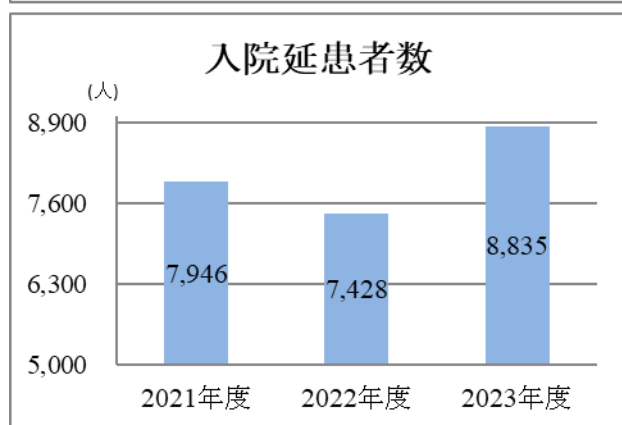
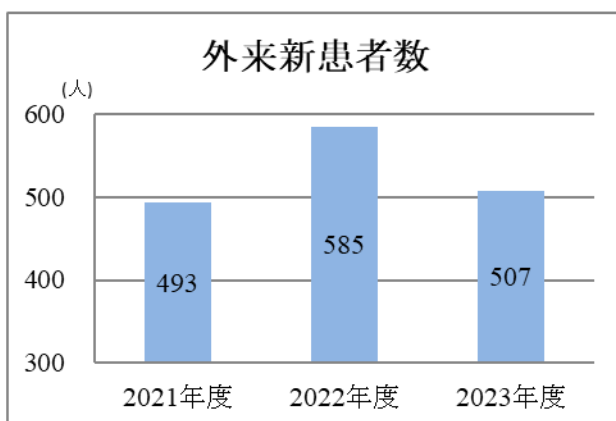
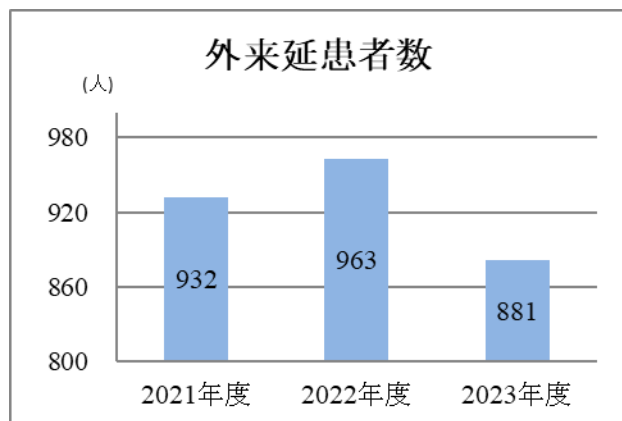
順天堂大学医学部附属静岡病院 産婦人科

金田容秀

Gynecologic cancer conference 2023, 静岡, 2023.4.17

2-25 救急診療科

診療実績



研究・教育活動等

英文誌発表

1. Yanagawa Y, Ota S, Muramatsu KI. Thrombotic Thrombocytopenic Purpura with High Titers of Anti-glutamic Acid Decarboxylase and Anti-insulin Antibodies. *J Emerg Trauma Shock*. 2023 Jul-Sep;16(3):138-140.
2. Shitara J, Yanagawa Y, Torizawa N, Abe K, Suwa S. Fatal Ventricular Fibrillation Storm in a Young Patient with Marfan Syndrome. *J Emerg Trauma Shock*. 2023 Jul-Sep;16(3):140-141.
3. Yanagawa Y, Hashikasa T, Fujita W, Jitsuiki K. A Clue Supporting a Diagnosis of Atlanto-Occipital Dislocation Based on a Traumatic Vacuum Phenomenon. *J Emerg Trauma Shock*. 2023 Jul-Sep;16(3):136-137.
4. Yanagawa Y, Takeuchi I, Noda K. A Case of Organophosphate Poisoning Inducing Parkinsonism which was Effectively Treated by Antiparkinson Drugs. *J Emerg Trauma Shock*. 2023 Jul-Sep;16(3):137-138.
5. Takeuchi I, Yanagawa Y. Carbon Monoxide Poisoning Complicated by Ischemic Colitis: A Case Report and Literature Review. *Cureus*. 2023 Oct 25;15(10):e47669.
6. Ohsaka H, Yanagawa Y, Konagaya M, Onitsuka M, Nakamura S, Awata K, Okawa N. Transportation of Medical Staff by Helicopter to Manage a Concealed Delivery at Home. *Air Med J*. 2023 Nov-Dec;42(6):496-498.
7. Yanagawa Y, Abe K, Nunotani M, Takeuchi I, Nagasawa H, Muramatsu KI, Ohsaka H, Ishikawa K, Suwa S. Patients With Atrioventricular Block Transported by a Physician-Staffed Helicopter in Japan From 2015 to 2020. *Air Med J*. 2023 Nov-Dec;42(6):468-470.
8. Yanagawa Y, Takeuchi I, Nagasawa H, Ohsaka H, Ishikawa K. Outcome in intoxicated patients transported by a physician-staffed helicopter in Japan from 2015 to 2020. *Acute Med Surg*. 2023 Nov 2;10(1):e904.
9. Yanagawa Y, Nunotani M, Abe K, Nagasawa H, Takeuchi I. Outcomes of patients with decompression illness transported by physician-staffed helicopter according to Japanese Registry data (2015-2020). *J Rural Med*. 2023 Oct;18(4):222-225.
10. Nagasawa H, Omori K, Muramatsu KI, Takeuchi I, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. Outcomes of prehospital traumatic cardiac arrest managed by helicopter emergency medical service personnel in Japan: a registry data analysis. *Int J Emerg Med*. 2023 Oct 12;16(1):70.
11. Yanagawa Y, Takeuchi I, Nagasawa H, Muramatsu KI, Ohsaka H, Ishikawa K. Usefulness of Key Word Methods to Execute Early Requests for a Physician-Staffed Helicopter Emergency Medical Service Dispatch to Facilitate Early Medical Intervention by Physicians. *Air Med J*. 2023 Sep-Oct;42(5):365-368.
12. Takeuchi I, Muramatsu KI, Ota S, Yanagawa Y. A Case of Isolated Right Lung Edema and Liver Injury Induced by High Altitude. *J Emerg Trauma Shock*. 2023 Apr-Jun;16(2):71-72.

13. Miyatani K, Takeuchi I, Fujita W, Yanagawa Y. Multiple Systemic Embolization Associated with Chest Compression in a Patient with Cardiac Arrest. *J Emerg Trauma Shock*. 2023 Apr-Jun;16(2):68-70.
14. Takeuchi I, Yanagawa Y, Ota S, Muramatsu KI, Taniguchi Y, Kiri N, Kiyozumi T. Usefulness of Evaluating the Albumin-to-globulin Ratio in Investigating the Etiology of Severe Hypokalemia. *J Emerg Trauma Shock*. 2023 Apr-Jun;16(2):72-73.
15. Nakajima E, Takeuchi I, Ishikawa K, Yanagawa Y. Periodontoid Pseudotumor with Respiratory Arrest. *J Emerg Trauma Shock*. 2023 Apr-Jun;16(2):75-76.
16. Yanagawa Y, Fujita N, Ishikawa K. A Case of Pneumocephalus Induced by Traumatic Vacuum Phenomenon. *J Emerg Trauma Shock*. 2023 Apr-Jun;16(2):73-74.
17. Yanagawa Y, Muramatsu KI, Abe M, Miyazaki Y. A Fatal Rhizopus Species Infection after Facial Injury in a Patient with Myelodysplastic Syndrome and Diabetes Mellitus. *Intern Med*. 2023;62(15):2279-2283.
18. Yanagawa Y, Nunotani M, Abe K, Hamada M, Ota S, Muramatsu KI, Takeuchi I, Nagasawa H, Ohsaka H, Ishikawa K. Narrative minireview of the current status of hyperbaric oxygen therapy for pregnant women. *Acute Med Surg*. 2023 Jul 17;10(1):e873.
19. Yanagawa Y, Muramatsu KI, Suzuki H. A Case of Usefulness of Auto-Injectable Adrenaline as a Prophylactic Countermeasure Against Bee Sting for Forestry Workers. *Workplace Health Saf*. 2023 Jul;71(7):326-328.
20. Hamada M, Takeuchi I, Muramatsu KI, Nagasawa H, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. Relationship between Incontinence and Disease Severity in Patients Transported by Ambulance. *J Emerg Trauma Shock*. 2023 Jan-Mar;16(1):13-16.
21. Sonoda T, Hamada M, Yanagawa Y. Cardio-Cerebral Infarction in a Patient with Deep Coma: A Diagnostic Challenge. *J Emerg Trauma Shock*. 2023 Jan-Mar;16(1):22-25.
22. Yanagawa Y, Ishibashi M, Iida T, Horii K, Morohashi I, Kanda A, Wakai S, Shimoyama K. Use of a Helicopter Emergency Medical Service Hangar as a Staging Care Unit in a Disaster-Affected Area. *Air Med J*. 2023 May-Jun;42(3):213-217. D
23. Takeuchi I, Nagasawa H, Hamada M, Ota S, Muramatsu KI, Fujita W, Yanagawa Y. A study of factors associated with the prognosis of cardiac arrest patients in a depopulated area with a high elderly population transported by Shimoda Fire Department. *J Rural Med*. 2023 Apr;18(2):119-125.
24. Tamura T, Suzuki M, Homma K, Sano M; HYBRID II Study Group. Efficacy of inhaled hydrogen on neurological outcome following brain ischaemia during post-cardiac arrest care (HYBRID II): a multi-centre, randomised, double-blind, placebo-controlled trial. *EClinicalMedicine*. 2023 Mar 17;58:101907.
25. Ota S, Takeuchi I, Hamada M, Fujita W, Muramatsu KI, Nagasawa H, Jitsuiki K, Ohsaka H, Ishikawa K, Mogami A, Yanagawa Y. Bladder deformity accompanied by pelvic fracture indirectly indicates clinical severity. *Am J Emerg Med*. 2023 May;67:108-111.

26. Kushida Y, Takeuchi I, Muramatsu KI, Nagasawa H, Jitsuiki K, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. A Comparison of Tube Thoracostomy for Chest Trauma Between Prehospital and Inhospital Settings. *Air Med J.* 2023 Jan-Feb;42(1):24-27.
27. Muramatsu K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. An analysis of patients with a chief complaint of difficulty moving. *J Rural Med.* 2023 Jan;18(1):36-41.
28. Muramatsu K., Yanagawa Y. A Tracheal Tube Exchanger Container As a Bronchial Foreign Body. *Am J Med Case Rep.* 2023; 11(10): 164-166.
29. Ota S, Muramatsu K, Takeuchi I, Yanagawa Y Usefulness of Magnetic Resonance Imaging for Diagnosing Os Odontoideum. *Am J Med Case Rep.* 2023; 11(2): 41-42.
30. Takeuchi I, Muramatsu K, Ota S, Yanagawa Y. Acute Infectious Purpura Fulminans with Anticentromere Antibodies. *Am J Med Case Rep.* 2023; 11(3):52-54.
31. Muramatsu K, Takeuchi I, Ota S, Yanagawa Y. Transient Decrease of Insulin Secretion after COVID-19 Infection in a Patient with Hyperosmolar Hyperglycemic Syndrome. *Am J Med Case Rep.* 2023; 11(2):37-40.
32. Kei Jitsuiki, Muramatsu K, Mogami A, Itoi A, Yanagawa Y. An Unstable Pelvic Fracture with Lumbar 5/6 Complete Dislocation Fracture that Resulted in Lifesaving Recovery. *Am J Med Case Rep.* 2023; 11(1): 6-9.
33. Onitsuka M, Tada S, Nozawa Y, Yanagawa Y. A Diving Accident Checklist in Izu Peninsula can be Associated with Some Pitfalls. *Juntendo Med J.* 2023; 69:216-21.

和文発表

1. 石川 浩平, 柳川 洋一, 長澤 宏樹, 村松 賢一, 大坂 裕通. 当施設のドクターヘリ活動における病院前輸血投与の検証. *日本航空医療学会雑誌* 2023;24:15-20.
2. 鬼塚 味佳, 橋本 瞭, 田上 佑一, 柳川 洋一. 伊豆半島における減圧症に関する WEB 会議の利点と欠点(Merits and demerit of a webinar on decompression illness in Izu Peninsula in Japan). *日本高気圧環境・潜水医学会雑誌* 2023;58:49-54.
3. 一二三 亨, 大谷 典生, 小林 憲太郎, 北元 健, 近藤 豊, 中谷 宣章, 添田 博, 柳川 洋一, 富岡 譲二. 添付文書改訂に向けての乾燥まむしウマ抗毒素の使用実態調査. *日本中毒学会事例調査・研究委員会. 中毒研究* 2023;36:240-245.

和文著書

1. 柳川洋一. 電撃症・雷撃症. 救急診療指針 改訂第6版.
2. 柳川洋一. スポーツと顔面外傷. 臨床スポーツ 2023;3:1.

海外発表

1. Hamada M, Jitsuiki K, Yanagawa Y. A Case of Blue Rubber Bleb Nevus Syndrome With Kasabach-Merritt Syndrome and Heart Failure. XIIth Mediterranean Emergency Medicine Congress (MEMC) on 7-10 September, 2023 in Rhodes, Greece.

2. Yanagawa Y, Kanda A, Nagasawa H, Takeuchi I, Ohsaka H, Omori K. Comparison of the Utilization of Disaster Medical Assistance Teams (DMATs) and Multiple Physician-staffed Helicopters in Mass Casualty Responses. 10 Year Anniversary Conference and Annual Meeting. Society for Disaster Medicine and Public Health (SDMPH) 4-6 December, 2023 Web congress (Conference Center, Washington, DC)
3. Yanagawa Y, Takeuchi I, Nagasawa H, Muramatsu K, Ohsaka H, Omori K, Ishikawa K. Usefulness of Key Word methods to execute early requests for a physician-staffed helicopter emergency medical service dispatch to facilitate early medical intervention by physicians. XIIth Mediterranean Emergency Medicine Congress (MEMC) 7-10 September, 2023 in Rhodes, Greece.
4. Yanagawa Y, Hamada M, Ota S, Muramatsu K, Fujita W, Nagasawa H, Takeuchi I, Ohsaka H, Jitsuiki K, Ishikawa K. Relationship between incontinence and disease severity in patients transported by ambulance. World Association for Disaster and Emergency (WADEM) Medicine 9-12 May 2023 in Killarney, Ireland.
5. Muramatsu K, Nagasawa H, Takeuchi I, Jitsuiki K, Ohsaka H, Ishikawa K, Yanagawa Y. An analysis of patients with a chief complaint of difficulty moving. EUSEM 2023: European Emergency Medicine Congress (EUSEM) 17-20 September in the International Barcelona Convention Center, Spain

国内発表

1. 柳川 洋一, 太田 宗一郎, 村松 賢一, 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 大坂 裕通, 石川 浩平. ドクターヘリが提供するプライマリ・ケア. 第14回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会 2023年5月12-14日, ポートメッセなごや
2. 柳川 洋一, 濱田 通果, 太田 宗一郎, 村松 賢一, 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 大坂 裕通, 石川 浩平. 中毒における病院前救護の諸問題 静岡県賀茂地域において救急搬送された薬物中毒例の解析. 中毒研究 2023;36:158.
3. 太田 宗一郎, 柳川 洋一. MRIが軸椎歯突起骨折と os odontoideum の鑑別に有用だった一例. 日本臨床救急医学会雑誌 2023;26:395.
4. 渡辺 大輔, 阿妻 伸幸, 下島 健斗, 田沼 明, 野澤 陽子, 佐々木 史乃, 鈴木 英子, 柳川 洋一. 当院ICUにおける天井走行式リフトを使用したりハビリテーションの経験. 日本集中治療医学会雑誌 2023;30:S841.
5. 長澤 宏樹, 太田 宗一郎, 村松 賢一, 竹内 郁人, 日域 佳, 大坂 裕通, 石川 浩平, 柳川 洋一. 高齢の外傷患者における降圧薬常服の潜在的な影響. 日本集中治療医学会雑誌 2023;30:S745.
6. 石川 浩平, 柳川 洋一, 太田 宗一郎, 村松 賢一, 竹内 郁人, 日域 佳, 大坂 裕通. 急性冠症候群の病院前COVID19抗原検査の有用性と課題. 日本集中治療医学会雑誌 2023;30:S686.
7. 柳川 洋一, 太田 宗一郎, 村松 賢一, 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 日域 佳, 大坂 裕通, 石川 浩平. Neurotraumaにおけるvacuum phenomenaの臨床的意義. 日本脳神経外傷学会プログラム・抄録集 46回 2023;page138.
8. 柳川 洋一, 濱田 通果, 太田 宗一郎, 村松 賢一, 藤田 航, 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 大坂 裕通, 石川 浩平. 鈍的外傷後急性期の尿酸値の推移. 日本外傷学会雑誌 2023;37:e220.

9. 長澤 宏樹, 大森 一彦, 柳川 洋一. 救えなかった命の徹底討論(2) 外傷を契機とした高 K 血症で死亡した 1 例. 日本外傷学会雑誌 2023;37:166.
10. 鬼塚 味佳, 橋本 瞭, 田上 佑一, 柳川 洋一. 静岡県東部ドクターヘリの取り組み WEB 会議の有用性. 日本高気圧環境・潜水医学会雑誌 2023;57:206.
11. 柳川 洋一, 鬼塚 味佳, 柳川 良子, 太田 宗一郎, 村松 賢一, 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 日域 佳, 大坂 裕通, 石川 浩平. 著効例と工夫 溺水心停止後の集学的治療により社会復帰した一例. 日本高気圧環境・潜水医学会雑誌 2023;57:196.
12. 柳川 洋一, 太田 宗一郎, 藤田 航, 村松 賢一, 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 日域 佳, 大坂 裕通, 石川 浩平. 脳神経外科救急へのドクターカー、ドクターヘリの活用 ドクターヘリによる痙攣患者の対応. Neurosurgical Emergency 2023;27:172.
13. 太田宗一郎, 竹内郁人, 濱田通果, 藤田航, 村松賢一, 長澤宏樹, 日域佳, 大坂裕通, 石川浩平, 最上敦彦, 柳川洋一. 骨盤骨折に伴う膀胱変形は重症度を示唆する間接所見である. 第 51 回日本救急医学会総会・学術集会 2023 年 11 月 28~30 日 東京ドームホテル
14. 柳川洋一, 濱田通果, 太田宗一郎, 村松賢一, 長澤宏樹, 竹内郁人, 大坂裕通, 大森一彦, 石川浩平. 病院前で胸腔ドレーンを留置した外傷症例の検討. 第 51 回日本救急医学会総会・学術集会 2023 年 11 月 28~30 日 東京ドームホテル
15. 鳥沢規子, 村松賢一, 長澤宏樹, 竹内郁人, 設樂準, 石川浩平, 大坂裕通, 柳川洋一, 諏訪哲. 難治性心室細動を発症した Marfan 症候群の一例. 第 51 回日本救急医学会総会・学術集会 2023 年 11 月 28~30 日 東京ドームホテル
16. 前川ちひろ, 村松賢一, 長澤宏樹, 竹内郁人, 石川浩平, 大坂裕通, 柳川洋一. 遅発性出血をきたした外傷性微小肝損傷の 1 例. 第 51 回日本救急医学会総会・学術集会 2023 年 11 月 28~30 日 東京ドームホテル
17. 村松賢一, 阿部圭希, 長澤宏樹, 竹内郁人, 大坂裕通, 大森一彦, 柳川洋一. 静岡県東部地域の体動困難を主訴に救急搬送された患者の疫学的調査.
18. 濱田通果, 柳川洋一, 竹内郁人, 長澤宏樹. 救急車で搬送された患者における失禁と疾患の重症度との関係. 第 51 回日本救急医学会総会・学術集会 2023 年 11 月 28~30 日 東京ドームホテル
19. 鳥沢 規子, 大坂 裕通, 布谷 茉莉香, 村松 賢一, 阿部 圭希, 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 石川 浩平, 大森 一彦, 柳川 洋一. 両側腸腰筋膿瘍に下大静脈血栓を合併した一例. 第 26 回日本救急医学会中部地方会学術集会. 2023 年 12 月 2 日 三島市民文化会
20. 奥龍 一郎, 村松 賢一, 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 大坂 裕通, 大森 一彦, 柳川 洋一. 転倒外傷触れ込みで搬送された左房粘液腫による多発脳塞栓の一例. 第 26 回日本救急医学会中部地方会学術集会. 2023 年 12 月 2 日 三島市民文化会
21. 石塚ジュスタン正也, 布谷 茉莉香, 村松 賢一, 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 大坂 裕通, 石川 浩平, 大森 一彦, 柳川 洋一. 管気腫を合併した痙攣重積の一例. 第 26 回日本救急医学会中部地方会学術集会. 2023 年 12 月 2 日 三島市民文化会
22. 磯谷 理乃, 村松 賢一, 長澤 宏樹, 竹内 郁人, 大坂 裕通, 石川 浩平, 柳川 洋一. 多発硬膜外膿瘍に髄膜炎、脳炎を合併し、脳梗塞に至った一例. 第 26 回日本救急医学会中部地方会学術集会. 2023 年 12 月 2 日 三島市民文化会

23. 前川 ちひろ、村松 賢一、長澤 宏樹、竹内 郁人、大坂 裕通、石川 浩平、柳川 洋一. 多彩な心電図変化を認めた胸部外傷の一例. 第 26 回日本救急医学会中部地方会学術集会. 2023 年 12 月 2 日 三島市民文化会
24. 太田 宗一郎、村松 賢一、長澤 宏樹、竹内 郁人、大坂 裕通、大森 一彦、柳川 洋一. 急性薬物中毒触れ込みで搬送された多発外傷の一例. 第 26 回日本救急医学会中部地方会学術集会. 2023 年 12 月 2 日 三島市民文化会
25. 長澤 宏樹、村松 賢一、竹内 郁人、大坂 裕通、大森 一彦、柳川 洋一. 当院での病院前輸血現状. 第 26 回日本救急医学会中部地方会学術集会. 2023 年 12 月 2 日 三島市民文化会
26. 柳川 洋一. 意識障害患者へのアプローチ. 第 26 回日本救急医学会中部地方会学術集会. 2023 年 12 月 2 日 三島市民文化会
27. 柳川 洋一. 救急初期診断における全身 CT の意義. 第 26 回日本救急医学会中部地方会学術集会. 2023 年 12 月 2 日 三島市民文化会
28. 柳川 洋一. 写真でみる臨床: 急性尿閉, Kounis 症候群, VF 合併の Marfan sx, 陰圧性肺水腫, 壊死性筋膜炎, 開胸したら心臓が見当たらない, カタレプシー (有機リン中毒), 気腫性感染症, 頸静脈怒張, 減圧症, 高山病, 電撃症, 電撃性紫斑病, 頭蓋骨後頭骨脱臼, 毒蛇咬傷, 内頸静脈血栓症, 蜂の sting mark, 破傷風, 腹壁冷膿瘍, 分水嶺梗塞, 糞尿, 臀部褥瘡感染, minor SAH, 脊椎骨挫傷, 伸展型骨折, 肋骨骨折大動脈穿通, body board injury. 第 26 回日本救急医学会中部地方会学術集会. 2023 年 12 月 2 日 三島市民文化会

社会貢献

1. 第 26 回日本救急医学会 中部地方会学術集会 開催 2023 年 12 月 2 日. 三島市民文化会館 柳川 洋一, 大森一彦, 大坂裕通, 竹内郁人, 長澤宏樹, 村松賢一, 境達郎, 河合健司
2. 第 198 回静岡県外傷セミナー(JPTEC) in 伊豆の国 開催 2023 年 12 月 9 日. 田方中消防署 コース世話人 柳川 洋一
3. 令和 5 年度静岡 DMAT-L 隊員養成研修 2023 年 10 月 28-29 日 静岡県立病院機構 講師 柳川 洋一
4. 令和 5 年度沼津市立病院 日本内科学会 内科救急・ICLS 講習会(JMECC) 開催 2023 年 9 月 29 日 沼津市立病院 ディレクター 柳川 洋一

講演

1. 函南町・伊豆市・伊豆の国市 2 市 1 町災害対応研修. 静岡県での DMAT を中心とした災害対応の現状. 柳川 洋一

2-26 病理診断科

診療実績

2023 年度

(2023 年 4 月～2024 年 3 月)

組織診断：7611 例

細胞診断：8063 例

病理解剖断：9 例

研究・教育活動

【英文原著】

1. Ohsaka H, Muramatsu KI, Ota S, Nagasawa H, Wada R, Yanagawa Y.
Fatal Cardiac Tamponade Due to a Pericardial Inflammatory
Myofibroblastic Tumor. Intern Med. Oct 1;61(19):2891-2894, 2022.
2. Tanaka S, Orita H, Kataoka T, Miyazaki M, Saeki H, Wada R, Brock MV,
Fukunaga T, Amano T, Shiroishi T : Gasdermin D represses
inflammation-induced colon cancer development by regulating apoptosis.
Carcinogenesis, 24;44(4):341-349, 2023.
3. Oda R, Kajimoto K, Oishi A, Hata H, Kamikawa Y, Matsui Y, Fujita W,
Nakamura Y, Singh YS, Shitara J, Takano S, Wada H, Shiozawa T,
Ogita M, Wada R, Suwa S : A Case of Floating Aortic Arch Thrombosis
in a Patient without Thrombophilia. Ann Vasc Dis, 25;16(3)
: 219-222, 2023.
4. Kusunoki T, Wada R : Emergency surgery for a giant laryngeal granuloma
that caused dyspnoea. BMJ Case Rep 9;17(1):e258227. , 2024.
5. Kidokoro Y, Kusunoki, T, Matsumoto T, Kidokoro Y, Wada R,
Matsumoto F : A case report of superficial solitary fibrous tumor in the
right parotidomasseteric region. Ear, Nose & Throat Journal, 1-4, 2024
6. Kusunoki T, Wada R : Case of anterior glottic web with bilateral vocal
cord cancers BMJ Case Rep 2022;15
7. Ohsaka H, Muramatsu KI, Ota S, Nagasawa H, Wada R, Yanagawa Y.
Fatal Cardiac Tamponade Due to a Pericardial Inflammatory
Myofibroblastic Tumor. Intern Med. 2022 Oct 1;61(19):2891-2894.
8. Kusunoki T, Homma H, Kidokoro Y, Yoshikawa A, Tanaka K, Kubo S, Wada R, Ikeda K :
A Case of Nasopharyngeal Tuberculosis with Cervical Lymph Node Tuberculosis Suspected

- of Cervical Malignant Disease at the First Examination. Clin Pract. 2021 : 21.
9. Ogawa T, Ogaki K, Daida K, Nishimaki T, Ando M, Kawajiri S, Wada R, Noda K, Hattori N, Okuma Y : Progressive encephalomyelitis with rigidity and myoclonus and myasthenia gravis comorbid status with thymoma. Movement Disorders Clinical Practice, 2021.
 10. Kusunoki, T, Homma H, Kidokoro Y, Yoshikawa A, Tanaka K, Kubo S, Wada R : Mediastinum Lymph Node Metastasis with Superior Vena Cava Syndrome. Journal of Clinical Case Studies (Open Access). 6, 2021.
 11. Kusunoki T, Wada R : Thyroid Follicular Adenoma with Tracheal Stenosis. J Clin Case Stu 6(4), 2021.
 12. Shimizu Y, Wakabayashi K, Iwasaki H, Kishida C, Seki S, Okuma T, Iwakami N, Iwasawa T, Maekawa H, Tomino Y, Wada R, Suzuki Y : Immunotactoid Glomerulopathy with Nontuberculous Mycobacterial Infection: A Novel Association. Case Rep Nephrol Dial 11:136–46, 2021.

【和文・英文総説】

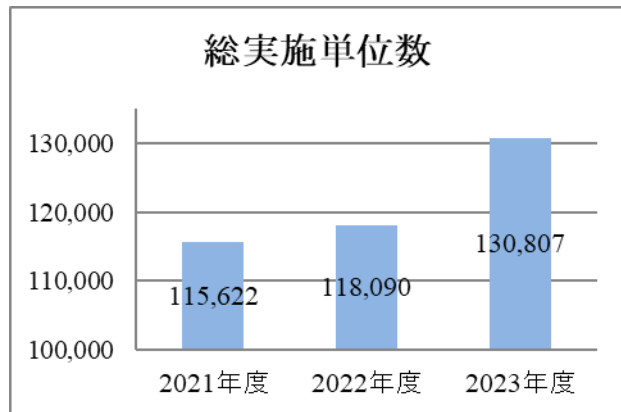
1. 八尾隆史、和田 了、岡野 莊 : 内視鏡的粘膜切除が確定診断に有用な消化管疾患の病理学的特徴. 消化器内科 3:57-63, 2021
2. Wada R : Histogenesis of colorectal carcinoma considering from clinicopathological examinations for colorectal adenoma with Paneth cell. Juntendo Medical Journal. 2021

【和文著書】

1. 和田 了 : 転移性腫瘍. 腫瘍病理鑑別アトラス, 大腸癌第 2 版. 文光堂, 東京, p204-207, 2021

2-27 リハビリテーション科

業務実績



研究・教育活動

論文

1. 福島卓矢, 辻哲也, 中野治郎, 石井瞬, 杉原進介, 佐藤弘, 川上寿一, 加賀谷斉, 田沼明, 関根龍一, 盛啓太, 全田貞幹, 川井章: がん診療連携拠点病院における入院がんリハビリテーション治療の詳細. *Palliative Care Research* 18(2); 143-152, 2023.

著書

1. 田沼明: 前立腺がん. 日本がんサポーターズケア学会 (編): 患者さんのためのがんのリハビリテーション診療 Q&A. pp20-24, 金原出版, 2023.
2. 田沼明: 泌尿器癌の周術期リハビリテーション. 荒井陽一, 高橋悟, 山本新吾, 古家琢也 (編): 第3版泌尿器科周術期管理のすべて. pp53-56, メジカルビュー社, 2024.

講演

1. 海東健太, 杉山明宏: 口腔ケアとリハビリテーションの相互性について. 第20回日本口腔ケア学会総会・学術大会第3回国際口腔ケア学会総会・学術大会, 東京, 2023/4/20-21.
2. 小林敦郎: 多様性の中での理学療法のこれから. 第26回静岡県理学療法学術大会, 静岡, 2023/6/17-18
3. 田沼明: リハビリテーションと Exercise Oncology. 第8回日本がんサポーターズケア学会学術集会, 奈良, 2023/6/22-24
4. 田沼明: がんリハビリテーション領域における研究の最新動向. 第60回日本リハビリテーション医学会学術集会, 福岡, 2023/6/29-7/2
5. 田沼明: がんリハビリテーションのパラダイムシフト. 第12回日本がんリハビリテーション研究会, 沼津, 2024/2/10-11

学会発表

1. 八木陸人, 阿妻伸幸, 渡邊大輔, 田沼明: 重度肥満を有する重症 ARDS 患者に対し人工呼吸器下での早期立位・歩行により呼吸・身体機能改善が図れた一症例～天井走行式リフトを用いて～. 第 26 回静岡県理学療法学術大会, 静岡, 2023/6/17-18
2. 山田凌平, 河原一剛, 宮下春紀, 平松亮二, 石田愛莉, 鳥屋優太, 田沼明: フレイルを有した高齢大動脈弁狭窄症患者に対するプレハビリテーションにより身体機能改善を認めた一症例. 第 26 回静岡県理学療法学術大会, 静岡, 2023/6/17-18
3. 平松亮二, 河原一剛, 宮下春紀, 平松亮二, 石田愛莉, 鳥屋優太, 田沼明: ICU-AW により筋力低下を生じた急性心不全患者の一症例～急性期での身体機能回復の過程～. 第 26 回静岡県理学療法学術大会, 静岡, 2023/6/17-18
4. 小宮山正広, 小池教文, 小林敦郎, 田沼明: 破局的思考の改善が人工股関節再置換術後の疼痛・動作能力改善に繋がった一症例～初回術後と再手術後の比較～. 第 26 回静岡県理学療法学術大会, 静岡, 2023/6/17-18
5. 鳥屋優太, 河原一剛, 宮下春紀, 中村佳代子, 設楽準, 塩澤知之, 田沼明: 末期心不全患者に対する緩和ケアチームと連携した心臓リハビリ介入の経験～静注強心薬使用可で一時的帰宅が行えた一例～. 第 26 回静岡県理学療法学術大会, 静岡, 2023/6/17-18
6. 下島健斗, 田沼明: ICU における重症脳卒中患者に対する天井走行式リフトを用いた歩行訓練の経験. 第 26 回静岡県理学療法学術大会, 静岡, 2023/6/17-18
7. 海東健太, 田沼明: 当院における気管切開チューブ抜去と 3 食経口摂取に至るまでの調査報告. 第 29 回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 神奈川, 2023/9/2-3
8. 小宮山正広, 石井啓太, 藤巻基紀: 進行性核上性麻痺の降段時の恐怖感に OdF 着目した一例～頭位変換眼球反射を利用した介入～. 第 41 回日本神経治療学会学術集会, 東京, 2023/11/3-5
9. 松永晃奈, 鈴木健宏, 川口典宏: 患者の協力が不十分でも手指屈筋腱損傷修復後の癒着と再断裂が最小限であった症例. 第 22 回東海北陸作業療学会, 岐阜, 2023/12/9-10
10. 保谷海斗マフラ, 鈴木健宏, 川口典宏: 肘関節脱臼骨折後の伸展制限に対して, 静的漸次的装具が有効であった症例. 第 22 回東海北陸作業療学会, 岐阜, 2023/12/9-10
11. 八木陸人, 小池教文, 小林敦郎, 田沼明, 荻部綾香: 静脈性潰瘍患者の足関節背屈制限改善に向けた皮膚移植期の理学療法～動的ストレッチを用いて～. 第 4 回日本フットケア・足病医学会年次学術集会, 沖縄, 2023/12/22-23
12. 海東健太, 鳥屋優太, 渡邊大輔, 小林敦郎, 田沼明: 嚥下関連筋群に対し伸張性収縮を用いた介入—放射線後の線維化, 喉頭壊死による嚥下障害の 1 例—, 第 12 回日本がんリハビリテーション研究会, 静岡, 2024/2/10-11.
13. 阿妻伸幸, 渡邊大輔, 鳥屋優太, 小林敦郎, 古屋曜子, 高山卓也, 佐藤俊輔, 田沼明: 肝動脈化学塞栓術を施行した肝臓がん患者に対するリハビリテーションが身体活動量に与える影響: 第 12 回日本がんリハビリテーション研究会, 静岡, 2024/2/10-11
14. 阿妻伸幸, 渡邊大輔, 長澤宏樹, 田沼明: 心合併症のリスクを伴う Flail Chest 症例に対する早期離床の経験, 第 51 回日本集中治療医学会学術集会, 北海道, 2024/3/14-16
15. 宮下春紀, 河原一剛, 鳥屋優太, 渡邊大輔, 小林敦郎, 田沼明: 非計画導入に至った慢性腎不全患者の転帰に関連する因子の検討, 第 14 回日本腎臓リハビリテーション学会学術集会, 新潟, 2024/3/16-17

2-28 臨床検査科

業務実績

1. 2023 年度 外部精度管理参加結果

- ① 57 回日本医師会精度管理調査での点数 99.1 点、(D) 評価なし。総合評点 96.8 点
- ② 40 回静岡県医師会精度管理調査：99.1 点 (114/115)
- ③ 59 回日臨技精度管理調査：99.2 点 (244/246)、
(D) 評価：2 項目～WBC：単位違いによる誤記、ABR 検査～知識不足。是正報告済。

2. 検査技師を対象に勉強会「知得会」を開催（第 88～94 回）。

3. 検査結果の見方、考え方：検査の説明パンフレットを見直し（前文、測定単位の訂正）採血室・受付等に配布。

4. 採血室、中央検査室一部、移転。

5. 結果報告時間の短縮について現状調査。

研究活動；報告・発表

- ① 第 40 回 静岡県臨床検査精度管理調査報告書、2023.10
- ② 日本総合健診医学会第 51 年次 2023 年度 臨床検査精度管理報告書、2024.3
- ③ 優良施設認定実査概況：総合健診 50.6 101～102 2023
- ④ 私と総合健診：総合健診 50 周年記念誌 41～42 2023.11

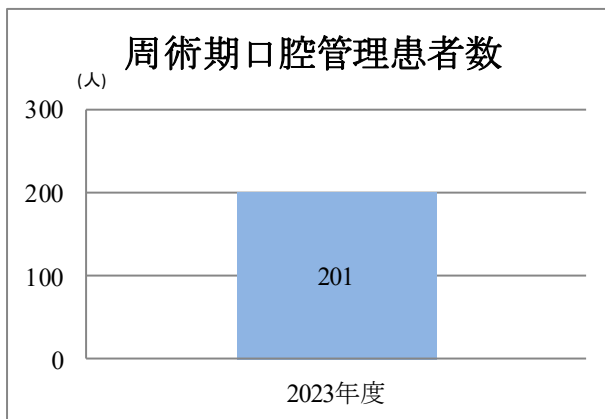
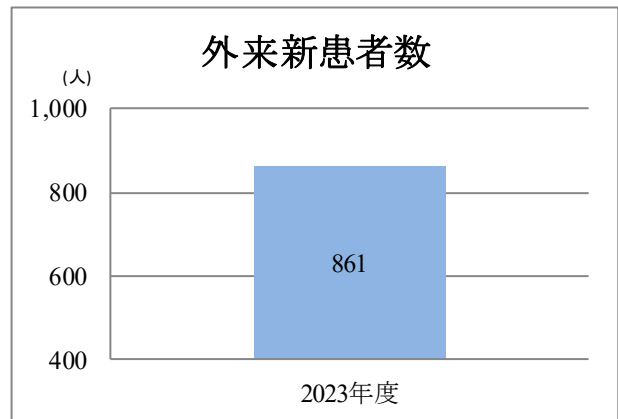
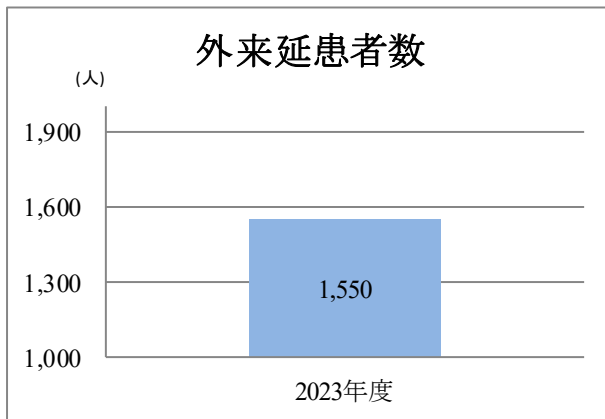
（特任教授 田内一民）

2-29 歯科口腔外科

はじめに

当科は 2023 年 9 月から歯科医師 1 人体制で開設され、常勤の歯科衛生士や歯科技工士ならびに看護師で診療に従事しております。開設後の 9 月からは院内患者の周術期口腔ケアをメインに診療を開始し、2024 年 1 月より近隣の歯科医院や医療施設からの紹介患者に対する診療も始めました。日帰り抜歯などの小手術、顎関節症や睡眠時無呼吸症候群のマウスピース作製にも対応しておりますが、次年度以降、歯科医師も増員し入院全身麻酔での手術も開始していく予定です。

診療実績



※2023年9月以降のデータに基づき作成

- 抜歯患者数 113 人
- その他の日帰り手術数 34 人

講演会

1. 井染 洋 田方歯科医師会 2024.2.6

3. 部門報告

3-1 薬剤科

業務実績

薬剤師：37名うちGCPセンター（調剤業務兼務）に3名、薬剤管理指導業務担当8名、手術室業務1名、注射薬払い出しおよび無菌製剤業務1名、外来および入院調剤業務21名、外来・入院化学療法2名、医薬品情報室1名にて業務をおこなっている。（2024年3月31日現在）

業務内容

- | | |
|------------|--|
| ① 調剤 | 外来・入院調剤 |
| ② 製剤 | 約束処方・院内特殊製剤 |
| ③ 注射薬の取り揃え | 入院一般注射薬・化学療法用注射薬（外来・入院とも） |
| ④ 注射薬の無菌製剤 | 中心静脈栄養・化学療法（外来・入院とも） |
| ⑤ 薬品管理 | 薬品発注・在庫管理・麻薬管理 |
| ⑥ 医薬品情報提供 | 院内医薬品集(昨年度より電子化)の発行・新規採用薬中止薬の案内・副作用情報等の収集・提供 |
| ⑦ 薬剤管理指導業務 | 科ごとに薬剤師を担当させているが、ICU・CCUは持参薬管理のみ
ブレアボイド報告 |
| ⑧ 手術室業務 | 麻酔薬の準備・使用後の確認など麻酔科医業務支援および麻薬管理 |
| ⑨ その他 | 学会発表など |

1. 調剤業務

処方内容については、調剤監査システムにて相互作用、重複投与等のチェックを行った後処方せんを発行し調剤を実施している。外来および退院処方については「薬剤情報提供書（あなたのおくすり）」を添付して患者への医薬品情報提供を実施している。合わせて、お薬手帳用薬剤一覧も毎回発行・配布している。外来処方せんは院内にて調剤を行い、院外処方せんについては希望者のみとしている。2021年度から調剤室内のレイアウトと調剤方法を変更した結果調剤時間短縮が図られた。

● 2023年度調剤業務（処方せん枚数）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2024年 1月	2月	3月
外来	26,497	25,684	27,180	27,259	28,009	27,052	27,692	27,342	28,082	26,761	26,571	27,975
入院	14,005	14,908	15,353	14,784	15,400	14,962	15,750	15,509	15,659	15,467	15,587	16,703
合計	40,502	41,592	42,533	42,043	43,409	42,014	43,375	42,851	43,741	42,228	42,158	44,678
院外	1,222	1,162	1,185	1,145	1,189	1,172	1,211	1,191	1,275	1,169	1,201	1,286

2. 製剤

院内製剤は点眼薬、点鼻薬、点耳薬、軟膏、処置薬などを調製している無菌的な操作の必要なものはクリーンベンチ内で調製している。

3. 注射薬の取り揃え

入院一般注射薬：前日までにオーダーされている注射薬を個人別にセットし、専用カートにて各病棟に払い出す。金曜日は土曜日・日曜日分を、土曜日は月曜日分のセットをしている。

●2023 年度注射薬処方箋枚数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	2024 年 1 月	2 月	3 月
外来	2,718	2,850	2,872	3,072	3,146	2,999	3,111	2,991	3,122	3,047	3,011	3,263
入院	18,446	18,071	18,381	19,748	19,474	19,333	18,404	19,188	21,041	20,353	18,785	20,217

4. 注薬の無菌製剤

外来・入院化学療法：前日までにオーダーされている外来化学療法の注射薬を個人別にセットし、担当者がレジメン内容の監査を行なう。

実施日当日は治療続行の指示に従って、がん治療センターの安全キャビネット内で直前に混注業務を行っている。中心静脈栄養（IVH）：当日 13:00 まで（土曜及び休日は 8:00）にオーダーされたものを、クリーンベンチ内で調製し病棟に払い出している

●2023 年度無菌製剤件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	2024 年 1 月	2 月	3 月
外来化学療法	607	631	584	625	682	613	648	633	577	621	633	616
入院化学療法	220	259	268	266	314	260	234	261	213	269	271	240
IVH	9	42	35	46	68	100	51	49	35	47	7	39

5. 薬品管理

採用薬は 2022 年 3 月 31 日時点で内服薬：957 品目・注射薬：519 品目、合計 1,476 品目である。

6. 医薬品情報提供業務

医薬品の安全かつ、適正使用のための情報収集および情報提供を実施。

院内医薬品集(電子版)の作成（毎月更新）・新規採用薬、採用中止薬、包装・剤形変更の情報は薬剤科からのお知らせにて院内配布（電子版も併せ）。

7. 薬剤管理指導業務

内科、外科、脳外科、産婦人科、眼科、耳鼻科、整形外科、泌尿器科、神経内科、呼吸器外科、形成外科及び皮膚科に、科ごとに配置している。持参薬の検索、服薬指導、薬歴から相互作用、併用禁忌などの薬学的管理を行なっている。2021 年 7 月より新たに皮膚科を開始している。

医療安全対策のひとつとしてプレアボイド報告（薬学的ケアの実施によって、副作用・相互作用・治療効果不十分などを回避あるいは軽減した事例の報告）を行っており

2022 年度は 2,140 件（前年比 145%）の報告を行った。

●2023 年度薬剤管理指導算定件数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	2024 年 1 月	2 月	3 月
算定件数	1,099	1,067	1,162	1,255	1,148	1,143	1,184	1,258	1,126	1,232	1,125	1,235

8. その他

学会発表

初回化学療法に mFOLFIRINOX 療法を導入した切除不能膵臓癌患者における UGT1 ヘテロ接合体遺伝子と治療効果の相関解析

○南雲 昭人 1)、田中 怜 2、3)、宮口 貴守 2) 賀茂 佳子 2)、鴨志田 武 2)、篠 道弘 2)

1) 順天堂大学医学部附属静岡病院 薬剤科、2) 静岡県立がんセンター 薬剤部

3) 東京理科大学 薬学部

日本臨床腫瘍薬学会学術大会 2023 年 3 月 4～5 日 名古屋国際会議場

著書

植松卓也、中塚真依子（順天堂医院 薬剤部）特集 浮腫と脱水の薬物治療 : 薬剤性の浮腫
月刊薬事 2022.10 (Vol.64 No13) 69-75

杉本智恵子、芹澤健一 特集 浮腫と脱水の薬物治療 : 薬剤性の電解質異常
月刊薬事 2022.10 (Vol.64 No13) 76-81

2024 年度の目標

- ① 研究活動の充実と臨床スキル（薬学的管理）の向上
6 病院横断型の研究チームの推進、人事交流およびキャリアパスの取得など。
学位取得に向けた取り組み。
- ② 改正薬剤師法に準拠した医薬品適正使用および医療安全への貢献（継続）
- ③ 業務の効率化や安全性重視のためのロボット化・AI の導入。（継続）
ロボピックや医薬品情報提供業務支援ソフトの導入検討開始。調剤支援システムの更新。
薬剤管理指導業務支援システムの更新。
- ④ 薬学部開設および増床に向けた体制づくり。
学生実習の受け入れの継続と実務兼務の教員の養成。
- ⑤ 薬剤師の増員と臨床業務の充実
薬剤師の増員を図り、病棟薬剤業務の充実とチーム医療への貢献をめざす。

3-2 栄養科

業務実績

(1) 栄養管理業務

- ① 医師の指示のもとに、外来患者および入院患者への栄養食事指導を実施した。
糖尿病の教育入院(2週間)が毎週定期的にあり、入院中には患者に寄り添った栄養食事指導を行い、退院後も定期的にフォローアップを行った。糖尿病療養指導士の習得は 3名である。
栄養指導実施件数は 2021年度 3,995件、2022年度 4,034件、2024年度 4,204 件であった。
2022年度診療報酬改訂に伴い、7月より早期栄養介入管理加算の算定を開始した(445件)。
- ② 栄養サポートチーム (NST) を中心に患者の栄養状態改善を図る為、毎週木曜日に NST 回診を実施した。管理栄養士が活動をまとめる中で NST リンクナースに指導を行い、低栄養患者に対してNST 介入できるよう見直しを行った。NST 専任要件を満たす医師 2名、NST 専門療法士習得者は、管理栄養士 2名、看護師 2名、薬剤師 1名となり、それぞれの立場から専門性を発揮し連携を深めた。
- ③ 摂食嚥下支援チームの活動として週一回のチームカンファレンスを実施し、摂食嚥下機能回復体制加算取得に向け体制を整えている。

(2) 給食管理業務

- ① 適時適温給食の実施、安心して安全な食事の提供を行なった。
- ② 医師の指示に従い、また患者の状態に寄り添った個々人の対応を行なった。
- ③ 年 4 回の嗜好調査により患者の希望を捉え、献立作成に生かした。
- ④ 選択メニューを実施し、患者満足度を向上

①給食実施状況

(単位:食)

区分	食種名	食数
一般食	常食	171,370
	授乳食	7,990
	お祝い膳	785
	学童食	1,736
	小児食	3,955
	離乳食	698
	軟食	69,727
	流動食	4,892
	小計	261,153
特別食	エネルギー塩分食	73,818
	糖質調整食	42,437
	蛋白コントロール食	25,987
	胃腸病食	22,402
	脂質制限食	9,298
	低残渣食	3,153
	無菌食	69
	注腸食	2
	濃厚流動食	43,264
	ミルク	30,486
	小計	250,916
患者合計		512,069
職員合計		114,393
付添い合計		2,258
おやつ合計		3,804
5回食合計		1,332

③NST介入延べ人数(各科別)

診療科	延べ人数
膠原病・リウマチ内科	8
消化器内科	66
呼吸器内科	31
血液内科	70
腎臓内科	26
糖尿病・内分泌内科	8
外科	58
脳神経外科	49
循環器内科	109
心臓血管外科	25
呼吸器外科	2
脳神経内科	64
整形外科	32
形成外科	22
救急診療科	81
小児科	0
小児外科	0
眼科	0
耳鼻咽喉科	22
産婦人科	32
皮膚・アレルギー科	4
泌尿器科	54
合計	763

②栄養食事指導実施状況

(単位:件)

区分	指導名	入院	外来	合計
個人指導	糖尿病食	516	1123	1639
	腎臓病食	128	280	408
	減塩食	865	91	956
	肝臓病食	52	13	65
	胃腸病食	296	34	330
	肥満食	3	23	26
	脂質異常食	26	53	79
	痛風食	0	0	0
	貧血食	1	2	3
	高血圧食	1	0	1
	その他	416	144	560
	小計	2304	1763	4067
集団指導	指導名	回数	人数	
	糖尿病教室	21	73	
	心臓病教室	18	64	
	糖尿病会食	0	0	
	母親教室	0	0	

3-3 放射線室

放射線室は、診療放射線技師 37 名(男性 30 名、女性 7 名)、事務員 5 名にて構成されている。診療放射線技師の勤務シフトは、早出 4 名、遅出 5 名、準夜 2 名、深夜 2 名、更に ON CALL2 名で行い、24 時間、業務が滞らないよう努めている。

(基本方針)

- (1) 良質な医療情報（画像）の提供。
- (2) 患者に寄り添い、患者中心の検査を実施。
- (3) つねに学び、考え、新しい事への挑戦。
- (4) 医療人として医師、患者から信頼される診療放射線技師。

(目 標)

- (1) 検査の必要性を理解し、間違いのない医療情報を提供する。
- (2) 患者に応じて、最良の検査方法を選択、施行する。
- (3) 各種認定資格取得、学術発表を目指す。
- (4) 医師、他の医療スタッフと連携して、質の高いチーム医療を提供する。

(業務実績)

機器構成 ： 2023 年度

機器名	台数
一般撮影装置	5
移動型 X 線装置	6
骨密度測定器	1
乳房撮影装置	1
X 線 TV 装置	3
血管撮影装置 (Hybrid 含)	4
CT 装置	4
MRI 装置	3
ガンマーカメラ(SPECT)	1
PET-CT	1
放射線治療装置 (リニアック)	1
放射線治療計画用 CT 装置	1
口腔撮影装置 (パントモ)	1

業務実績 (検査数)

年度	2022	2023
一般撮影	79487	82511
ポータブル	30845	31446
骨密度検査	1790	2031
マンモ	1381	1359
X 線 TV	3261	3023
血管撮影	2274	2304
CT 検査	45159	46298
MRI 検査	15216	15363
RI 検査	875	1003
PET-CT	831	737
放射線治療	6119	5432
口腔撮影	0	411
合計	187238	191918

前年度と比較し、総件数で約 102%の業務量であった。12 部門の内、8 部門において検査数が増加した。

(放射線技師を目指す学生への取り組み)

順天堂大学保健医療学部診療放射線学科の実習病院として、学生を受け入れている。

(資格取得実績)

医学物理士	1 名
第一種放射線取扱主任者	4 名
日本血管撮影 IVR 専門診療放射線技師	5 名
磁気共鳴専門技術者	3 名
放射線治療専門放射線技師	2 名
放射線治療品質管理師	1 名
救急撮影認定技師	3 名
マンモグラフィー技術認定資格者	6 名
X 線 CT 認定技師	6 名
第一種作業環境測定士	2 名
臨床実習指導者	10 名
放射線機器管理士	6 名
放射線管理士	8 名
災害支援認定診療放射線技師	1 名
医療画像情報精度管理士	2 名
画像等手術支援認定放射線技師	3 名
博士課程 修了者	1 名

発表・講演実績 (2023.4～2024.3)

タイトル	学会名	場所	発表年月 日	発表者・共同演者
腕をおろした患者の腹部 CT 撮影におけるディープラーニング再構成の有用性	第 14 回静岡 CT 研究会	レイアップ御幸町ビル (静岡)	2023/5/20	平入哲也
CT 撮像における Deep Learning Reconstruction の臨床応用	愛知県診療放射線技師会 第 26 回 さつきセミナー	JA あいちビル 14 階	2023/5/28	平入哲也
エチケット・マナー、医療コミュニケーション講座	静岡県放射線技師会「フレッシューズセミナー」	静岡県放射線技師会 事務所	2023/9/2	七尾 光広
2 方向位置決め撮影の撮影順序とポジショニング位置が四肢骨 CT 検査の画像ノイズと被ばく線量に及ぼす影響の評価	第 39 回日本診療放射線技師学術大会	熊本県・熊本城ホール	2023/9/29	内藤泰匡・平入哲也

STAT 画像報告の現状とシステム構築における取り組み	第 39 回日本診療放射線技師学会大会	熊本県・熊本城ホール	2023/10/1	杉山巧也・平入哲也・篠田雅弘
DBT 用 QC Phantom を使用した日常的な品質管理の検討	第 15 回中部放射線医療技術学会大会	福井県福井市 AOSSA	2023/11/25	有坂英里・伊藤周子
Digital breast tomosynthesis 専用 Phantom と解析ソフトを使用した石灰化検出濃の定量評価	第 15 回中部放射線医療技術学会大会	福井県福井市 AOSSA	2023/11/25	伊藤周子
Canon Medical Systems 社製 Deep Learning Reconstruction Advanced intelligent Clear-IQ Engine (AiCE) の臨床利用	第 15 回中部放射線医療技術学会大会	福井県福井市 AOSSA	2023/11/26	平入哲也
Digital Brest Tomosynthesis 下・マンモトーム生検における付加フィルタの有用性について	第 33 回日本乳癌検診学会学術総会	福岡国際会議場	2023/11/25	杉山真那実
即戦力になろう！画像診断のいろは～救急 CT 撮影のワンポイント～	第 26 回救急医学会中部地方会	三島市民文化会館(ゆうゆうホール)	2023/12/2	内藤泰匡
修士、博士取得の経験談（金沢大学の場合）	令和 6 年静岡県放射線技師会新春公開講演会	静岡商工会議所	2024/1/13	平入哲也
第 4 回救急画像報告トレーニングセンター 呼吸器領域	第 4 回救急画像報告トレーニングセンター	Web 開催	2024/3/14	内藤泰匡
婦人科領域の救急画像（異所性妊娠：帝王切開瘢痕部妊娠）	救急画像のトレセン～STAT 画像報告に役立つ～	Web 開催	2024/3/28	杉山巧也

論文(2023.4～2024.3)

タイトル	学会	著者，院内共著
体表面鉛カットアウトを使用した電子線治療におけるモンテカルロシミュレーションの有用性の検討	日本放射線技術学会雑誌(Vol. 80 No. 2 Feb 2024)	小野直人
Improvement of diagnostic performance of hyperacute ischemic stroke in head CT using an image-based noise reduction technique with non-black-boxed process.	European Journal of Medical Physics 112 (2023) 102646.	Tetsuya Hirairi

3-4 検査室

業務実績

2023 年度検査件数

	検体検査数	病理検査数 細胞診数	生理検査数 (腹部エコー含む)	採血件数	委託検査数	総検査数
4 月	400,942	1,261	5,244	10,105	15,843	433,395
5 月	398,959	1,243	4,811	10,064	14,638	429,715
6 月	413,673	1,413	6,213	10,303	15,043	446,645
7 月	412,019	1,259	5,075	10,177	14,718	443,248
8 月	415,643	1,299	5,140	10,405	13,992	446,479
9 月	403,659	1,336	5,118	10,352	13,925	434,390
10 月	414,291	1,284	5,256	10,479	13,906	445,216
11 月	411,073	1,365	5,144	10,350	14,190	442,122
12 月	420,220	1,356	4,878	10,326	15,365	452,145
1 月	411,076	1,195	4,838	10,077	13,843	441,029
2 月	392,913	1,259	4,896	9,844	13,951	422,863
3 月	426,443	1,417	5,285	10,732	15,368	459,245
計	4,920,911	15,687	61,898	123,214	174,782	5,296,492
平均	410,075.9	1,307.3	5,158.2	10,267.8	14,565.2	441,374.3

検体検査数の内訳

	生化学	血清	一般	輸血検査 血液型	血液 凝固	細菌	計
4 月	288,656	39,708	13,281	4,086	52,053	5,473	403,257
5 月	287,155	38,965	13,564	3,928	52,299	6,114	402,025
6 月	298,041	40,540	14,493	4,239	53,898	5,929	417,140
7 月	296,570	40,419	12,477	4,372	55,801	6,316	415,955
8 月	298,660	40,712	14,274	4,369	54,912	6,298	419,225
9 月	291,701	38,970	13,671	3,958	52,971	5,472	406,743
10 月	298,309	40,751	14,184	4,203	54,477	5,864	417,788
11 月	297,111	40,467	14,253	4,235	53,574	6,299	415,939
12 月	303,898	40,844	13,933	4,249	56,665	6,203	425,792
1 月	296,412	40,583	13,874	4,331	55,195	6,426	416,821
2 月	283,833	38,710	13,530	4,022	52,079	5,880	398,054
3 月	308,773	42,064	14,708	4,104	56,203	6,197	432,049
計	3,549,119	482,733	166,242	50,096	650,127	72,471	4,970,788
平均	295,760	40,228	13,854	4,175	54,177	6,039	414,232

研究活動

1. 順天堂 6 病院技師長会、各分科会において業務の標準化を進める
2. 毎月 1 回の検査室内勉強会（知得会）を開催し若手技師のプレゼンテーションの場とする
3. 日本臨床検査技師会の品質保証施設認証制度の継続認証を受ける

資格取得状況

細胞検査士(JSCC)	5 名
細胞検査士(IAC)	5 名
医療技術部門管理資格認定	1 名
認定臨床化学免疫化学精度保証管理検査技師	1 名
認定輸血検査技師	1 名
認定血液検査技師	2 名
認定病理検査技師	1 名
認定心電図専門士	1 名
認定超音波検査士(循環器領域)	2 名
認定超音波検査士(体表臓器領域)	1 名
POCT 測定認定士	1 名
遺伝子分析科学認定士(初級)	3 名
緊急検査士	13 名
二級臨床検査士 免疫血清学	6 名
二級臨床検査士 血液学	6 名
二級臨床検査士 病理学	4 名
二級臨床検査士 循環生理学	3 名
二級臨床検査士 微生物学	3 名
静岡県肝炎医療コーディネーター	4 名
衛生工学衛生管理者	1 名
有機溶剤作業主任者	2 名
特定化学物質及び四アルキル鉛等作業主任者	2 名
健康食品管理士	2 名
臨床検査技師臨地実習指導者	1 名

3-5 手術室

業務実績

1. 手術件数の推移

2023 年の年間手術件数 9006 件、定時外も含む稼働率は、70.1%であった。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
2021 年	751	671	718	701	670	669	682	742	711	688	601	797	8401
2022 年	683	671	759	720	635	697	782	756	797	717	745	836	8798
2023 年	760	695	789	720	778	705	756	747	758	755	755	800	9006

2. 手術室の有効利用

手術のインターバルは 30 分であった。今後も各部門と連携し、A 棟手術室を含め有効利用に努める。

3. 手術室看護師の業務効率化

鋭利物混入の確認や廃棄の補助、機材の同時カウントにより時間短縮を図った。キット内容を修正したことで、術前準備の短縮ができた。また、病棟との申し送りを麻酔科と協働することで時間短縮が図れたことにより、術前訪問・術後訪問件数の増加・術間短縮にもつながった。さらに、衛生材料を一部既製品での運用に変更したことで業務の短縮、人員の確保、在庫管理がスムーズかつ簡素化ができ、効率的に業務が行えている。人員の確保ができたことにより、外来から術前外来業務を引き継ぎ、手術室看護師が実施している。

今後も、業務効率化のために業務の評価、修正や手術キットの見直しを適宜行っていく。また、定期的に手術室マニュアルの見直し修正を継続する。

4. 手術室看護師の知識と技術向上

手術室では、術前・術後訪問を積極的に行い、予定手術患者に全件実施している。緊急手術時も患者の状況に合わせて訪問を行っている。術前訪問で得られた情報をもとに手術室環境の整備、周手術期の看護に活用している。また、術後訪問を実施することにより看護の振り返りを行い、手術看護の質の向上を目指している。入院前から外来での早期介入を行うことにより、患者自身が手術に向けて心身の準備ができ、行動変容に繋がるよう教育的な関わりを行っている。これらを継続し、周術期の安全と術後早期回復に向けて、より安全に安心な手術を受けてもらえる体制作りをしていく。サインイン・タイムアウト実施率 100%継続し、安全の確保をしていくとともに、術中二次障害予防に対して、手術看護師の専門性に特化した看護の質の向上を図るため、手術中の定期的な除圧や正しいポジショニングなどスキルアップに努めていく。

5. コスト削減の推進

各診療科、用度課と連携をとり、手術室内の診療材料、衛生材料などの在庫の見直しを行った。

3-6 血液浄化センター

業務内容

透析専門医師 2 名・常勤医師 2 名・看護師 10 名・臨床工学技士 13 名、看護助手 1 名により運営された。移動困難な重症例は病室へ出張し、血液浄化療法を施行した。合併症の加療のため入院した維持透析患者の血液透析の管理を行い、他科からの依頼による単純血漿交換・二重濾過血漿分離交換・エンドトキシン吸着・血液吸着・顆粒球吸着などの血液浄化療法および腹水の濃縮還元療法を行った。近年、外科領域・神経内科・膠原病内科などにおけるエンドトキシン吸着・二重濾過膜血漿交換・血液吸着などの件数が増加し、血液浄化療法の適応が拡大している。また、悪性腫瘍の治療中に発症する急性腎障害や末期腎不全へなど Onconeurology 分野の業務が増加している。近年、血液透析導入患者の年齢が高くなるに従い、透析を安定して行えるようになって、退院後の通院透析が困難な患者さんが増えており、リハビリテーション目的の転院が増加している。

診療実績

	HD	ECU M	PMX	PE	DFP P	血漿吸 着	血液吸 着	CHDF	CART	合計
30 年度	5,714	99	131	19	111	61	141	1,017	109	7,402
R1 年度	5,804	123	113	63	40	124	96	1,071	103	7,537
R2 年度	5,451	145	126	39	43	64	109	909	71	6,947
R3 年度	5,930	44	57	12	38	46	78	876	122	7,203
R4 年度	6,422	59	48	25	89	12	98	927	55	7,735
R5 年度	6,316	83	51	37	112	4	82	733	71	7,504

研究・教育活動

論文 英文・原著

論文 英文・総説

1. Shimizu Y, Tomino Y, Suzuki Y. IgA nephropathy-Beyond the half century. Medicina 2024; 60: 54.
2. Shimizu Y, Tomino Y, Suzuki Y. Therapeutic options for IgA nephropathy. Scholarly Community Encyclopedia. <https://encyclopedia.pub/entry/54151>

論文 和文・総説

1. 清水 芳男 慢性腎臓病について 静岡県腎不全研究会ホームページ <https://shizuoka->

学会発表・国内

1. 若林 啓一、鈴木 魁、今泉 健太郎、清水 芳男、若林 正則 静脈皮膚瘻(veno-cutaneous fistula)のバスキュラーアクセスとしての有用性 第 19 回日本インターベンショナルネフロロジー学会学術集会 順天堂大学医学部附属練馬病院講堂 2023 年 10 月 14 日
2. 中井 公美、鈴木 魁、福原 佳奈子、長澤 肇、若林 啓一、清水 芳男 発症に職業が関連したと思われる溶血性尿毒症症候群の一例 第 53 回日本腎臓学会東部学術集会 仙台国際センター 2023 年 9 月 17 日
3. 林 陽子、若林 啓一、清水 芳男、鈴木 祐介 伊豆半島における CKD 患者の腎・生命予後に及ぼす性差 第 68 回日本透析医学会学術総会 パシフィコ横浜 2023 年 6 月 16 日
4. 長澤 肇、中井 公美、鈴木 魁、若林 啓一、清水 芳男、小林 敬、大塚 智之、大熊 輝之、植田 誠二、鈴木 祐介、松下 訓 シリアル食品(フルグラ)の生活習慣病改善効果の検証ー維持透析患者における検討(第 2 報) 第 62 回静岡腎不全研究会 グランシップ(静岡) 2023 年 10 月 29 日
5. 伊藤 葉月、武井 礼、田中 翔大、中井 公美、長澤 肇、若林 啓一、清水 芳男 発症から 12 年を経て診断された Fabry 病の一例 第 68 回静岡腎セミナー 浜松グランドホテル 2024 年 2 月 10 日
6. 武井 礼、中井 公美、田中 翔大、長澤 肇、若林 啓一、清水 芳男 クリオピリン関連周期性症候群による末期腎不全のため透析導入となった一例 第 63 回静岡腎不全研究会 グランシップ(静岡) 2024 年 3 月 3 日

講演会

1. 清水 芳男 細菌感染症と糸球体腎炎-MRSA 感染後腎炎を中心に- 第 10 回静岡東部地域腎臓研究会 WEB 2023 年 3 月 16 日

3-7 臨床工学室

業務実績

人工心肺装置操作業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
業務件数	7	9	10	7	9	9	10	10	10	6	4	9	100

血液浄化業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
HD	498	451	459	438	521	608	516	600	532	634	590	469	6316
ECUM	6	4	1	5	7	4	8	12	3	16	9	8	83
PMX	4	0	1	3	7	5	0	8	8	3	0	12	51
PE	0	1	4	2	0	7	0	10	0	4	4	5	37
DFPP	4	9	10	8	3	26	13	4	13	9	13	15	112
PA	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4
HA	5	1	17	5	0	11	6	3	4	11	12	7	82
CHDF	81	83	72	52	52	22	30	74	88	70	39	70	733
CART	2	5	6	8	8	6	5	9	8	6	4	4	71
合計	600	554	570	521	602	689	578	720	656	753	671	575	7504

高気圧酸素療法業務実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
業務件数	24	52	31	32	13	43	17	36	54	30	37	8	377

心臓カテーテル室業務実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ポリグラフ	CAG	12	17	25	22	20	10	19	12	13	25	13	20	208
	PCI	38	52	41	52	46	36	50	33	64	67	49	53	581
	PPI	5	2	11	5	6	6	1	6	5	3	10	6	66
	右心カテ	3	4	2	2	3	2	3	3	3	5	5	7	42
	左心カテ	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3
	両心カテ	0	2	4	4	2	0	2	1	1	1	0	0	17
	圧測定	0	4	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	6
	EPS	1	0	2	0	2	2	2	1	0	2	0	0	12
	Abration	21	15	19	11	23	17	21	16	18	19	20	21	221
IVUS	35	37	45	44	42	37	41	35	60	61	56	55	548	
FFR	10	9	17	19	20	11	15	9	6	18	15	13	162	

OCT		11	16	10	10	9	3	8	3	9	8	3	6	96
Rota		0	3	2	2	1	3	3	2	7	4	1	1	29
CROSSER		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
IABP		10	8	11	14	5	5	7	5	10	11	8	5	99
ELCA		4	3	3	3	2	3	6	1	1	4	9	4	43
Pacemaker	植え込み	5	9	14	10	10	6	8	11	4	10	3	5	95
	交換	4	5	6	1	3	5	5	5	1	6	7	3	51
	リードレス	5	1	2	1	0	1	2	2	4	4	1	6	29
ICD	植え込み	0	0	2	2	0	1	0	0	1	2	2	2	12
	交換	0	0	1	1	0	1	1	1	0	0	0	1	6
CRT	植え込み	0	1	2	2	1	1	1	1	0	1	0	2	12
	交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SICD	植え込み	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	交換	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ILR		0	0	1	0	0	0	3	1	0	0	0	1	6
V-A ECMO		5	2	4	4	5	1	0	0	3	5	2	1	32
V-V ECMO		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
Impella		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	6

手術室業務実績

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
圧ライン作成		7	7	8	7	9	10	9	13	11	11	6	10	108
術中CS		24	33	40	38	34	34	38	42	37	31	31	32	414
術後CS		1	4	3	3	3	5	6	4	5	5	2	6	47
神経 モニタリング	Tc-MEP	14	20	17	21	16	15	21	24	17	15	22	18	220
	SEP				1	1								2
	ABR	1	2	1	1	3	2			1	1	1	1	14
	AMR					2								2
	VEP	1			2	1					1	1	1	7
NIM				2		1	1				1			5
マイクロ		10	10	15	11	12	9	8	18	14	10	17	18	152
ナビゲーション		2	4	8	4	5	5	1	6	4	3	2	3	47
Da-Vinch		3	6	8	9	10	9	5	6	5	7	13	7	88
TAVI		8	4	3	5	3	9	5	7	7	4	5	6	66
Impella		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
IABP		0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	3
ECMO		1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	6

3-8 輸血室

業務実績(2023 年度)

年間輸血検査件

・血液型検査 (ABO、Rh)	18,152 件	(時間外 4,792 件)
・不規則抗体検査	14,931 件	(時間外 3,839 件)
・交差適合試験	9,603 件	(時間外 3,072 件)
・クリオプレシピテート調製	329 件	
・新生児用輸血小分け調製	30 件	
・緊急 O 型赤血球輸血対応	65 件	

年間輸血使用量

赤血球製剤 13,666 単位、自己血 644 単位、新鮮凍結血漿 3,800 単位、
血小板製剤 15,790 単位 洗浄血小板製剤 430 単位 HLA 血小板製剤 30 単位
クリオプレシピテート 818 単位

診療科別輸血使用量

	赤血球製剤	自己血	新鮮凍結血漿	血小板製剤	クリオプレシピテート
血液内科	3,548	0	318	12,080	0
心臓血管外科	1,834	6	1,156	1,900	328
循環器科	1,202	0	310	360	22
外科	1,146	0	334	280	0
救急診療科	988	0	320	350	244
整形外科	650	622	20	0	8
消化器内科	1,234	0	76	230	0
産婦人科	890	14	234	200	40
脳神経外科	512	0	78	110	42
泌尿器科	366	0	48	230	0
腎臓内科	168	0	16	60	0
呼吸器外科	100	0	32	40	0
呼吸器内科	200	0	0	140	0
新生児科	51	0	28	0	2
形成外科	70	0	0	20	0
麻酔科	402	2	310	180	128

膠原病内科	96	0	226	30	0
皮膚科	12	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	8	0	0	0	0
小児科	11	0	12	20	0
糖尿病・内分泌内科	88	0	2	10	0
脳神経内科	82	0	276	10	0
眼科	0	0	0	0	0
放射線科	8	0	0	0	0
メンタルクリニック	4	0	4	0	0
計	13,666	644	3,800	16,250	818

廃棄（有効期限切れ、払い出し後の未使用・温度管理不備）

赤血球製剤 18 単位（廃棄率 0.13 %）
 新鮮凍結血漿 58 単位（廃棄率 1.22%）
 血小板製剤 10 単位（廃棄率 0.061 %）

【理念】

「仁」の心をもって、患者さんご家族が満足できる最善の看護を目指す

【行動指針】

1. 専門職として倫理を遵守し、思いやりのある看護を実践する
2. 根拠に基づく安全な看護を提供する
3. 教育・実践・研究を通して看護の発展に貢献する
- 4・他の医療職者と協働し、健全な病院運営に参画する
5. 地域と連携した看護を推進する

【ビジョン】

看護部は看護部理念・行動指針に基づき、大学附属病院、基幹病院の看護師として、自律した看護師の育成と看護の質向上を目指す

【2023 年度 目標】

1. 患者さんの尊厳を守り、安全で質の高い看護を提供する
2. 地域と連携し、暮らしに視点を置いた切れ目のない看護を提供する
3. 働きがい・働きやすさを感じられる健康で安全な職場環境をつくる
4. 電子カルテの更新を滞りなく効率的に行う
5. 一般病床増床、病床機能の変更、及びⅡ期棟完成に向けて準備し協働する

【2023 年度 目標の評価】

1. 患者さんの尊厳を守り安全で質の高い看護を提供する
QI 目標達成のため WG（褥瘡・転倒転落・誤薬・身体拘束・退院支援・人材育成等）を作り、2019 年度より活動を開始。昨年度より、褥瘡予防対策としケアマイスター制度をたち上げ、主任看護師からキャリアラダー目標にも取り込み屋根瓦方式で育成を開始。転倒転落については部署ラウンドや患者教育のための予防体操の指導、KYT を実施してのアセスメント力の向上。誤薬に関してはインシュリン事故、看護師の配薬

確認に関わる準備などの課題があり、電子カルテ指示システムの更新を計画中である。身体拘束については基準を作成し今年度は基準の周知と倫理カンファレンスの拡大を図っている。

2. 外来・病棟が連携し地域とつなげる看護の提供

外来での継続看護、重症化予防のための生活指導などに取り組んだ。外来でのスクリーニング件数は増加、指導件数も伸びてきている。ケアプランなど記録に反映をしていくことが課題となっている。

3. 働きがい・働きやすさを感じられる職場環境作り

WLBINDEX 調査結果にて働き方、生活満足度が上昇。超過勤務時間平均も 17:23 とやや短縮。退職率も 7.4%と昨年度より減少した。しかし超過勤務については 20 時間超えの部署もある。

本年度は業務改善として、看護補助者のタスクシフトへの取り組みとして、衛生材料のディスポ化、メッセージ業務専用補助者の配置を行った。今後は業務をさらに整理し、看護師のベッドサイドケアの確保につとめていく。また介護福祉士の増員なども検討する。

キャリア開発では、CN・CNS・特定看護師などを活用し、現任教育の充実に取り組んでいるが看護師のアセスメント能力強化のため、現場でのペア制を実施する上で、意図的に教育介入ができる指導者の育成にも取り組む。

4. 電子カルテの更新を滞りなく効率的に行う

5月3.4日システム停止については、危機管理マニュアルの改訂、整備を看護安全管理課と災害委員会で作成、紙運用での対応と災害時の訓練を兼ね準備を実施。各部門システム更新については、WG グループを編成、看護記録、予約システム、看護管理日誌等、2025年度1月稼働に向け活動を開始。

5. 一般病床増床、病床機能の変更、及びⅡ期棟完成に向けて準備し協働する

増床に伴い、3C 病棟 21 床を 6 月に一般病棟として開設、2024 年 3 月より VRE コホート病棟として運用変更。3C 移転に伴い、5C 病棟を 2024 年 4 月 17 日から VRE コホート病棟 20 床へ変更予定。

10 月は COVID 病棟の閉鎖に伴い、小児病棟 15 床の再開のため 9A 病棟より移転。2024 年度 4 月のⅡ期棟開設に伴い、3 病棟の引っ越し準備向け、他職種と計画通りすすめることができた。(5B→6H 3C→6I 6H 産婦人科→5H)

2023年度 看護部目標と指標（QI：Quality Indicator） 期末評価

目標 1）患者さんの尊厳を守り、安全で質の高い看護を提供する

① 褥瘡 発 生 率 を 低 下 さ せ る	1. 主要評価項目		現状値	目標値	1年後
			2022年度	6か月後	
	①新規褥瘡発生割合（月間）		0.96%	0.80%	0.80%
	分子	新規褥瘡発生患者数			
	分母	入院患者数			
	②新規MDRPU発生割合（月間）		1.19%	1.00%	0.84%
	分子	新規MDRPU発生患者数			
	分母	入院患者数			
	2. 副次評価項目		現状値	目標値	1年後
			2022年度	6か月後	
①自立度の正しい評価割合（月間）		データなし	80%以上	83%(22件誤)	
分子	新規褥瘡発生時の日常生活自立度評価が患者状態と一致した数				
分母	新規褥瘡発生患者数				

② 転倒転落発生率を低下させる	1. 主要評価項目		現状値	目標値	1年後
			2022年度	6か月後	
	①損傷レベル2の転倒転落発生率（年間）		0.28%	0.275%	0.36%
	分子	損傷レベル2の転倒転落発生件数			
	分母	転倒転落インシデントアクシデント報告件数			
	2. 副次評価項目		現状値	目標値	1年後
			2022年度	6か月後	
	①病棟の危険度Ⅱ以上患者の転倒転落割合（年間）		0.25%	0.24%	0.28%
	分子	危険度Ⅱ以上の転倒転落患者数			
	分母	危険度Ⅱ以上の入院患者数			
	②病棟の再転倒転落患者割合（年間）		11.6%	11.00%	16.30%
	分子	転倒転落歴のある患者数			
	分母	転倒転落発生患者数			

③ 誤 薬 発 生 率 を 低 下 さ せ	1. 主要評価項目		現状値	目標値	
			2022年度	6か月後	1年後
	①注射薬に関連する誤薬事故発生割合（年間）		51.2%	49.5%	47.8%
	分子	注射薬に関連する誤薬事故発生件数		結果	結果
	分母	薬剤に関連する誤薬事故発生件数		59.4%	62.3%
	2. 副次評価項目		現状値	目標値	
			2022年度	6か月後	1年後
	①インスリンに関連する誤薬事故発生割合（年間）		18.4%	14.9%	11.7%
	分子	インスリンに関連する誤薬事故発生件数		結果	結果
	分母	注射薬に関する誤薬事故発生件数		20.1%	19.1%

④ 身体拘束割合を低下させる	1. 主要評価項目		現状値	目標値	1年後
			2022年度	6か月後	
	①身体拘束患者割合（月間）		一般：11.2% 特定：55.1%	一般：9.0% 特定：50.0%	一般：13% 特定：52%
	分子	身体拘束実施患者数			
	分母	入院患者数			
	2. 副次評価項目		現状値	目標値	1年後
			2022年度	6か月後	
	①身体拘束実施日数割合（月間）		一般：13.6% 特定：61.9%	一般：12% 特定：60%	一般:14% 特定：60%
	分子	患者一人あたり身体拘束平均実施日数			
	分母	平均在院日数			
	②認知症ケア加算の減算率の低下		53%	50%	51% (取り組み 6か月)
	分子	認知症ケア加算 減算件数			
	分母	認知症ケア加算 算定件数			

目標２）地域と連携し、暮らしに視点をおいた切れ目のない看護を提供する

⑤ 入院・外来と地域との連携件数を増加させる	1. 主要評価項目		現状値	目標値	1年後
			2022年度	6か月後	
	①地域支援事業者との連携率（病棟）		74%	75%	78%
	分子	地域支援事業者との面談数（介護連携＋共同指導）			
	分母	介護保険認定患者数（介入有の患者）			
	②医療機関と地域の情報連携シート活用件数（地域→外来）		227件	140件	196件
	③医療機関と地域の情報連携シート活用件数（外来→地域）		192件	120件	210件
	2. 副次評価項目		現状値	目標値	1年後
			2022年度	6か月後	
	①退院支援計画書再立案率（病棟）		53%	55%	76%
	分子	退院支援スクリーニングシートの再評価数（計画書あり）			
	分母	院内多職種退院支援カンファレンス実施件数			
	②在宅療養困難な患者の支援率（外来）		2022年度	6か月後	1年後
	分子	地域や支援室・相談室へ繋いだ件数（介入ありの中で）	13%	16%	20%
	分母	外来支援スクリーニングで介入ありの件数			

目標３）働きがい・働きやすさを感じられる健康で安全な職場環境をつくる

⑥ 社 会 人 基 礎 力 を 向 上 さ せ る	1. 主要評価項目		現状値	目標値	1年後
			2022年度	6か月後	
	①主任のコンピテンシー評価得点		—	—	自己評価53.4点 他者評価55.2点
	評価項目点数化して集計する				
	2. 副次評価項目		現状値	目標値	1年後
			2022年度	6か月後	
	①キャリアラダーを活用した能力評価		—	—	自己評価 できる75% できない25%

2023年度 看護部委員年間評価

2024年 3月 看護部

	成果指標	目標値	結果	年間評価
医療安全	損傷レベル2の転倒転落発生率	0.27‰以下	0.33‰	転倒転落では、アセスメント能力向上のためKYT研修の実施、再発防止に向けた転倒転落発生後の環境チェックの実施、患者教育として転倒転落予防体操を実施した。予防体操は入院患者だけでなく外来患者へも推奨した所、ニーズが高く目標値を大幅に超え実施することができた。外来では転倒予防に向けたパンフレットの配布に加え、危険箇所を掲示物で注意喚起したり、事務員と協力し転倒リスクが高いと思われる患者の情報を共有し移動を介助したりと多くの工夫がなされており、アクシデントレベルの転倒を0件にできたことは大きな成果と考える。全体としては損傷レベル2の転倒転落発生率は目標値を達成できなかった。次年度は実践に活かせるKYTの実施、転倒発生時の対策の早期共有と実施を目指した記録の充実や看護計画の個別性の反映、予防体操が説明だけで終わらず実施に至るよう取り組んでいく必要がある。誤薬では、正しい手順で血糖インスリンダブルチェックを実施することでインスリン関連事故の低減を目指したが目標値は達成できなかった。しかし、リスクマネージャーが他部署をラウンドし血糖インスリンダブルチェックの手元確認をすることで、部署を越えたスタッフ教育やローカルルールの存在に気づき正しいルールを周知するきっかけとなった。今回、インスリン投与の場面に的を絞ったが、投薬までの手順は全ての与薬に関連することである。次年度はインスリンだけでなく、他の与薬場面においても手元確認などを行い、正しく6R・ダブルチェックが実施できるよう取り組んでいく必要がある。心電図モニターに関しては、マニュアルを作成し使用を開始した段階である。次年度はマニュアルの周知と活用により、心電図モニター関連事故の防止に努めていく。
	血糖インスリンに関連する誤薬事故発生率	11.7%以下	20.3%	
	KYTトレーニングの実施	全部署2回100%	全部署実施2回100%	
	転倒転落発生後の環境チェック実施率	90%以上	98.4%	
	転倒転落予防体操の新規実施件数	2000件以上／年	3278件	
	正しい手順での血糖インスリンのダブルチェックの実施	動画聴講100% モニタリング実施(15部署)	動画聴講100% モニタリング15部署実施	
	心電図マニュアルの作成・使用	前期作成・後期使用	マニュアル完成し 使用開始済み	
	医療安全危機管理委員会への参加と報告内容を自部署に周知	参加率100% 部署会議議事録への記載率100%	参加率98.6% 部署会議議事録への記載率70%	
	グループワークでの意見交換	10回／年	10回／年	
感染対策	手指衛生実施回数の部署目標を達成する	部署目標値達成	15部署達成、2部署未達成	手指衛生回数は、院内全体で取り組んだこともあり、ほぼ全部署で目標を達成することができた。環境監査の結果も改善がみられてきていたが、繁忙時に正しくできないことが散見された。手指衛生とともに繁忙時でも実施できるよう倫理的な関わりが必要であると考え。主任のケアマイスターは、ほぼ全員取得することができた。今後は、スタッフに対する教育を担い、正しい看護技術が提供できる人材育成を行っていく。
	環境監査チェックリストですべて「○」になる	100%達成	15部署達成、2部署未達成	
	ケアマイスターの育成	主任全員取得	49名取得(未取得3名)	
	ICN実施の手指衛生実施率で目標値を達成する	実施率 80% 遵守率 70%	4部署達成、13部署未達成	
褥瘡予防対策	自重褥瘡発生数	100件	130件 (16187人)	自重褥瘡発生数は100件以下の目標達成には至らず。MDRPU発生数は目標を達成できた。褥瘡発生時の日常生活自立度の評価が患者状態と一致している割合は、83%で目標達成できず、入院時だけでなく患者の状態変化時にタイムリーに再評価を行いハイリスク患者を認識する取り組みの必要性が示された。ポジショニングスキルテストも目標値に達していないが、型にはめたポジショニングをどの患者でも同じように行うことが達成目標ではなく、個々の患者の状態に合わせたポジショニングの実施をサポートすることが必要。次年度の課題としては、患者の状態変化時にアセスメントを実施し、褥瘡発生ハイリスク患者をタイムリーに抽出し、予防計画立案と実践を徹底すること。褥瘡が発生しても治癒が早い傾向があるため、ポジショニングスキルは向上してきており、そのスキルを発生前に患者に提供できるかが発生率を下げるための重要ポイント。また、褥瘡予防スキルの維持・向上のために、スキルテストの内容を部署全体で共有し、中間管理者やリンクナースを中心にケアマイスター取得者を増やし、予防活動を継続することが必要。リンクナースの活動支援としては、活動内容をタイムリーに把握するために褥瘡回診に同行しながら病棟の課題への取り組みを検討し、褥瘡予防対策をサポートしていく。
	MDR-PU発生数	150件	136件(16187人)	
	褥瘡発生時の日常生活自立度の評価が患者状態と一致している割合	90%以上	83% (22件誤)	
	褥瘡対策チームによるポジショニングスキルテストの平均	90%以上	83%	
	テーマに挙げたデバイスの今年度発生数/昨年度発生数	80%以下	71%	
	褥瘡対策研修会受講後、確認テストで40点(満点)	全員 40点	501名 617名実施	
	ポジショニング見本動画の視聴率	100%	92%	
	各部署での学習会の開催と参加率	全部署実施 参加率70%以上	8部署実施 参加率70%	
災害対策	アンケートによるリンクナースの自己評価	75点以上	72点	今年度は昨年度から継続していたアクションカードの完成とそれを活用した机上シミュレーションの実施、キャリアアップ研修によるリンクナース教育を行った。しかし、テスト結果からもリンクナースの活動が、部署のスタッフの知識向上には結びついていない印象である。災害は日常の中で経験ができないからこそ、個人の意識の高まりや行動変容の結果の実感が得られにくい。次年度はリンクナースへの能動的な行動を促し、風水害も含め主体的な行動につながるように計画していきたい。また、災害訓練や教育の継続・業務振り分けシートの修正を行い、今年度の能登半島地震の記憶が風化しないように関わっていきたい。
	動画聴講回数	2回/人以上	600回/全員	
	参集基準の理解できた看護師数	100%	78%	
	参集基準・場所の正答率	各100%	88% 70%	
クリニカルパス委員会	クリニカルパス使用率	48.5%	45.0%	今年度もクリニカルパス使用率48.5%以上を目指し、既存のクリニカルパスの見直し、新規作成を行った。今年度よりパスの検証会を行い、他施設と比較し、パフォーマンスが上がるように診療部に働きかけを事務局より行った。また、今年度は新規委員になるメンバーも多く、学習会やパス大会を開催し、学習面を深めることができた。目標値である使用率48.5%には達成することはできなかった。その背景には、使用できるクリニカルパスを把握できておらず、活用できていなかった可能性がある。そのため、診療部と協働してクリニカルパスの活用を呼びかけていく必要がある。また、次年度は診療報酬改定もあるため、DPCの標準退院日や診療内容などの見直しをしていくことが課題となる。
	既存患者パス見直し件数	30件以上	75件	
	新規患者パス作成件数	10件以上	14件	
	パス検証会	5診療科	5診療科	
	パス学習会	1回	1回	
	パス大会開催数	1回	1回	

		成果指標	目標値	結果	年間評価
記録検討委員会	記録	入院診療計画書と看護計画の連動率	95%以上	91%	今年度は、次年度に病院機能評価を控えているので監査をより正確に実施できるように取り組んだ。結果としては、目標値を下回ったが前期よりは改善が見られており、各部署の課題に対してリンクナースが活動できていたと考える。しかし、基本的には100%を目指すべきであり、そのためにはスタッフの記録の理解だけでなくリンクナースの監査能力の向上、管理者を巻き込んだ取り組みが必要である。スタッフの育成に関しては、教育課と研修内容の見直しを計画していく。また、次年度は電子カルテの更新も予定されているため、看護計画の修正やプロフィールの改訂など中心に活動を進め、記録の効率化を図る現状の電子カルテの改善点の要望のアンケートを実施した。結果をもとに多職種が情報共有しやすく、記録の重複などがなくなるように、電子カルテWG、地域連携WGと協同して取り組んでいく。それと同時に電子カルテマニュアル、略語集などの確認も実施していく。
		監査結果による看護記録記載率	87%以上 前期＜後期	86%（前期84%）	
		監査件数	リンクナースによる 自部署監査2回/年	2回実施	
		標準看護計画の改訂	標準看護計画の改訂	検討、修正中（一部改訂）	
		プロフィールの改訂	プロフィールの改訂	検討、修正中	
		研修の実施	オンユアマーク研修 看護記録STEP1・2	全て実施	
	必要度	重症度、医療・看護必要度要件	一般床：29%以上維持 重症：70%以上を維持 ハイケア：80%以上を維持	一般床：30.5 重症：83.9 ハイケア：91.9	今年度、正しい評価が行えることを目的として活動を行った。目標は①施設基準を遵守することができるように正しい評価が行え、必要度の判定を維持することができる②正しく評価できる人材を確保できる③汎用をとることができる、とした。毎月要件は満たせており、汎用の取り漏れがないように今年電カルとの紐づけを行い取り漏れは減少している。初回にリンクナース向けに学習会を行い、自部署の課題を把握したうえで監査を毎月2回実施してもらい取り組みを行った。また、ナースングスキルや院外研修の参加により正しく評価できる人材育成を行った。しかし、Hファイルでは修正箇所もあり、引き続きの課題である。次年度は診療報酬の改定があるため、内容に注視しつつ活動を継続していく。
		監査結果の向上（汎用漏れ）	監査不備の改善	呼吸ケア29%、創傷61% ドレーン52%	
		自部署監査	毎月	毎月	
		ナースングスキルでの学習	看護職全員	看護職全員	
専門職業人		部署年間計画到達度の平均値	達成度80%以上	達成度77.7%	今年度は、専門職業人として自律した看護師を育成する目的として、まずは2023年度のリンクナースに働きかけ、自己の役割を認識し注意喚起・啓蒙活動が実践でき部署の問題解決をすることを目標とした。しかし、リンクナース自身が提出期日を守れず、2回3回と催促のアナウンスをしなければならぬ現状であった。委員会ではポケットの中身啓蒙活動に対して作成したポスターなどを持参し発表してもらおう企画をもうけたが、他覚的に積極的に活動しているリンクナースとそうでないリンクナースの差があった。他のものに働きかける姿勢や力は、計画力は社会人基礎力としても重要な部分でもあり、リンクナースがどのように活躍するかで部署の問題解決にも差が生じる。ポケットの中身については減少していない現状があり、引き続き注意喚起・啓蒙活動は必要である。
		身だしなみ・品位ある対応 部署内評価	できていない割合1.38%以下 身だしなみ0.25%以下 品位ある対応2.15%以下	できていない割合1.28% 身だしなみ0.35% 品位ある対応2.43%	
		リンクナースのラウンド	ラウンド率100%	ラウンド率100%	
		ナースングスキル聴講	聴講100%	聴講82.70%	
		ポケットの中身 注意喚起・啓蒙活動	現状確認 ポケットの中身前期より減少	減少なし	
キャリア開発委員会		研究投稿数	10演題以上	22演題	昨年度に引き続き、研究投稿サポートを行うことで学術集会にて発表を採択される演題が増加した。次年度は学会発表を行っていない主任達へのサポートを強化しつつ、引き続き研究投稿へのサポートを実施していく。 また主任会の進行サポートを実践していく中で、現任研修への支援もリンクさせながら、人材育成に寄与できるよう実践指導が図れたと考える。次年度は現任研修内容をブラッシュアップする予定であるため、引き続き支援を行い、リーダーに求められる実践能力が向上できるようにしていく。
		研修支援	実施	実施	
		主任会進行支援	実施	実施	
基準手順委員会		看護基準・手順の活用率	50%以上	38%	看護補助者活用のための研修参加を予定通り、新入職者、実受講の師長2名に参加していただいた。またタスクシフトシェアについてのオンライン研修会に委員会メンバーで参加ができた。次年度も引き続き、基準・手順に関する研修会などへの参加をしていく。 マニュアル5項目の見直しの進捗として、看護部業務基準、看護基準、補助者・事務員業務手順は完成。看護師長業務手順については看護基準との整合性確認中。検査手順は追加修正中。新規にて介護福祉士の業務基準作成中。 各部署・基準・手順、パンフレットの監査は申請方法の変更を行い、周知に努めた。現在も申請されているパンフレット等があるため、手順に則り承認していく。また、ipadlにてオリエンテーションの導入検討などもあるため、動画作成の際の規約の見直し追加をしていく予定。 看護基準・手順の活用は主任を中心に活用について推進。目標には届かないが、活用をしている部署の事例などを提示し、他の部署でも活用できるように推進していく。
		各部署の基準・手順、パンフレットの監査	申請数すべて	新規1件 継続3件 承認	
		5項目の見直し	5項目の見直し・終了	3つマニュアル完成。2つ追加修正中。新規にて介護福祉士の業務基準作成中	
		・研修事後報告件数	新規入職者研修受講 100%	100%受講済み	
		院内・院外研修参加件数	2名参加予定	2名参加	

病棟	定床数	主な診療科	師長	主任
NICU	12	新生児 児外	長友節子	大木直美 鬼塚味佳 鈴木由利香
GCU	18			
2C	15	小児	土井尚美	田代まり絵 三 角百合子
6I	33	整形・救急診療 科・婦人科	三枝英美	菊地あやか 稲葉擁亮
ICU・CCU	16	ICU/CCU	田村美紀	森島克明 岡 本有子
HCU	18	HCU	土屋智洋	天野淳 土佐谷忍
5H・I/MFICU	33・6	産婦人	寺尾さか江	勝又理恵 古谷華菜
3AICU	14	HCU	間部幸	中村沙織 田上佑一
3B	38	耳鼻・救急診療 科・泌尿器	長谷川智美	加藤和歌子 上田歩
4B	47	脳内・眼	古屋曜子	松本千加奈 佐野まいむ
4C	33	呼内・腎内 皮 膚	松尾正人	三島めぐみ 沢田ひとみ
5A	58	消内・血内	渡邊美佐子	本間友美 渡邊和信 石 田桃子
6H	37	整形	山口礼	飯田沙耶香 井上大輔
5B	47	膠内・呼内 糖 内・外科 産婦 人	櫻井操	池田定代 土 屋千晶
6A	56	脳外・形成 救急	鈴木英子	山崎裕也 渡辺雅代
7A	56	外・呼外	村田文明	藤本ゆうこ 平子匠文
8A	52	心外・循環器	鈴木美佐	林南 黒田和秀
9A	39	混合	佐々木史乃	松岡なつみ 平馬知実

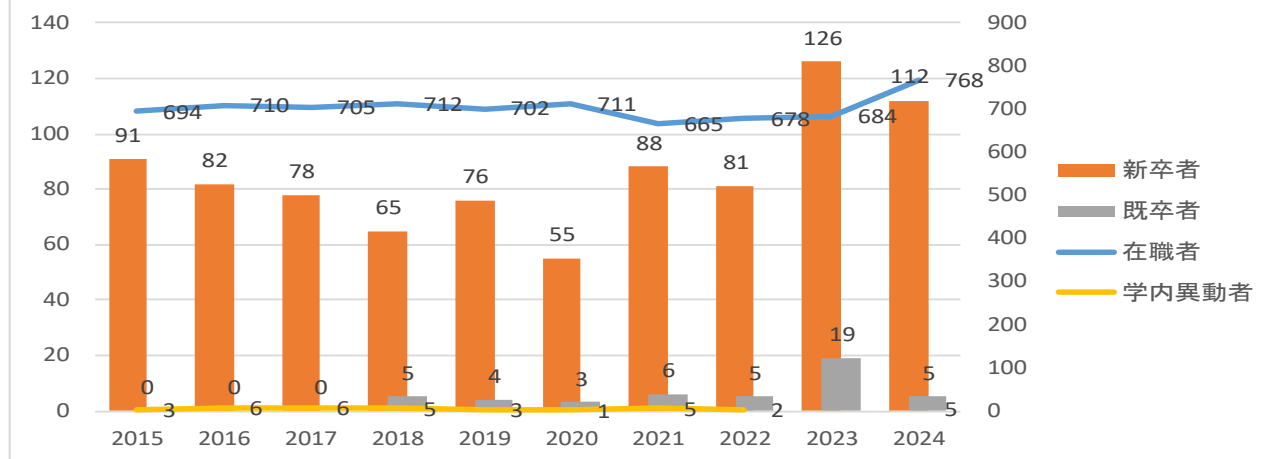
看護部	部課長	師長	主任
看護部長	堀込克代		
看護総務課	近藤利津枝	持田奈津美	
入院業務課	宮澤初美		
手術室外来業務課	矢田みどり		
看護安全管理課	荻島真弓	杉山希 (医療安全専任)	
看護教育課	濱口真知子	多田真也	

外来部門	診療科	師長	主任
外来A	心外・循内 ・ 脳外・呼外	加藤清美	福澤恵美
外来B	耳鼻・小児 児 外・新生児 脳内・メンタル	望月佳澄	増田友香
外来C	消内・呼内 血内・腎内 膠内リウマチ 糖内内分泌 麻酔ペイン ・血液浄化		大川安由美
外来D	産婦・眼科・外 科・口腔外科		瀧田千草
外来E	皮膚アレルギー・ 泌尿器・ 整形・形成		石井彰子
救急外来	ドクターヘリ	加藤清美	飯田敏秀 鈴木めぐみ
検査	内視鏡 血管撮影		山本優子 勝間田敏宏
手術室		山本希	内田佳月 小島恭子 神田李奈

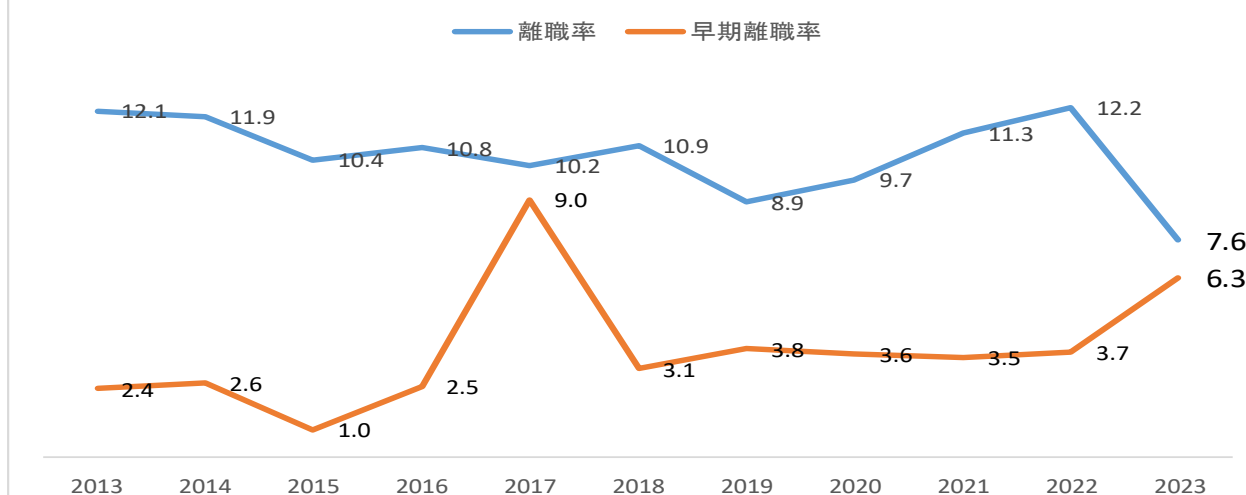
他部門		師長	主任
医療 サービス 支援センター	入退院支援室	山下小夜子	渡邊光香
	患者看護相談室		渡邊あつ子
医療安全 推進センター	医療安全管理室	高橋真紀子	(杉山希)
	感染対策室	長富美恵子	田爪千里
		杉山美和	
がん治療 センター	放射線治療室		谷口真紀
	化学療法室	安間亜希	菊地麻里
	緩和ケア室		
	がん患者相談室		

2023年 看護部年報

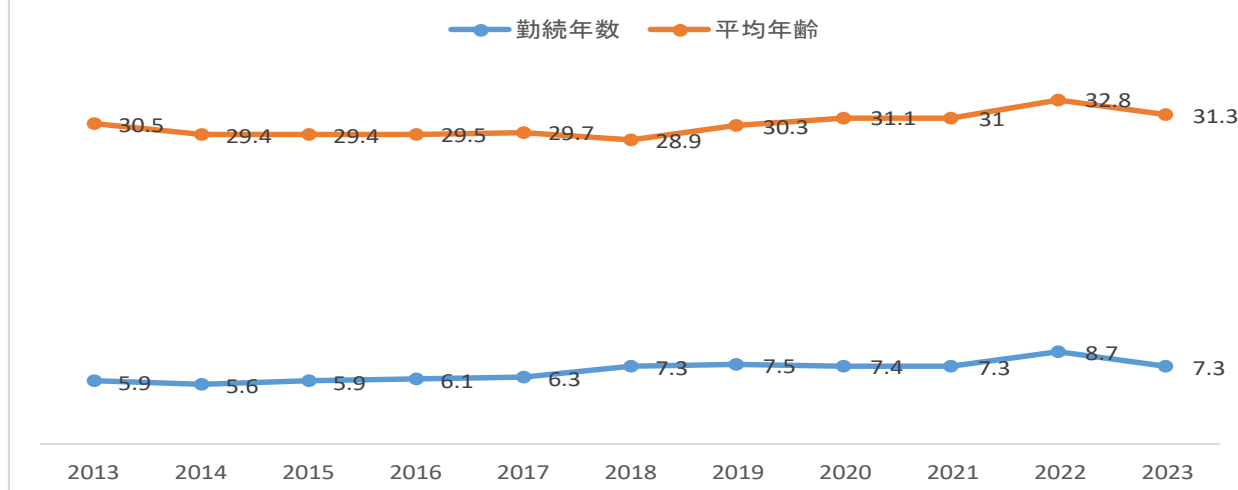
看護師数と新卒、既卒採用者内訳

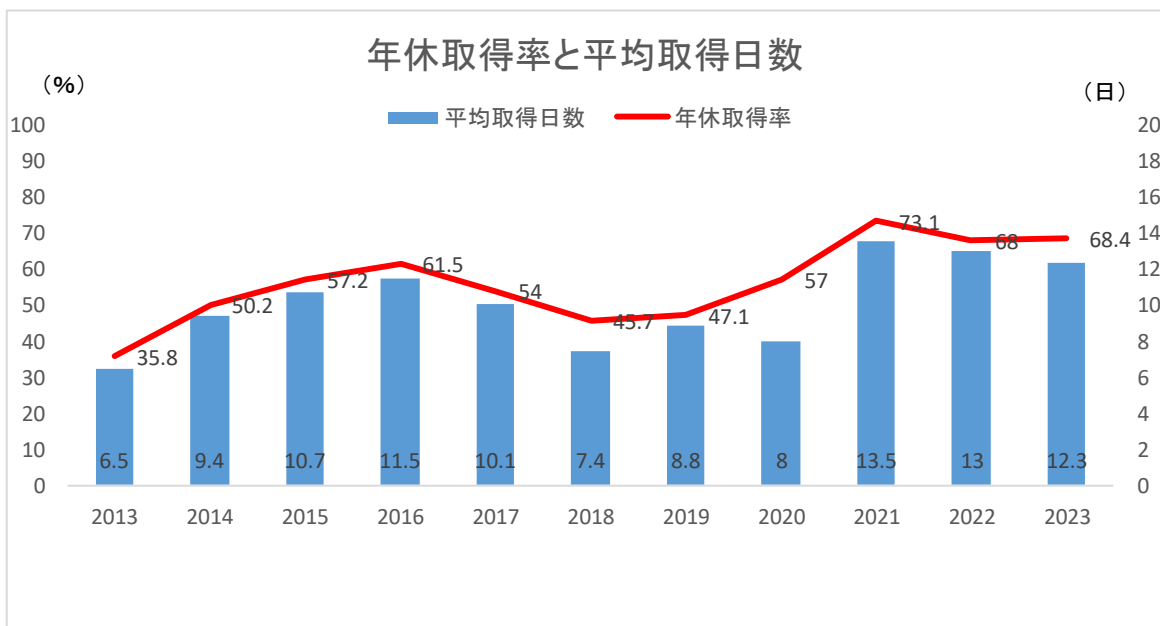
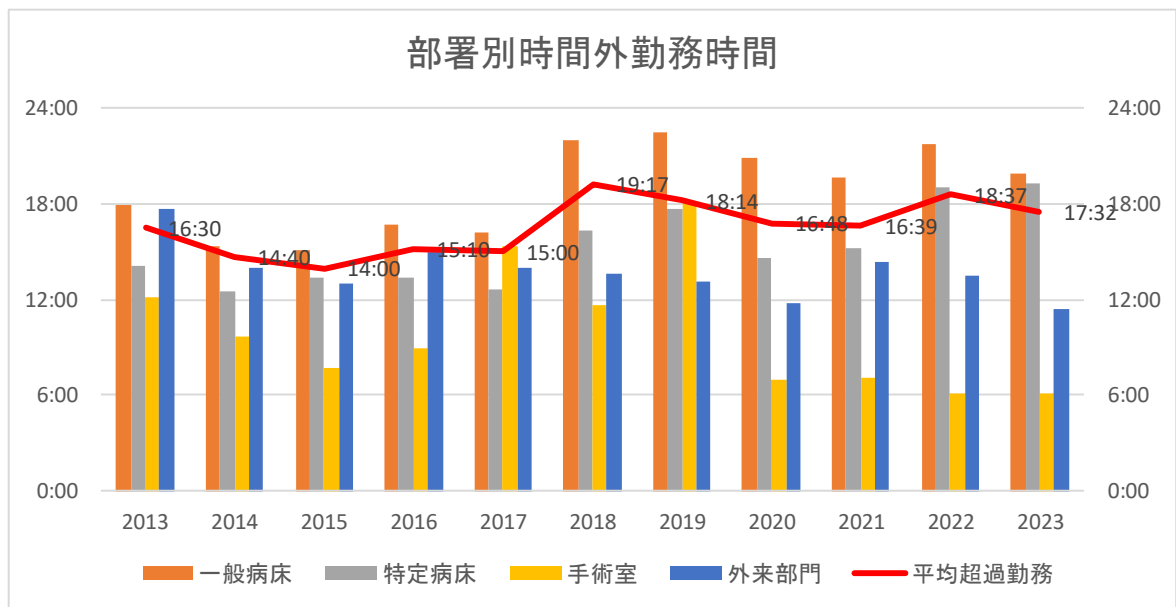
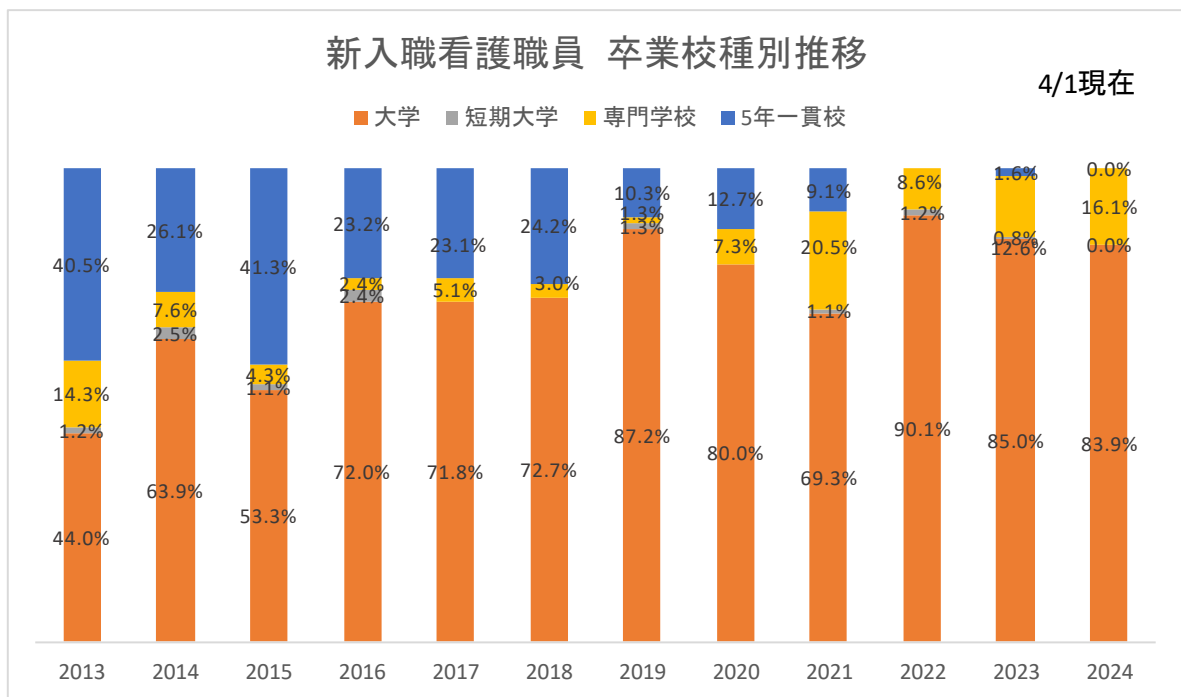


離職率・早期離職率



看護職員勤続年数・平均年齢





2023 看護部の動向 年間計画

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
就職	新卒	126												126	
	既卒	19		1		2		1					2	25	
	パート看護師												1	1	
	パート助産師													0	
	学内異動者													0	
月末退職	新卒				4	1		1					2	8	
	既卒	1	1	7	14	3	4	1		5	4	1	9	50	
	准看護師													0	
	学内異動者												5	5	
	介護福祉士													0	
看護職者内訳	看護補助者													0	
	合計	829	828	828	821	804	800	798	795	795	790	791	790		
	常勤看護師	743	740	742	739	722	720	714	711	715	709	704	702		721.8
	常勤助産師	37	37	34	30	30	29	30	30	26	26	26	26		30.1
	パート看護師	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	7		6.1
	パート助産師														
	時間短縮勤務	36	38	39	39	39	39	42	42	42	43	49	49		41.4
看護職者内訳	准看護師	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6	6		6.4
	介護福祉士	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21		21.0
	看護補助者（内派遣）	96(90)	92(86)	92(86)	94(88)	99(90)	102(93)	102(93)	100(91)	101(93)	103(95)	101(92)	101(92)		
	病棟クランク	17	17	18	18	18	18	18	19	19	19	19	19		18.3
	平均超勤時間	18:49	17:45	18:34	18:00	16:57	18:06	16:43	17:25	18:27	18:32	17:16			17:52
	一般病棟看護師数	398	402	402	394	395	391	386	384	379	373	371	368		
	特定病棟看護師数	210	205	204	195	194	190	193	193	193	196	193	192		
	外来看護師数（Q外含）	105	109	109	108	108	107	108	108	108	106	105	108		
	手術看護師数	56	55	56	53	56	51	50	49	50	50	49	49		
	B:看護師実労働者数	769	771	771	750	753	739	737	734	730	725	718	717		742.8
	産休（看・助産）	8	12	11	9	5	8	8	10	6	5	6	5		7.8
	育休（看・助産）	37	30	29	33	33	34	33	31	36	38	41	41		34.7
	産育休（介・助）														
	病欠（看・助産・准）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1.0
	病欠（介・助）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1.0
休職者	休職	4	4	4	4	1	1	1	1	1	1	1	1		2.0
	A:合計	51	48	46	48	41	45	44	44	45	46	50	49		46.4
C:看護部		10	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	10		9.3
D:出向		24	24	24	24	25	24	25	25	25	25	26	26		24.8

2023年度 一般病棟入院基本料1 各部署平均夜勤時間 ・ 夜勤専従者配置表

部署	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
3B	70	68.7	60.2	68.1	72	60.6	59.5	65.6	63.7	69.3	63	74.7	66.3
3C			88.7	88.5	77.6	74.1	77	72.8	72.6	70.6	67.1	65.8	75.5
4B	74.8	67.4	72.2	67.3	67.1	69.3	69.4	65.6	67	69.6	69.6	71.4	69.2
4C	86.5	65.2	71.7	67.3	71.7	74	72.1	70.8	70.5	77.2	64.4	77.3	72.4
5A	87.6	75.4	72.6	71.5	71.4	67.2	72	70.1	75.7	78.4	72	76.1	74.2
5B	76.7	68.8	68.6	63	71	68.1	70.5	64.7	66.7	66.3	66.8	74.2	68.8
5C	77.6	78.2	71.5	64	64.6	71.4	64.2	65.3	62.1	69.7	63.3	68.5	68.4
6A	78.6	81.2	69.7	64.6	67	62.9	65.6	65.7	71.5	73.1	60	77.2	69.8
6H	77.5	66.5	73.3	68.3	73.2	69.1	68.2	69.7	69.5	72.2	73.6	78.0	71.6
7A	76.1	69.2	68.8	69.1	75.1	70.8	68.3	71.7	74.9	74.3	67	72.0	71.4
8A	80	73.6	67.1	68.8	69	71.1	72.9	72.1	72.4	69.8	66.3	75.5	71.6
9A	74.4	68.2	70	63.2	67.1	64.9	71.3	69.3	72.5	71.8	71.7	74.3	69.9
一般病棟平均	78.3	68	71.1	69.2	71.2	68.6	69.3	68.4	69.8	71.4	67.2	73.7	70.5
夜勤専従者人数	26人	25人	24人	27人	29人	24人	29人	27人	30人	26人	29人	28人	27人

2023年度 特定病棟平均夜勤時間

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
2C	7対1	97.6	100.7	97.5	100.9	102.3	95.1	100.1	96.3	95.9	94.8	88.4	89.1	96.6
NICU	3対1	109.6	99.3	89.5	96.3	96	96.6	100.2	93.3	100.2	101.3	89.9	100.7	97.7
GCU	6対1	108	97	84.8	86.5	87.5	85	100.3	98.2	102	100.2	93.8	102.2	95.5
3A1CU	4対1	98.3	86.4	92.2	88.8	88.1	89.8	90.1	89.5	94	92.6	89.7	98.1	91.5
10U/OU	2対1	88.5	92.8	93.2	94.7	89.7	88.6	94.3	92.8	94.8	94.9	95.2	100.6	93.3
HCU	4対1	96.8	89.3	92.7	94.2	96.5	92.4	94.3	94.3	95.6	97.4	92.9	97.2	94.5
MF1CU	3対1	91.1	85.2	89	101.2	102.4	104.2	111.5	104.1	108.3	105.2	93.8	101.4	99.8

3-9 (3) 看護外来業務課

1. 外来

1) 「ときどき入院、ほぼ在宅」に向けて、外来看護の重要性を意識し、「外来」と「病棟」、「外来」と「他部門」、「外来」と「地域」の連携強化を目的に活動してきた。病棟との連携では、定期的なカンファレンスで患者の情報共有や業務連携について平均 42 件/月開催、退院時カンファレンス平均 6 件/月の参加、病棟からのサマリー等による情報提供は平均 88 件/月、病棟への情報提供は平均 162 件/月、入退院支援スクリーニングシートは平均 118 件/月実施している。また、迅速なタイミングで病棟や入退院支援室と支援の必要な患者についてアセスメントし情報共有をしている。他部門との連携では、患者の ADL、転倒のリスクなどを情報共有し、安全かつ円滑に検査や外来診療が行えるように協力をしてきた。

2021 年度から実施している「外来アセスメントシート」を活用し、一日平均 1750 名の外来患者の中から、スクリーニングによるアセスメントで必要な患者に支援をしてきた。その中で、外来での支援が必要と判断した患者には、「外来支援」として看護計画を立案し継続看護をしている。

2) 次年度の I 棟での外来稼働、その後の外来改築移転を考慮し、外来のブロック編成を 4 ブロックから 5 ブロック編成にした。ブロック間での協力体制を強固にし、さらには外来全体が一丸になって看護実践していくという目的もあり、主任が自分の管轄ブロック全体が見えること位置的に近い位置にある外来を 1 単位にした。

また外来看護、検査室看護のステップアップができるように、外来と検査室の看護を段階ごとに見える化してスキルアップを看護師一人一人が意識できるようにし外来・検査室看護業務 MAP を使用し始めた。次年度に向けて更なる外来看護の実践力・チーム力の向上を期待している。

3) 専門分野による看護活動件数

	2021 年度	2022 年度	2023 年度
骨粗鬆症指導件数	175 件	109 件	204 件
間歇導尿指導件数	24 件	27 件	20 件
自己血輸血件数	367 件	275 件	441 件
糖尿病療養指導件数	197 件	165 件	187 件
インスリン自己注射指導	308 件	296 件	347 件

4) 外来部門各資格者数 (2023 年度 有資格取得者を含む)

- ・学会認定内視鏡検査技士 (6 名)
- ・学会認定臨床輸血看護師 (2 名)
- ・学会認定自己血輸血看護師 (1 名)
- ・静脈注射造影剤コース院内認定看護師 (17 名)
- ・日本禁煙学会禁煙認定指導看護師 (1 名)
- ・インターベンションエキスパートナース (3 名)

- ・肝疾患医療コーディネーター（9名）
- ・特定化学物質作業主任者（7名）
- ・有機溶剤作業主任者（2名）
- ・静岡東部糖尿病療養指導士（2名）
- ・腎臓病療養指導士（2名）
- ・リンパ浮腫療養士（1名）
- ・フットケア指導士（1名）

2. 手術室

1) 2023 年度は年間手術件数 9,006 件で、コロナ禍を経て前年度より 208 件/年増加している。3 次救急医療を担う当院の手術室では、全手術件数のうち 2,105 件、23.3%が緊急手術となっている。緊急手術を迅速に対応できるように、術間の時間短縮を常に意識して、看護師・医師・臨床工学士・補助者など多職種で協力して手術患者の対応をしている。手術室の稼働状況は、定時外も含む稼働率は 70.1%、全身麻酔下手術に対応している H 棟手術室の稼働率は 89.1%となっている。

2) 手術室看護師による入院前支援は、主に外科外来や整形外科で実施している。支援件数は平均 21 件/月で対象者全員には実施できていない現状にある。関わった患者の中で、「歯みがき方法や回数を見なおした」などの行動変容があった患者は、平均 59%で、歯科受診した患者は、増加傾向にあり 33.5%となっている。また、喫煙者に禁煙指導をして、術前に禁煙した患者は平均 60%となっており、入院前に関わった成果が出ている。

次年度からは、現在実施している入院前支援の内容や呼吸訓練指導などを、スマートフォンによる LINE アプリで簡便に視聴できるように準備を進めている。

3) 患者が入院後実施する手術前訪問平均 326 件/月、手術後訪問は平均 412 件/月で手術室看護師の中で術前・術後訪問が完全に定着し、訪問の必要性に対しての看護師の意識の高さがうかがえる。

患者から直接情報収集し、術中のポジショニングやスキンテア予防、不安の強い患者への説明による不安軽減などに対応し、安全・安楽な周術期看護に努めてきた。術前訪問から情報を得たうえで周術期の看護に繋がるように、更なるアセスメント力をつけていけるようにスタッフを育成することが課題である。

3. 滅菌室

次年度の滅菌室の移転による規模の拡大に向けて、また移転のための準備について、常に業者と手術室で協働しながら進めてきた。その中で業者の担当責任者が苦慮しながら業務改善や人材育成に努めてきた。また手術件数の増加や緊急手術への対応についても、手術室と業者の良好な関係の上で情報共有や問題解決、業者との協力体制で業務改善を常に実施している。その結果、手術室の運営が円滑に実施できていることに滅菌室スタッフが一翼を担っている。

3-9 (4) 看護教育課

2023 年度 現任教育必修研修一覧

★はリーダー

月	日	研修時間 (受講人数によって時間変更あり 配布時に確認してください)	ラダー	研修名	研修内容 (教育要綱参照)	研修担当者
4	23(火)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前後入れ替え)	Ⅰ	指導者研修Ⅰ	実地指導者・相談役(エルダー)になるために アサーティブについて	★天野、藤本
	30(火)					
	25(木)	16:30～18:00	Ⅳ以上	看護管理研修Ⅴ (2023年度受講生 リーダーシップ研修 STEP5)	2023年度受講生対象 マネジメント研修 ④実践計画発表会	教育課
5	1(水)	16:30～17:30	中途採用者 入職1ヶ月後のフォローアップ研修(グループワーク) 4月以降の中途入職者は入職後2カ月目に実施			★石井、加藤(当番制)
	2(木)	13:00～16:00	Ⅱ	看護研究Ⅱ-①	2回コース ①ケーススタディ	★田爪、池田(当番制)
	9(木)					
	10(金)	13:00～16:00	Ⅳ	看護管理研修Ⅳ-①	2回コース ①自部署の課題解決策の立案・実践	★菊地麻、田上(当番制)
	16(木)	9:00～12:00	Ⅲ	指導者研修Ⅲ-①	3回コース実習指導者研修 ①基礎看護教育の位置付け・学生カンファレンスについて	★稲葉亜、本間、三島、鈴木由(当番制)
	20(月)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前後入れ替え)	新人看護職員研修	フィジカルアセスメント	フィジカルイグザミネーションを使用しての問診とSBAR アナムネ情報	★増田、勝間田(当番制) 勝亦麻実、大谷英史、榎本ひとみ、金田雅大(当番制)
	23(水)					
	30(木)	8:00～12:00 12:00～16:00 (午前後入れ替え)	新人看護師以外	学内認定看護師教育課程静脈注射コース		★岡本、鬼塚、渡邊あ、神田、土屋(当番制) 長谷川裕美、良知拓昂、渡邊朋徳
	30(木)	16:30～18:00	Ⅳ以上	看護管理研修Ⅴ-①	10回コース マネジメント研修 ①看護管理の基礎知識	教育課
6	動画視聴6月1日～6月25日		Ⅰ	看護研究Ⅰ (動画配信)	文献検索・事例の記載方法	★上田
	3(月)	16:30～17:30	Ⅳ	看護研究Ⅳ-①	研究計画、研究発表について	鈴木英師長
	3(月)	13:00～16:00	Ⅲ	看護倫理Ⅲ-①	2回コース ①自部署の倫理的問題について考える機会をつくる	CNS
	6(木)	10:00～12:00 13:30～15:30 (午前後の入れ替え)	介護福祉士 看護補助者 (助手・クラーク)	看護補助者技術研修	チーム医療・タスクシフト・一次救命処置	★松岡、福澤(当番制) 伊藤彰浩、古田聖典(当番制)
	13(木)	9:00～12:00	Ⅲ	指導者研修Ⅲ-②	②指導3観作成方法	★本間、稲葉亜、三島、鈴木由(当番制)
	開講なし	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前後入れ替え)	Ⅰ	看護記録Ⅰ	看護過程の展開(2023年度以前は新人看護師研修にて実施)	
	17(月)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前後入れ替え)	新人看護職員研修	急変対応Ⅰ	1次救命処置(講義・演習)	★平子、飯田敏(当番制) 草雄美樹、有井一也
	24(月)					
	19(水)	16:30～18:00	Ⅳ以上	看護管理研修Ⅴ-②	マネジメント研修 ②社会保障制度について、地域包括ケアシステムについて	教育課
	22(土)	9:00～15:30	師長推薦者	院内認定呼吸ケア看護師コース		土佐谷、石田、平子、橋本
	27(木)	8:00～12:00 12:00～16:00 (午前後入れ替え)	新人看護師以外	学内認定看護師教育課程静脈注射コース		★鬼塚、岡本、渡邊あ、神田、土屋(当番制) 長谷川裕美、良知拓昂、渡邊朋徳(当番制)
7	1(月)	13:00～16:00	介護福祉士	介護福祉士研修	口腔ケアおよび口腔ケア時の吸引、法律	★大川、沢田梢、福田由貴
	4(木)					
	8(月)	13:00～16:00	Ⅱ	看護倫理Ⅱ	日常ケアに潜む倫理(1月にも同様の研修あり)	CNS
	11(木)	13:00～16:00	Ⅲ	看護管理研修Ⅲ	問題解決技法(ロジカルシンキング)	★小島、鈴木め、土屋師長
	20(土)	9:00～15:30	師長推薦者	院内認定呼吸ケア看護師コース		土佐谷、石田、平子、橋本
	22(月)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前後入れ替え)	新人看護職員研修	3ヶ月の振り返り 多重課題	多重課題・3ヵ月の振り返り	★三角、飯田沙(当番制)
	26(金)					
	24(水)					
8	動画視聴8月1日～8月25日		Ⅰ	看護倫理Ⅰ (動画配信)	ナーシングスキル	CNS
	5(月)	13:00～16:00	Ⅳ Ⅴ	看護倫理Ⅳ-①	2回コース ①部署の倫理的問題の解決に向けた取り組み	CNS
	7(水)	13:00～16:00	Ⅲ	看護記録Ⅲ	記録の監査	★谷口、渡邊和
	17(土)	9:00～15:30	師長推薦者	院内認定呼吸ケア看護師コース		土佐谷、石田、平子、橋本

9	2(月)	16:30～17:30	中途採用者フォローアップ研修(2024年度 入職者全員)		情報交換	★加藤、石井(当番制)
	4(水)	16:30～18:00	全スタッフ	看護教育研究会		教育課
	12(木)	10:00～12:00 13:30～15:30 (午前午後の入れ替え)	介護福祉士 看護補助者 (助手・クラーク)	看護補助者技術研修	チーム医療・タスクシフト・一次救命処置	★福澤、松岡(当番制) 伊藤彰浩、古田聖典(当番制)
	19(木)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	Ⅱ	看護管理研修Ⅱ	問題とは	★山崎、内田(当番制)
	26(木)					
	25(水)	16:30～18:00	Ⅳ以上	看護管理研修Ⅴ-④	マネジメント研修 ④看護の質サービス、感染管理	教育課
	20(金)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護職員研修	急変対応2 6ヶ月の振り返り	2次救命処置(講義・演習)・6ヶ月の振り返りについて	★中村、黒田、渡辺雅(当番制)
27(金)						
10	3(木)	13:00～16:00	Ⅲ以上	看護研究Ⅲ	クリティーク、研修手法	松尾師長
	10(木)	13:00～16:00	Ⅳ	指導者研修Ⅳ	人材育成、臨床推論から問題解決に向けた看護指導	★石田、森島
	24(木)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	Ⅱ	臨床推論	病態の思考プロセスから看護ケアに結びつける	★松本、土佐谷(当番制)、 川井智貴、小長谷真輝(当番制)
	31(木)					
	23(水)	16:30～18:00	Ⅳ以上	看護管理研修Ⅴ-⑤	マネジメント研修 ⑤労務管理	教育課
28(月)	13:00～16:00	Ⅲ以上	実習指導者フォローアップ研修(全実習指導者対象)			★鈴木由、稲葉亜、本間、三島 (当番制)
11	1(金)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	Ⅱ	看護記録Ⅱ	正しい記録の書き方	★勝又、稲葉掬
	7(木)					
	15(金)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護職員研修	入退院支援研修	入退院支援、多職種連携について	★平馬、渡邊光(当番制)
	22(金)					
	14(木)	10:00～12:00 13:30～15:30 (午前午後の入れ替え)	介護福祉士 看護補助者 (助手・クラーク)	看護補助者技術研修	チーム医療・タスクシフト・一次救命処置	★松岡、福澤(当番制) 伊藤彰浩、古田聖典(当番制)
	19(火)	16:30～17:30	院内認定 呼吸ケア看護師	呼吸ケアフォローアップ研修		土佐谷、石田、平子、橋本
	27(水)	16:30～18:00	Ⅳ以上	看護管理研修Ⅴ-⑥	マネジメント研修 ⑥看護実践における倫理	教育課
28(木)	8:00～12:00 12:00～16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護師以外	学内認定看護師教育課程静脈注射コース			★神田、鬼塚、岡本、渡邊あ、 土屋(当番制) 長谷川裕美、良知拓昂、渡邊朋徳 (当番制)
12	5(木)	13:00～16:00	Ⅱ	看護研究Ⅱ-②	②ケーススタディ発表会	★池田、田爪(当番制)
	12(木)					
	16(月)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	Ⅲ	看護倫理Ⅲ-②	②実践発表	CNS
	17(火)	16:30～17:30	院内認定 呼吸ケア看護師	呼吸ケアフォローアップ研修		土佐谷、石田、平子、橋本
	6(金)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護職員研修	逝去時の看護	エンゼルケア/グリーフケア	★古谷、沢田(当番制) 渡邊師長
	9(月)					
	25(水)	16:30～18:00	Ⅳ以上	看護管理研修Ⅴ-⑦	マネジメント研修 ⑦チームマネジメント、 リーダーシップ	教育課
1	9(木)	13:00～16:00	Ⅳ	看護研究Ⅳ-②	研究発表	鈴木英師長
	14(火)	13:00～16:00	Ⅱ	看護倫理Ⅱ	日常ケアに潜む倫理(7月にも同様の研修あり)	CNS
	16(木)	13:00～16:00	Ⅳ Ⅴ	看護倫理Ⅳ-②	②取り組み発表	CNS
	21(火)	16:30～17:30	院内認定 呼吸ケア看護師	呼吸ケアフォローアップ研修		土佐谷、石田、平子、橋本
	17(金)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	Ⅰ	看護管理研修Ⅰ	リーダーシップとは、リーダーになるための 心構え	★菊地あ、大木(当番制)
	23(木)					
	22(水)	16:30～18:00	Ⅳ以上	看護管理研修Ⅴ-⑧	マネジメント研修 ⑧人材育成	教育課
2	6(木)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	新人看護職員研修	メンバーシップ研修 1年の振り返り	メンバーシップとは・1年の振り返り	★井上、林(当番制)
	10(月)					
	5(水)	16:30～18:00	全スタッフ	看護教育研究会		教育課
	13(木)	13:00～16:00	Ⅲ	指導者研修Ⅲ-③	③成果発表	★三島、鈴木由、稲葉亜、本間 (当番制)
	21(金)	13:00～16:00	Ⅳ	看護管理研修Ⅳ-②	②成果発表	★田上、菊地麻(当番制)
26(水)	16:30～18:00	Ⅳ以上	看護管理研修Ⅴ (2023年度受講生 リーダー シップ研修STEP5)	2023年度受講生対象 マネジメント研修 ⑩実践発表会	教育課	
3	3(月)	16:30～17:30	中途採用者フォローアップ研修(2024年度 入職者全員)		組織内の役割、情報交換	★石井、加藤(当番制)
	5(水)	16:30～18:00	全スタッフ	看護教育研究会		教育課
	6(木)	9:00～12:00 13:00～16:00 (午前午後入れ替え)	Ⅱ	指導者研修Ⅱ	メンターの役割、コーチング・ティーチング ついて	★山本、佐野(当番制)
	10(月)					

2023 年度 キャリアアップ研修一覧

1.学内認定看護師教育課程静脈注射コース

月	日	研修時間	ラダー	研修内容(教育要綱参照)	担当者
5	12(月)	12:00~16:10	新人看護師 以外	講義・演習	菊地麻、鬼塚、岡本 (交代で*)
6	30(金)			講義・演習	
11	9(木)	8:00~12:00 12:00~16:00 午前午後入替制		講義・演習	
1	31(水)			講義・演習	

2.リーダーシップ研修STEP5

月	日	研修時間	ラダー	研修内容(教育要綱参照)	担当者
5	10(水)	16:30～18:00	Ⅳ以上	①看護管理の基礎知識	看護部長
6	7(水)			②社会保障制度/地域包括ケアシステム	櫻井師長/長友師長
7	5(水)			③医療安全管理の基礎/災害看護	山口師長/加藤師長
9	6(水)			④看護の質/看護サービス	山本師長/鈴木美師長
10	4(水)			⑤労務管理の基礎	土井師長/精神看護CNS宮澤
11	1(水)			⑥看護実践における倫理	古屋師長
12	6(水)			⑦チームマネジメント/リーダーシップ・メンバーシップ	村田師長/長谷川師長
1	10(水)			⑧人材育成	教育課
次年度 繰り越し	2024年4月24日(水)		⑨実践計画発表		
	2025年2月26日(水)		⑩実践発表会		

3.看護教育研究会

月	日	研修時間	ラダー	研修内容(教育要綱参照)	担当者
9	29(金)	16:30~18:00	Ⅱ以上	伝達講習・研究・取り組み発表	教育課
2	13(火)				
3	11(火)				

4.急変対応指導者育成コース

月	日	研修時間	ラダー	研修内容(教育要綱参照)	担当者
動画視聴10月1日~10月30日			Ⅰ以上	ナーシングスキルにて動画聴講「窒息時の対応について」	野澤、松尾、多田、森島、石田 鬼塚、鈴木、田上、増永、内田 杉山ゆ

5.褥瘡ケアコース

月	日	研修時間	ラダー	研修内容(教育要綱参照)	担当者
6	15(木)	16:30~17:30	Ⅱ以上	(1)外力の管理(2)脆弱な皮膚のスキンケアと実際 講義	間部、浦岡、杉山、今西
7	6(木)	16:30~17:30		ポジショニング 演習	
12	21(木)	16:30~17:30		事例発表	

6.ストーマケアコース

月	日	研修時間	ラダー	研修内容(教育要綱参照)	担当者
6	1(木)	16:30~17:30	新人看護職員 以外	ストーマの基礎知識	間部、浦岡、杉山、今西
8	3(木)			装具交換の手技	

7.摂食・嚥下障害看護コース

月	日	研修時間	ラダー	研修内容(教育要綱参照)	担当者
6	9(金)	16:30~17:30	Ⅱ以上	「摂食嚥下メカニズム 窒息・誤嚥予防」 講義	大川、福田、沢田
7	14(金)			「嚥下スクリーニング」「とろみ調整剤」 演習	
11	10(金)			「事例発表会」	

8.院内認定呼吸ケアナース研修

月	日	研修時間	ラダー	研修内容(教育要綱参照)	担当者
6	3(土)	9:00~15:30	人工呼吸器に携わる部署のリーダー看護師で 師長推薦のある者	呼吸ケアに必要な知識の講義①	鈴木、多田、石田、土佐谷
7	15(土)			呼吸ケアに必要な知識の講義①	
8	19(土)			事例検討、机上シミュレーション、人工呼吸器の取り扱い、リハビリテーションの実技	

9.呼吸ケアナースフォローアップ研修

月	日	研修時間	ラダー	研修内容(教育要綱参照)	担当者
11	7(火)	16:30~17:30	院内認定 呼吸ケア ナース	ジャクソンリリースの手技確認、最新知見の講義	鈴木、多田、石田、土佐谷
12	5(火)				
1	9(火)				

10.がん看護研修

月	日	研修時間	ラダー	研修内容(教育要綱参照)	担当者
		動画視聴 9/1～9/30	I 以上	総論「がんサバイバー支援」	谷口、菊地、池田、中村 高島、渡邊
		動画視聴 10/1～10/31		がん化学療法の基礎知識・副作用の対処方法	
		動画視聴 11/1～11/30		各論「知っておきたい放射線治療看護」	
		動画視聴 12/1～12/30		各論「乳がんケアと患者・家族サポート」	
2	15(木)	16:30～17:30		化学療法室・放射線療法室・乳がんケアなどの見学実習	

11.緩和疼痛ケア

月	日	研修時間	ラダー	研修内容(教育要綱参照)	担当者
10	27(金)	16:30～18:00	I 以上	疼痛緩和の基礎と薬物療法について	谷口、菊地、池田、中村 高島、渡邊
11	10(金)	16:30～17:30		事例展開	

12.入退院支援・多職種連携

月	日	研修時間	ラダー	研修内容(教育要綱参照)	担当者
6	30(金)	16:30～17:30	チームリーダー を担っている 看護師	「退院支援のプロセスと地域連携」講義	入退院支援室/ 山下、渡邊、渡辺
7	14(金)	16:30～17:30		「社会資源の活用と介護保険制度」講義	
11	28(火)	16:30～17:30		事例検討会	
12	6(水)	16:30～17:30		事例検討会	
	12(火)	16:30～17:30		事例検討会	

13.災害看護のいろはにほへと

月	日	研修時間	ラダー	研修内容(教育要綱参照)	担当者
5	30(火)	16:30～17:30	I 以上	「災害看護概要」講義	勝間田、加藤
7	25(火)	16:30～17:30		トリアージについて(START法実践)	
9	25(月)	16:30～17:30		通信手段(無線機の使用手法実技)	
11	7(火)	16:30～17:30		情報管理(クロ/ロ実習)	
2	20(火)	16:30～17:30		「災害時のメンタルケア」講義	

2023 年度 院外教育活動

1. 学会発表

	テーマ	発表場所	発表者(部署)
1	入院早期に開催する在宅支援 スタッフとのカンファレンスにおける病棟看護師の 意図	日本在宅ケア学会	村瀬夢帆 (2C)
2	在宅支援推進のための外来スクリーニングシート 作成についての実践報告	日本看護学会学術集会	土井尚美 (2C)
3	窒息時の初期対応に関するオンライン研修の考 察	第26回日本救急医学会中部地方 会学術集会	岡室恵子 (3AICU)
4	BLSキャンディデントがインストラクターになるまで にかかえる困難さ	第26回日本救急医学会中部地方 会学術集会	岡室恵子 (3AICU)
5	課題分析図を用いて作成したチェックリストの活用 -6ヶ月後の評価とワークエンゲージメントとの関連 -	日本医療教授システム学会	岡室恵子 (3AICU)
6	特定行為研修担当者として自施設の特定看護師 の育成と管理者の支援 抱えている課題と今後の 課題	静岡県看護協会 令和5年度特定行為に係る交流会 (シンポジウム)	多田真也 (3AICU)
7	一般病棟にて特定行為研修修了看護師が介入 し、円滑な人工呼吸器離脱が図れた1事例	第54回日本看護学術集会	福田貴裕 (3AICU)
8	病棟ラウンドから見た看護師による誤薬事故	第54回日本看護学会学術集会	長谷川 智美 (3B)
9	ダイビング事故チェックリスト活用に向けた取り組 み	第26回日本救急医学会中部地方 会	鬼塚味佳 (3C)
10	緊急によるペースメーカー植え込み術を行った後 期高齢患者の同居家族が抱く思い	第54回日本看護学会学術集会	佐野まいむ (4B)
11	ICU病棟看護師への挿管チューブによるMDRPU 予防ケア勉強会後の変化	第54回日本看護学会学術集会	山田真実 (4B)
12	コロナ病棟における皮膚科患者の保清ケアの振り 返り	日本看護学会学術集会	高柳枝里 (4C)
13	COVID-19患者を受け入れることとなった病棟看 護師への心理的安全性構築への取り組み	日本救急看護学会学術集会	松尾正人 (4C)
14	災害死に向き合った看護職の体験	第44回日本死の臨床研究会年次 大会	渡邊和信 (5A)
15	災害発生時の近隣住民の希望	第26回日本救急医学会中部地方 会学術集会	渡邊和信 (5A)
16	順天堂大学保健看護学部における「救命救急看 護」、「災害看護」講義紹介	第26回日本救急医学会中部地方 会学術集会	渡邊和信 (5A)

	テーマ	発表場所	発表者(部署)
17	クリニカルパス作成と活用推進の実践報告 ー多職種協働による検証会の効果ー	第54回日本看護学会学術集会	三枝 (6H病棟)
18	オンライン母親教室視聴後アンケート調査からの 分析	静岡県職員会館	三角 (6H病棟)
19	乳がん術後患者がどのように患側を認識している かについて考える	第31回日本乳癌学会学術総会 パシフィコ横浜	石井真央 (7A病棟)
20	ペア制定着後の課題についての取り組み	2023年度保健看護研究会 順天堂大学三島キャンパス	大川安由美 (7A病棟)
21	きょうだいを亡くした子どもへの熟練看護師が行な うグリーフケアに関する事例研究	第27回NPO法人がんの子どもの トータルケア研究会 静岡	大石未里 (7A病棟)
22	急性期病院における身体拘束低減を妨げる要因 の探索 ー看護実践の自己評価アンケート結果か らー	第54回日本看護学会学術集会 大阪国際会議場	村田文明 (7A病棟)
23	ICUで勤務する看護師の接遇・身だしなみ改善に 向けた取り組み	第54回日本看護学会学術集会(横 浜)	山口沙也加 (ICUCCU)
24	ICU入室中の患者家族のニーズ充足に向けた看 護介入 ～ICUダイアリーを活用することの意義～	第26回日本救急医学会 中部地方会学術集会	加藤 優花 (ICUCCU)
25	リスク再発防止に向けたARCSモデルを用いた分 析	第26回日本救急医学会 中部地方会学術集会	岡本有子 (ICUCCU)
26	フライトナースとしての歩み ～これまでのキャリアを振り返って～	日本救急医学会中部地方会	中村沙織 (HCU)
27	救命救急入院料・看護必要度からみた ハイケアユニット入室患者の現状調査 ー適切な病床管理に向けた考察ー	日本看護学会学術集会	鈴木英子 (HCU)
28	NST介入患者のアウトカムに 影響を与える因子の検討	第38回日本臨床栄養代謝学会学 術集会	鈴木英子 (HCU)
29	災害時業務振り分けシート作成からみえた災害時 看護業務継続のための課題	第25回日本救急看護学会学術集 会	鈴木英子 (HCU)
30	帰宅支援スクリーニングシートの運用による成果と 今後の課題	第25回日本救急看護学会学術集 会	石田桃子 (救急外来)
31	せん妄を発症した急性期心不全患者におけるせん 妄ケアの有効性～ラベンダーの香りによるアロ マセラピーを用いたせん妄ケア～	第26回日本救急医学会中部地方 会	大塚浩太郎 (救急外来)
32	墜落分娩における当病院の取り組み	第30回日本航空医療学会総会	小長谷真輝 (救急外来)

	テーマ	発表場所	発表者(部署)
33	手指衛生の実施率・順守率向上に向けた取り組み課題～意識調査からの一考察～	日本看護学会学術集会	山本 希 (手術室)
34	新人看護職員の社会人基礎力の動向と必要な支援	第54回日本看護学術集会	堀込克代 (看護部)
35	委託業者と手術室の協働による業務改善の管理実践報告ー業務改善による患者サービス向上・医療安全管理の向上への効果についてー	日本看護管理学会	濱口真知子 (看護部外来業務課)
36	看護管理者が行う身体拘束低減への取り組み課題ー看護実践能力自己評価結果からの一考察	第54回日本看護学会学術集会	野澤陽子 (看護部入院業務課)
37	災害発生時の初動行動に関する看護師の知識の定着と動画教材を用いた減災教育の課題	第25回日本救急看護学会学術集会	野澤陽子 (看護部入院業務課)
38	肺がん手術直後のパーキンソン病患者への看護	第28回日本難病看護学会学術集会	宮澤 初美 (看護部教育課)
39	医療機関と地域間の患者情報を共有する方法の確立に向けて	日本在宅看護学会学術集会	杉山希 (看護部教育課)
40	A病院における専門・認定・診療看護師の活動実態調査報告	日本看護学会学術集会	杉山希 (看護部教育課)
41	チームで行う糖尿病支援	第21回伊豆長岡糖尿病療養指導士セミナー	渡邊 あつ子 (患者・看護相談室)

2. 誌上発表

	テーマ	書籍・雑誌名	著者(部署)
1	急性呼吸不全のフィジカルアセスメント (肺血栓塞栓症のアセスメントとケア)	みんなの呼吸器 Respica	土佐谷忍 (3AICU)
2	教育工学に基づいた災害看護教育プログラムの開発	静岡災害医学 研究センター紀要	渡邊和信 (5A)
3	肺がん手術を受けるパーキンソン病患者への看護	難病と在宅ケア	宮澤 初美 (看護部教育課)

3. 研修・臨地実習受け入れ状況

施設	実習内容	期間
順天堂保健看護学部	地域包括ケア探索実習(1年)	4/24、4/25
	生活行動援助実習(2年)	9/8～9/28
	領域実習(4年)	5/8～6/30
	(3年)	10/10～2/24
	看護総合実習(4年)	7/3～7/20
	多職種連携医療体験実習(1年)	1/9～1/19
順天堂医療看護学部	ハイリスク新生児実習	7/25～8/4
	助産分娩実習	8/21～9/29
静岡県立看護専門学校	ハイリスク新生児実習	8/22、8/23
	助産分娩実習	9/25～12/22
東都大学	リプロダクティブヘルス看護学実習	7/3～7/28
順天堂大学大学院医療看護学研究科	CNS実習	7/3～8/25
東海大学	救急認定看護師教育課程	1/9～2/13

3-10 救命救急センター

業務内容

静岡県東部地域の救急医療の「最後の砦」の三次救急医療機関として、院内全診療科と各部門の協力・連携のもと、「断らない救急医療」の実践を継続している。二次救急医療についても駿東田方地域の広域輪番制で対応不能な場合は当センターが対応しており、同様に一次救急医療を担当する休日夜間急患センターなどの対象外地域や診療時間の空白時は、当センターが対応することが多い。

病院前救急医療としては、静岡県東部地域のドクターヘリ運航基地病院として、医師及び看護師の現場派遣と迅速な搬送を行うことで、特に伊豆半島と静岡市山間部の救急医療に重要な役割を果たしている。

入院診療ではICU13床、CCU7床を含む救急専用病床40床を利用し、重症傷病者の診療を行っている。

業務実績

2023年度

救急外来受診患者総数	13,344人
救急入院患者総数	6,204人
救急車搬送件数	6,996件
ドクターヘリ運航件数	986件

メディカルコントロール活動

消防機関とのメディカルコントロール（MC）体制を確保・発展するために、当院に搬送された症例を中心に、救急救命士の技術指導を行った。

次年度目標

- 救急搬送収容業務の円滑化と迅速化のため、救急応答事務員による救急対応体制への移行を順次実施する。
- 周辺地域における救急医療連携を強化し、医療情報ネットワークを構築する。
- ドクターヘリ活動と研究により積極的に介入し、適正かつ有効なドクターヘリ業務を推進する。
- コロナ感染拡大に伴う救急患者からの院内感染の発生を抑止する。
- 新救急救命センターへ円滑に業務体制を移行する。

3-11 ドクターヘリ運航対策室

業務内容

当院は静岡県東部地域のドクターヘリ運航基地病院である。当院のフライトドクター及びナースがヘリでいち早く救急現場の傷病者と接触し、トリアージと応急処置を行い、適切な医療施設を選定して、目的地まで安全に搬送できるよう注意深い観察と対応を行っている。平成 16 年の指定以降、出動件数は年々増加傾向であり、当院を中心とする半径 70 k m の医療圏から年間 700 件以上の重症救急患者の広域ヘリ搬送を実施し、その約 7 割の患者を当院の救命救急センターに収容している。

次年度目標

- ・ドクターヘリ活動周知、啓発活動の継続
- ・消防との更なる連携強化
- ・県防災ヘリとの連携強化
- ・大規模災害、AACN等の訓練への参加
- ・海上保安庁との連携強化
- ・自衛隊との連携強化

2023 年度ドクターヘリ出動件数・搬送人数

転 帰	人 数		要 請 内 容	件 数
入 院	528	52.4%	現場搬送	748
外 来	283	28.1%	現場キャンセル	65
転 送	130	12.9%	病院間搬送	172
キャンセル	66	6.6%	病院間キャンセル	1
合 計	1007	100%	合 計	986

令和5年/令和6年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	/1月	/2月	/3月	合計(人)
入 院	56	45	42	64	57	46	49	36	37	31	27	38	528
外 来	21	25	18	28	34	30	21	24	25	21	19	17	283
転 送	9	10	14	8	18	9	13	11	5	12	7	14	130
キャンセル	2	5	6	9	10	5	5	6	5	4	5	4	66
月別合計	88	85	80	109	119	90	88	77	72	68	58	73	1007

令和5年/令和6年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	/1月	/2月	/3月	合計(件)
救急現場	66	65	62	85	82	70	61	58	59	44	43	53	748
転院搬送	16	15	12	12	22	12	19	13	8	18	9	16	172
キャンセル	2	5	6	9	10	5	5	6	5	4	5	4	66
月別合計	84	85	80	106	114	87	85	77	72	66	57	73	986

出動実績

I-1(件数)

出 動 内 容	
現 場	813 (キャンセル 65件含む)
病院間	173 (キャンセル1 件含む)
現 場 病院間	813 173
小 計	920
キャンセル	66
合 計	986

I-2(件数)

(消防本部別)

消 防 本 部 名	転 院 搬 送		現場出動	計
	病 院	診療所		
下田消防	44	14	209	267
駿東伊豆消防	23	8	237	268
熱海市消防	23	1	46	70
富士山南東消防	2	0	114	116
御殿場市・小山町消防	7	4	140	151
富士宮市消防	0	0	43	43
富士市消防	2	0	13	15
静岡市消防	0	0	10	10
その他消防	0	0	1	1
小 計	101	27	813	941
消防との合流なし	45	0	0	45
合 計	146	27	813	986

II-1(人数)(診療科別)

診 療 科 名	(人数)
循環器科	201
脳神経外科	117
整形外科	40
外 科	12
呼吸器内科	3
小児科	38
膠原病内科	
呼吸器外科	
腎臓内科	1
消化器内科	5
心臓血管外科	8
脳神経内科	8
産婦人科	7
眼科	
泌尿器科	2
形成外科	
耳鼻咽喉科	
皮膚科	
新生児科	2
血液内科	
糖尿病・内分泌内科	
救急診療科	497
合 計	941

II-2(人数)

(収容先別)

出 動 別	当 院(人数)	他 院(人数)	合 計(人数)
現 場	578	74	652
病 院 間	117	54	171
小 計	695	128	823
現場のみ	17	101	118
合 計	712	229	941

／941名(キャンセル66件を除く)

疾患別搬送件数

内因性疾患	件 数	内因性疾患	件 数
急性心筋梗塞	61	敗血症	5
心筋梗塞	7	胸痛	12
狭心症	6	吐血	3
急性冠症候群	5	膵炎	1
心不全	33	ショック	5
急性大動脈解離	22	切迫早産	3
大動脈瘤	3	腎盂腎炎	1
大動脈瘤破裂	8	胃潰瘍	2
完全房室ブロック	4	過換気症候群	1
Ⅱ度房室ブロック	1	気胸	2
洞不全症候群	3	急性腹症	6
徐脈	4	下肢動脈閉塞症	1
頻脈	1	腸捻転	1
心房細動	5	喘息	4
不整脈	3	感染症	3
心室頻拍	4	重症貧血	1
発作性上室頻拍	2	脱水	2
心室細動	7	心窩部痛	4
心肺停止	46	腸穿孔	3
心タンポナーデ	3	迷走神経反射	2
肺塞栓症	6	十二指腸潰瘍	1
深部静脈血栓症	1	めまい症	2
心膜炎	2	尿管結石症	2
心筋症	3	墜落分娩	4
閉塞性動脈硬化症	1	潰瘍性大腸炎	1
胸部不快感	1	脳炎脳症	1
大動脈弁狭窄症	3	蜂窩織炎	1
脳内出血	28	腹腔内出血	1
くも膜下出血	10	不明	33
脳梗塞	36		
意識消失発作	10		
脳腫瘍	2		
けいれん発作	37		
意識障害	20		
一過性脳虚血発作	5		
てんかん	8		
失神	13		
頭痛	3		
脳卒中	13		
胆管癌	1		
肺炎	12		
呼吸不全	2		
食道静脈瘤破裂	1		
消化管穿孔	2		
消化管出血	9		
低血糖	3		
下血	2		
嘔吐症	1		
腎不全	2	内因性疾患 小 計	573

外因性疾患	件 数	外因性疾患	件 数
交通外傷	6	下腿デグロービング	1
頭部外傷	22	鎖骨骨折	6
溺水	13	顔面挫創	4
薬物中毒	4	股関節脱臼	1
急性硬膜外血腫	3	脳振盪	11
頭部打撲	5	肝損傷	1
頸髄損傷	11	前腕挫創	2
脊髄損傷	2	頸部切創	1
減圧症	5	頸部刺創	1
蜂刺症	1	下腿打撲	5
外傷性気胸	3	胸部打撲	3
下腿骨骨折	1	膝蓋骨骨折	1
頸椎骨折	5	上腕開放性骨折	1
腹部外傷	3	足関節捻挫	1
顔面外傷	4	手関節開放骨折	2
多発外傷	3	肩甲骨骨折	2
胸部外傷	1	大腿骨骨折	3
脾損傷	1	不明(外因)	26
縊首	1	動物咬傷	1
熱傷	13	頸部打撲	1
全身打撲	19	上肢挫創	1
熱中症	16	上肢打撲	2
頸椎捻挫	6	手指切創	1
外傷性心肺停止	6	急性アルコール中毒	2
急性硬膜下血腫	6	背部打撲	3
臀部挫創	2	化学熱傷	1
肋骨骨折	30	足関節骨折・脱臼	2
腰部打撲	3	アナフィラキシー	13
骨盤骨折	15	肩骨折	1
上腕骨骨折	3	足部骨折	3
外傷性くも膜下出血	9	頭部挫創	15
足指開放骨折	4	前腕開放性骨折	2
心肺停止	1	足関節開放性骨折	1
足部打撲	2	腹部打撲	1
肩打撲	1	前腕骨折	1
下腿開放骨折	6	擦過傷	2
胸骨骨折	4	出血性ショック	2
手指切断	8	胸椎骨折	4
血気胸	4		
腰椎骨折	9		
アナフィラキシーショック	1		
手指挫創	8		
腹腔内損傷	1		
下肢挫創	11		
窒息	9		
下腿圧挫創	1		
大動脈損傷	2		
一酸化炭素中毒	4	外因性疾患 小 計	434
手指骨折	5	内・外因性疾患 合 計	1007

3-12 新生児センター

業務実績

総入院数と院内/院外出生の割合

	入院数
総入院数	369
院内出生	269
院外出生	100

出生体重別の入院数

	入院数
超低出生体重児 (1000g 未満)	13
極低出生体重児 (1000g-1500g 未満)	21

在胎週数別の入院数

在胎週数	入院数
22-23	1
24-27	8
28-33	39
34-36	62

新生児救急車

	出動件数
総出動件数	209
入院数	103
三角搬送	88

研究・教育活動

学会発表

大川夏紀 新生児科から見た妊産婦のメンタルヘルスケア 第 50 回東部周産期研究会 2023.3.9

栗田健太郎 甲状腺疾患合併母体児の管理 第 51 回東部周産期研究会 2023.9.28

岩原可名人、松田明奈、栗田健太郎、大川夏紀、東海林宏道、清水俊明 頭部に限局する胎児水腫を合併した線条脂腺母斑症候群(Schimmelpenning 症候群)の 1 例 第 67 回日本新生児成育医学会学術集会 2023.11.03

富田 紗也佳、柏木 項介、平松 直子、橋本 わかば、岩原 可名人、谷本 亮輔、栗田 健太郎、松田 明奈、大川 夏紀 新生児・乳児食物蛋白誘発胃腸症を発症した一絨毛膜二羊膜性双胎早産児例 第 157 回日本小児科学会静岡地方会 2023.11.26

3-13 がん治療センター

業務実績

【がん治療センター運営委員会】

6回／年

【がん診療委員会（カンサーボード・レジメン審査）】12回／年

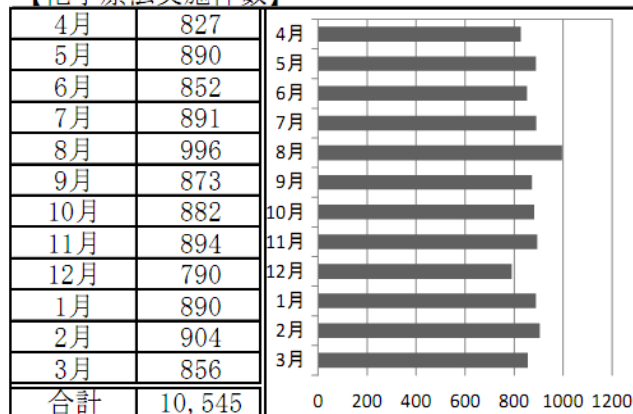
【周辺機関合同研修会・カンファレンス・連絡会等】

9月	がん治療研修会（動画配信）	ケミカルコーピングについて
11月	がん治療研修会（動画配信）	がん薬物療法における支持療法
10月19日	合同カンサーボードカンファレンス	
1月28日	がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会	

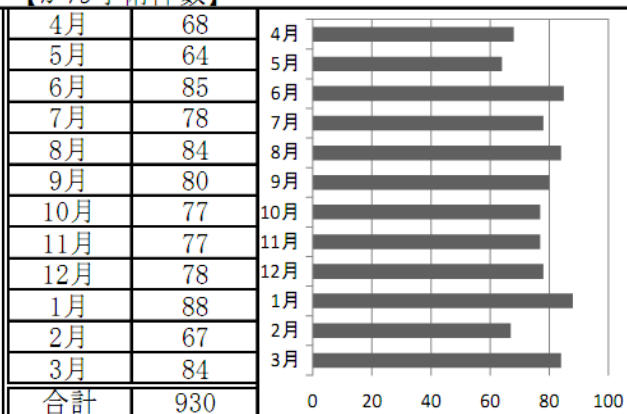
【がん登録件数】（2023.1.1～2023.12.31）

総登録数	5大がん内訳	肺がん	188	大腸がん	294	乳がん	122
1,908		胃がん	124	肝がん	48		

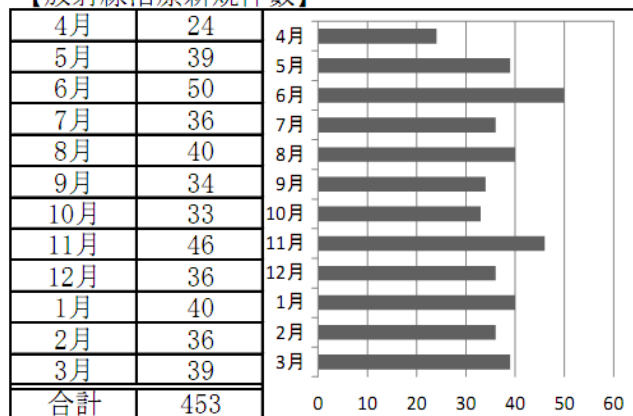
【化学療法実施件数】



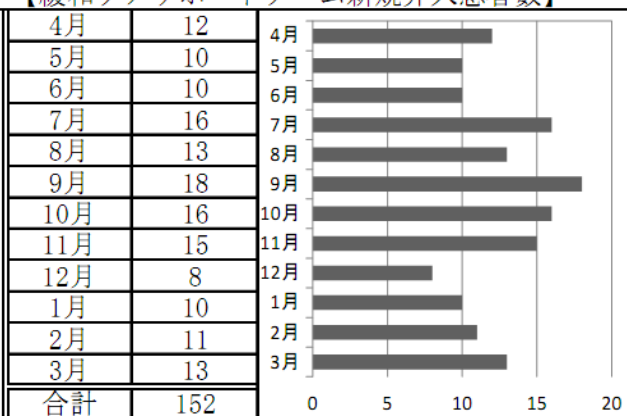
【がん手術件数】



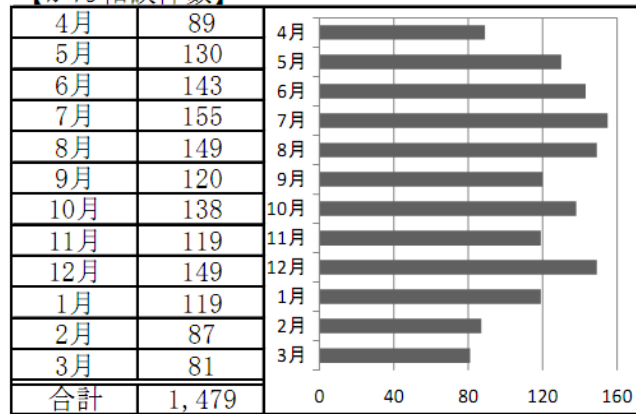
【放射線治療新規件数】



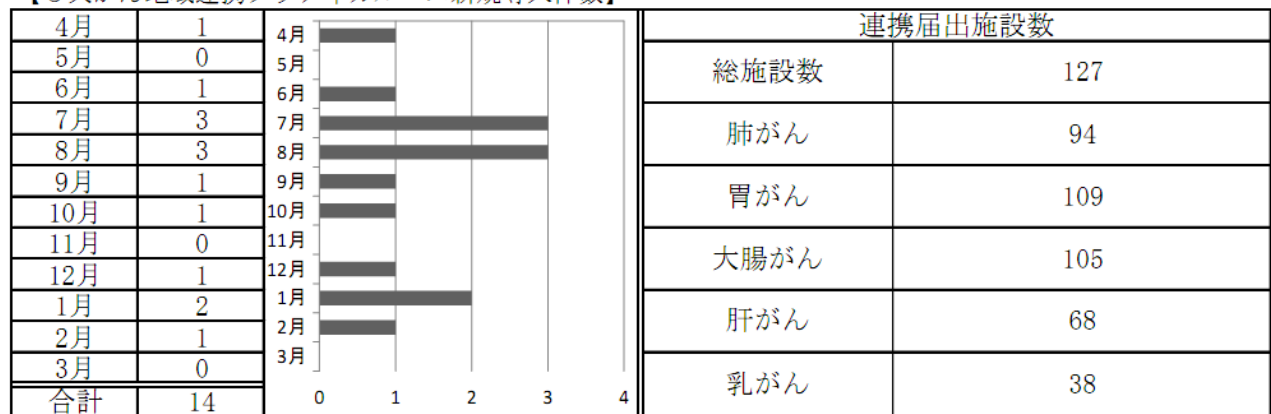
【緩和ケアサポートチーム新規介入患者数】



【がん相談件数】



【5大がん地域連携クリティカルパス新規導入件数】



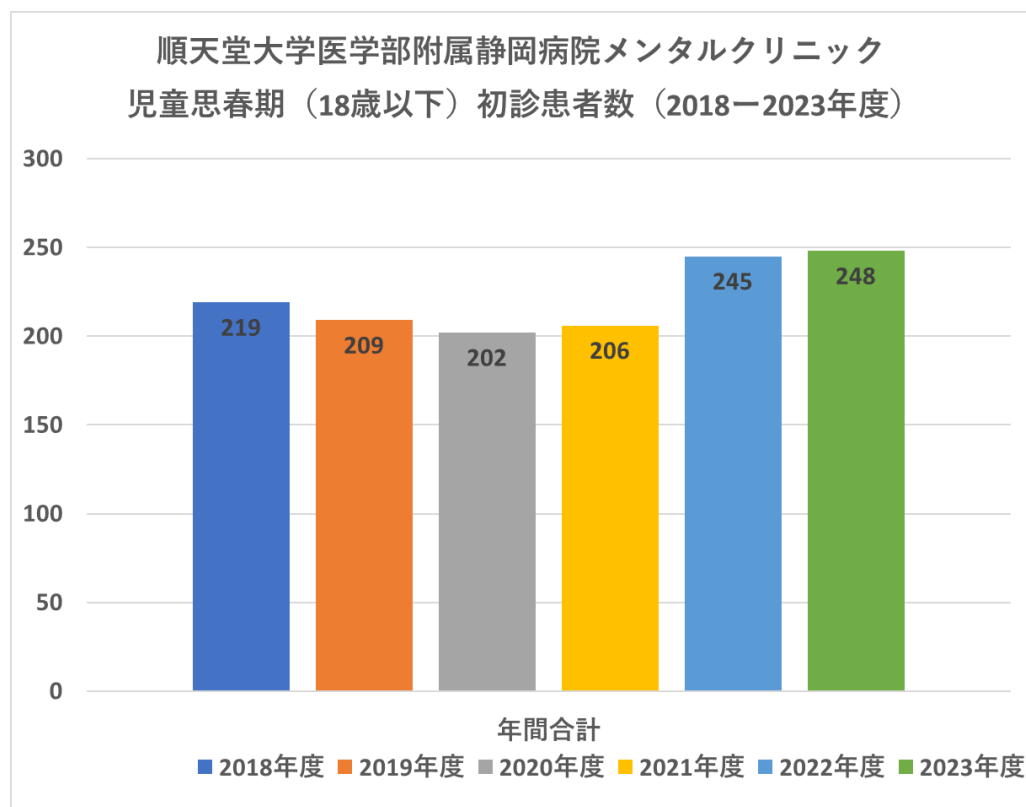
連携届出施設数

総施設数	127
肺がん	94
胃がん	109
大腸がん	105
肝がん	68
乳がん	38

3-14 こどものこころのケアセンター

業務内容

発達障害・不登校など児童・思春期のメンタル面でのケアを求めるニーズはますます高まっています。当院メンタルクリニックでも児童思春期の患者が増加傾向にあります。静岡県東部地区では児童精神科を標榜している医療機関は少なく、どこを受診してよいかわからない保護者や教育関係者が多かったようです。当センターでは「こどもの支援」・「親への支援」・「学校地域支援」を3つの軸としています。従来行っていた遊戯療法・ペアレントトレーニング・学習障害支援プログラムなどの治療プログラムに加えて、デイケア・ソーシャルスキルトレーニング（SST）・ストレスマネジメント・親のための心理教室などのプログラムを開設しています。



センター開設後2年が経ちましたが、グラフに示すように児童思春期の初診患者数は増加しています。さらに新たな治療プログラムとして、選択性緘黙のためのクラス、運動教室、個別の心理療法などが加わりました。選択性緘黙とは家族以外とうまく会話ができない子どもたちですが、治療プログラムでは、うまく話せなくても自信を無くさないで必要な意思表示ができるように一緒に考えていきます。運動教室ではコーディネーショントレーニングを主に指導します。コーディネーショントレーニングは、行動を調整する能力を高めるトレーニングで、児童思春期では身体と脳神経系統のバランスのよい発育を促し、成人期では運動を円滑に正確に行なう能力を向上させ技術の習得を促します。強調運動の改善と自分で体をコントロールする達成感を得ることが精神症状の改善につながることで、発達障害などの精神疾患への効果が報告されています。個別の心理療法では、ご本人への心理療法だけでなく、保護者や教育者への心理支援として接し方の工夫などをアドバイスしています。

業務実績

当センター開設後新たなプログラムも加わり、児童思春期の初診患者数は増加しています。ホームページやパンフレットなどの広報活動により、教育・行政機関からの問い合わせが連日あります。またセンター長は地域自治体のいじめ問題対策専門委員会委員を務めており、行政機関・教育機関・各市町の発達障害支援センターと連携している。センター設立によりこれらの連携がさらにスムーズになっています。

3-15 予防医学センター

人間ドック集計(2023 年度)

(1)-1人間ドック男女別、月集計表

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率(%)
日帰りコース	男	8	3	15	9	12	14	13	14	2	7	14	6	117	60.3%
	女	6	5	8	4	6	9	11	13	0	2	9	4	77	39.7%
	小計	14	8	23	13	18	23	24	27	2	9	23	10	194	
1泊2日コース	男	4	5	5	5	1	3	1	0	11	8	2	6	51	70.8%
	女	1	2	1	1	3	1	3	0	2	4	1	2	21	29.2%
	小計	5	7	6	6	4	4	4	0	13	12	3	8	72	
がんコース	男	2	2	0	0	0	1	2	0	0	1	0	2	10	55.6%
	女	0	2	0	0	0	1	2	0	1	1	0	1	8	44.4%
	小計	2	4	0	0	0	2	4	0	1	2	0	3	18	
PET-CTコース	男	1	0	0	0	0	1	1	0	1	1	2	2	9	60.0%
	女	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	1	6	40.0%
	小計	2	0	0	1	0	1	1	0	2	1	4	3	15	
脳ドックコース	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

(1)-2 人間ドック年齢別、男女別集計表

区分 \ 年齢		20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80以上	合計	比率(%)
総合日帰りコース	男	0	2	14	28	22	17	6	89	41.59%
	女	0	0	10	10	19	14	0	53	24.77%
	小計	0	2	24	38	41	31	6	142	66.36%
	比率(%)	0.00%	0.93%	11.21%	17.76%	19.16%	14.49%	2.80%	66.36%	
総合1泊2日コース	男	0	2	3	6	17	11	1	40	18.69%
	女	1	0	1	2	11	0	0	15	7.01%
	小計	1	2	4	8	28	11	1	55	25.70%
	比率(%)	0.47%	0.93%	1.87%	3.74%	13.08%	5.14%	0.47%	25.70%	
がんコース	男	0	0	2	0	2	0	0	4	1.87%
	女	0	0	2	0	2	0	0	4	1.87%
	小計	0	0	4	0	4	0	0	8	3.74%
	比率(%)	0.00%	0.00%	1.87%	0.00%	1.87%	0.00%	0.00%	3.74%	
PET-CTコース	男	0	0	0	2	2	2	0	6	2.80%
	女	0	0	0	0	1	2	0	3	1.40%
	小計	0	0	0	2	3	4	0	9	4.21%
	比率(%)	0.00%	0.00%	0.00%	0.93%	1.40%	1.87%	0.00%	4.21%	
脳ドックコース	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
	小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00%
	比率(%)	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	
合計	男	0	4	19	36	43	30	7	139	65%
	女	1	0	13	12	33	16	0	75	35%
	小計	1	4	32	48	76	46	7	214	100.0%
	比率(%)	0.47%	1.87%	14.95%	22.43%	35.51%	21.50%	3.27%	100.0%	

(1)-3 年齢別総合判定区分集計

区分	～35	36～40	41～45	46～50	51～55	56～60	61～65	66～	合計
A: 異常はありません	0	0	0	0	0	0	0	0	0
B: わずかな変化を認めますが 日常生活上心配ありません	0	0	0	0	0	0	1	0	1
C: 経過観察を必要とします	0	5	6	3	1	0	2	0	17
D: 二次検査・精密検査を必要とします	0	1	3	5	5	6	8	4	32
E: 治療を必要とします	0	0	3	3	4	5	7	6	28
F: 治療・経過観察を継続してください	1	0	3	4	12	15	48	53	136
合 計	1	6	15	15	22	26	66	63	214

3-16 GCP センター

業務内容

当センターでは、治験の倫理性・安全性・科学的妥当性を審査するために、治験審査委員会の運営をしています。治験の依頼者である製薬企業や実施者である医師等の相談にも対応しています。また治験が安全かつ円滑に実施されるために、治験コーディネーターを配置し、医師や各部署と協力して治験を進め、被験者をサポートしています。

臨床研究に関しては、順天堂大学医学部医学系研究等倫理委員会の事務局をしています。臨床研究を予定している研究者からの相談や申請のお手伝いをしています。

その他、製薬会社からの医薬品等の製造販売後調査の申請窓口も担当しています。

業務実績

治 験

新規

治験を行う場合には、治験に参加される方々の安全と人権を守るために、国が定めた「医薬品の臨床試験の実施の基準（GCP といいます。）」を遵守しなければなりません。この GCP に従って、科学的および倫理的な観点から、治験の実施や継続について調査・審議するため、順天堂大学医学部附属静岡病院治験審査委員会を設置しています。本治験審査委員会により治験実施計画書の内容が審議され、病院長より許可された治験のみが実施されます。

	件数	予定症例数
治験	3 件	14 症例
製造販売後臨床試験	0 件	0 症例
合計	3 件	14 症例

治験審査委員会 毎月 1 回(8 月休会)、治験の倫理性・安全性・科学的妥当性について審査します。

	安全性 報告	内容変更	継続審査	重篤な 有害事象	逸脱 (除 緊急 の 危険回避)	その他の 審議事項	報告事項
治験	81 件	40 件	9 件	0 件	6 件	17 件	37 件
製造販売後 臨床試験	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件	0 件
合計	81 件	40 件	9 件	0 件	6 件	17 件	37 件

終了

治験審査委員会に、治験が GCP に従って実施され、終了したことが報告されます。

	件数	実施症例数	同意取得数
治験	9 件	10 症例	15 症例
製造販売後臨床試験	0 件	0 症例	0 症例
合計	9 件	10 症例	15 症例

監査・モニタリング受け入れ回数

製薬メーカー及び CRO のモニターが治験実施施設へ来訪し、治験が治験実施計画書・標準業務手順書(SOP)・GCP 及び適用される規制要件に従って、実施・記録及び報告されている事を保証する活動。

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
治験	5 回	6 回	2 回	1 回	8 回	0 回	5 回	3 回	2 回	6 回	4 回	2 回	44 回
製造販売後臨床試験	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回	0 回
合計	5 回	6 回	2 回	1 回	8 回	0 回	5 回	3 回	2 回	6 回	4 回	2 回	44 回

製造販売後調査

医薬品が治験後に承認されて販売された後、販売前の治験や臨床研究などで得られなかった有効性・安全性について引き続き調査します。

新規契約 19 件	使用成績調査・特定使用成績調査	16 件
	副作用詳細調査	3 件

医学系研究等倫理委員会

臨床研究を実施する施設の長（病院長など）が設置する独立した委員会で、患者さんが参加する臨床研究が「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する 倫理指針」に基づいて適格に計画され実行されているかについて中立公正に審議され、病院長より許可された臨床研究のみが実施されます。

8 月を除く毎月 1 回開催されています。

新規	内容変更	実施状況	その他	重篤な有害事象	不適合報告	終了報告	C 案件	P 案件
29 件	70 件	54 件	2 件	8 件	1 件	21 件	44 件	10 件

倫理審査委員会

治験や倫理指針下の臨床研究を除く特定臨床研究に関する報告や患者への侵襲的処置の新規導入、未承認薬・禁忌薬・医薬品の適応外使用申請について審議され、病院長より許可された申請のみが実施されます。

8 月を除く毎月 1 回開催されています。

特定臨床研究 COI	特定臨床研究報告	製造販売後調査	侵襲的処置の新規案件	医薬品の適応外使用
30 件	76 件	6 件	4 件	3 件

症例報告

他の医療従事者への情報共有を図るため、所属する機関内の症例検討会、機関外の医療従事者同士の勉強会や関係学会、医療従事者向け専門誌等で個別の症例を報告すること。

19 件

3-17 臨床研修センター

■研修内容

＜レクチャー＞

新型コロナウイルス感染防止対策のため「モーニングレクチャー」の時間を変更し「イブニングレクチャー」として 21 回、各科長クラスによるレポート提出症例に沿った内容を講義いただく「研修医レクチャー」を 19 回実施し、救急診療科を研修した研修医から、研修症例をまとめ発表していただく「救急診療科レクチャー」12 回実施した。

又、インタラクティブなレクチャーとして、レジデントアワーを実施しており、内容については学会発表を行った研修医数名が、発表した症例を他の研修医に向けレクチャーし、研修医同士でディスカッションを行う。更に学会発表の指導を行った各科医師にご協力いただき、補足等の意見を述べていただくというもので、活発な意見交換がなされた。

【イブニングレクチャー】

	日	担当科	担当者		講義名
4月	6	感染対策室	感染制御チーム		手指衛生と防護服着脱/N95マスクフィットテスト
	13	呼吸器内科	岩神 真一郎	教授	肺炎、肺結核
5月	11	脳神経外科	眞上 俊亮	助教	神経救急疾患の初期対応について
6月	8	消化器内科	佐藤 祥	助教	救急外来で遭遇する消化器疾患について
	15	医療安全管理室	高橋 真紀子	師長	研修医の医療事故
7月	6	放射線科	入江 隆介	助教	ここだけ押さえれば十分！？MRIシーケンスの基礎
	13	脳神経内科	谷口 大祐	助手	びっくりしないパーキンソン病のオフ
8月	10	膠原病・リウマチ内科	片桐 彰	准教授	ステロイド剤について
	17	形成外科	苅部 綾香	助手	慢性創傷と創傷治癒
9月	7	薬剤科	星野 剛史	薬剤師	オピオイドの使い方
	14	血液内科	河本 直樹	シニアレジデント	今日から読める血算
10月	5	糖尿病・内分泌内科	野見山 崇	教授	非専門医でも知っておくべき糖尿病の知識
	12	臨床検査科	田内 一民	特任教授	検査データの読み方・考え方
11月	9	新生児科	中止		
12月	7	メンタルクリニック	桐野 衛二	教授	メンタル疾患の対応について
	14	循環器内科	谷津 翔一朗	助教	研修医に知ってほしい心不全診療
1月	4	麻酔科	八子 一	助手	麻酔でよく使う薬について
	11	皮膚・アレルギー科	長谷川 敏男	教授	アレルギー性皮膚疾患～湿疹とじんま疹を中心に～
2月	8	小児科	羽根 将之	助手	小児科診療（気管支喘息について）
	15	腎臓内科	長澤 肇	助手	利尿薬と尿検査について
3月	7	呼吸器外科	市之川 英臣	助教	胸部Xpの見方のコツ、胸腔ドレーン手技について
	14	産婦人科	星野 将輝	助手	産婦人科的救急疾患について

【研修医レクチャー】

	日	担当科	医師		講義名
4月	17	産婦人科	田中 利隆	先任准教授	産婦人科での豆知識～妊娠と薬・放射線について～
5月	22	整形外科	塩原 崇生	助手	腰痛
	29	小児科	馬場 洋介	准教授	小児における成長・発達障害
6月	19	エチコン（縫合トレーニング）			
	26	呼吸器外科	市之川 英臣	助教	日本一癌死亡率が高い肺癌を知ること
7月	24	腎臓内科	清水 芳男	教授	浮腫
8月	21	麻酔科	長谷川 陽子	講師	終末期の患者さん、ご家族に対する医療・ケア・支援
	28	泌尿器科	中島 晶子	准教授	排尿障害
9月	25	消化器内科	北 祐次	大学院生	嘔気・嘔吐・吐血
10月	16	呼吸器内科	岩神 直子	助教	咳、痰
	23	心臓血管外科	田中 利昌	大学院生	初期研修医に知ってほしい胸痛診療の基本-心臓血管外科の立場から-
11月	13	膠原病・リウマチ内科	津島 浩	助教	発熱診療の極意
	20	外科	村井 勇太	助手	下血・血便
12月	18	眼科	土至田 宏	先任准教授	視力障害
1月	15	血液内科	佐野 友紀	シニアレジデント	リンパ節腫脹
	22	脳神経内科	加茂 亮太	シニアレジデント	けいれん発作
2月	19	耳鼻咽喉科	佐藤 将盛	助手	めまい
	26	救急診療科	大森 一彦	准教授	ショック
3月	18	メンタルクリニック	桐野 衛二	教授	興奮、せん妄、抑うつ

【救急診療科セミナー】

	日	担当科	医師		症例発表名
4月	28	救急診療科	奥 龍一郎	研修医	左房粘液腫による多発脳塞栓の一例
			郡司 隆教	研修医	蘇生に成功した窒息によるCPAの1例
			大野 響	研修医	外傷性血気胸2例に対しての治療方針の検討
5月	26	救急診療科	岡田 南	研修医	有機リン中毒
			田中 陽	研修医	そこにあるのにない病気
			吉野 亮	研修医	重症喘息発作を超高度肥満の一例
6月	30	救急診療科	石塚 ジュスタン正也	研修医	痙攣性てんかん重積の一例
			進藤 樹	研修医	両側腸腰筋膿瘍に下大静脈血栓を合併した一例
			山口 創平	研修医	飛び降りによる大動脈損傷の一例
7月	28	救急診療科	川端 脩人	研修医	鈍的外傷後の胸骨骨折に伴った遅発性の大動脈損傷の一例
			寺川 智将	研修医	頸髄損傷を伴った歯突起骨折の2例
8月	25	救急診療科	磯谷 理乃	研修医	多発硬膜外膿瘍に髄膜炎を合併し、脳梗塞に至った一例
			福永 千紘	研修医	出血性ショックと閉塞性ショックを合併した外傷性横隔膜ヘルニアの一例
9月	29	救急診療科	佐藤 俊意	研修医	可逆性脳梁膨大部病変（MERS）が疑われた一例
			村山 倫太郎	研修医	多発外傷の治療経過中に肺血栓塞栓症を合併し死亡した一例
10月	27	救急診療科	齋藤 歩貴	研修医	可逆性白質脳症（PRES）が疑われた一例
			中山 知恵	研修医	頸動脈洞症候群から悪性リンパ腫の診断に至った一例
11月	24	救急診療科	松永 樹哉	研修医	血糖値1000mg/dl越え、意識障害が遷延した高血糖緊急症の一例
			矢田 昌敬	研修医	後天性第ⅩⅢ因子欠乏症による腸腰筋血腫の一例
12月	22	救急診療科	大下 将弘	研修医	外傷性脾損傷後にIVR施行し一度退院その後、脾膿瘍を呈し再入院となった一例
			北之園 玲央	研修医	頸髄損傷の予後予測とリハビリテーション
1月	26	救急診療科	岩田 秀	研修医	肝膿瘍に伴う敗血症性ショックで死亡に至った一例
			長野 晃久	研修医	尿管結石から気腫性腎盂腎炎を発症し敗血症性ショックになった一例
			山田 青湖	研修医	上縦隔血腫により緊急気道管理となった一例
2月	22	救急診療科	安齊 正敏	研修医	総腸骨動脈瘤破裂に対する緊急EVER後に腹部コンパートメント症候群を合併し死亡した一例
			尾立 路輝	研修医	肺空洞性病変と左副腎腫大を認めた墜落外傷の一例
			松田 恵理香	研修医	開口障害から破傷風の診断に至った一例
3月	29	救急診療科	小野寺 瑠美子	研修医	化膿性脊椎炎に四肢麻痺を合併した症例
			中山 誠一郎	研修医	外傷性咽頭後間隙血腫の三例
			守田 凱紀	研修医	第Ⅹa因子阻害剤中和剤使用後に多発脳梗塞を発症した多発外傷の一例

【レジデントアワー】

月	日	学会発表者	指導医	発表科	内容
12	23	北之園 怜往	野田 和幸	脳神経内科	初期に高血糖高浸透圧症候群が考えられ、交代性のFaciobrachial dystonic seizuresで判明した抗LGI1抗体陽性辺縁系脳炎の61歳男性例
		守田 凱紀	渡邊 敬康	循環器内科	良好な治療反応が得られたアミラーゼ産生肺癌と考えられた一例
		花川 翔太	村井 勇太	外科	重複胆嚢に対し腹腔鏡下で安全に胆嚢摘出術を施行し得た1例
3	16	保高 哲人	伊藤 智彰	外科	高齢発症のBockdalek孔ヘルニアの一例
		川端 脩人	野田 和幸	脳神経内科	Hemichoreaで発症した頭部内頸動脈高度狭窄症の17歳女性例

<CPC・CRCデスカンファレンス（臨床病理・臨床放射線合同カンファレンス）>

年3回開催した。

No.	開催日	担当科	医師		備考
第1回	10月18日	病理診断科	和田 了	教授	ST上昇型急性心筋梗塞（左心室）、左心室破裂、心タンポナーデ
		放射線科	入江 隆介	助教	
第2回	12月20日	病理診断科	和田 了	教授	多発性骨髄腫、全身性アミロイドーシス、気管支肺炎、胃平滑筋腫
		放射線科	入江 隆介	助教	
第3回	2月21日	病理診断科	和田 了	教授	①大動脈解離（上行大動脈）、急性心内膜下梗塞（左心室）、心タンポナーデ ②大動脈解離（上行～胸部大動脈）、陳旧性心筋梗塞（左心室前壁）、心タンポナーデ
		放射線科	入江 隆介	助教	

<日本救急医学会認定 ICLS コース>

10月4日、11日の2日間に分散し、臨床研修医1年目全員参加にて実際に即したシミュレーション実習を行った。

<臨床研修医のための学術集会>

7月7日 順天堂大学4基幹病院全研修医による学術集会がWEBにより開催され、静岡病院としてR1村山 倫太郎 先生による「低酸素性虚血性脳症に対して低体温療法を行った2例」の発表と新生児科 大川 夏紀 先生による「低酸素性虚血性脳症の現在と未来」のミニレクチャーを行った。

<研修医・指導医のための研修会>

感染症の防止の観点より、中止となった。

<臨床研修修了証書授与式>

令和6年3月19日 順天堂大学4基幹病院合同で一部WEBにて行い、修了証書授与式は各附属病院での挙行となった。静岡病院では第一会議室にて研修医23名が授与された。

■研修管理委員会

令和6年3月1日 研修管理委員会をWEBにより開催し、令和5年度の研修報告が行われた。

■臨床研修病院合同説明会への参加

令和5年度は新型コロナの影響下であったがイベント開催行われ6回参加、WEB説明会は3回参加した。説明会では、医学生が当院研修医と、気軽に臨床研修について質問、相談できる雰囲気を作り、医学生に参加していただいた。

2023年度	4月	レジナビFairオンライン6年生対象	不明	不明	54
	5月	レジナビ福岡	173	689	23
	6月	レジナビFairオンライン2023東日本Week	不明	不明	43
	6月	レジナビ東京	384	1,832	56
	7月	レジナビ大阪	331	1,360	22
	2月	マイナビフェア広島	32	136	19
	3月	レジナビFairオンライン2023東日本Week	不明	不明	60
		レジナビフェア2024東京春	185	1087	75
		マイナビフェア札幌	20	111	24

■令和 5 年度 初期臨床研修医採用について

静岡県東部地域で地域医療の最前線で日々奮闘している順天堂大静岡病院で多くの研修医が研修することには大きな意義がある。しかし、現在の傾向として都会の順天堂の関連病院や母校以外のより優秀な研修医が集まる有名病院で研修する人達が増加してきている。

そうした現状の中で、静岡病院での研修を積極的に希望する研修医がしだいに増加しつつある。

静岡病院の特徴は、静岡県東部地区の基幹病院として、救急車やドクターヘリにより連日多くの患者が運ばれ、救急外来、病棟で多くの患者さんの治療を経験することができ、またその際に実践的に実技を習得することができる。科間の垣根が低く、迅速に全身の治療ができることにある。さらに指導医は専任のチューターを中心に、教育に力をいれており、レクチャー、症例発表会なども定期的に行った。その上、静岡病院では、研修医のための宿舎が整備され、部屋は広く、備品も整い、病院に近く、希望者全員が生活しているため、研修医同志の絆が形成し易く、相互に研鑽して有意義な研修生活を送っている。

<採用結果>

令和 5 年度医師臨床研修医は、基本プログラム 27 名、産婦人科・新生児・小児科プログラム 3 名、計 30 名を採用した。(令和 5 年度採用)

(マッチング結果)

定 員	本 学	他 学	男 子	女 子	合 計	マッチング率
34 名	16	16	20	12	32	94.1%

3-18 看護師特定行為研修センター

■業務内容

当院では厚生労働省から認可を得て、2020年4月に看護師特定行為研修センターを立ち上げ、特定看護師の育成を、5区分11行為（呼吸器（気道確保に係るもの）関連、呼吸器（人工呼吸療法に係るもの）関連、創傷管理関連、動脈血液ガス分析関連、栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連）で開始し、2021年度からは、血糖コントロールに係る薬剤投与関連を加え、7区分13行為となりました。

2022年度より、術中麻酔管理領域、集中治療領域、救急領域の3パッケージを加え、7区分21行為（3パッケージ）となりました。

2023年度4月より、「精神及び神経症状に係る薬剤投与関連」が加わり、8区分23行為（3パッケージ）となりました。

さらに2024年度4月開講に向け、「感染に係る薬剤投与関連」、「ろう孔管理関連」の申請を行いました。

当院以外の地域医療機関からも受講生を受け入れており、当研修センターの開設により、静岡県東部地域の看護師のレベルアップとともにキャリアアップにもつなげていきたいと考えております。

■業務実績（2023年度）

受講生数：11名（院内10名、院外1名）

修了生：11名（院内10名、院外1名）

<看護師特定行為研修管理委員会>

開催日：2023年5月10日、9月13日、2024年3月11日

特定行為研修計画の作成、特定行為区分の相互間の調整、受講者の履修状況の管理、修了の際の評価等、特定行為研修の実施の統括管理が行われた

<看護師特定行為業務管理委員会>

開催日：2023年5月12日、9月29日、2024年3月18日

特定行為の実施の推進、特定看護師のフォローアップの統括管理が行われた

■開講区分

特定行為区分	特定行為	定員	受講者数
呼吸器（気道確保に係るもの）関連	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	5人	-
呼吸器（人工呼吸療法に係るもの） 関連	侵襲的陽圧換気の設定の変更	5人	1人
	非侵襲的陽圧換気の設定の変更		
	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整		
	人工呼吸器からの離脱		
創傷管理関連	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流の	3人	2人

	ない壊死組織の除去		
	創傷に対する陰圧閉鎖療法		
創部ドレーン管理関連	創部ドレーンの抜去	5 人	-
動脈血液ガス分析関連	直接動脈穿刺法による採血	5 人	1 人
	橈骨動脈ラインの確保		
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	8 人	5 人
	脱水症状に対する輸液による補正		
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	インスリンの投与量の調整	5 人	5 人
精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	抗けいれん剤の臨時的投与	3 人	1 人
	抗精神薬の臨時的投与		
	抗不安薬の臨時的投与		
術中麻酔管理領域パッケージ		3 人	1 人
救急領域パッケージ		3 人	5 人
集中治療領域パッケージ		2 人	3 人

■研修スケジュール

共通科目：2023 年 4 月～9 月

区分別科目：2023 年 10 月～2024 年 3 月

開講式：2023 年 4 月 3 日（月） 16：30 ～

症例発表会：2024 年 3 月 1 日（金） 16：45 ～

修了式：2024 年 3 月 29 日（金） 13：00 ～

■研修内容

< 共通科目 >

研修日	時限	科目	授業種別	学習内容	学習内容(細)	2023' 担当指導者
4月17日 (月)	2時限	臨床薬理学	演習	1.薬物動態の理論と演習	薬物動態の演習	勝又
	3時限	臨床薬理学	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	精神神経系 演習	芹澤
4月27日 (木)	1時限	臨床推論	演習	2.臨床推論(症候学を含む)の理論と演習	ケーススタディ(1)	岩神真
	2時限	臨床推論	演習	2.臨床推論(症候学を含む)の理論と演習	ケーススタディ(2)	岩神真
	3時限	臨床推論	演習	2.臨床推論(症候学を含む)の理論と演習	ケーススタディ(3)	岩神真
5月16日 (火)	1時限	臨床推論	演習	4.各種臨床検査の理論と演習	各種臨床検査の演習	岩神直子
	2時限	臨床病態生理学	演習	4.臨床病態生理学 演習	エネルギー	清水
	3時限	臨床病態生理学	演習	4.臨床病態生理学 演習	炎症	清水
5月26日 (金)	1時限	臨床推論	演習	3.医療面接の理論と演習・実習	ロールプレイをもとにした討議(1)	中尾
	2時限	臨床推論	演習	3.医療面接の理論と演習・実習	ロールプレイをもとにした討議(2)	中尾
	3時限	臨床推論	実習	3.医療面接の理論と演習・実習	医療面接の実習	中尾
	4時限	臨床薬理学	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	骨・関節系／腎・泌尿器系 演習	小林洋司

研修日	時限	科目	授業 種別	学習内容	学習内容(細)	2023' 担当 指導者
5月26日 (金)	1時限	臨床推論	演習	3.医療面接の理論と演習・実習	ロールプレイをもとにした討議(1)	中尾
	2時限	臨床推論	演習	3.医療面接の理論と演習・実習	ロールプレイをもとにした討議(2)	中尾
	3時限	臨床推論	実習	3.医療面接の理論と演習・実習	医療面接の実習	中尾
	4時限	臨床薬理学	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	骨・関節系／腎・泌尿器系 演習	小林 ^{洋司}
6月1日 (木)	2時限	臨床薬理学	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	内分泌・代謝系 演習	木下
	3時限	臨床薬理学	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	抗がん薬／抗菌薬 演習	杉本 磯
	4時限	フィジカルアセスメント	演習	5.身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習	問診	若林
	5時限	フィジカルアセスメント	実習	5.身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習	適切な問診、意識の評価	若林
6月9日 (金)	1時限	臨床薬理学	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	消化器系 演習	杉本
	2時限	疾病・臨床病態概論	演習	主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論	主要疾患の病態と臨床診断・治療の演習(2)	中尾
	3時限	疾病・臨床病態概論	演習	1.救急医療の臨床診断・治療の特性と演習	救急医療の臨床診断・治療の演習	中尾
6月13日 (火)	1時限	疾病・臨床病態概論	演習	主要疾患の病態と臨床診断・治療の概論	主要疾患の病態と臨床診断・治療の演習(1)	岩神 ^{直子}
	2時限	疾病・臨床病態概論	演習	2.在宅医療の臨床診断・治療の特性と演習	在宅医療の臨床診断・治療の演習	岩神 ^{直子}
	3時限	臨床薬理学	演習	4.主要薬物の安全管理と処方の理論と演習	主要薬物の安全管理と処方の演習	星野 ^{剛史}
	4時限	フィジカルアセスメント	実習	5.身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習	腹部、胸部のアセスメント	大林
6月23日 (金)	1時限	フィジカルアセスメント	演習	5.身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習	全身状態・緊急度の評価	神田
	2時限	フィジカルアセスメント	演習	5.身体診察基本手技の演習・実習／部位別身体診察手技と所見の演習・実習	フィジカルアセスメント	神田
	5時限	臨床推論	演習	5.画像検査の理論と演習	画像検査の演習	大坂
	6時限	臨床推論	演習	6.臨床疫学の理論と演習	臨床疫学の演習	大坂
	7時限	臨床推論	実習	超音波装置の取扱手技など		大坂
7月6日 (木)	2時限	医療安全学／特定行為実践	演習	1.特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証(Quality Care Assurance)を学ぶ	④ケアの質保証(4)法的側面とケアの質保証に関する判断を分析する	櫻田
	3時限	医療安全学／特定行為実践	実習	1.特定行為実践に関する医療倫理、医療管理、医療安全、ケアの質保証(Quality Care Assurance)を学ぶ	⑤医療安全の実習 ・特定行為実践に関連する医療安全の実習	荻島
	4時限	臨床薬理学	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	心・血管系 演習	水口
	5時限	臨床薬理学	演習	2.主要薬物の薬理作用・副作用の理論と演習3.主要薬物の相互作用の理論と演習	呼吸器系 演習	山口
7月14日 (金)	1時限	医療安全学／特定行為実践	演習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	②チーム医療の事例検討 ・チームとしての最大を発揮する 演習	佐藤
	2時限	医療安全学／特定行為実践	実習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	⑤チーム医療の実習と演習 ・チーム医療の実習(1)	佐藤
	3時限	医療安全学／特定行為実践	実習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	⑤チーム医療の実習と演習 ・チーム医療の実習(2)	佐藤
	4時限	医療安全学／特定行為実践	演習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	⑤チーム医療の実習と演習 ・チーム医療の演習【実習の振り返り】(1)	佐藤
	5時限	医療安全学／特定行為実践	演習	2.特定行為研修を修了した看護師のチーム医療における役割発揮のための多職種協働実践(IPW)(他職種との事例検討等の演習を含む)を学ぶ	⑤チーム医療の実習と演習 ・チーム医療の演習【実習の振り返り】(2)	佐藤
7月21日 (金)	1時限	医療安全学／特定行為実践	演習	3.特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ	②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習・演習	福田
	2時限	医療安全学／特定行為実践	実習	3.特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ	②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習・実習	福田
	3時限	医療安全学／特定行為実践	演習	3.特定行為実践のための関連法規、意思決定支援を学ぶ	②特定行為実践に関連する患者への説明と意思決定支援の理論と演習・演習(実習の振り返り)	杉山 ^希
	4時限	医療安全学／特定行為実践	実習	4.根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ	④手順書の作成・評価・改良 ・実習(1) 作成	福田
	5時限	医療安全学／特定行為実践	実習	4.根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ	④手順書の作成・評価・改良 ・実習(2) 評価	福田
	6時限	医療安全学／特定行為実践	実習	4.根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ	④手順書の作成・評価・改良 ・実習(3) 改良	福田
7月28日 (金)	1時限	医療安全学／特定行為実践	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮設検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	②特定行為の実践におけるアセスメント、仮設検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ・特定行為実践課程の演習(1)	川井
	2時限	医療安全学／特定行為実践	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮設検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	②特定行為の実践におけるアセスメント、仮設検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ・特定行為実践課程の演習(2)	多田
	3時限	医療安全学／特定行為実践	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮設検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	③特定行為実践のアウトカム ・演習(1)	川井
	4時限	医療安全学／特定行為実践	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮設検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	(3) 特定行為実践のアウトカム ・演習(2)	川井
	5時限	医療安全学／特定行為実践	演習	4.根拠に基づいて手順書を医師、歯科医師等とともに作成し、実践後、手順書を評価し、見直すプロセスについて学ぶ	②手順書の作成演習 ペーパーシミュレーションによる演習	神田

研修日	時限	科目	授業 種別	学習内容	学習内容(細)	2023' 担当 指導者
9月1日 (金)	1時限	医療安全学／特定行為実践	実習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	④特定行為の実践・実習(1)	天野
	2時限	医療安全学／特定行為実践	実習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	④特定行為の実践・実習(2)	天野
	3時限	医療安全学／特定行為実践	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	④特定行為の実践・実習の振り返り(1)	多田
	4時限	医療安全学／特定行為実践	演習	5.特定行為実践におけるアセスメント、仮説検証、意思決定、検査・診断過程を学ぶ中で、これまでの内容を統合して学ぶ	④特定行為の実践・実習の振り返り(2)	多田
9月8日 (金)	1時限	臨床病態生理学	筆記 試験	科目修了試験		
	2時限	臨床推論	筆記 試験	科目修了試験		
	3時限	フィジカルアセスメント	筆記 試験	科目修了試験		
	4時限	臨床薬理学	筆記 試験	科目修了試験		
	5時限	疾病・臨床病態概論	筆記 試験	科目修了試験		
	6時限	医療安全学／特定行為実践	筆記 試験	科目修了試験		

<区分別科目>

研修日	時限	科目	バック ケース	授業 種別	学習内容	学習内容(細)	2023' 担当 指導者
9月28日 (木)	1～6時限	呼吸器(気道確保に係るもの)関連	麻酔 救急 集中	集合 Online	呼吸器(気道確保に係るもの)関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1～6時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	麻酔 救急 集中 区分別	集合 Online	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1～6時限	循環器関連	集中	集合 Online	循環器関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1～6時限	栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連	集中	集合 Online	中心静脈カテーテル管理 修了試験	科目修了試験	多田
	1～6時限	創傷管理関連	区分別	集合 Online	創傷管理関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1～6時限	動脈血液ガス分析関連	麻酔 救急 集中	集合 Online	動脈血液ガス分析関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1～6時限	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	麻酔 救急 集中 区分別	集合 Online	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1～6時限	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	区分別	集合 Online	血糖コントロールに係る薬剤投与関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1～6時限	術後疼痛管理関連	麻酔	集合 Online	術後疼痛管理関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1～6時限	循環動態に係る薬剤投与関連	麻酔 集中	集合 Online	循環動態に係る薬剤投与関連 修了試験	科目修了試験	多田
	1～6時限	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	救急 区分別	集合 Online	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連 修了試験	科目修了試験	多田
10月3日 (火)	1時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	救急 区分別	演習	(B)非侵襲的陽圧換気の設定の変更	非侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベシエント)(1)	岩神直子
	2時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	救急 区分別	演習	(B)非侵襲的陽圧換気の設定の変更	非侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベシエント)(2)	岩神直子
	4時限	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	区分別	演習	(A)インスリンの投与量の調整	病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準(1)(ペーパーシミュレーションを含む)	野見山
	5時限	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	区分別	演習	(A)インスリンの投与量の調整	病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準(2)(ペーパーシミュレーションを含む)	野見山
	6時限	血糖コントロールに係る薬剤投与関連	区分別	演習	(A)インスリンの投与量の調整	病態に応じたインスリン製剤の調整の判断基準(3)(ペーパーシミュレーションを含む)	野見山
	2時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	麻酔	演習	(D)人工呼吸器からの離脱 <術中麻酔パッケージVer>	人工呼吸器からの離脱(ペーパーベシエント)(1) <術中麻酔パッケージVer>	山崎
10月10日 (火)	3時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	麻酔	演習	(D)人工呼吸器からの離脱 <術中麻酔パッケージVer>	人工呼吸器からの離脱(ペーパーベシエント)(2) <術中麻酔パッケージVer>	山崎
	4時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	麻酔	演習	(A)侵襲的陽圧換気の設定の変更 <術中麻酔パッケージVer>	侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベシエント)(1) <術中麻酔パッケージVer>	山崎
	5時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	麻酔	演習	(A)侵襲的陽圧換気の設定の変更 <術中麻酔パッケージVer>	侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベシエント)(2) <術中麻酔パッケージVer>	山崎
	6時限	術後疼痛管理関連	麻酔	演習	(A)硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	ペーパーシミュレーション(硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整)	山崎

研修日	時限	科目	パッケージ	授業種別	学習内容	学習内容(細)	2023'担当指導者
10月11日 (水)	1時限	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	救急 区分別	演習	(A) 抗けいれん剤の臨時的投与	病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む)(1)	中尾
	2時限	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	救急 区分別	演習	(A) 抗けいれん剤の臨時的投与	病態に応じた抗けいれん剤の投与の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む)(2)	中尾
	3時限	循環動態に係る薬剤投与関連	集中	演習	(A) 持続点滴中のカテコラミンの投与量の調整	病態に応じたカテコラミンの投与量の調整の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む)	設楽
10月18日 (水)	2時限	呼吸器(気道確保に係るもの)関連	麻酔	演習	(A) 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整 <術中麻酔パッケージVer>	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整(OSCE前演習) <術中麻酔パッケージVer>	洪
	3時限	動脈血液ガス分析関連	麻酔	演習	(A) 直接動脈穿刺法による採血 <術中麻酔パッケージVer>	直接動脈穿刺法による採血 (OSCE前演習) <術中麻酔パッケージVer>	洪
	4時限	循環動態に係る薬剤投与関連	麻酔	演習	(D) 持続点滴中の糖質輸液又は電解質輸液の投与量の調整	病態に応じた糖質輸液、電解質輸液の調整の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む)	洪
	5時限	動脈血液ガス分析関連	麻酔 集中	演習	(B) 橈骨動脈ラインの確保 <術中麻酔パッケージVer>	橈骨動脈ラインの確保 (OSCE前演習) <術中麻酔パッケージVer>	洪
	6時限	循環器関連	集中	演習	(A) 一時的ペースメーカーの操作及び管理	一時的ペースメーカーの操作及び管理方法(ペーパーシミュレーション)	谷津
	7時限	栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連	集中	演習	(A) 中心静脈カテーテルの抜去	中心静脈カテーテルの抜去の実施	梶本
	7時限	栄養に係るカテーテル管理(中心静脈カテーテル管理)関連	集中	演習	(A) 中心静脈カテーテルの抜去	中心静脈カテーテルの抜去の実施	梶本
10月19日 (木)	3時限	創傷管理関連	区分別	演習	(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去(OSCE前演習)	苅部 間部
	4時限	動脈血液ガス分析関連	救急 区分別	演習	(A) 直接動脈穿刺法による採血	直接動脈穿刺法による採血 (OSCE前演習)	大坂
	5時限	動脈血液ガス分析関連	救急 区分別	演習	(B) 橈骨動脈ラインの確保	橈骨動脈ラインの確保 (OSCE前演習)	大坂
	6時限	創傷管理関連	区分別	演習	(B) 創傷に対する陰圧閉鎖療法	創傷に対する陰圧閉鎖療法の実施	苅部 間部
10月23日 (月)	2時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	救急 集中 区分別	演習	(C) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整(ペーパーベシエント)(1)	櫻庭
	3時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	救急 集中 区分別	演習	(C) 人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整	人工呼吸管理がなされている者に対する鎮静薬の投与量の調整(ペーパーベシエント)(2)	櫻庭
	4時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	救急 集中 区分別	演習	(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更	侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベシエント)(1)	大坂
	5時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	救急 集中 区分別	演習	(A) 侵襲的陽圧換気の設定の変更	侵襲的陽圧換気の設定の変更(ペーパーベシエント)(2)	大坂
11月1日 (水)	4時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	救急 集中 区分別	演習	(D) 人工呼吸器からの離脱	人工呼吸器からの離脱(ペーパーベシエント)(1)	大坂
	5時限	呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連	救急 集中 区分別	演習	(D) 人工呼吸器からの離脱	人工呼吸器からの離脱(ペーパーベシエント)(2)	大坂
	6時限	循環動態に係る薬剤投与関連	集中	演習	(C) 持続点滴中の降圧剤の投与量の調整	病態に応じた降圧剤の投与量の調整の判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む)	谷津
11月9日 (木)	2時限	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	区分別	演習	(A) 持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整	<選択式>高カロリー輸液の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	伊藤
	3時限	栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	麻酔 救急 区分別	演習	(B) 脱水症状に対する輸液による補正	<選択式>脱水症状に対する輸液による補正の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	伊藤
	4時限	循環動態に係る薬剤投与関連	集中	演習	(B) 持続点滴中のナトリウム、カリウム又はクロールの投与量の調整	病態に応じた持続点滴によるナトリウム、カリウム又はクロールの投与の調整の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	設楽
	5時限	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	区分別	演習	(B) 抗精神病薬の臨時的投与	病態に応じた抗精神病薬の投与とその判断基準 (ペーパーシミュレーションを含む)	桐野
	6時限	精神及び神経症状に係る薬剤投与関連	区分別	演習	(C) 抗不安薬の臨時的投与	病態に応じた抗不安薬の投与の判断基準(ペーパーシミュレーションを含む)	桐野
	6時限	呼吸器(気道確保に係るもの)関連	救急 集中	演習	(A) 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整(OSCE前演習)	大坂
10月31日 (火)	1時限	創傷管理関連	区分別	OSCE	(A) 褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去	褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去(OSCE)	苅部 中川(外部) 間部
11月16日 (木)	2時限 ～	動脈血液ガス分析関連	救急 区分別	OSCE	(A) 直接動脈穿刺法による採血	直接動脈穿刺法による採血 (OSCE)	大坂 神谷(外部) 多田
			救急 区分別	OSCE	(B) 橈骨動脈ラインの確保	橈骨動脈ラインの確保 (OSCE)	大坂 神谷(外部) 多田
			麻酔	OSCE	(A) 直接動脈穿刺法による採血 <術中麻酔パッケージVer>	直接動脈穿刺法による採血 (OSCE) <術中麻酔パッケージVer>	大坂 神谷(外部) 多田
			麻酔 集中	OSCE	(B) 橈骨動脈ラインの確保 <術中麻酔パッケージVer>	橈骨動脈ラインの確保 (OSCE) <術中麻酔パッケージVer>	大坂 神谷(外部) 多田
11月22日 (水)	4時限	呼吸器(気道確保に係るもの)関連	麻酔 救急 集中	OSCE	(A) 経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整	経口用気管チューブ又は経鼻用気管チューブの位置の調整(OSCE)	八子 大坂 吉田(外部) 多田
	5時限						

実習期間：2023年12月1日～2024年2月29日

■広報活動

SNS、ホームページの更新

＜2024 年度看護師特定行為研修説明会（ハイブリッド開催）＞

看護部長 堀込、教育課 宮澤、診療看護師 多田、特定看護師 渡邊_註、事務局

2023 年 9 月 6 日（水）16：45 ～ 18：00 （第 2 会議室）

＜2024 年度看護師特定行為研修オンライン説明会（Web 開催）＞

診療看護師 多田、事務局

2023 年 10 月 2 日（月）17：00～18：30 （第 2 会議室）

■次年度受講生募集活動（2024 年度受講生）

願書受付期間：2023 年 10 月 15 日（日）～ 2023 年 10 月 31 日（火）

二次募集期間：2023 年 11 月 6 日（月）～ 2023 年 11 月 22 日（火）

筆記試験・面接：2023 年 12 月 8 日（金）

■特定看護師ブラッシュアップ研修

＜エコー①＞

講師：救急診療科 大坂先生

対象：特定看護師、2024 年度受講生

2023 年 10 月 23 日

＜エコー②＞

講師：救急診療科 大坂先生

対象：特定看護師、2024 年度受講生

2023 年 10 月 30 日

■その他の活動

＜第 2 回 千葉大学特定行為研修シンポジウム 特定行為研修修了看護師のさらなる活用について＞
（Web 開催）

聴講：特定看護師

2023 年 5 月 7 日（日）16：00 ～ 18：00

主催：静岡県、公益社団法人静岡県看護協会

＜特定行為研修指導者講習会＞ （Web 開催）

受講：特定看護師 間部

2023 年 7 月 15 日（土）13：00 ～ 16：45

主催：静岡県、公益社団法人静岡県看護協会

<看護師の特定行為に係る指定研修機関連絡会総会 臨時総会> (Web 開催)

参加：診療看護師 多田、事務局

2023 年 8 月 3 日 (木) 15 : 30 ~ 16 : 30

主催：看護師の特定行為に係る指定研修機関連絡会

<令和 5 年度第 1 回勤務環境改善研修会 特定行為研修修了看護師が活躍するための環境づくり>
(Web 開催)

参加：看護部長 堀込、看護部課長、特定看護師、特定看護師を有する所属長 他院内多数 聴講

2023 年 9 月 4 日 (月) YouTube にて後日配信

主催：公益社団法人静岡県病院協会

<令和 5 年度特定行為研修に係る交流会 (シンポジウム)>

シンポジスト参加：診療看護師 多田

参加：看護教育課 宮澤、杉山

2023 年 11 月 27 日 (月) 13 : 30 ~ 16 : 00

主催：静岡県健康福祉部医療局地域医療課

<2023 年度特定行為研修シンポジウム> (Web 開催)

参加：診療看護師 多田、事務局

2024 年 2 月 26 日 (月) 11 : 30 ~ 13 : 00

主催：看護師の特定行為に係る指定研修機関連絡会

<令和 5 年度特定行為研修意見交換会>

参加：看護教育課 宮澤、診療看護師 多田、特定看護師 山崎

2024 年 3 月 8 日 (金) 14 : 00 ~ 16 : 00

主催：静岡県、公益社団法人静岡県看護協会

3-19 地域医療連携室

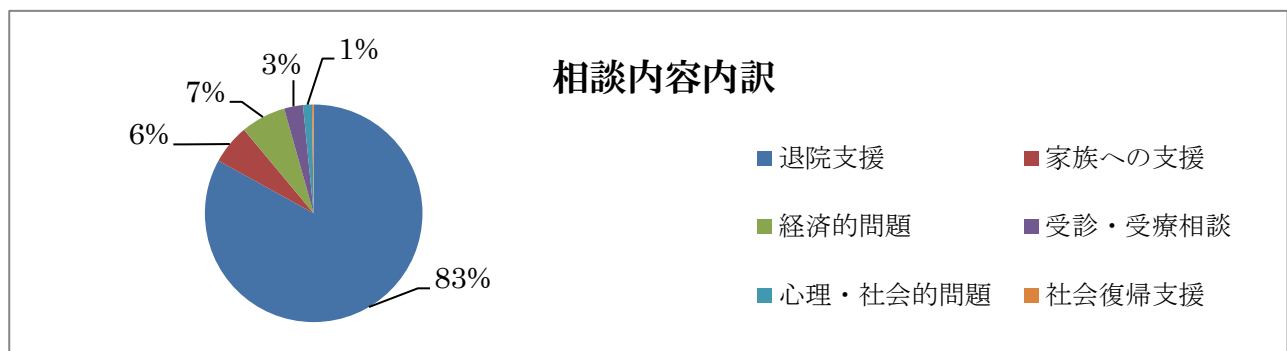
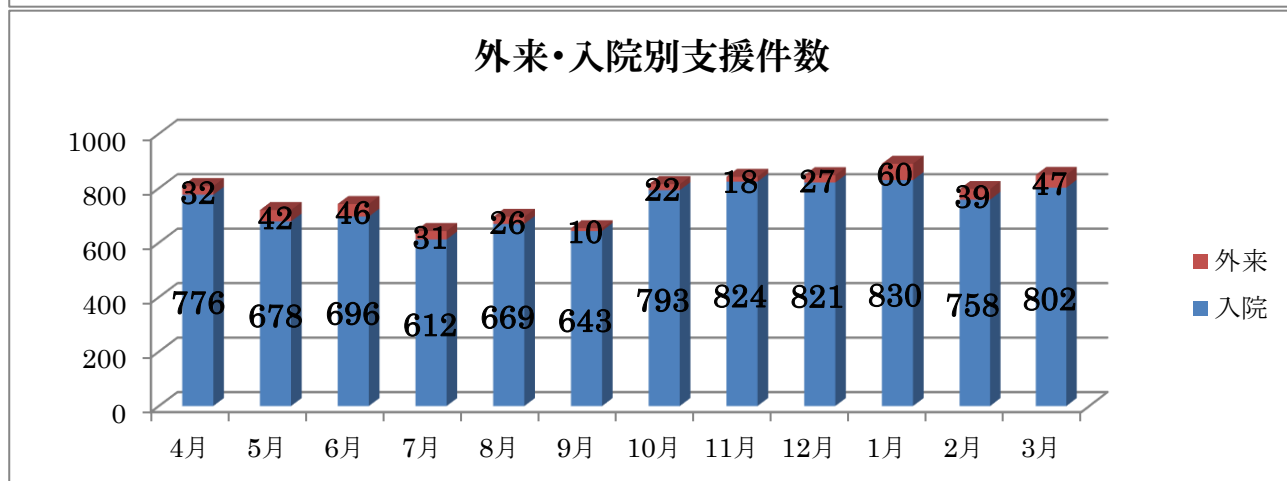
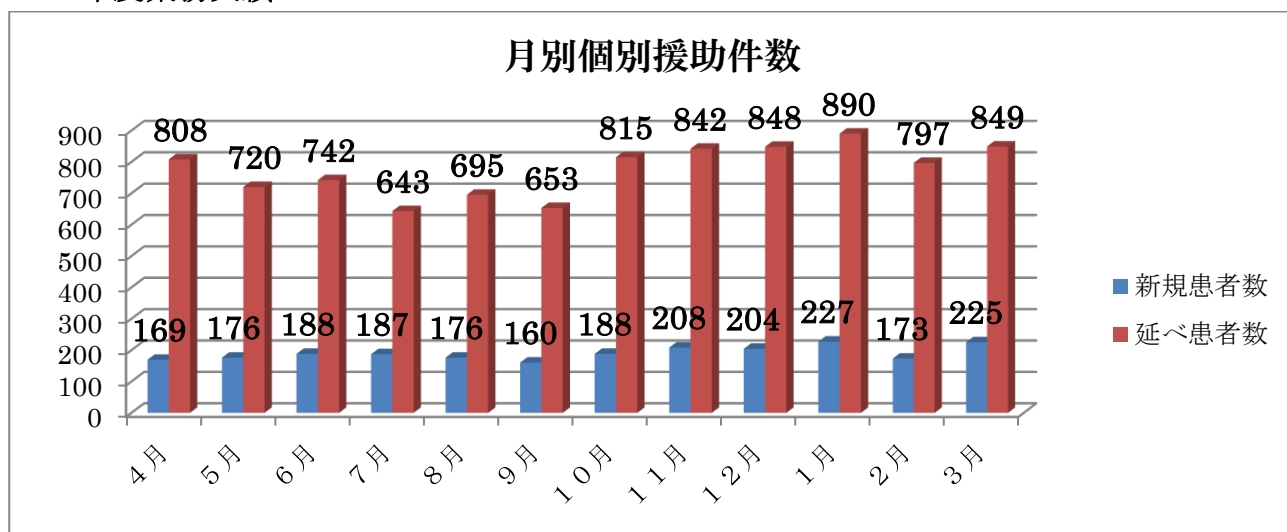
地域別紹介患者数

	2 次保健医療圏	市町村	2021 年度	2022 年度	2023 年度
静岡県	賀茂	下田市	688	868	888
		賀茂郡東伊豆町	228	240	267
		賀茂郡河津町	343	433	475
		賀茂郡南伊豆町	43	52	47
		賀茂郡松崎町	26	24	27
		賀茂郡西伊豆町	507	477	574
		小計	1,835	2,094	2,278
	熱海伊東	熱海市	518	566	582
		伊東市	2,032	2,186	2,232
		小計	2,550	2,752	2,814
	駿東田方	沼津市	2,292	2,554	2,785
		三島市	2,777	3,030	3,384
		御殿場市	1,150	1,202	1,155
		裾野市	783	741	801
		伊豆市	2,195	1,972	2,169
		伊豆の国市	3,033	3,047	3,116
		田方郡函南町	1,879	1,869	2,086
		駿東郡清水町	816	874	929
		駿東郡長泉町	758	860	855
		駿東郡小山町	41	48	59
		小計	15,724	16,197	17,339
	富士	富士宮市	96	122	125
		富士市	393	479	529
		小計	489	601	654
	その他		382	362	330
	県内合計		20,980	22,006	23,415
県外		817	823	892	
総計		21,797	22,829	24,307	

3-20 医療福祉相談室 （社会福祉士）

社会福祉士（ソーシャルワーカー）8名にて、入院・外来患者家族・地域の各種機関からの相談や調整業務を行っている。入退院支援において退院支援看護師と社会福祉士が協働し病棟別に対応している。主な業務は、転院・退院支援（地域連携バス含む）・外来相談、各種福祉制度・社会保障制度の紹介、経済的な問題についての相談・助言、治療と仕事の両立支援である。心理的・社会的背景や傷病によって生じる生活上の課題を把握し、社会資源を活用しながら個別に支援を行っている。

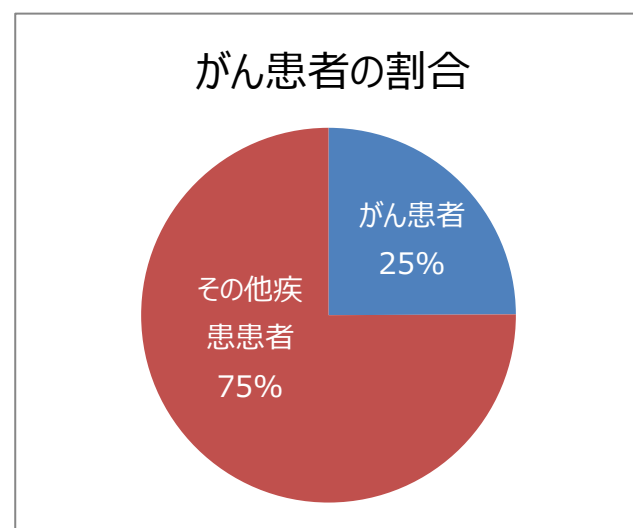
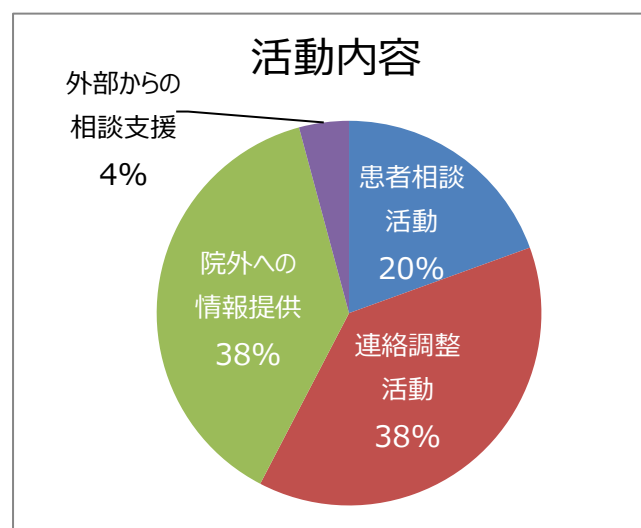
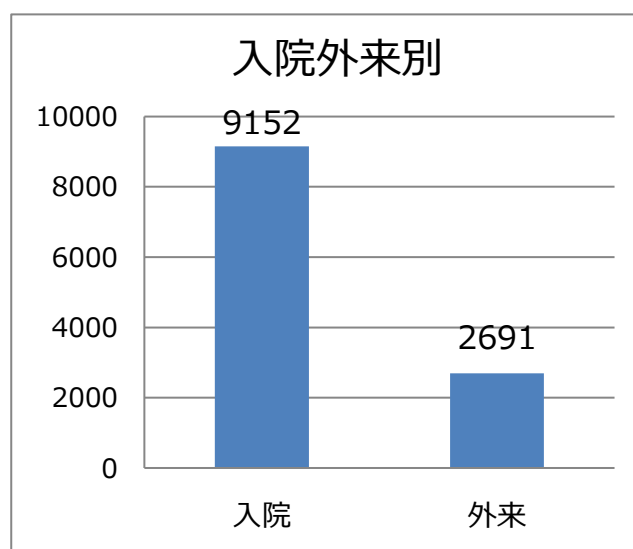
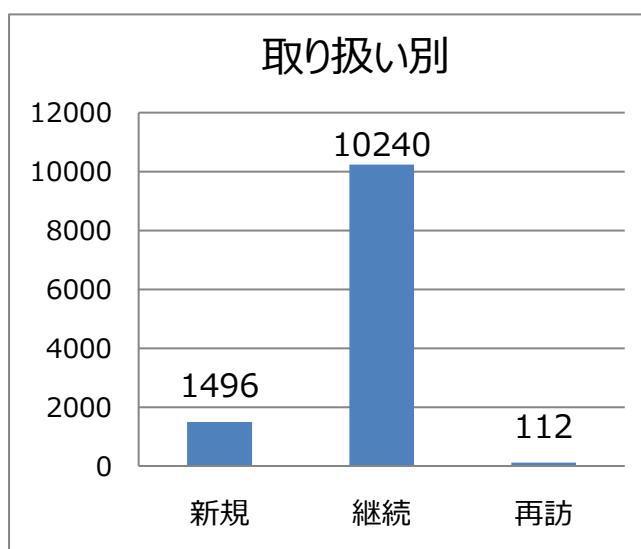
2023 年度業務実績

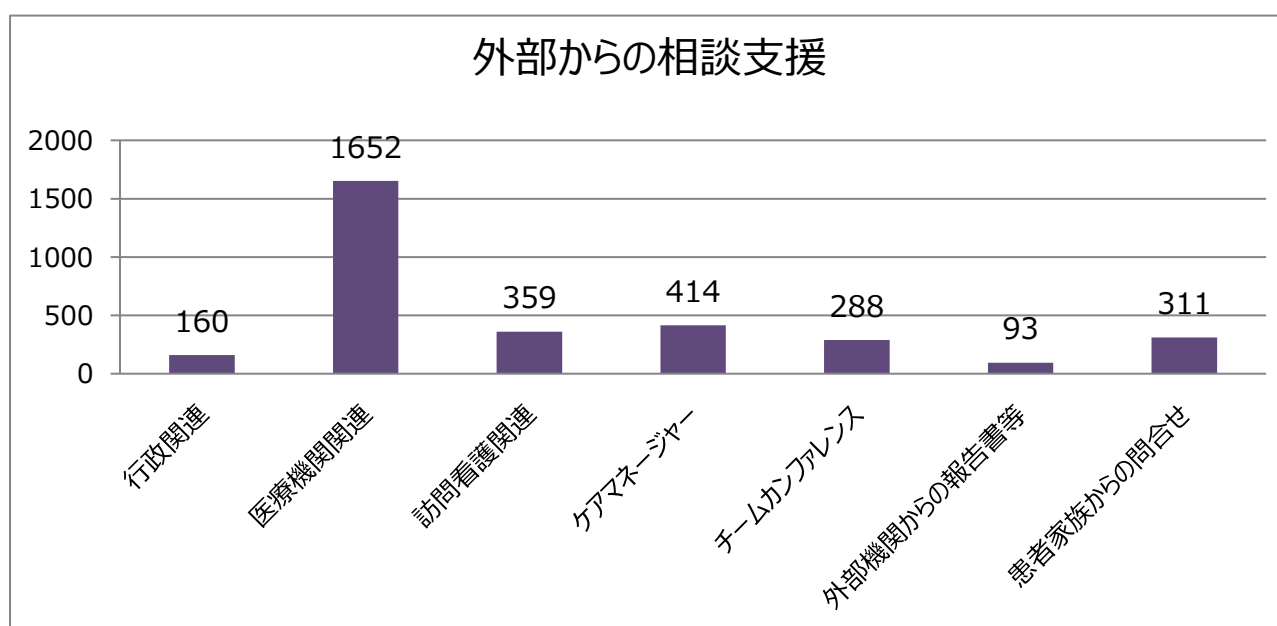
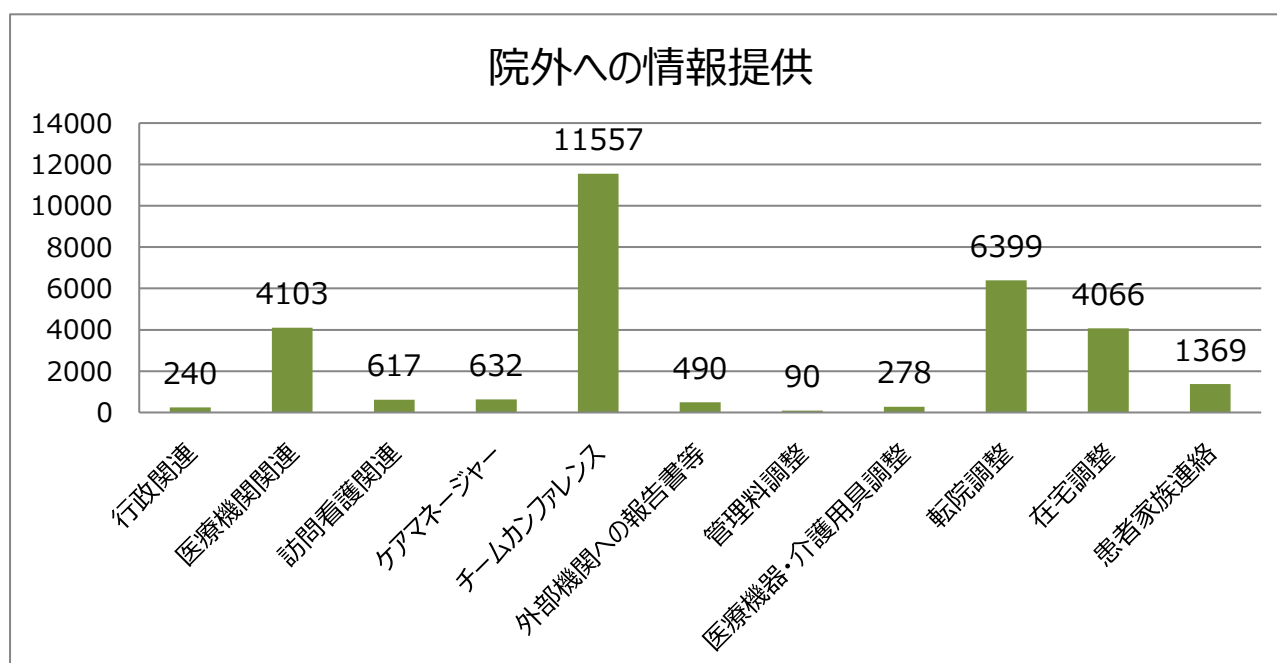
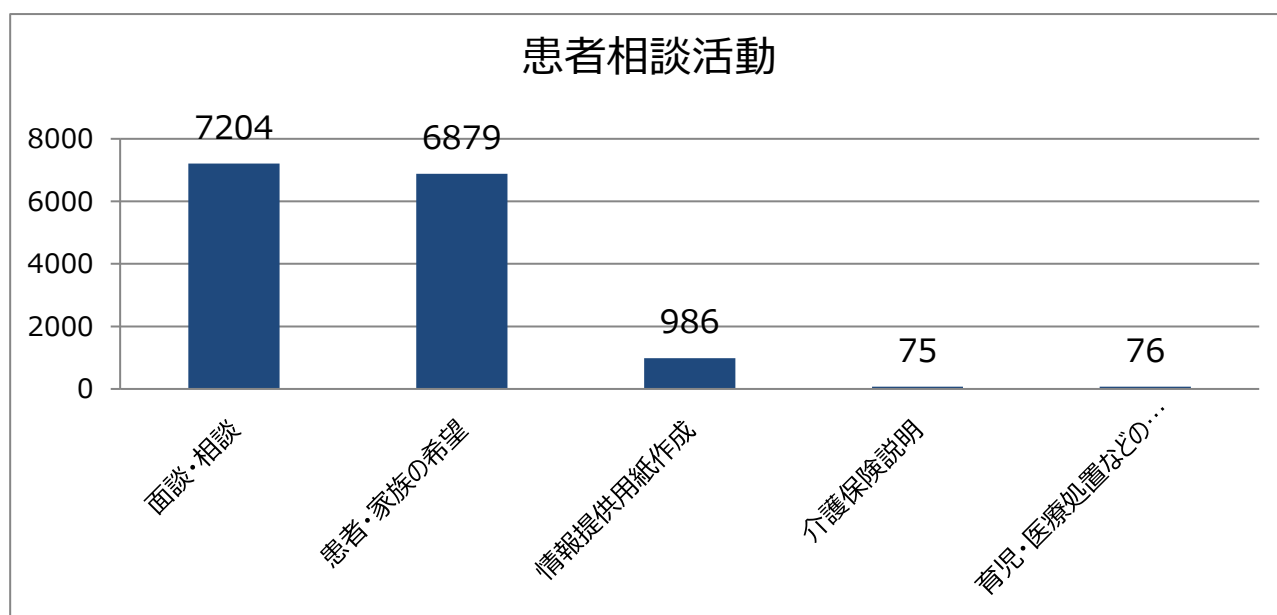


3-21 入退院支援室（入退院支援看護師）

2023年度は1名の専任看護師が8月に病欠となり1名欠員し6名（専従1名、専任5名）での入退院支援調整となったことから、2022年度より件数が減少している項目が散見された。2023年5月に新型コロナウイルス感染症が「5類感染症に移行」したことで、院内の面会制限が徐々に緩和され、ケースによっては対面でのカンファレンスを選択できる環境下となった。地域とのシームレスな連携を図るための継続した取り組みとして、入院時・退院前カンファレンスを積極的に開催できた。2022年度932件のカンファレンスの内、対面は23件（3%）であったが、2023年度は1074件のカンファレンスを開催し、対面は64件（6%）と増加傾向である。今後も効率の良いリモート（Zoom）を活用したカンファレンスを中心に、対面が効果的であると判断した困難ケースなどTPOに合わせ開催していきたい。カンファレンスの開催件数は年々増加しているため、次に目指すところは質の高いカンファレンスを追求することである。2023年度は1074件のカンファレンスに、院内から延べ3283名、地域から延べ2447名の多職種が参加となった。質の向上を目指すために経験知の豊富な師長と主任に積極的な参加を呼び掛けており、師長が延べ86名（前年15名）、主任が延べ85名（前年55名）と2022年度を上回る結果となった。多くの職種の参加を促し支援の質の向上に繋げていきたいと考える。

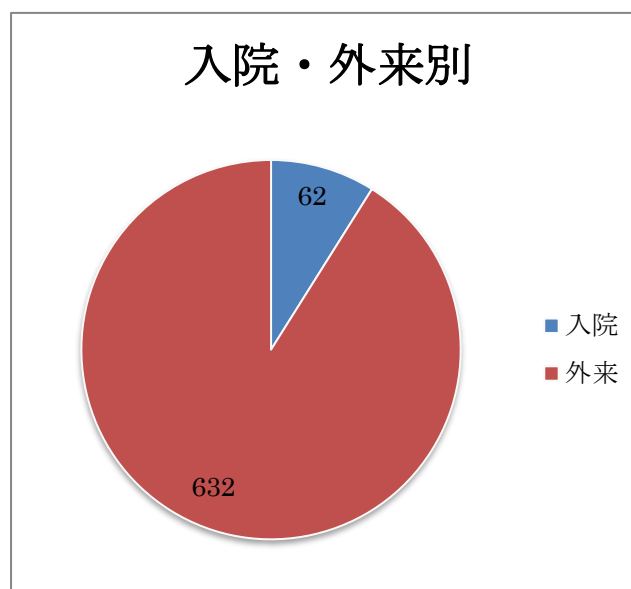
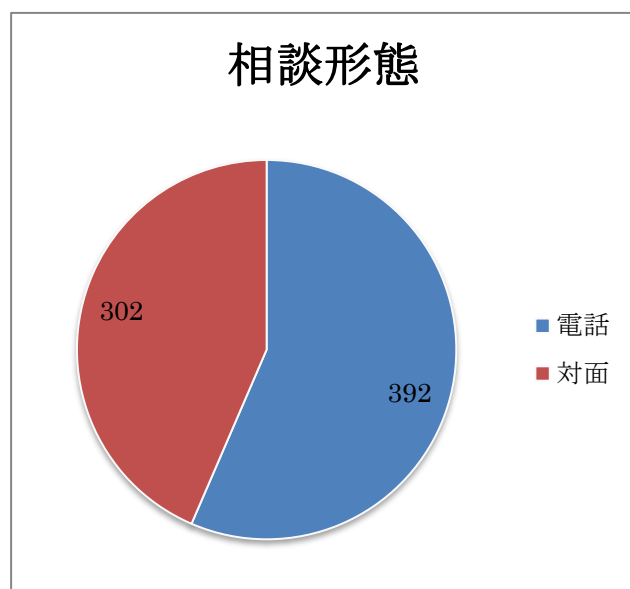
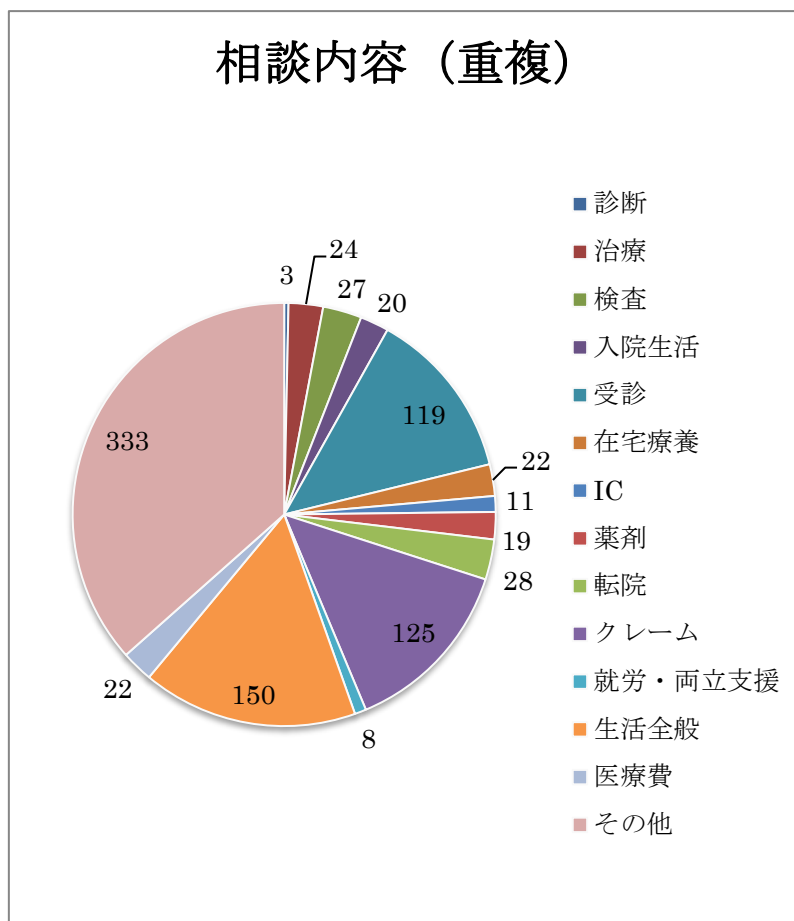
業務実績





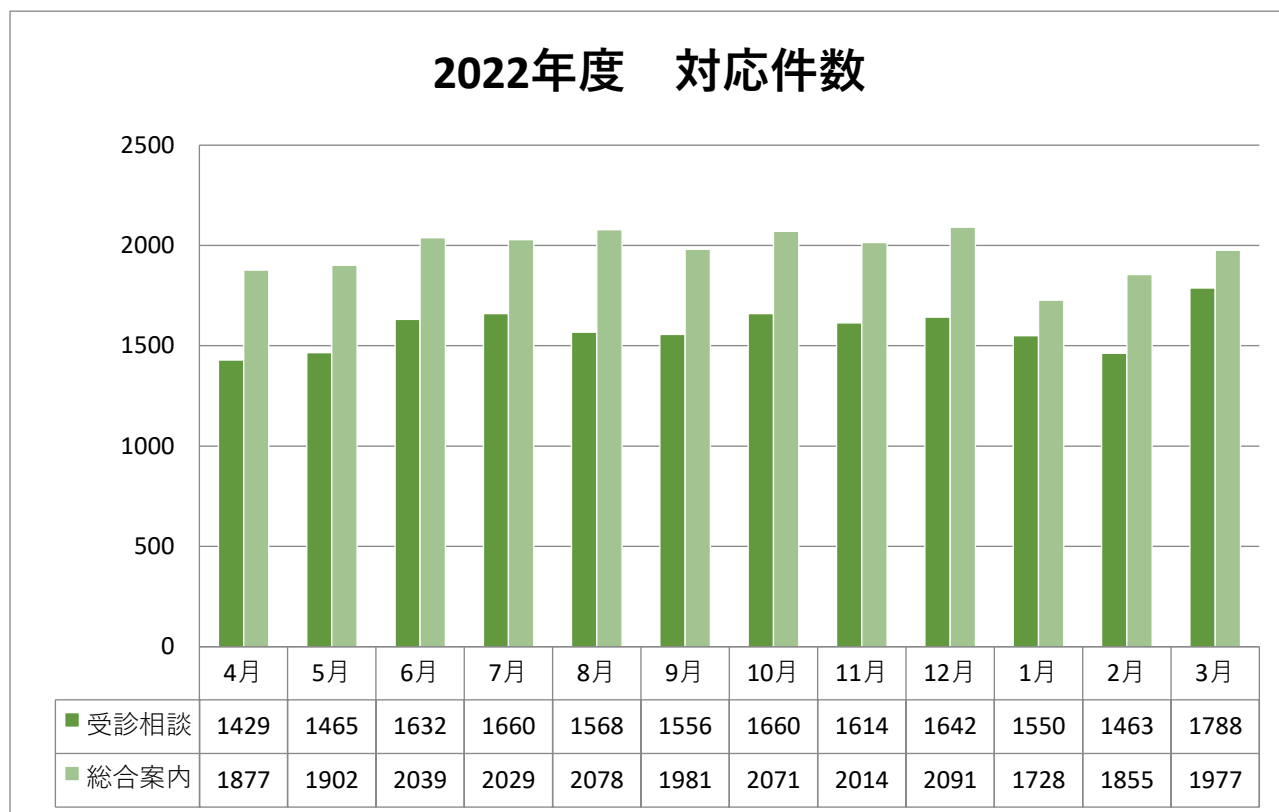
3-22 患者・看護相談室

業務実績



3-23 受診相談・総合案内

業務実績



内訳		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
受診相談	受診相談	221	260	295	294	276	282	254	274	251	197	230	221
	電話相談	197	165	179	365	481	212	138	193	198	236	162	153
	院内案内	342	352	366	311	251	325	356	373	371	331	313	409
	面会者対応	75	85	106	89	80	93	99	97	121	101	100	124
	受付	184	222	231	189	151	190	241	198	243	229	215	299
	その他の相談等	410	381	455	412	329	454	572	479	458	456	443	582
総合案内	院内案内	972	886	988	961	977	951	1070	982	1021	818	941	980
	面会者対応	222	225	251	232	242	218	265	248	292	260	271	292
	受付	654	783	789	806	835	812	720	762	750	644	620	691
	その他の相談等	29	8	11	30	24	0	16	22	28	6	23	14

3-24 医療安全管理室

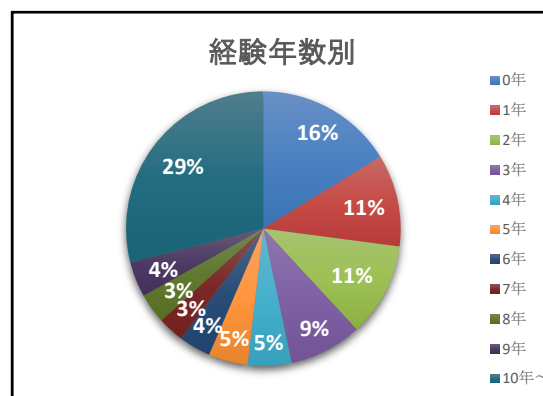
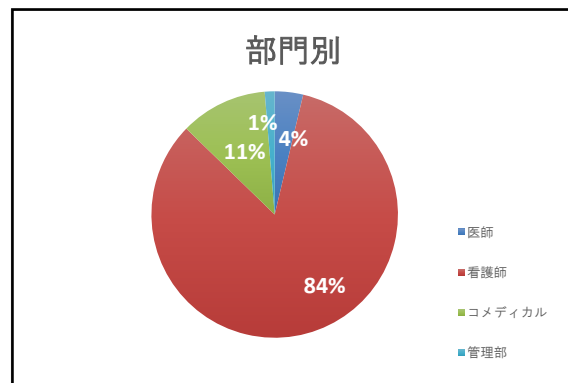
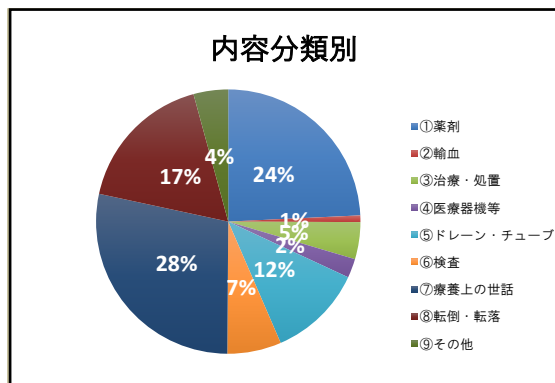
主な活動と実績

医療安全管理室では、安全で質の高い医療を提供するため医師2名、看護師1名、薬剤師1名、臨床工学技士1名、事務2名を配置し、①医療の安全を確保するための改善方策に関すること ②医療安全管理のための職員への企画・運営および院内広報等の企画・実施 ③医療事故発生時の対応に関すること ④医療安全・危機管理委員会の円滑な運営に関すること ⑤医療安全管理に関する院内の連絡調整 ⑥医療安全に係るカンファレンスを週1回程度開催 ⑦その他医療安全管理に関する業務に取り組んでいる。

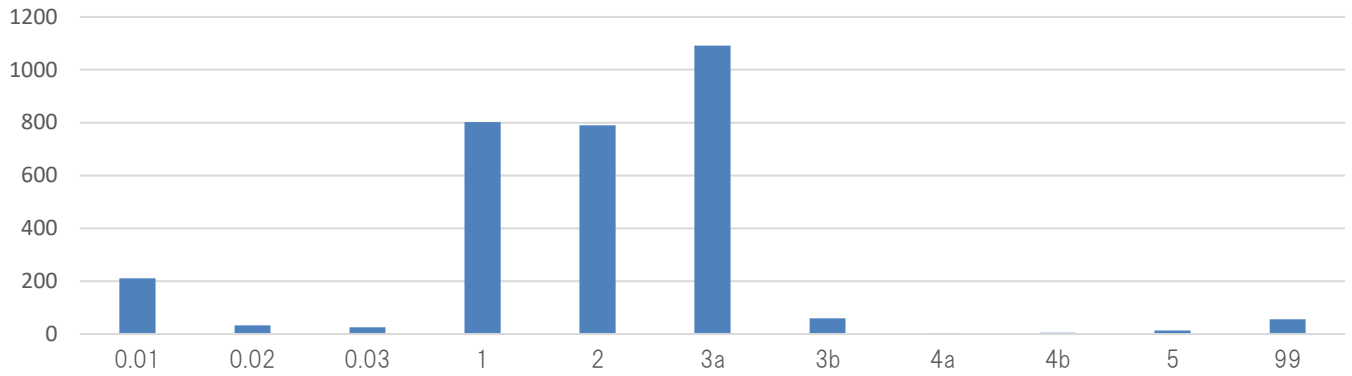
このほか、医療安全危機管理委員会を毎月、医療安全研修会を4回開催した。新型コロナウイルス感染症は5類に移行となったが、感染予防の面から委員会はWEB方式、研修会はDVD視聴による開催とした。医療安全に関する院内広報誌（リスクマネージメントニュースレター）を毎月発行し医療場面での注意喚起を行った。苦情・クレーム対応では公平中立な立場で対応し、適正な接遇への指導及び信頼回復に努めた。

2023年度 インシデント・アクシデントレポート報告

部門	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦		⑧	合計	部門別率
医師	18	0	49	4	5	8	11	8	20	115	3.7%
看護師	523	23	59	57	342	140	1347	513	90	2581	83.6%
コメディカル	208	2	29	11	11	52	32	14	8	353	11.4%
管理部	0	0	3	0	0	4	20	2	13	40	1.3%
合計	749	26	140	72	358	204	1410	537	131	3089	
項目別率	24.2%	0.8%	34.5%	2.3%	11.6%	6.6%	45.6%		4.2%		



事象レベル別



2023年度 医療安全研修会

全体受講率：93.5%

医師：89.8%、コメディカル：93.6%、看護部：96.1%、事務部：93.3%、委託業者：93.8%、
独立部署：91.8%

2023 年度 医療安全対策研修会

No	研修テーマ	対象	開催日	主催
1	『苦情・迷惑行為等への対応について』	全職員	4月12日	医療安全管理室
2	『医療ガスの安全管理について』	全職員	4月12日	関東エアウォーター株式会社 吉田 佑
3	『医薬品の管理方法について』	全職員	4月12日	薬剤科
4	『病院のセキュリティ』	全職員	6月1日	NEC

3-25 感染対策室

感染対策室では以下のような活動を行っている。

1. 患者に対しては安全な医療環境を提供するために、診療上問題となる病原微生物が発生・伝播・拡散することを防ぐ活動。
 - 病原微生物の感染経路に応じて感染拡大を防止する対策を行う。
 - 手指衛生モニタリングを行い、アルコールゲルなどの使用状況に応じて各部署に指導を行う。
 - 耐性菌の発生率を減少させるために、広域抗菌薬や抗 MRSA 薬の使用に際して適正な使用状況にあるか、週 1 回程度のラウンドを行う。
 - 年間計画に沿って院内のいずれかの部署の環境ラウンドを週 1 回程度行い、病原微生物が繁殖する温床がないかチェックを行う。ハイリスク病棟は 1 回/週、他の病棟も 1 回/月、病棟以外のハイリスク部署は 1 回/2 ヶ月の頻度で行う。
 - 細菌検査室が耐性菌を中心とした報告書を週 1 回感染対策室に提出し、各病棟で問題となる病原微生物のアウトブレイクがないかチェックを行う。もし、アウトブレイクと判断した場合は、当該部署に指導を行う。
2. 職員を感染曝露から防ぐための活動。
 - 安全衛生管理室と連携して針刺し、切創、粘膜曝露予防策及び発生時の対応方法を職員に指導している。
 - 安全衛生管理室と連携して職業感染予防のためのワクチン接種を推進している。
3. 院内感染対策の広報活動。
 - 院内感染対策を職員に浸透させるための定期的な研修会（e-ラーニング）を開催している。
 - 「新型コロナウイルス」「VRE」に関する対策等は院内通達を通し適時更新。
4. 近隣病院・施設との連携。
 - 連携をしている近隣病院との合同カンファレンス及び訪問指導を通して、各施設が抱えている問題点を提示し、それに対する対策に関して意見交換を行う。
 - 連携病院と相互に院内ラウンドを行い、第三者の目から改善点を指摘しあう。
5. COVID-19 感染症への対応
 - 静岡県が設置している新型コロナウイルス感染症対策チーム（ふじのくに感染症専門医協働チーム）へ応援要員として参加し、施設等の感染対策に対する指導を実践する。
 - ふじの国感染症管理センターの活動協力
 - 静岡県病院協会と連携し、近隣の社会福祉施設へ感染対策に関連する指導を実施する。

業務実績

月	日（曜日）	
4 月	1 日（土）	新入職員オリエンテーション
	6 日（木）	研修医イブニングレクチャー（PPE 着脱・N95 マスクフィットテスト）

	28 日 (金)	ト) 感染対策委員会
5 月	19 日 (金) 23 日 (火)	感染対策委員会 東部地区 感染管理対策担当看護師連絡会議 J-ICT
6 月	6 日 (火) 9 日 (金) 24 日 (土) 27 日 (火)	私立医科大学病院感染対策協議会マンスリーミーティング 韮山温泉病院研修会 (講師) 感染対策委員会 (配布資料) 東部地区 感染管理対策担当看護師連絡会議
7 月	8 日 (土) 21 日 (金) 28 日 (金)	私立医科大学病院感染対策協議会総会 (第 15 回) 感染対策委員会 東部 VRE 連絡会議
8 月	8 日 (火) 26 日 (土)	私立医科大学病院感染対策協議会マンスリーミーティング 感染対策委員会
9 月	8 日 (金) 22 日 (金) 26 日 (火)	感染対策向上加算合同カンファレンス 感染対策委員会 東部地区 感染管理対策担当看護師連絡会議
10 月	3 日 (火) 10 日 (火) 13 日 (金) 18 日 (水) 20 日 (金)	私立医科大学病院感染対策協議会マンスリーミーティング 社会福祉施設への訪問指導 (いちごの里) 地域連携加算相互ラウンド (県立がんセンター受入) 社会福祉施設への訪問指導 (天城の杜) 感染対策委員会
11 月	1 日 (水) 14 日 (火) 16 日 (木) 17 日 (金) 20 日 (月) 28 日 (火) 29 日 (水)	私立医科大学病院感染対策協議会相互ラウンド (東京医科大学八王子医療センター訪問) ケア実践者向け研修 (ふじの国感染症管理センター) 感染防止のためのリーダー育成研修 (梅名の里) 感染対策委員会 静岡県東部メディカルネットワーク人事交流 (伊豆赤十字病院) 伊豆保健医療センター訪問指導及び研修会 J-ICT 社会福祉施設への訪問指導 (夢無限伊豆長岡)
12 月	1 日 (金) 5 日 (火) 20 日 (水) 21 日 (木) 22 日 (金)	私立医科大学病院感染対策協議会相互ラウンド (東京医科大学八王子医療センター受入) 私立医科大学病院感染対策協議会マンスリーミーティング 社会福祉施設への訪問指導 (プレーグ大仁) 社会福祉施設への訪問指導 (あやめ会) 感染対策委員会
1 月	12 日 (金)	感染対策向上加算合同カンファレンス

	19 日（金） 23 日（火） 24 日（水） 27 日（土）	感染対策委員会 東部地区 感染管理対策担当看護師連絡会議 社会福祉施設への訪問指導（ぶなの森） 感染対策加算合同カンファレンス、感染対策委員会
2 月	6 日（火） 8 日（木） 13 日（火） 15 日（木） 17 日（土） 24 日（土） 26 日（月） 28 日（水）	私立医科大学病院感染対策協議会マンスリーミーティング 地域連携加算相互ラウンド訪問（沼津市立病院） 東部地区 ICN 病院見学会 研修医研修（PPE 着脱） 感染対策委員会 指導強化加算訪問指導（村田内科クリニック） 東部 ICN 会議 静岡県病院協会 ICN 意見交換会
3 月	1 日（金） 6 日（水） 18 日（月）	指導強化加算訪問指導（伊豆保健医療センター） 東部地区合同カンファレンス 感染防止対策加算 1・2 合同カンファレンス 感染対策委員会（配布資料）
年間		感染対策研修会・抗菌薬研修会を DVD 等で実施

次年度目標（2023 年度の総括と次年度の目標）

1. 2023 年度の総括

- VRE アウトブレイクが常態化し、多数の病棟へと広がりを見せたため、国立感染症研究所の立ち入り調査を受入、VRE 対策委員会を設置し、対策を強化している。
- MRSA アウトブレイクは 3 件の発生を認め対応した。
- COVID-19 感染症の各部署で発生したクラスターに対応した。
- 抗菌薬ラウンド及び抗菌薬適正使用支援チームの活動を通し、広域抗菌薬や抗 MRSA 薬の使用適正化を進めた。
- 手指衛生は看護部と連携し、アルコール使用量は 28.09 回/患者/日程度とやや減少傾向にある。手指衛生実施率・遵守率は医師・看護職員・コメディカルとも変化は見られない。
- 環境衛生については ICT ラウンドの実施、看護部リンクナースと協働し衛生的な病院環境の提供に努め、再ラウンド時に改善を確認している。特に点滴に関する環境とトイレや汚物室の環境改善が継続して課題となっている。
- CLA-BSI/CA-UTI サーベイランスでは、ほとんどの部署で感染率が横ばい状態。
- SSI サーベイランスを新たに開始した。

2. 2024 年度の目標

- VRE の新規発生を「ゼロ」にする
- 抗菌薬ラウンドと血液培養陽性症例のラウンドを行い、抗菌薬の適正使用の更なる推進を図る。
- CLA-BSI/CA-UTI 感染率は 2019 年度データを下回る。
- アウトブレイクマニュアルを活用し、各部署が耐性菌等の対策遵守を自主的に実施できるよう活

動を促し、実践能力の向上を目指すための支援を行う。また、耐性菌のアウトブレイクや COVID-19 感染症を始めとした新興感染症等のクラスターの発生を未然に防ぐための広報活動を実施する。

3-26 健康安全推進センター

2023 年度 安全衛生管理室行事

年 月	日	曜 日	行 事
2023 年 4 月	1 24～26 26	土 月～水 水	新入職員オリエンテーション B 型肝炎ワクチン接種 安全衛生委員会
5 月	22～ 22～24 24 中旬～下旬	月～ 月～水 水 月～金	胃検診(胃内視鏡検査) B 型肝炎ワクチン接種 安全衛生委員会 新入職員面談
6 月	5～30 上旬 1～30 28	月～金 月～金 木～金 水	春季健康診断、ストレスチェック 新入職員面談 胃検診(胃内視鏡検査) 安全衛生委員会
7 月	～7 26	～金 水	胃検診(胃内視鏡検査) 安全衛生委員会
8 月	23	水	安全衛生委員会
9 月	27	水	安全衛生委員会
10 月	23～25 25 30～	月～水 水 月～	B 型肝炎ワクチン接種 安全衛生委員会 インフルエンザ予防接種
11 月	～6 21 29	～月 火 水	インフルエンザ予防接種 校医会・法人安全衛生委員会 安全衛生委員会
12 月	4～8 27	月～金 水	秋季健康診断 安全衛生委員会
2024 年 1 月	22～24 24	月～水 水	流行性ウイルス性疾患 (麻疹・風疹・ムンプス・水痘) ワクチン接種 安全衛生委員会
2 月	26～28 28	月～水 水	流行性ウイルス性疾患 (麻疹・風疹・ムンプス・水痘) ワクチン接種 安全衛生委員会
3 月	27	水	安全衛生委員会

【月毎定例行事】 飲食物取扱従事者検便《毎月第 2 火曜日》

※6 月～9 月は、第 2・4 火曜日（月 2 回）実施

託児所業務従事者検便《毎月第 2 火曜日》

【随 時】 雇い入れ時健康診断

業務実績

定期健康診断受診率

	春 季			秋 季		
実施期日	2023年6月5日～6月30日			2023年12月4日～12月8日		
実施項目	身体測定、血液検査、尿検査、血圧測定、視力検査、聴力検査、心電図検査、胸部X線、胃透視検査(40歳以上希望者)、内科診察			身体測定、血液検査、尿検査、血圧測定、視力検査、聴力検査、内科診察		
受 診 率	全 体	1,446/1,446	(100.0%)	全 体	853/853	(100.0%)
	医 師	274/274	(100.0%)	医 師	193/193	(100.0%)
	コメディカル	215/215	(100.0%)	コメディカル	70/70	(100.0%)
	看護部	838/838	(100.0%)	看護部	588/588	(100.0%)
	事務部	119/119	(100.0%)	事務部	2/2	(100.0%)

4. 統計

4-1 病床利用率

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度
病 床 数	630	630	630	630	630	630	630	630	630	630	630	630	630
病 床 利 用 率	93.4%	89.6%	92.9%	92.7%	94.4%	92.7%	92.9%	94.0%	96.0%	94.9%	97.0%	97.1%	94.0%

4-2 在院日数

(単位:日)

診療科	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	年度
内 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
膠原病内科・ リウマチ科	11.3	11.6	12.8	11.4	11.3	12.5	17.7	12.8	14.6	20.7	12.6	17.4	13.6
血 液 内 科	17.5	16.5	20.3	19.5	16.2	19.9	15.8	19.3	17.1	12.6	21.4	23.8	18.1
消 化 器 内 科	9.1	12.7	11.7	9.9	10.0	10.3	8.9	9.8	9.7	10.0	12.3	9.7	14.0
呼 吸 器 内 科	17.1	13.8	16.1	12.0	13.4	11.6	13.1	15.0	13.7	13.4	14.2	16.0	10.3
腎 臓 内 科	14.3	12.3	15.7	12.7	23.2	23.8	18.3	22.0	16.0	17.7	14.1	11.5	16.2
糖 尿 病 ・ 内 分 泌 内 科	10.8	6.9	9.3	8.6	7.6	8.9	10.3	11.0	10.2	11.5	9.2	9.7	9.4
循 環 器 内 科	9.1	9.6	9.0	10.4	8.7	10.9	9.3	9.6	9.0	10.0	9.8	10.3	9.6
小 児 科	4.7	5.6	5.0	4.3	3.8	3.8	5.2	6.0	4.9	6.5	6.4	4.8	5.0
小 児 外 科	4.8	7.6	5.6	7.9	4.9	6.7	9.5	8.5	6.2	8.2	2.5	3.3	6.0
新 生 児 科	23.4	26.9	32.0	33.4	25.0	30.8	24.8	27.0	26.6	31.3	31.1	35.6	28.5
外 科	10.2	10.2	9.4	10.0	10.9	10.4	10.6	11.4	11.3	11.6	12.1	11.8	10.8
脳 神 経 外 科	17.7	16.0	16.4	18.1	19.5	18.3	18.4	17.7	18.5	22.9	25.7	18.7	18.9
整 形 外 科	17.3	16.2	17.1	17.9	17.2	18.7	17.4	17.8	16.8	20.3	16.4	18.3	17.6
脳 神 経 内 科	14.5	17.7	17.4	16.5	22.2	26.0	21.9	21.0	14.8	18.1	20.3	19.9	18.8
心 臓 血 管 外 科	12.9	18.5	12.6	11.6	9.7	15.5	12.8	13.6	13.4	15.7	11.4	11.7	13.1
呼 吸 器 外 科	10.1	12.4	10.3	11.3	10.9	9.7	10.5	10.9	8.2	10.7	10.5	10.7	10.5
形 成 外 科	24.8	21.7	15.6	17.3	21.3	20.0	20.9	11.1	12.2	15.4	18.1	11.7	16.8
眼 科	5.2	5.2	5.2	5.2	5.1	5.6	5.1	5.2	5.4	5.3	5.2	4.9	5.2
耳 鼻 咽 喉 科	9.3	7.7	7.1	7.3	5.6	6.7	8.5	9.8	9.1	9.5	10.3	9.9	8.4
麻 酔 科 ・ ペインクリニック	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0
放 射 線 科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
メ ン タ ル ク リ ニ ッ ク	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
皮 膚 ・ ア レ ル ギ ー 科	5.3	6.7	8.0	6.8	7.2	10.0	6.1	7.7	5.5	6.2	7.7	6.3	6.9
泌 尿 器 科	7.3	8.0	8.7	8.3	9.8	8.1	9.1	7.9	7.3	8.5	8.5	9.2	8.4
産 婦 人 科	6.3	6.1	6.8	6.4	6.0	7.0	6.2	6.3	6.7	7.5	6.6	6.4	6.5
救 急 診 療 科	11.3	10.4	11.2	9.0	6.9	10.4	11.5	12.7	11.7	12.2	13.2	23.1	11.2
合 計	10.6	11.4	10.5	11.2	11.8	10.9	10.9	11.5	11.0	11.7	11.5	11.1	11.2

4-3 診療科別延患者数（外来）

（単位：人）

診療科		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
内科	科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
膠原病・リウマチ内科	科	1,584	1,646	1,440	1,475	1,479	1,354	1,462	1,397	1,454	1,434	1,402	1,493	1,468	17,620	18,659	94.4%
血液内科	科	1,432	1,472	1,494	1,512	1,573	1,566	1,522	1,502	1,493	1,416	1,420	1,464	1,489	17,866	17,372	102.8%
消化器内科	科	1,904	1,926	2,118	2,064	2,086	2,093	2,093	2,089	2,072	1,986	1,869	1,989	2,024	24,289	24,496	99.2%
呼吸器内科	科	1,836	1,772	1,820	1,799	1,767	1,793	1,795	1,749	1,784	1,761	1,666	1,911	1,788	21,453	22,472	95.5%
腎臓内科	科	1,081	1,058	1,037	1,098	1,158	1,127	1,103	1,115	1,069	1,084	1,061	1,107	1,092	13,098	13,408	97.7%
糖尿病・内分泌内科	科	2,441	2,366	2,462	2,426	2,519	2,437	2,452	2,430	2,569	2,398	2,457	2,555	2,459	29,512	28,452	103.7%
循環器科	科	4,191	4,122	4,223	4,056	4,226	4,138	4,281	4,202	4,350	4,068	4,105	4,263	4,185	50,225	50,208	100.0%
小児科	科	1,281	1,330	1,516	1,534	1,550	1,459	1,374	1,389	1,524	1,431	1,301	1,512	1,433	17,201	16,983	101.3%
小児外科	科	108	99	93	97	103	132	96	98	98	95	109	119	1	1,247	854	146.0%
新生児科	科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
外科	科	2,171	2,236	2,323	2,372	2,361	2,341	2,429	2,379	2,396	2,178	2,184	2,294	2,305	27,664	28,010	98.8%
脳神経外科	科	1,969	1,973	2,051	1,955	2,028	1,980	2,010	1,950	1,984	1,850	1,822	2,092	1,972	23,664	24,226	97.7%
整形外科	科	2,698	2,676	2,855	2,776	2,889	2,832	2,834	2,906	2,873	2,761	2,720	3,072	2,824	33,892	33,600	100.9%
脳神経内科	科	2,109	2,174	2,220	2,141	2,234	2,164	2,215	2,218	2,115	2,094	2,117	2,211	2,168	26,012	25,042	103.9%
心臓血管外科	科	338	334	345	302	338	327	364	339	345	341	346	369	341	4,088	3,950	103.5%
呼吸器外科	科	265	239	293	251	237	269	283	233	290	250	248	287	262	3,145	3,121	100.8%
形成外科	科	334	362	380	356	372	326	373	351	392	377	381	418	369	4,422	4,455	99.3%
眼科	科	2,878	2,825	3,099	2,938	2,967	2,896	2,978	2,657	2,843	2,740	2,673	3,031	2,877	34,525	35,181	98.1%
耳鼻咽喉科	科	1,268	1,261	1,334	1,420	1,370	1,317	1,399	1,287	1,260	1,276	1,374	1,446	1,334	16,012	16,181	99.0%
麻酔科	科	146	142	137	114	137	148	132	125	126	123	118	141	132	1,589	1,799	88.3%
放射線科	科	263	280	512	486	351	411	371	444	321	179	224	360	350	4,202	4,470	94.0%
メンタルクリニック		2,364	2,398	2,416	2,437	2,543	2,411	2,390	2,386	2,348	2,303	2,197	2,318	2,376	28,511	29,042	98.2%
皮膚・アレルギー科	科	2,541	2,593	2,739	2,764	2,981	2,869	2,991	2,909	2,821	2,754	2,773	2,892	2,802	33,627	31,636	106.3%
泌尿器科	科	1,700	1,768	1,723	1,759	1,843	1,743	1,760	1,809	1,805	1,726	1,811	1,821	1,772	21,268	22,133	96.1%
産婦人科	科	2,640	2,728	2,946	2,773	2,760	2,874	2,738	2,778	2,797	2,597	2,632	2,944	2,767	33,207	33,248	99.9%
救急診療科	科	58	62	68	93	105	56	70	67	87	80	69	66	73	881	963	91.5%
リハビリテーション科	科	41	45	38	44	42	44	48	43	57	59	70	75	51	606	317	153.4%
歯科口腔外科	科	-	-	-	-	-	29	75	85	80	150	252	233	129	904	—	—
合計	計	39,641	39,887	41,682	41,042	42,019	41,136	41,638	40,937	41,353	39,511	39,401	42,483	40,894	490,730	473,753	103.6%

※2023年9月より、歯科口腔外科開設

4-4 診療科別延患者数（入院）

（単位：人）

診療科 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月 平均	当年度 計	前年度 計	前年比
膠原病内科・リウマチ科	288	318	342	382	315	323	336	344	372	434	326	424	350	4,204	3,434	122.4%
血液内科	687	577	669	788	779	806	775	707	732	550	601	805	706	8,476	7,204	117.7%
消化器内科	976	1,085	988	982	1,053	736	878	896	962	883	971	951	947	11,361	10,708	106.1%
呼吸器内科	752	722	760	720	886	695	717	755	802	756	781	841	766	9,187	8,646	106.3%
腎臓内科	325	381	459	445	438	412	491	508	433	456	411	376	428	5,135	5,099	100.7%
糖尿病・内分泌内科	188	153	154	213	187	227	264	237	179	186	215	262	205	2,465	2,130	115.7%
循環器科	1,651	1,687	1,963	1,949	1,755	1,791	1,875	1,833	1,884	2,120	1,816	2,118	1,870	22,442	19,476	115.2%
小児科	295	342	400	400	392	274	419	406	340	349	362	423	367	4,402	3,529	124.7%
小児外科	132	94	114	121	144	126	127	96	65	100	42	83	0	1,244	753	165.2%
新生児科	852	837	842	910	883	844	863	838	884	807	771	880	851	10,211	9,357	109.1%
外科	1,921	1,615	1,790	2,023	1,817	1,798	1,938	2,069	1,994	1,897	1,852	1,975	1,891	22,689	23,142	98.0%
脳神経外科	1,692	1,834	1,652	1,736	1,943	1,946	1,981	1,735	2,264	2,384	2,240	2,015	1,952	23,422	23,638	99.1%
整形外科	1,814	1,705	1,670	1,798	2,019	1,786	2,012	1,800	1,990	1,983	1,716	1,851	1,845	22,144	21,419	103.4%
脳神経内科	706	787	813	709	891	826	789	715	712	714	691	826	765	9,179	8,265	111.1%
心臓血管外科	364	409	430	312	303	458	400	492	428	451	344	431	402	4,822	5,481	88.0%
呼吸器外科	168	180	171	223	209	199	264	213	162	157	151	180	190	2,277	2,443	93.2%
形成外科	248	225	235	203	266	263	265	157	193	227	297	309	241	2,888	2,647	109.1%
眼科	741	724	708	740	707	714	669	765	865	670	723	765	733	8,791	8,467	103.8%
耳鼻咽喉科	361	336	278	376	239	306	283	307	406	423	432	373	343	4,120	3,988	103.3%
麻酔科	2	0	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	1	6	7	—
放射線科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
メンタルクリニック	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
皮膚・アレルギー科	191	280	306	276	270	309	244	282	282	221	217	238	260	3,116	2,475	125.9%
泌尿器科	544	608	644	691	853	574	775	580	646	686	653	790	670	8,044	7,010	114.8%
産婦人科	1,322	1,150	1,255	1,341	1,398	1,394	1,099	1,199	1,395	1,344	1,467	1,312	1,306	15,676	16,407	95.5%
救急診療科	646	819	788	767	689	707	689	840	763	742	647	738	736	8,835	7,428	118.9%
リハビリテーション科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
歯科口腔外科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	16,866	16,868	17,431	18,107	18,436	17,516	18,153	17,774	18,753	18,540	17,726	18,966	17,928	215,136	203,153	105.9%

4-5 新患者数（外来）

(単位:人)

診療科	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
内科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
膠原病内科 ・リウマチ科		53	54	45	48	44	41	35	35	39	43	45	50	44	532	646	82.4%
血液内科		50	44	53	52	68	69	49	62	48	51	45	49	53	640	630	101.6%
消化器内科		87	73	104	97	110	103	88	99	85	94	71	82	91	1,093	1,200	91.1%
呼吸器内科		110	89	75	49	74	73	68	67	69	88	62	68	74	892	1,764	50.6%
腎臓内科		30	35	25	41	35	35	29	26	37	36	35	23	32	387	461	83.9%
糖尿病・ 内分泌内科		35	27	43	49	42	35	47	28	56	47	47	53	42	509	485	104.9%
循環器科		96	71	88	87	74	90	112	99	90	101	83	102	91	1,093	1,145	95.5%
小児科		116	134	131	145	125	93	108	121	114	103	94	108	116	1,392	1,400	99.4%
小児外科		9	5	8	15	12	14	11	13	15	18	16	9	12	145	109	-
新生児科		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
外科		81	76	78	91	89	81	106	114	89	93	94	75	89	1,067	1,079	98.9%
脳神経外科		89	98	76	77	81	76	95	92	86	77	76	79	84	1,002	1,102	90.9%
整形外科		204	212	214	243	223	214	228	236	215	216	200	207	218	2,612	2,582	101.2%
脳神経内科		74	60	68	68	66	67	68	81	53	59	69	60	66	793	742	106.9%
心臓血管外科		14	10	19	18	19	14	20	16	9	13	12	14	15	178	201	88.6%
呼吸器外科		5	5	5	4	4	6	5	6	4	2	5	6	5	57	63	90.5%
形成外科		29	40	42	28	32	29	35	41	41	53	41	51	39	462	476	97.1%
眼科		145	143	143	141	123	131	156	118	143	140	138	139	138	1,660	1,723	96.3%
耳鼻咽喉科		92	97	97	114	96	105	110	104	95	108	120	131	106	1,269	1,160	109.4%
麻酔科		1	2	3	1	3	4	2	3	2	-	1	1	2	23	31	74.2%
放射線科		14	16	12	12	15	10	11	21	17	12	13	20	14	173	178	97.2%
メンタル クリニック		67	47	75	61	59	66	67	51	57	53	61	45	59	709	729	97.3%
皮膚・アレルギー科		133	146	157	145	175	152	144	129	124	132	138	153	144	1,728	1,576	109.6%
泌尿器科		53	65	54	66	74	69	52	82	58	76	57	54	63	760	789	96.3%
産婦人科		145	143	138	161	142	168	156	182	176	175	152	141	157	1,879	1,828	102.8%
救急診療科		29	35	43	51	58	30	43	39	47	44	44	44	42	507	585	86.7%
リハビリ テーション科		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	-	-
歯科口腔外科		-	-	-	-	-	24	41	46	49	83	136	123	72	502	-	-
合計		1,762	1,727	1,796	1,864	1,843	1,799	1,886	1,911	1,818	1,917	1,855	1,888	1,869	22,066	18,378	120.1%

※2023年9月より、歯科口腔外科開設

4-6 新患者数（入院）

（単位：人）

診療科	月 4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月 平均	当年度 計	前年度 計	前年比
内 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.0%
膠原病内科 ・リウマチ科	24	28	28	28	25	24	19	25	26	19	24	22	24	292	174	167.8%
血液内科	34	34	34	38	41	38	45	37	33	43	30	32	37	439	274	160.2%
消化器内科	97	82	76	87	91	62	99	81	84	82	79	84	84	1,004	998	100.6%
呼吸器内科	41	46	44	61	63	53	51	52	52	53	51	50	51	617	559	110.4%
腎臓内科	25	27	28	31	15	14	27	20	26	26	23	30	24	292	272	107.4%
糖尿病・ 内分泌内科	16	21	15	20	24	24	25	17	16	17	21	25	20	241	156	154.5%
循環器科	162	166	205	171	187	150	183	181	189	202	173	184	179	2,153	1,878	114.6%
小 児 科	55	51	68	75	81	57	69	57	56	48	49	76	62	742	498	149.0%
小 児 外 科	22	11	19	13	25	17	11	9	9	12	10	22	15	180	2	-
新 生 児 科	36	29	24	27	34	26	34	31	30	26	24	23	29	344	377	91.2%
外 科	162	142	179	182	153	153	170	171	146	162	137	160	160	1,917	2,060	93.1%
脳神経外科	93	112	103	89	99	99	100	99	118	103	88	96	100	1,199	1,093	109.7%
整形外科	94	96	85	96	103	85	111	93	103	94	92	91	95	1,143	1,147	99.7%
脳神経内科	43	42	41	42	39	29	34	32	44	38	32	38	38	454	443	102.5%
心臓血管外科	24	22	30	22	35	24	28	30	25	26	24	35	27	325	268	121.3%
呼吸器外科	13	14	14	17	16	18	23	13	16	15	12	16	16	187	149	125.5%
形成外科	7	12	11	9	13	12	10	13	13	16	15	19	13	150	120	125.0%
眼 科	116	123	115	114	117	105	115	126	125	116	117	124	118	1,413	1,228	115.1%
耳鼻咽喉科	35	39	36	44	35	40	32	28	42	41	40	33	37	445	393	113.2%
麻 酔 科	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3	-	0.0%
放 射 線 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	-	0.0%
メンタル クリニック	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	-	0.0%
皮 膚 ・アレルギー科	30	38	34	39	32	26	35	34	40	30	26	32	33	396	371	106.7%
泌 尿 器 科	60	69	69	73	81	59	76	68	67	81	68	78	71	849	737	115.2%
産 婦 人 科	182	162	161	189	195	182	143	171	171	172	188	172	174	2,088	2,100	99.4%
救 急 診 療 科	61	75	74	82	93	68	62	70	60	60	51	60	68	816	772	105.7%
リ ハ ビ リ テーション科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	-	0.0%
歯科口腔外科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	-	0.0%
合 計	1,433	1,441	1,493	1,550	1,597	1,366	1,502	1,458	1,491	1,482	1,374	1,502	1,474	17,689	16,071	110.1%

4-7 退院患者数

(単位:人)

診療科 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月 平均	当年度 計	前年度 計	前年比
内 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
膠原病内科 ・リウマチ科	23	23	22	33	26	24	17	25	22	21	24	24	24	284	175	162.3%
血液内科	40	32	29	39	49	39	47	33	47	38	24	33	38	450	279	161.3%
消化器内科	97	77	79	92	100	68	81	84	95	79	68	93	84	1,013	1,006	100.7%
呼吸器内科	42	51	45	51	60	57	51	43	57	52	52	49	51	610	461	132.3%
腎臓内科	18	30	27	34	21	19	24	24	25	23	31	30	26	306	248	123.4%
糖尿病・ 内分泌内科	16	18	15	24	20	22	22	22	16	13	21	24	19	233	139	167.6%
循環器科	164	153	189	172	176	150	180	165	187	186	164	191	173	2,077	1,662	125.0%
小 児 科	49	52	65	75	83	57	66	59	59	46	49	70	61	730	468	156.0%
小児外科	23	11	16	14	24	16	13	11	9	10	13	18	15	178	0	-
新生児科	34	31	27	26	34	27	33	29	34	24	24	25	29	348	431	80.7%
外 科	180	146	166	187	153	161	165	163	177	140	145	149	161	1,932	1,999	96.6%
脳神経外科	88	104	88	93	91	103	104	87	115	97	80	108	97	1,158	1,051	110.2%
整形外科	104	102	99	94	118	96	108	98	120	92	105	100	103	1,236	1,145	107.9%
脳神経内科	48	42	47	39	38	32	35	33	46	37	33	41	39	471	435	108.3%
心臓血管外科	28	20	33	27	23	31	30	37	34	28	31	33	30	355	201	176.6%
呼吸器外科	17	13	16	19	19	19	23	22	19	12	14	15	17	208	181	114.9%
形成外科	12	8	17	13	11	13	14	13	16	12	16	29	15	174	153	113.7%
眼 科	123	113	114	125	115	111	105	120	144	99	118	133	118	1,420	1,046	135.8%
耳鼻咽喉科	35	38	33	46	37	40	28	29	39	40	37	35	36	437	374	116.8%
麻 酔 科	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-
放 射 線 科	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
メンタル クリニック	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
皮膚 ・アレルギー科	31	35	34	33	34	30	34	31	46	31	24	33	33	396	294	134.7%
泌尿器科	70	66	64	76	77	66	78	63	87	65	70	77	72	859	713	120.5%
産婦人科	179	161	162	176	204	168	159	161	189	148	196	180	174	2,083	2,086	99.9%
救急診療科	45	69	57	73	82	57	49	54	60	53	41	44	57	684	681	100.4%
リハビリ テーション科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
歯科口腔外科	-	-	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-
合 計	1,467	1,395	1,444	1,562	1,595	1,407	1,466	1,406	1,643	1,346	1,380	1,534	1,470	17,645	15,228	115.9%

4-8 年齢別延患者数（外来）

（単位：人）

月 年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度 計	前年度 計	前年比
0 歳	393	403	437	414	417	432	441	442	444	471	414	429	428	5,137	5,512	93.2%
1-6 歳	707	787	879	892	869	816	771	749	888	716	762	852	807	9,688	9,133	106.1%
0-9 歳	1,347	1,430	1,612	1,622	1,620	1,567	1,497	1,462	1,630	1,451	1,415	1,614	1,522	18,267	17,597	103.8%
10-19 歳	1,078	1,068	1,139	1,202	1,448	1,115	1,111	1,136	1,249	1,163	1,093	1,368	1,181	14,170	14,029	101.0%
20-29 歳	1,563	1,574	1,586	1,644	1,652	1,686	1,578	1,535	1,509	1,520	1,598	1,680	1,594	19,125	20,271	94.3%
30-39 歳	2,291	2,402	2,347	2,350	2,445	2,292	2,258	2,314	2,295	2,242	2,323	2,527	2,341	28,086	29,167	96.3%
40-49 歳	3,369	3,370	3,413	3,405	3,459	3,321	3,450	3,407	3,470	3,300	3,198	3,416	3,382	40,578	42,304	95.9%
50-59 歳	5,027	5,053	5,350	5,226	5,351	5,372	5,472	5,285	5,488	5,274	5,207	5,659	5,314	63,764	62,285	102.4%
60-64 歳	2,760	2,843	3,054	2,949	2,927	2,875	2,931	3,021	2,962	2,850	2,791	3,046	2,917	35,009	33,916	103.2%
65-74 歳	9,165	9,096	9,506	9,348	9,377	9,337	9,508	9,148	9,155	8,766	8,607	9,061	9,173	110,074	115,874	95.0%
75 歳以上	13,041	13,051	13,675	13,296	13,740	13,571	13,833	13,629	13,595	12,945	13,169	14,112	13,471	161,657	154,976	104.3%
合 計	39,641	39,887	41,682	41,042	42,019	41,136	41,638	40,937	41,353	39,511	39,401	42,483	40,894	490,730	490,419	100.1%

4-9 年齢別延患者数（入院）

（単位：人）

月 年齢	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度 計	前年度 計	前年比
0 歳	972	971	1,055	1,101	1,097	1,037	1,093	1,039	1,020	979	936	1,052	1,029	12,352	11,006	112.2%
1-6 歳	247	295	256	277	298	149	250	266	281	256	190	238	250	3,003	2,594	115.8%
0-9 歳	1,272	1,299	1,370	1,419	1,464	1,249	1,381	1,358	1,342	1,270	1,165	1,373	1,330	15,962	14,000	114.0%
10-19 歳	223	235	187	247	301	216	215	273	257	256	224	283	243	2,917	2,250	129.6%
20-29 歳	491	412	485	504	434	462	403	603	506	519	537	479	486	5,835	5,836	100.0%
30-39 歳	917	739	837	870	1,051	905	733	681	751	789	1,026	938	853	10,237	9,933	103.1%
40-49 歳	830	759	771	1,062	1,042	1,075	892	824	796	881	839	781	879	10,552	10,582	99.7%
50-59 歳	1,880	1,776	1,636	1,975	1,873	1,587	1,716	1,660	1,829	1,756	1,748	1,742	1,765	21,178	19,437	109.0%
60-64 歳	1,140	1,227	1,100	1,093	1,155	862	1,055	1,011	1,057	1,053	1,035	1,164	1,079	12,952	11,732	110.4%
65-74 歳	3,713	3,768	4,316	3,970	3,927	3,831	4,187	4,320	3,929	3,728	3,830	4,198	3,976	47,717	48,584	98.2%
75 歳以上	6,400	6,653	6,729	6,967	7,189	7,329	7,571	7,044	8,286	8,288	7,322	8,008	7,316	87,786	80,799	108.6%
合 計	16,866	16,868	17,431	18,107	18,436	17,516	18,153	17,774	18,753	18,540	17,726	18,966	17,928	215,136	203,153	105.9%

4-10 地区別延患者数（外来）

（単位：人）

市町村	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
下田市		1,006	1,003	1,084	977	1,013	1,094	1,051	1,040	1,066	933	920	1,111	1,025	12,298	11,814	104.1%
東伊豆町		760	757	748	709	745	793	807	766	745	680	722	739	748	8,971	8,756	102.5%
河津町		444	423	456	464	451	493	463	467	482	489	392	513	461	5,537	5,411	102.3%
南伊豆町		502	448	504	444	418	437	389	384	437	394	374	440	431	5,171	5,283	97.9%
松崎町		364	333	305	355	309	356	361	357	326	318	304	349	336	4,037	4,073	99.1%
西伊豆町		572	545	653	603	598	621	572	568	590	518	553	583	581	6,976	6,677	104.5%
熱海市		823	830	860	779	830	822	822	829	826	815	804	843	824	9,883	10,234	96.6%
伊東市		3,494	3,540	3,706	3,760	3,721	3,669	3,739	3,761	3,683	3,444	3,441	3,834	3,649	43,792	43,061	101.7%
沼津市		4,291	4,495	4,652	4,626	4,827	4,636	4,686	4,592	4,529	4,408	4,327	4,802	4,573	54,871	53,346	102.9%
三島市		4,343	4,324	4,561	4,583	4,705	4,494	4,562	4,449	4,522	4,323	4,503	4,719	4,507	54,088	53,200	101.7%
御殿場市		1,303	1,255	1,303	1,249	1,201	1,242	1,392	1,233	1,274	1,326	1,238	1,407	1,285	15,423	15,754	97.9%
裾野市		964	1,000	1,010	994	1,137	1,037	988	960	1,028	983	970	1,038	1,009	12,109	11,882	101.9%
伊豆市		4,363	4,438	4,544	4,512	4,661	4,540	4,617	4,537	4,550	4,371	4,419	4,545	4,508	54,097	54,971	98.4%
伊豆の国市		8,966	8,944	9,460	9,362	9,509	9,220	9,451	9,255	9,383	8,932	8,918	9,400	9,233	110,800	114,371	96.9%
函南町		3,463	3,483	3,630	3,468	3,578	3,505	3,560	3,508	3,589	3,399	3,389	3,614	3,516	42,186	42,234	99.9%
清水町		830	847	904	917	905	972	905	918	928	914	899	1,009	912	10,948	10,752	101.8%
長泉町		870	854	933	858	925	867	858	838	863	897	832	889	874	10,484	9,882	106.1%
小山市		221	215	249	264	238	233	288	281	290	270	272	281	259	3,102	2,678	115.8%
富士宮市		238	226	231	230	244	247	263	238	223	212	190	247	232	2,789	2,681	104.0%
富士市		543	573	565	565	604	559	558	577	566	528	565	615	568	6,818	6,608	103.2%
県内その他		420	419	425	415	421	412	403	443	444	450	411	461	427	5,124	4,693	109.2%
県外		861	935	899	908	979	887	903	936	1,009	907	958	1,044	936	11,226	12,058	93.1%
合計		39,641	39,887	41,682	41,042	42,019	41,136	41,638	40,937	41,353	39,511	39,401	42,483	40,894	490,730	490,419	100.1%

4-11 地区別延患者数（入院）

（単位：人）

市町村	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	月平均	当年度計	前年度計	前年比
下田市		495	794	676	842	641	492	727	593	515	780	727	798	673	8,080	7,668	105.4%
東伊豆町		366	387	287	318	440	588	416	420	416	403	478	498	418	5,017	4,762	105.4%
河津町		220	226	341	225	152	89	184	184	228	275	233	334	224	2,691	2,437	110.4%
南伊豆町		326	318	334	333	393	259	238	227	352	333	279	262	305	3,654	3,189	114.6%
松崎町		128	229	188	92	96	232	263	103	143	152	201	292	177	2,119	2,695	78.6%
西伊豆町		307	309	396	258	195	344	215	351	285	294	276	239	289	3,469	3,345	103.7%
熱海市		374	465	524	626	342	344	409	400	363	396	328	526	425	5,097	4,232	120.4%
伊東市		1,702	1,579	1,551	1,693	1,751	1,619	1,680	1,690	1,729	1,687	1,679	1,463	1,652	19,823	21,085	94.0%
沼津市		2,191	2,171	1,995	2,176	2,398	2,191	2,357	1,833	2,235	2,403	2,075	2,039	2,172	26,064	21,966	118.7%
三島市		1,489	1,751	1,791	1,725	1,788	1,983	1,781	1,739	1,796	1,695	1,491	2,032	1,755	21,061	20,907	100.7%
御殿場市		925	1,052	727	909	1,201	1,047	938	1,035	981	1,076	922	873	974	11,686	10,251	114.0%
裾野市		370	434	626	605	430	427	446	595	579	532	630	909	549	6,583	6,460	101.9%
伊豆市		1,751	1,452	1,882	1,804	1,723	1,626	1,648	1,705	1,843	1,930	1,890	1,831	1,757	21,085	20,270	104.0%
伊豆の国市		2,666	2,278	2,388	2,736	2,665	2,409	2,742	2,847	2,858	2,654	2,615	2,780	2,637	31,638	38,135	83.0%
函南町		1,220	1,326	1,578	1,381	1,481	1,515	1,617	1,571	1,424	1,496	1,604	1,529	1,479	17,742	15,490	114.5%
清水町		314	299	319	335	433	425	369	407	443	270	325	385	360	4,324	4,253	101.7%
長泉町		401	331	332	453	379	343	473	352	562	338	449	549	414	4,962	5,492	90.3%
小山市		158	114	113	169	212	194	271	216	220	194	180	196	186	2,237	1,965	113.8%
富士宮市		133	161	256	234	206	187	71	107	142	136	120	144	158	1,897	1,583	119.8%
富士市		499	348	360	431	438	409	477	371	431	536	415	446	430	5,161	3,515	146.8%
県内その他		229	296	248	188	241	218	233	328	410	176	215	228	251	3,010	3,231	93.2%
県外		602	548	519	574	831	575	598	700	798	784	594	613	645	7,736	7,393	104.6%
合計		16,866	16,868	17,431	18,107	18,436	17,516	18,153	17,774	18,753	18,540	17,726	18,966	17,928	215,136	210,324	102.3%

